平成 28 年度

国分寺市埋蔵文化財調査概報

平成 30 年 3 月

国分寺市教育委員会
国分寺市遺跡調査会

平成 28 年度

国分寺市埋蔵文化財調査概報

平成 30 年 3 月

国分寺市教育委員会
国分寺市遺跡調査会

表紙写真

右上：武蔵国分寺跡第 716 次調査　SD436（南から）

右下：多摩蘭坂遺跡第 13 次調査　調査区南壁土層断面（北から）

左　：武蔵国分寺跡第 718 次調査出土　打製石斧

武蔵国分寺跡第 716 次調査　SA19-3（東から）

武蔵国分寺跡第 716 次調査　SD44 断面（東から）

武蔵国分寺跡第 722 次調査　SD170 全景（東から）

恋ヶ窪遺跡第 98 次調査　SX2 性格不明遺構（溜池）全景（北から）

序

国分寺市内では、現在48カ所の遺跡（周知の埋蔵文化財包蔵地）が確認されています。これらの遺跡で掘削を伴う土木工事を行う場合は、文化財保護法に基づいて届出や通知を提出する必要があり、工事の内容によっては地下に埋蔵されている遺構や遺物などの文化財が破壊される可能性があります。本来、土地に埋蔵されている文化財は、これまでのように地下で保存されることが望ましいことですが、やむなく壊すことになる際は事前に発掘調査を行い、遺構の規模や特徴を図面や写真で記録し、出土した遺物を適切に収集・整理しています。そしてこれらの成果を発掘調査報告書として刊行することで、国民共有の財産である文化財を記録として後世に残し、遺跡の重要な情報を伝えています。

本書は、このような目的で平成28年度に市内の６遺跡、11カ所で実施された調査成果を報告するものです。

縄文時代の調査では、泉町や本町の調査区から縄文土器や石器が出土し、集落の広がりを知る上で貴重な資料となりました。古代の調査では、西元町で武蔵国分尼寺を区画する掘立柱塀を確認し、建替えの回数などの新たな知見が得られました。そして泉町の東京都立公文書館建設予定地で実施した２次にわたる調査では、東西46メートルにわたって溝が検出され、これまでの調査と合わせて340メートルにもおよぶ長大なものであったこと、出土遺物から中世の所産であることが判明しました。また、恋ヶ窪遺跡では、江戸時代に用水を利用した生活の一端を窺わせる遺構も見つかっています。

これらの成果を本書で報告するにあたり、発掘調査から本書の刊行に至るまで多大な御協力をいただいた施主の皆様をはじめ、関係諸機関の皆様方、御指導を賜りました各位、そして日頃より埋蔵文化財の調査に御理解・御協力いただいている近隣住民の方々に厚く御礼申し上げます。

平成30年３月

国分寺市教育委員会
教育長　古屋　真宏

例　言

1．本書は、東京都国分寺市において、平成28年度に実施した発掘調査15カ所のうち、国分寺市教育委員会が国庫補助事業として行った９カ所、および国分寺市遺跡調査会が事業者から委託を受けて実施した２カ所（同地点のため報告は１カ所扱い）の計11カ所について報告するものである。調査対象となった遺跡は６遺跡で、調査の種別は発掘調査（本発掘調査）が２件、確認調査が９件である。

2．本書には、付編として３件の立会調査の記録と、平成25年に東京都教育庁都立学校教育部・国分寺市教育委員会・国分寺市遺跡調査会で三者協定を締結して実施した「国分寺市武蔵国分寺跡北方地区－都立小金井特別支援学校仮設校舎建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査－」の概要を掲載した。

3．国庫補助事業として実施した発掘調査（平成28年度）および出土品等整理作業（平成29年度）にかかる経費は、文化庁の「国宝重要文化財等保存整備費補助金」を得ている。費用の負担割合は国1/2、東京都1/4、国分寺市1/4である。その他の調査は、事業者が負担した。

4．報告書の編集・印刷にかかる費用は国分寺市が負担した。

5．発掘調査は、国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課　史跡係長 依田亮一、同主任 増井有真、同係員 島田智博が担当した。

6．本書の編集は、坂誥秀一調査団長の指導のもとで増井有真が行った。執筆分担は次の通りである。

増井有真　第１章、 第２章第１節、第２章第２節（１）・（２）・（４）～（10）、第３章、付編（２）

依田亮一　第２章第２節（３）３、付編（１）・（３）

島田智博　第２章第２節（３）１・２

中野　純　第１章「届出・通知および立会記録等一覧」

7．遺物観察表の作成は増井（古代）と依田（中・近世）が担当した。なお、縄文時代の土器・石器の実測・遺物撮影・遺物観察表の作成は、有限会社アルケーリサーチに委託した。

8．発掘調査における測量は、システムプログラム「リプログラフ」（株式会社こうそく）、本書の挿図・表等の作成にはMicrosoft®Word®・Excel®、Adobe®Illustrator®・Photoshop®・Indesign®の各ソフトを用いた。

9．個々の調査地区概要の中に記している「遺物箱数」は、現場作業終了時点で確認した出土遺物量で、単位（箱）はコンテナ（34 × 54 × 20㎝）の箱数を示す。

10．調査における図面は、全体図１/100・遺構平面図１/20・断面図１/20で記録している。

11．遺物や各種図面・写真類は、一括して国分寺市教育委員会で保管している。

12．発掘調査および遺物・資料整理作業、報告書作成業務に従事した者は下記の通りである。

岩田尋湖　大羽正子　小野祐子　桂　弘美　小池和彦　相馬しのぶ　冨澤　好

平塚恵介　矢内雅之　吉田さおり　（国分寺市遺跡調査会）

高橋より子　山口啓子　（国分寺市シルバー人材センター）

梅山伸二　上村雄三　佐々木義身　（国分寺市ふるさと文化財愛護ボランティア）

江口真裕　及川有子　川戸直子　黒田智和　清水広幸　杉山久晶　西野　宏　村野正広

室賀明子　（株式会社共和開発［支援業務］）

13．発掘調査・出土品等整理作業・報告書作成作業では、下記の諸氏・関係機関から御指導・御協力を賜りました。記して感謝申し上げます（順不同・敬称略）。

小野一之　渋江芳浩　高木翼郎　西木浩一　深澤靖幸

東京都公文書館　文化庁文化財部記念物課　東京都教育庁地域教育支援部管理課　国分寺市文化財保護審議会　国分寺市史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会　武蔵国分寺跡調査・研究指導委員会

凡　例

①　国分寺市の基本土層について

国分寺市域で用いる層位区分は、表土（Ⅰ層）下の黒褐色土を黒色味が強い上層（Ⅱ層）と、ローム層への漸移層である下層（Ⅲ層）に細分している。そのため、黒色土をⅡ層、Ⅲ層以下をローム層にあてる、一般的な武蔵野台地上の遺跡における層序区分とは呼称が若干異なっている。本書で報告する調査対象地は、武蔵野段丘面と立川段丘面とに存在するが、堆積土層は下記のとおりほぼ共通した層序区分を示す。

Ⅰ　層　　表土。近～現代の盛土、および耕作土。層厚約 30 ～ 50 ㎝。

Ⅱ　層　　黒褐色土。粒子が粗い。締まりはやや弱い。粘性は弱い。古代～中世の遺物を包含し、古代の遺構覆土に似る。層厚約 10 ～ 15 ㎝だが、市内では削平されていることが多い。

Ⅲａ層　　黒褐色土。粒子はやや粗い。粘性はやや弱い。層厚約 10 ～ 15 ㎝。同層上面が本来的な古代の遺構確認面であるが、Ⅱ層と類似した土質であることから、この下層において遺構を視覚的に検出することが多い。

Ⅲｂ層　　暗褐色土。Ⅲａ層より明るく、褐色味が強くなる。軟質で粘性はやや弱いが、Ⅲｃ層に近づくに連れて粘性が強くなる。縄文時代中期の遺物を包含する。層厚約 30 ～ 40 ㎝。

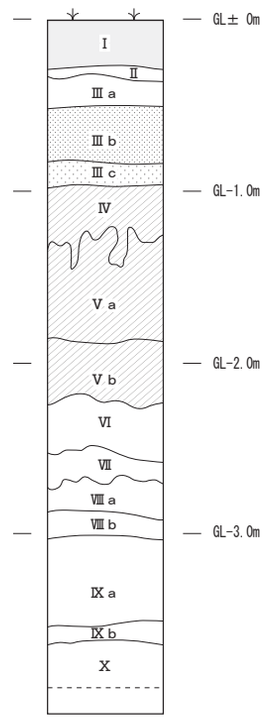
Ⅲｃ層　　茶褐色土・暗黄褐色土。縄文時代早～前期の遺物を包含する。ローム層への漸移層で、赤色スコリアを多量に含む。層厚約 10 ～ 15 ㎝。

Ⅳ　層　　黄褐色土。ソフトローム。Ⅴ層との境は凹凸が激しい。層厚約 15 ～ 25 ㎝。

Ⅴａ層　　黄褐色土。ハードローム。色調によってａ・ｂの２層に分けられる。下層にいくに従い黄色味が薄くなり灰褐色味を帯びてくる。その色調は漸移的に変化する。赤色・黒色スコリアを多量に含む。部分的にⅤｂ層と中間の色調を有する部分がある。

Ⅴｂ層　　暗灰褐色土。ハードローム。色調はⅤａとⅥ層の中間。

Ⅵ　層　　暗褐色土。立川ローム第一黒色帯。スコリアは細かく、全体に粒子緻密。やや粘性を増す。



国分寺市内の平均的な層序

Ⅶ　層　　黄褐色土。黄色味が強く、明るい。Ⅷ層へは漸移的に移行し、境界はやや不明瞭。削るとジャリジャリする（ＡＴ層）。

Ⅷａ層　　褐色土。立川ローム第二黒色帯。Ⅶ層下部に似て、やや暗くなり始めるところから本層とし、削るとジャリジャリする。黒色・赤色スコリアを含む。

Ⅷｂ層　　暗褐色土。立川ローム第二黒色帯。Ⅷａよりさらに色調が暗くなる。粒子が細かく、緻密で粘性がある。黒色・赤色・青色・白色スコリアを多く含む。

Ⅸａ層　　暗褐色土。立川ローム第二黒色帯。Ⅷｂよりさらに黒色味増す。粒子は細かく、緻密で粘性が強くなる。

Ⅸｂ層　　暗褐色土。立川ローム第二黒色帯。成分はⅨａ層と同じで、粒子は細かく、緻密で粘性が強い。下部の５～10 ㎝はⅩ層の影響からⅨａ層より明るい部分もある。

Ⅹ　層　　黄褐色土。粒子極めて細かく、緻密で粘性のあるローム土。

②　調査地区の位置について（グリッド）

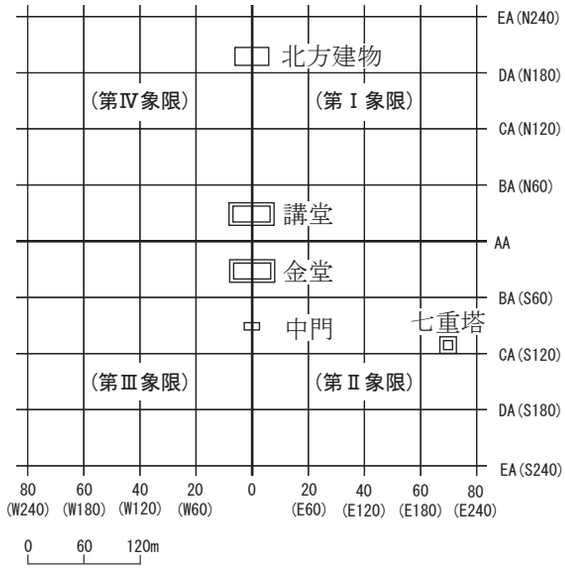
国分寺市では、№.10・19 遺跡である武蔵国分寺跡（僧尼寺）の広大な範囲を統一して調査するため、局地座標系を用いている。

座標原点は僧寺伽藍中軸線を基準に、金堂中心の北 26.276 ｍの中軸線上の点（コンクリート埋設）である。僧寺中軸線は、真北から７°　07′　01″、磁北から０°　37′　01″それぞれ西偏する。この座標原点を中心に象限をⅠ～Ⅳに大別し、

中心点からの距離をＮ・Ｓ・Ｅ・Ｗで表す。さらに、本文中および図面のグリッド表示の数字は、南と西に接する基準線に与えた記号の組み合わせにより呼称する。東西基準線はアルファベット２文字で表す。１文字目は原点をＡとし、60ｍごとにＢ・Ｃ・Ｄ…とふり、２文字目はその内を３ｍごとに20区に分けＡ～Ｔとふっている。南北基準線は数字で表し、原点を０として以下東西ともに３ｍごとに１・２・３…とふった。

なお、遺跡記号はＭＫ（武蔵国分寺の略）にⅠ～Ⅳの各象限を続けたものに、調査次数を付して表示している。

上記以外の市内遺跡の座標は世界測地系の第９系を用いている。ただし、その基準点は平成23年３月11日の東北地方太平洋沖地震の影響を受けて変動しているが、従来の測量成果簿を使用している。



武蔵国分寺跡の調査基準線

③　遺跡名について

遺跡名については、№10・19遺跡以外の調査については、Ｋ（国分寺の略）に遺跡番号を続けたものに次数を付して表示している。

④　遺構図面について

調査地点位置図・遺構図面は、図面上が座標北を示す。特記のない限り調査地点位置図は縮尺を１/2,500、土層断面図および柱状図の縮尺は１/40に統一し、スケールバーで示している。

⑤　遺構番号について

遺構は遺跡ごとにほぼ発見順に連続番号を付し、下記の遺構記号を冠して表示している。また、縄文時代の遺構は遺構番号末尾にＪを付し、Ｐは遺構記号の後ろにＪを付して歴史時代の遺構と区別している。

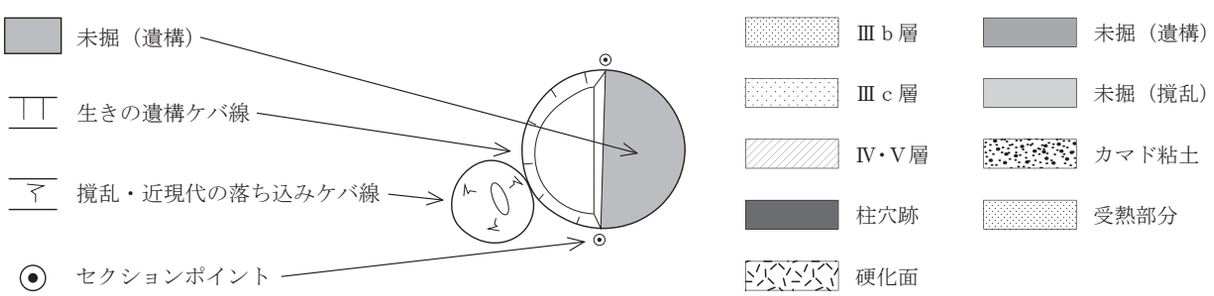
SA：掘立柱塀　　SD：溝　　SK：土坑　　SX：性格不明遺構　　P：小穴

⑥　遺構写真について

各写真キャプションに併記する（方位）は撮影した方向を示す。真上から撮影した場合は上下左右と方向を用いて方角を示している。

⑦　全体図・遺構図の表現方法について

図中の記号・ライン、スクリーントーンについては次の通りで、これ以外に使用しているトーンは個々の図で示している。なお、図の一部ではスクリーントーンを使用していないものもある。



⑧　遺物番号について

遺物は、各調査において種別毎に連続番号を付し、下記の遺物記号を冠して表示する。

【歴史時代】土 器 類　PK：須恵器　PN：灰釉陶器　PT：中近世陶器

瓦 塼 類　KA：鐙瓦　KB：宇瓦　KC：男瓦　KD：女瓦　KH：塼

金属製品　MH：刀子

【縄文時代】土 器 類　JE：中期前半　JF：中期後半　JJ：時期不明

石 器 類　AG：打製石斧

⑨　遺物の表現方法について

遺物のスクリーントーンの指示は次のとおりである。

灰釉陶器（施釉部分）　灰釉陶器（断面）　鉄釉系（施釉部分）

⑩　遺物の縮尺について

縮尺は次のとおりに統一し、スケールバーで示している。また、写真図版についても、おおむね次のスケールに統一している。

土器類：１／３　瓦類：１／４　縄文・旧石器時代石器：１／３、３／４

⑪　遺物観察表について

遺物の記述については一覧表とし、原則として図面番号順に列記してある。遺物観察表における法量のうち、完存しているものは括弧なしで全長数値を表し、(　　)は残存数値、((　　))は復元数値を表す。「－」は計測できないものを表す。

⑫　鐙瓦・宇瓦の文様・製作技法等の表記について

【鐙瓦】

- イ．中房の形状
  - A　中房が凸型のもの
    - A1　断面方形のもの
    - A2　断面半球形のもの
  - B　中房の輪郭を凸線で表わすもの
    - B1　内部が平坦なもの
    - B2　内部が半球形に盛り上がるもの
- ロ．弁の形状
  - S　素弁
    - A　弁の輪郭線(凸線)がなく、全体が盛り上がるもの
    - B　弁が輪郭線(凸線)のみで表わされるもの
    - C　弁の輪郭線(凸線)があり、内部全体が盛り上がるもの
    - D　弁の輪郭線(凸線)があり、内部が盛り上がるものの中房側が凹むもの
  - T　単弁
- ハ．外区文様　a＝素文、b＝珠文、c＝その他、などがあり、内･外縁の区別がないものは外縁側に記入。
- ニ．製作技法
  - A　接着技法
  - B　さしこみ技法
    - Ⅰ　一般的なもの
    - Ⅱ　瓦当部が二段重ねで分厚く作られるもの
  - C　一本作り技法
    - Ⅰ　瓦当裏面の布目にしぼりがあるもの
    - Ⅱ　瓦当裏面の布目にしぼりがないもの
  - D　はめこみ技法
    - Ⅰ　半截後の男瓦広端側にはめこむもの
    - Ⅱ　半截前の円筒の広端側にはめこみ、不要部分を切り落とすもの

【宇瓦】

- イ．内区文様　G＝重弧文、KK＝均整唐草文、HK＝偏行唐草文、H＝ヘラ書文、K＝格子文、J＝縄文、M＝無文、O＝その他
- ロ．上・下区、脇区文様　a＝素文、b＝珠文、c＝長円珠文、d＝圏線文、e＝鋸歯文、f＝凸線文、g＝その他
- ハ．製作技法
  - A　接着技法
  - B　さしこみ技法
  - C　折り曲げ技法
  - D　貼り付け技法　女瓦凸面に粘土を貼り付け瓦当部を作るもの
- ニ．顎の形態
  - A　直線顎
    - a　瓦当凸面を調整するもの
    - b　瓦当部と女瓦部の境部分のみ調整するもの
    - c　不調整のもの
  - B　段顎
    - B1　瓦当凸面と凹面が平行するもの
      - a　瓦当凸面および瓦当裏面を調整するもの
      - b　瓦当凸面のみ調整するもの
      - c　瓦当裏面のみ調整するもの
      - d　不調整のもの
    - B2　Ｂ1・Ｂ3以外のもの
    - B3　瓦当凸面が円みを持つもの
  - C　曲線顎
    - C1　一般的なもの
      - a　瓦当凸面を調整するもの
      - b　瓦当部と女瓦部の境部分を調整するもの
      - c　瓦当凸面および女瓦部の境部分を調整するもの
      - d　不調整のもの
    - C2　やや直線的なもの

●報告書で使用する用語と図面の見方について

国分寺市では、市民サービス等の向上の一環として、わかりやすい埋蔵文化財概報の作成に取り組み、平成 19 年度版年報から改編を重ねている。ここでは、報告書の内容を多くの方々に具体的に御理解いただけるよう、一般的には使用されない考古学の用語や、⑦で示した図面の見方について解説する（⑦も参照）。

遺　　構 … 遺跡中に残されている不動性に富む人間集団の痕跡。集落では、住居・建物・倉庫・井戸・溝・土坑などを指す。可動性のある遺物とは区別される。

遺　　物 … 人間集団が残した可動性に富む物質で、遺構とともに遺跡を構成する。石器・土器・陶磁器・木製品・骨角器・金属製品・石製品など様々な道具や装飾品を指す。

竪穴住居 … 地面を掘りくぼめて床を敷き、支柱を立てて屋根をかける構造の建物。縄文時代以来の一般的な住居として中世まで使用されている。床面には炉・カマド・柱穴などがあり、床面は硬く踏み固められている。竪穴構造の建物であっても住居以外の用途（工房など）に使用されていた可能性も想定されることから「竪穴建物」とも呼ばれる。

トレンチ … 地表下の遺構を探すために掘られた適切な幅と長さの溝状の発掘区で、発掘溝・試掘坑ともいう。

未　　掘 … 検出された遺構を平面形のみ確認して、掘削をしていない箇所。

撹　　乱 … 後世に掘り込まれ、地山（自然堆積土）や遺物包含層、遺構等を壊している範囲。耕作による削平や、地下埋設物（水道・ガス）を敷設するために掘り込まれた穴・溝等も含まれる。

遺構ケバ線 … 遺構の平面図に加える線。遺構の上端（遺構の掘り込み囲）から、遺構の下端（遺構の底面）に向かって掘り込まれている様子を示す。

撹乱ケバ線 … 撹乱の掘り込みの様子を示す。

ｾｸｼｮﾝﾎﾟｲﾝﾄ … 遺構が構築されてから埋没するまでの過程を、土層の堆積状況によって判断するために遺構を断ち割り、土層観察面を設定した地点。

国分寺市遺跡調査会構成員名簿

平成 30 年２月１日現在

――― 役員および監事 ―――

会　　長	坂誥 秀一	国分寺市文化財保護審議会会長
副 会 長	星野 亮雅	国分寺市文化財保護審議会副会長
理　　事	井澤 邦夫	国分寺市長
理　　事	古屋 真宏	国分寺市教育委員会教育長
理　　事	富山 謙一	国分寺市教育委員会教育長職務代理者
理　　事	北原　進	国分寺市文化財保護審議会委員
理　　事	遠藤 慈郎	国分寺市文化財保護審議会委員
理　　事	福嶋　司	国分寺市文化財保護審議会委員
理　　事	清水　宏	東京都教育庁地域教育支援部管理課長
専務理事	堀田 順也	国分寺市教育委員会教育部長
監　　事	峯岸 桂一	元国分寺市職員
監　　事	伊藤 敏行	東京都教育庁地域教育支援部管理課統括課長代理

――― 武蔵国分寺跡調査・研究指導委員会 ―――

委 員 長	坂誥 秀一	（考 古 学）	立正大学名誉教授
委　　員	藤井 恵介	（建 築 史）	東京大学大学院工学系研究科教授
委　　員	佐藤　信	（古 代 史）	東京大学大学院人文社会系研究科教授
委　　員	酒井 清治	（考 古 学）	駒澤大学文学部教授
委　　員	松井 敏也	（保存科学）	筑波大学芸術系教授

――― 事務局 ―――

事務局長	高杉　強	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課長
事務局員	諸橋 広光	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係長
事務局員	中道　誠	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係主任
事務局員	吉田 澄音	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係嘱託
事務局員	熊木 正好	国分寺市遺跡調査会

――― 調査団 ―――

団　　長	坂誥 秀一	立正大学名誉教授
主任調査員	依田 亮一	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係長
調 査 員	増井 有真	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係主任
調 査 員	島田 智博	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係嘱託

本　文　目　次

巻頭図版
序 …… 5
例言 …… 6
凡例 …… 7
国分寺市遺跡調査会構成員名簿 …… 11
本文目次・挿図目次・表目次

第１章　国分寺市の埋蔵文化財…… 16

第２章　平成 28 年度に実施した発掘調査 …… 34
第１節　遺跡の概要 …… 34
第２節　調査の概要 …… 40
（１）武蔵国分寺跡第 716 次調査 …… 40
（２）武蔵国分寺跡第 717 次調査 …… 56
（３）武蔵国分寺跡第 718・722 次調査 …… 59
（４）武蔵国分寺跡第 719 次調査 …… 84
（５）武蔵国分寺跡第 721 次調査 …… 88
（６）恋ヶ窪遺跡第 98 次調査 …… 93
（７）多摩蘭坂遺跡第 13 次調査…… 102
（８）本町（国分寺村石器時代）遺跡第 14 次調査…… 104
（９）№.29 遺跡第４次調査…… 108
（10）№.41 遺跡第１次調査…… 111

第３章　総　括 …… 114

付　編 …… 118
（１）元町通り水道管布設替工事に伴う立会調査 …… 118
（２）武蔵国分寺跡史跡整備工事に伴う立会調査 …… 135
（３）平成 27 年度の立会調査で出土した遺物 …… 138
（４）武蔵国分寺跡第 698 次調査 …… 139

報告書抄録 …… 158
奥付

挿　図　目　次

第 1 図　国分寺市の地形模式図
第 2 図　国分寺崖線と湧水
第 3 図　中門跡（南東から）
第 4 図　鐘楼跡（南西から）
第 5 図　№ 1　立会状況
第 6 図　№ 29　立会・溝検出状況
第 7 図　№ 32　立会状況
第 8 図　№ 67　立会状況
第 9 図　№ 126　立会状況
第 10 図　№ 179　立会状況
第 11 図　№ 181　立会状況
第 12 図　№ 214　立会状況
第 13 図　平成 28 年度　届出・通知および立会記録№ 67 で出土した遺物実測図
第 14 図　平成 28 年度　届出・通知および立会記録№ 67 で出土した遺物写真
第 15 図　武蔵国分寺跡伽藍配置模式図
第 16 図　武蔵国分寺跡の位置
第 17 図　野川上流域の主な旧石器・縄文時代集落遺跡
第 18 図　調査地点位置図
第 19 図　ＭＫⅢ－ 716　調査地位置図
第 20 図　ＭＫⅢ－ 716　調査区全体図
第 21 図　ＭＫⅢ－ 716・383 調査区
第 22 図　ＭＫⅢ－ 716　SA19　平面図
第 23 図　SA19-2　土層断面図
第 24 図　SA19-3　土層断面図
第 25 図　SD436・SD44　平面図
第 26 図　SD44・SD436 Ａ・Ｂ　土層断面図
第 27 図　ＭＫⅢ－ 716　調査区全景（南から）
第 28 図　ＭＫⅢ－ 716　調査区全景（北から）
第 29 図　SA19-2・3　検出状況（北から）
第 30 図　SA19-2・3　検出状況（東から）
第 31 図　SA19-2・3 全景（東から）
第 32 図　SA19-2・3 全景（西から）
第 33 図　SA19-2 断面（南から）
第 34 図　SA19-3 断面（東から）
第 35 図　SD436・SD44 検出状況（南から）
第 36 図　SD436 Ａ・Ｂ全景（北から）
第 37 図　SD436 Ａ・Ｂ土層断面（東から）
第 38 図　SD44 全景（南から）
第 39 図　SD44 土層断面（東から）
第 40 図　調査風景 1（北から）
第 41 図　調査風景 2（北から）
第 42 図　ＭＫⅢ－ 716　出土遺物実測図 1
第 43 図　ＭＫⅢ－ 716　出土遺物写真 1
第 44 図　ＭＫⅢ－ 716　出土遺物実測図 2
第 45 図　ＭＫⅢ－ 716　出土遺物写真 2
第 46 図　ＭＫⅢ－ 716　出土遺物実測図 3
第 47 図　ＭＫⅢ－ 716　出土遺物写真 3
第 48 図　ＭＫⅢ－ 716　出土遺物実測図 4
第 49 図　ＭＫⅢ－ 716　出土遺物写真 4
第 50 図　ＭＫⅠ－ 717　調査地位置図
第 51 図　Ａトレンチ全景（東から）
第 52 図　Ｂトレンチ全景（南から）
第 53 図　Ｃトレンチ全景（北から）
第 54 図　ＭＫⅠ－ 717　調査区全体図
第 55 図　ＭＫⅠ－ 717　土層柱状図（西壁）
第 56 図　Ｃトレンチ西壁土層断面
第 57 図　遺物出土状況（AG01）Ａトレンチ（東から）
第 58 図　ＭＫⅢ－ 716　出土遺物実測図・写真
第 59 図　ＭＫⅣ－ 718・722　調査地位置図
第 60 図　ＭＫⅣ－ 722　土層柱状図（北壁）
第 61 図　ＭＫⅣ－ 718　Ｂトレンチ東壁土層断面
第 62 図　恋ヶ窪廃寺跡と周辺の中世遺構群
第 63 図　恋ヶ窪廃寺跡　全体図
第 64 図　恋ヶ窪廃寺跡周辺出土の中世遺物 -1（土器・陶磁器）
第 65 図　恋ヶ窪廃寺跡周辺出土の中世遺物 -2（石塔）
第 66 図　恋ヶ窪廃寺跡周辺出土の中世遺物 -3（石塔・石製品）
第 67 図　国分寺村の字別開発と国分寺村絵図（明治 2 年）
第 68 図　武蔵国分寺跡周辺の中世遺物出土地点と国分寺村絵図（明治 2 年）「字堀之内」範囲
第 69 図　伝祥応寺跡周辺出土の中世遺物 -1（土器・陶磁器）
第 70 図　伝祥応寺跡周辺出土の中世遺物 -2（石塔）
第 71 図　ＭＫⅣ－ 718　調査区全体図
第 72 図　ＭＫⅣ－ 718　SD170　平面・断面図
第 73 図　ＭＫⅣ－ 718　縄文時代遺構　平面・断面図
第 74 図　ＭＫⅣ－ 722　調査区全体図
第 75 図　ＭＫⅣ－ 722　SD170　平面・断面図
第 76 図　ＭＫⅣ－ 722　SD153・170　平面・断面図
第 77 図　ＭＫⅣ－ 722　遺物出土位置図
第 78 図　ＭＫⅣ－ 718　Ａトレンチ全景（南から）
第 79 図　ＭＫⅣ－ 718　Ｂトレンチ全景（北から）
第 80 図　ＭＫⅣ－ 718　Ｃトレンチ全景（東から）
第 81 図　ＭＫⅣ－ 718　Ｃトレンチ全景（西から）

第 82 図　SD170 確認状況（北から）
第 83 図　SD170 完掘全景（南から）
第 84 図　SD170 土層断面 (西から)
第 85 図　SK3458J・3459J 完掘全景（西から）
第 86 図　SK3458J 土層断面（南から）
第 87 図　SK3459J 土層断面（西から）
第 88 図　SK3460J 完掘全景（西から）
第 89 図　SK3460J 土層断面（南から）
第 90 図　ＭＫⅣ－ 722　Ａトレンチ完掘全景（東から）
第 91 図　ＭＫⅣ－ 722　Ａトレンチ完掘全景（西から）
第 92 図　SD170 完掘全景（西から）
第 93 図　SD170 完掘全景（東から）
第 94 図　SD170 土層断面及び白磁出土状況（西から）
第 95 図　SD170・SD3 土層断面（東から）
第 96 図　SD3 土層断面（南から）
第 97 図　SD170 遺物出土状況（東から）
第 98 図　ＭＫⅣ－ 718　出土遺物実測図（歴史時代）
第 99 図　ＭＫⅣ－ 718　出土遺物実測図（縄文時代）
第100図　ＭＫⅣ－718　出土遺物写真（歴史時代）
第101図　ＭＫⅣ－718　出土遺物写真（縄文時代）
第102図　ＭＫⅣ－722　出土遺物実測図
第103図　ＭＫⅣ－722　出土遺物写真
第104図　ＭＫⅢ－719　調査地位置図
第105図　ＭＫⅢ－719　調査区全体図
第106図　ＭＫⅣ－719　土層柱状図（北壁）
第107図　北壁土層断面（南から）
第108図　ＭＫⅣ－719　調査区全景（東から）
第109図　ＭＫⅣ－719　遺構断面図
第110図　SK3457断面（南から）
第111図　SK3457調査区内完掘状況（南から）
第112図　P-1断面（南から）
第113図　P-2完掘状況（東から）
第114図　ＭＫⅣ－719　出土遺物実測図（上）・出土遺物写真（下）
第115図　ＭＫＩ－721　調査地位置図
第116図　Ａトレンチ全景歴史時代確認面（東から）
第117図　Ｂトレンチ全景歴史時代確認面（西から）
第118図　ＭＫＩ－721　調査区全体図
第119図　ＭＫⅣ－721　土層柱状図（南壁）
第120図　ＭＫⅣ－721　遺構断面図
第121図　Ｃトレンチ東壁土層断面（西から）
第122図　PJ-1断面（北から）
第123図　遺物出土状況（AG01）Ｂトレンチ（北から）
第124図　Ｃトレンチ全景縄文確認面（東から）
第125図　Ｂトレンチ全景縄文確認面（西から）
第126図　Ａトレンチ　プレ坑（西から）
第127図　Ａトレンチ　縄文土器出土状況（南から）
第128図　Ｃトレンチ　南壁土層堆積状況（北から）
第129図　Ｂトレンチ　南壁土層堆積状況（北から）
第130図　作業風景１
第131図　作業風景２
第132図　ＭＫⅣ－721　出土遺物実測図
第133図　ＭＫⅣ－721　出土遺物写真
第134図　Ｋ２－98　調査地位置図
第135図　Ｋ２－98　土層柱状図（Ｂトレンチ北壁）
第136図　Ｂトレンチ北壁土層断面（南から）
第137図　Ｋ２－98　調査区全体図
第138図　SX2　平面図
第139図　SX2　断面図
第140図　SX3　平面図
第141図　SX4　平面図
第142図　Ｃトレンチ　南壁土層断面図
第143図　Ａトレンチ表土下遺構確認面（西から）
第144図　Ａトレンチ全景（北から）
第145図　Ａトレンチ南壁土層断面（北から）
第146図　Ａトレンチ砂礫層近影（北から）
第147図　SX2完掘状況（北から）
第148図　作業風景１
第149図　Ｂトレンチ全景（北から）
第150図　SX3完掘状況（北から）
第151図　Ｂトレンチ北壁土層断面（南から）
第152図　作業風景２
第153図　Ｃトレンチ調査前の現況（南から）
第154図　Ｃトレンチ全景（西から）
第155図　SX3東側完掘状況（西から）
第156図　SX3東側完掘状況（北から）
第157図　Ｃトレンチ南壁土層断面（北から）
第158図　SX3西側（北から）
第159図　Ｋ２－98　出土遺物実測図
第160図　Ｋ２－98　出土遺物写真
第161図　Ｋ７－13　調査地位置図
第162図　Ｋ７－13　土層柱状図（南壁）
第163図　南壁土層断面（北から）
第164図　Ｋ７－13　調査区全体図
第165図　Ｋ７－13　調査区全景（北から）
第166図　調査区縄文確認面（北から）
第167図　作業風景
第168図　Ｋ28－14　調査地位置図
第169図　Ｋ28－14　Ｂトレンチ　土層柱状図（南壁）
第170図　Ｂトレンチ　南壁土層断面（北から）
第171図　Ｋ28－14　調査区全体図
第172図　Ａトレンチ全景（東から）

第173図　Ｂトレンチ全景（東から）
第174図　Ｋ28－14　平面図
第175図　Ａトレンチ　北壁土層断面（南から）
第176図　調査前の状況（西から）
第177図　作業風景
第178図　PJ-1断面（東から）
第179図　PJ-2断面（南から）
第180図　PJ-1～4断面図
第181図　PJ-3断面（東から）
第182図　PJ-4断面（東から）
第183図　Ｋ29－４　調査地位置図
第184図　Ｋ29－４　土層柱状図（北壁）
第185図　Ｂトレンチ　南壁土層断面（北から）
第186図　Ｋ29－４　調査区全体図
第187図　調査区縄文確認面全景（東から）
第188図　調査区全景（東から）
第189図　調査地点遠影（南西から）
第190図　調査前　トレンチ設置状況（南西から）
第191図　調査地点から南東を望む
第192図　調査地点から南を望む
第193図　調査地点から西を望む
第194図　作業風景
第195図　北壁東側土層断面　合成写真（南から）
第196図　Ｋ41－１　調査地位置図
第197図　Ｋ41－１　土層柱状図（西壁）
第198図　Ａトレンチ　西壁土層断面（東から）
第199図　Ｋ41－１　調査区全体図
第200図　Ａトレンチ奈良・平安時代確認面（南東から）
第201図　Ａトレンチ奈良・平安時代確認面（北東から）
第202図　Ａトレンチ　縄文時代確認面（北東から）
第203図　Ａトレンチ　縄文時代確認面（南西から）
第204図　Ａトレンチ　北端プレ坑全景（北東から）
第205図　Ｂトレンチ　縄文時代確認面（北西から）
第206図　Ｂトレンチ　プレ坑全景（南東から）
第207図　Ｂトレンチ　南東壁土層断面（北西から）
第208図　調査前の状況
第209図　作業風景

表　目　次

第 1 表　平成 28 年度の届出・通知の指示事項と割合
第 2 表　届出・通知および調査件数
第 3 表　発掘調査面積の推移
第 4 表　平成 28 年度　届出・通知および立会記録等一覧（1）
第 5 表　平成 28 年度　届出・通知および立会記録等一覧（2）
第 6 表　平成 28 年度　届出・通知および立会記録等一覧（3）
第 7 表　平成 28 年度　届出・通知および立会記録等一覧（4）
第 8 表　平成 28 年度　届出・通知および立会記録等一覧（5）
第 9 表　平成 28 年度　届出・通知および立会記録等一覧（6）
第 10 表　平成 28 年度　届出・通知および立会記録等一覧（7）
第 11 表　平成 28 年度　届出・通知および立会記録等一覧（8）
第 12 表　平成 28 年度　届出・通知および立会記録等一覧（9）
第 13 表　平成 28 年度　届出・通知および立会記録等一覧（10）
第 14 表　平成 26 年度の届出に対する立会記録
第 15 表　平成 28 年度　届出・通知および立会記録№. 67 遺物観察表
第 16 表　ＭＫⅢ－ 716　遺物観察表
第 17 表　ＭＫⅠ－ 717　遺物観察表
第 18 表　ＭＫⅣ－ 718・722　遺物観察表
第 19 表　ＭＫⅠ－ 719　遺物観察表
第 20 表　ＭＫⅣ－ 721　遺物観察表
第 21 表　Ｋ２－ 98　遺物観察表

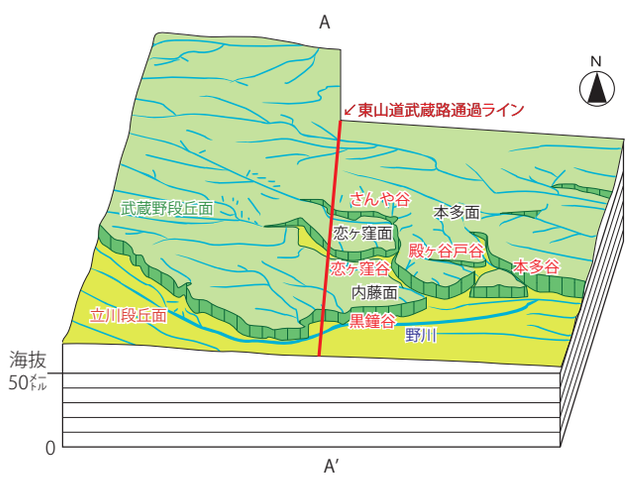
第１章　国分寺市の埋蔵文化財

【国分寺市の地形と埋蔵文化財】

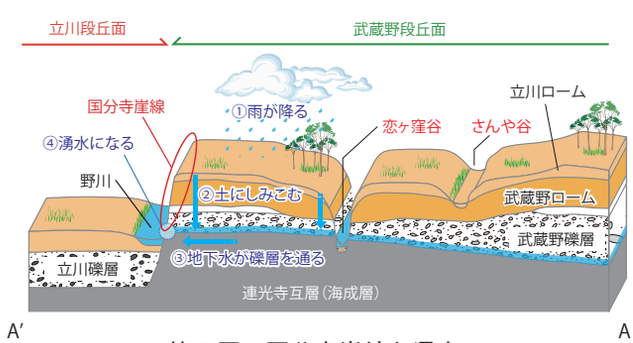
国分寺市は、通称「ハケ」と呼ばれる国分寺崖線を境として、地形的に北と南に分けられている。国分寺崖線は、古多摩川が武蔵野台地を 10 万年以上の歳月をかけて削りとって形成された河岸段丘の連なりを指し、北と南の標高差（崖高）は 10 ～ 20 m、東西の長さは約 30km にわたる。崖線沿いには樹林や湧水などの豊かな自然環境が形成され、この崖線上を武蔵野段丘、崖下を立川段丘と呼んでいる。

武蔵野段丘の縁辺部には、本多谷・殿ヶ谷戸谷・さんや谷・恋ヶ窪谷のようないくつもの開析谷が作られ、崖線下からの湧水はこれらの谷を通って集まり野川となっている。こうした起伏に富む豊かな自然環境のもと、野川を中心に市内には人類が日本列島に住み始めた旧石器時代以来の生活痕跡が多く残されている。そして、７世紀後半頃に市域を南北に縦走する古代官道の東山道武蔵路が整備されると、奈良時代には、市名の由来となった武蔵国分寺が国分寺崖線を背にして建立された。

先人がこの土地に残した遺構や遺物（埋蔵文化財）を保存・活用し、現在を生きる私たちの文化的向上に役立て、さらに未来へ引き継いでいくことは大切なことであり、「文化財保護法」（以下「法」という）では、国や地方公共団体に対し、遺跡である「埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地」（「周知の埋蔵文化財包蔵地」）を的確に把握し、周知の徹底に努めるように求めている（法第 95 条第１項）[※1]。国分寺市では、現在 48 箇所の周知の埋蔵文化財包蔵地（以下、「包蔵地」）が確認されている。そのうち、武蔵国分寺跡の中枢部周辺と東山道武蔵路跡の一部については、国の史跡に指定されてる。



第１図　国分寺市の地形模式図



第２図　国分寺崖線と湧水

【包蔵地内での土木工事】

包蔵地の範囲内で掘削を伴う土木工事を行う場合には、埋蔵文化財保護の観点から、法に基づき、着手しようとする日の 60 日前までに届出（法第 93 条第１項）[※2]、もしくは通知（法第 94 条第１項）[※3]を行う必要がある。届出（通知）は国分寺市教育委員会を通して東京都教育委員会に進達され、工事が埋蔵文化財に与える影響を考慮して必要な措置（指示内容）が都から届出者に対して通知される。

市内の包蔵地では、地表からおよそ 40 ～ 100 ㎝下（浅いところでは 10 ㎝前後）に遺

構が存在している。そのため、工事に伴う掘削深度がこれより深い場合は、埋蔵文化財が壊される可能性があるため、遺跡の広がりや性格、遺構の種別を探る目的で確認調査（法第 99 条第１項）※4を行っている。その結果、事業者と協議の上で、やむを得ず開発により遺跡を壊すことになった場合には、事前に記録保存調査を行い（発掘調査）、その費用については、原因者に負担をお願いしている（法第 99 条第２項）※4。なお、周辺の発掘調査履歴や、遺構の密度などを考慮し、掘削範囲や深度が埋蔵文化財に与える影響が軽微と考えられる場合には、工事の際に市職員が立会を行っている（立会調査）。

【国指定史跡と現状変更】

史跡とは、貝塚・古墳・都城・旧宅・その他の遺跡で我が国にとって歴史上又は学術上価値の高いものを指し、国や自治体によって指定される。国分寺市内には国によって指定された史跡武蔵国分寺跡附東山道武蔵路跡があり、国分寺市では郷土の歴史を語り継ぐよりどころとして、そして国民共有の貴重な財産として保存・整備・活用するための事業を推進している。この史跡内で工事などによって現状を変更する場合については、文化庁長官の許可を受けなければならない（法第 125 条）※5。また、掘削を伴う工事がある場合は、さらに埋蔵文化財発掘の届出もしくは通知の提出が必要となる。

【文化財保護法】抜粋（昭和 25 年５月 30 日法律第 214 号・最終改正　平成 23 年５月２日法律第 37 号）

※１　（埋蔵文化財包蔵地の周知）第 95 条第１項

国及び地方公共団体は周知の埋蔵文化財包蔵地について、資料の整備その他その周知の徹底を図るために必要な措置の実施に努めなければならない。

※２　（土木工事のために発掘に関する届出及び指示）第 93 条第１項

土木工事その他埋蔵文化財の調査以外の目的で、貝づか、古墳その他の埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地（以下「周知の埋蔵文化財包蔵地」という。）を発掘しようとする場合には、前条第１項の規定を準用する。この場合において同項中「30 日前」とあるのは、「60 日前」と読み替えるものとする。

※３　（国の機関等が行う発掘に関する特例）　法第 94 条第１項

国の機関（中略）が前条第１項に規定する目的で周知の埋蔵文化財包蔵地を発掘しようとする場合においては、同条の規定を適用しないものとし、当該国の機関等は、当該発掘に係る事業計画の策定に当たって、あらかじめ文化庁長官にその旨を通知しなければならない。

※４　（地方公共団体による発掘の施行）　法第 99 条第１・２項

地方公共団体は、文化庁長官が前条第一項の規定により発掘を施行するものを除き、埋蔵文化財について調査する必要があると認めるときは、埋蔵文化財を包蔵すると認められる土地の発掘を施行することができる。

２　地方公共団体は、前項の発掘に関し、事業者に対し協力を求めることができる。

※５　（現状変更等の制限及び原状回復の命令）第 125 条

史跡名勝天然記念物に関しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化庁長官の許可を受けなければならない。ただし、現状変更については維持の措置（中略）、保存に影響を及ぼす行為については影響の軽微である場合は、この限りではない。

【平成 28 年度の届出・通知の件数】

近年の埋蔵文化財発掘の届出・通知の件数は、200 件前後で推移しており、平成 28 年度は 207 件(緊急工事の後日提出分等含む)あった。届出（通知）に対する確認調査・発掘調査の指示は合わせて 14 件（１件は工事中止）あり、このうち３件（確認調査２件、発掘調査１件）は次年度に調査を行った。

第１表　平成 28 年度の届出・通知の指示事項と割合

指示内容内訳	件数	割合
発掘調査	3	1.6%
確認調査	11	5.6%
立会調査	139	69.7%
慎重工事	46	23.1%

※緊急工事（８件）を除く。

平成 28 年度に実施した調査のうち、国庫補助事業による調査は平成 27 年度分の届出１件（№.29 遺跡第 4 次）、平成 28 年度分の届出８件（武蔵国分寺跡第 716・717・719・721 次、恋ヶ窪遺跡第 98 次、多摩蘭坂遺跡第 13 次、本町（国分寺村石器時代）遺跡第 14 次、№.41 遺跡第１次）の計９件となっている。

このほかに国分寺市教育委員会と民間調査会社、開発事業者の三者で協定を締結し、開発事業者が費用を負担して、民間調査会社（法第 92 条による）が実施した発掘調査が２件（羽根沢遺跡第８・10 次）、公共機関が費用を負担し、国分寺市遺跡調査会が実施した確認調査が１件（武蔵国分寺跡第 718 次）同じく発掘調査が１件（武蔵国分寺跡第 722 次）、開発事業者・公共機関が費用を負担し、国分寺市教育委員会が主体となって実施した確認調査が２件（武蔵国分寺跡第 720 次、羽根沢遺跡第９次）あった。

第２表　届出・通知および調査件数

		平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
埋蔵文化財発掘の届出　法第 93 条		170	184	193	172	183
埋蔵文化財発掘の通知　法第 94 条		49	39	23	21	24
埋蔵文化財発掘調査の届出　法第 92 条		0	0	1	1	1
史跡・名勝現状変更許可申請　法第 125 条		7	4	5	5	7
発掘調査件数	国分寺市遺跡調査会（委託）	24	11	11	14	11
	国分寺市教育委員会（直接）	0	0	0	1	0
	民間調査会社（三者協定）	0	0	3	2	4

【発掘調査面積の推移】

平成 28 年度の国庫補助事業による調査面積は約 237 ㎡で、昨年度とほぼ同じであった。開発事業者負担による調査は一昨年度から増加し、平成 28 年度は平成 27 年度から継続して行っている大規模開発や、公共機関負担の調査もあり、市内全体では 7,858 ㎡の調査が実施された。

第３表　発掘調査面積の推移

単位：㎡　小数点以下切り捨て

			平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
土木工事等に伴う調査	事業者負担による調査	民間企業負担	0	0	4,255	15,552	6,004
		公共機関負担	4,000	326	0	0	1,617
	補助金による調査	発掘調査	94	216	23	3	8
		確認調査	155	360	182	237	229
		試掘調査	7	0	0	0	0
	国分寺市負担による調査	確認調査	0	0	0	1	0
土木工事等に伴う調査面積合計			4256	902	4,460	15,793	7,858

【史跡整備事業と普及活動】

国分寺市では事前遺構確認調査の成果をもとに、史跡武蔵国分寺跡（僧寺）を歴史公園として開園するための整備工事を進めている。平成 28 年度は、主に中門跡周辺の中門・参道・築地塀・堀内外の溝の平面表示や幢竿の立体復元、鐘楼跡の平面表示を行った。

第３図　中門跡（南東から）

第４図　鐘楼跡（南西から）

また、市域の貴重な埋蔵文化財を保護し、後世に伝えていくために、発掘調査で得られた調査成果をもとに、平成 28 年度も様々な公開・普及活動事業を行った。なお、発掘調査によって出土した土器や瓦は、武蔵国分寺跡資料館や文化財資料展示室（市立第四中学校内）などで展示している。また、刊行した報告書や普及書は資料館や図書館、市役所オープナー等で閲覧することができる。

平成 28 年度に実施した埋蔵文化財・史跡関係の主な普及活動

１．武蔵国分寺跡資料館企画展示

夏季企画展「瓦から見た武蔵国分寺の造営」〔会期〕７月 23 日～８月 28 日〔観覧者数〕489 人

第２回国分寺市・坂戸市合同企画展「東山道武蔵路とともに生きる～路でつながる古代の国分寺と坂戸～」〔会期〕１月 14 日～３月 12 日〔観覧者数〕623 人

２．文化財めぐり

市内文化財めぐり：市内の文化財を市職員の案内で歩いて巡る。〔実施日〕10 月 10 日〔参加者数〕48 人

市外文化財めぐり：「バスで行く！市外文化財めぐり」群馬県高崎市（上野国分寺跡・かみつけの里博物館・群馬県立博物館）〔実施日〕11 月 19 日〔参加者数〕45 人

３．講座・講演

市民歴史講座：国分寺市・鳩山町の連携事業。「武蔵国分寺と鳩山窯跡群における瓦生産体制」と題し、各自治体職員の講師による２部構成で実施。〔実施日〕12 月 10 日〔参加者数〕39 人

歴史講演会:『武蔵国分寺跡の今・昔』と題し、２部構成で「武蔵国分寺跡の調査と保存のあゆみ」を市職員が、「江戸から見た武蔵国分寺跡」を青木直己氏が講演。〔実施日〕２月 12 日〔参加者数〕133 人

４．イベント

鐙瓦等のレプリカ作成:子ども向けワークショップとして資料館所蔵品の型取り、色付けを行いレプリカを作成。〔実施日〕11 月６日〔参加者数〕48 人

５．印刷物の作成

『武蔵国分寺跡資料館だより』 第 26 号～第 29 号　各 2,000 部

『国史跡追加指定記念　古代道路を掘る　―東山道武蔵路の調査成果と保存活用―』 1,000 部

第４表　平成 28 年度　届出・通知および立会記録等一覧（１）

No.	日付	条	申請地	申請工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査次数・備考
1	H28.4.4	93 条	泉町 2-102-11	その他建物（排水工事）	工事立会	① H28.4.12 ② H28.5.11 ③ H28.5.12 ④ H28.5.25	①排水管接続。GL-250cm まで掘削。-130cm まで路盤、以下ローム、掘山の可能性あり。東側ではローム地山の下に砂があった。② -130cm まで掘削。砂の多い盛土内施工。底部でローム。③、②の東側。-300cm まで掘削。-200cm の管の下はローム。④、②③の北側。-220cm まで掘削。管周辺は掘山、それ以外はローム。
2	H28.4.5	93 条	泉町 1-16 ～ 18	ガス	慎重工事	—	—
3	H28.4.8	93 条	西恋ヶ窪 1-20-62	個人住宅	工事立会	H28.6.2	基礎根切、浸透ます。敷地西側。GL-40cm まで掘削。-30cm までローム混じり黒色土、以下に表土。
4	H28.4.11	93 条	南町 1-10 先	水道	工事立会	H28.5.6	東端部。GL-150cm まで掘削。-40cm まで路盤、以下砂の多い掘山。それ以外の場所も同じ。
5	H28.4.12	94 条	日吉町 1-31 ～ 3-18 先	道路・水道	工事立会	H28.7.1	掘山内施工。
6	H28.4.13	93 条	西元町 2-4（E）	個人住宅	工事立会	H28.6.6	基礎根切。GL-50cm まで掘削。耕作土・ロームなどが混じる掘山。
7	H28.4.15	94 条	泉町 2-2	電話	工事立会	① H28.5.18 ② H28.5.19	①中央部。GL-120cm まで掘削。-40cm まで路盤、以下砂利の多い掘山。②管を共同溝につなぐ。南側。-140cm まで掘削。-90cm まで路盤、以下同じ。
8	H28.4.15	93 条	東恋ヶ窪 1-280	その他建物（研究所）、ガス・水道・電気等	発掘調査	—	K5-9 次調査（試掘調査）、K5-10 次（発掘調査）。
9	H28.4.18	93 条	東元町 4-18-18	ガス	工事立会	H28.4.26	GL-120cm まで掘削。-40cm まで路盤、下はローム多い掘山。底には様々なインフラ。
10	H28.4.18	93 条	泉町 1-10-10	個人住宅	工事立会	H28.6.9	深基礎根切。GL-50cm まで掘削。黄色い砂・ローム・黒色土・表土が混ざり、黒色土が斑点状に混じる所もある。
11	H28.4.19	93 条	南町 1-177-66（1-11）	個人住宅	工事立会	H28.5.31	GL-30cm まで掘削。-5cm までローム多い掘山、以下は地山。
12	H28.4.19	93 条	東元町 3-12-11	個人住宅	工事立会	① H28.6.27 ② H28.6.28	① GL-80cm まで掘削。南側では -35cm まで表土、-65cm までⅢｂ層、-75cm までⅢｃ層、以下Ⅳ層。②-80cm まで掘削。-60cm からローム。東北に向かって表土が厚くなる。
13	H28.4.20	93 条	泉町 1-10-	ガス	工事立会	H28.6.2	GL-90cm まで掘削。ほぼ掘山。歩道中央部に若干黒色土地山。
14	H28.4.21	93 条	西元町 2-11 先	水道	工事立会	① H28.6.7 ② H28.6.8	①中央部。GL-180cm まで掘削。-40cm まで路盤、-80cm まで表土、以下ローム。水道、ガスなどの掘山内。②東側。-140cm まで掘削。-10cm まで路盤、南に向かって厚くなる。道路中央より南は全て掘山。①と東側の間の工事。-80cm まで掘削。-30cm まで路盤、下はローム多め掘山。
15	H28.4.25	93 条	東恋ヶ窪 1-235	ガス	慎重工事	—	—
16	H28.4.26	93 条	東元町 3-14-19 先	電気	工事立会	① H28.5.11 ② H28.9.23	① GL-140cm まで掘削。40cm までＵ字溝、以下ローム。②電柱建替。-140cm まで掘削。路盤、以下砕石もあるがローム多い掘山。
17	H28.4.27	93 条	西元町 4-2-	水道	工事立会	H28.6.3	尼寺中門内側溝を検出。電柱から東へ 1.3m の所、北へ 0.2m、南へ 1m の範囲に溝を検出。掘削した西壁面。北はガスの掘山で削平されている。GL-40cm まで路盤。-66cm まで暗褐色土、粘性ややあり、しまりあり、ローム粒を 20%含む、部分的にローム粒しみ状に入る直径 14cm 程度。-78cm まで暗灰褐色土、粘性ややあり、しまりなし、ローム粒を 40%含む。-98cm まで暗褐色、粘性ややあり、しまりなし、底部にロームブロック、ローム粒を 10%含む。以下はローム。
18	H28.4.28	93 条	泉町 2-102,2	水道	慎重工事	—	—
19	H28.4.28	93 条	東元町 3-14-10	ガス	※緊急工事	—	緊急工事。
20	H28.5.6	93 条	西元町 3-2198-3	分譲住宅	工事立会	① H28.6.15 ② H28.6.30	①基礎根切。基礎が打たれていたため、GL-20cm までしか確認できなかったが、ガラ混じり掘山。②道路脇の配管。-60cm まで掘削。-30cm まで固められた砕石、以下はローム多め掘山。
21	H28.5.9	93 条	西元町 2-1668-6(2-4-)	個人住宅	工事立会	—	写真受領。遺物・遺構なし。
22	H28.5.9	93 条	本町 4-6 ～ 17	ガス	工事立会	H28.7.14	GL-100cm まで掘削。-40cm まで路盤、-60cm まで耕作土、-80cm まで黒色土地山、以下はローム。
23	H28.5.11	93 条	南町 1-177-53 の一部（1 号棟）	分譲住宅	工事立会	H28.6.1	GL-35cm まで掘削。表土内施工。

※グレー 20%の網掛け部分は本書掲載の発掘調査に伴う届出（平成 27 年度届出分を除く）

※「包蔵地外工事立会」は国分寺市文化財の保存と活用に関する条例に基づき、包蔵地外で実施した立会

第５表　平成 28 年度　届出・通知および立会記録等一覧（２）

No.	日付	条	申請地	申請工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査次数・備考
24	H28.5.11	93 条	南町 1-177-53,-59 の一部（2 号棟）	分譲住宅	工事立会	① H28.5.18 ② H28.6.1	①地盤改良。見える範囲は表土。多少ロームが入る。防空壕があったという情報があり。後日提供を受けた情報によると、GL-250cm の所に防空壕の天井部分と思われる無筋コンクリートがありその下が空洞、規模は不明。②-35cm まで掘削。表土内施工。地盤改良の影響か、No.23 よりロームが多く混じる。
25	H28.5.11	93 条	本町 4-2862-42,43	集合住宅	工事立会	H28.7.11	基礎根切。西側は GL-50cm まで掘削。-20cm までローム・ガラ混じり掘山、以下は黒色土・ガラ混じり掘山。北側は -40cm まで掘削。20cm までローム・ガラ混じり掘山、以下は黒色土地山。
26	H28.5.13	93 条	本町 4-24-1 先	電気	工事立会	—	写真受領。遺物・遺構なし。
27	H28.5.13	93 条	西元町 4-2-18 先	電気	工事立会	H28.6.7	GL-40cm まで路盤・礫・ガラ・瓦が混じる、以下はローム。
28	H28.5.17	93 条	西恋ヶ窪 3-13-64,66	個人住宅	工事立会	H28.7.4	基礎根切。南側では GL-30cm まで掘削。北側は道路面が 100cm 下がる。南西部分で南北に 1m、東西に 2m の範囲でローム。
29	H28.5.18	94 条	東元町 3-12	水道	工事立会	① H28.5.26 ② H28.5.31 ③ H28.6.1 ④ H28.6.6 ⑤ H28.6.14	①マンホール設置。GL-210cm まで掘削。東面で -40cm まで路盤、-60cm までローム混じり掘山、-70cm まで北側に向かって黒色土地山が厚くなる、以下ローム。西側で検出された SD66 の延長の可能性もあるが、溝自体は既存の下水掘山にあたっているため、確認はできず。②マンホール設置。-260cm まで掘削、-40cm まで路盤、-50cm まで耕作土、-65cm 以下ローム、-100cm 以下ハードローム。東面に穴の痕跡、穴の底は -85cm、上面が 80cm、底部は 60cm、路肩から 2.6m が穴の中央。穴の覆土は、粘性、しまりなし、黒褐色土、ローム粒、炭化物・スコリア少量。南側には -80cm まで水道の掘山。西面は -80cm まで掘山のため SD につながっているか不明。③、①②を接続する管設置。-200cm まで掘削。西の部分に溝が検出され、底まで -90 ～ 100cm。②の土よりロームが多く、ローム粒、炭化物・スコリア少量。溝の横には踏み固め面があり中近世の遺構と思われる。④、②の北側での管設置。-200cm まで掘削。-40cm まで路盤、-80cm に黒色土、場所によっては黒色土からローム漸移層、以下はローム。⑤写真受領。-150cm まで掘削。-70cm 以下にはロームが残る所もあるが、ほぼ掘山。
30	H28.5.18	93 条	泉町 2-102-11	ガス	慎重工事	—	—
31	H28.5.20	94 条	本町 2-3	水道	※緊急工事	H28.5.18	道路陥没。GL-160cm まで掘削。すべてローム主体掘山。
32	H28.5.20	94 条	泉町 2-2-	地質調査	工事立会	① H28.9.5 ② H28.9.12	①（1）（2）地点。GL-35cm まで表土、-80cm までガラ混じり掘山、-200cm まで黒色土、以下ローム。ロームの上はほぼ掘山と思われる。②（3）地点。-10cm まで表土、-90cm までガラ混じり掘山、-150cm まで黒色土、以下ローム。-400cm と -600cm のサンプルは黒味があり黒色帯と思われる。
33	H28.5.23	93 条	光町 2-9-7	ガス	工事立会	H28.7.12	写真提供。GL-90cm まで掘削。路盤以下は全てローム。
34	H28.5.23	93 条	西恋ヶ窪 1-13-5	解体・集合住	工事立会	H28.7.27	宅地は GL+140cm。-40cm まで掘削。表土内施工。
35	H28.5.24	緊急	本町 4-24-31 地先	ガス	※緊急工事	H28.5.24	緊急工事。GL-70cm まで掘削。掘山内施工。
36	H28.5.26	94 条	泉町 2-2-	その他開発（埋設物試掘調査）	工事立会	① H28.8.23 ② H28.8.24	※（　）内は届出時の試掘地点名。 ①(16)GL-20cm で取り除けないサイズのガラ。(15) -40cm で取り除けないサイズのガラ。(14) -110cm まで掘削。-30cm まで表土、-90cm まで盛土、以下Ⅲｂ層、奈良時代の土器片検出。②（12）-80cm まで掘削。-20cm まで砂質掘山、-40cm までローム多い掘山、-60cm まで黒色土掘山。底部に近代のゴミ焼き穴、ガラスが入る。(11) -60 ～ 140cm までコンクリート壁、金属蓋、底に川原石、周辺のロームは粘土化。元トイレか。(13) -100cm まで掘削。-20cm まで砂質掘山、-30cm まで黒色土、-50cm までローム・ガラ混じり掘山、-70cm までローム掘山。-80 ～ 90cm にⅢｂ層。地山との境目に砂。

第６表　平成 28 年度　届出・通知および立会記録等一覧（３）

No.	日付	条	申請地	申請工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査次数・備考
36	H28.5.26	94 条	泉町 2-2-	その他開発（埋設物試掘調査）	工事立会	③ H28.8.25 ④ H28.8.26 ⑤ H28.8.29	※（　）内は届出時の試掘地点。 ③（10）-40cm までローム混じり掘山、-70cm までガラ・砕石を含む黒色土掘山、-100 ～ 110cm まで非常に硬く締まったローム粒混じりの暗褐色土。-110cm でⅢｂ層（ややローム粒・スコリア混ざり、完全なⅢｂではないか）、同レベルで不明遺構を検出（覆土はⅢａに似る）。不明鉄製品を検出。(8) -50cm までローム多い掘山、-120cm まで構造物埋設のため撹乱。トレンチ内の一部に -105cm で耕作～Ⅲａ層、-116cm で明確なⅢｂ層。(9) -50cm までローム・ガラ・シート混じりのやや締まる茶褐色土盛土、-80cm まで締まりのない明るい褐色土、-90cm まで非常に締まりのあるローム粒混じりの暗褐色土(10)の-100cmの土に似る)、地山には達せず。(7) -100cm まで掘削。-20cm まで砂質掘山、-40cm まで黒色土・ローム混じり掘山、-60cm までローム・ガラ混じり掘山、-70cm 付近にコンクリート塊、以下黒色土。-90 ～ 100cm で地山。中央に -60 ～ 80cm にＵ字溝、北側では同じ深さにコンクリート基礎。④ (6) -55cm まで砕石･ロームを含む掘山、-80cm まで礫を含みやや締まりのある暗茶色土掘山、-190cm まで大きなガラ・玉石を多数含む締まりが強い暗褐色土掘山、-200cm まで山砂、-200cm でⅣ層（ソフトローム）、同レベルの南側で直径約 30cm の縄文ピットを検出（確認のみ）。(5) -60cm まで砕石・ガラ混じりの締まりややある茶褐色土、-108cm まで砕石・ロームの混じる締まりのある暗褐色土、以下Ⅲａ層土と表土が混じる地山。(2) -110cm まで掘削。-40cm まで暗茶褐色土、-100cm までガラ混じり黒色土掘山。-100 ～ 110cm にⅢ a/b 層。中央の 100cm にコンクリート製管。北側の -85cm からコンクリート基礎。⑤ (3) -135cm まで掘削。-40cm までローム・ガラ混じり掘山。以下はガラ混じり黒色土掘山。-100 ～ 135cm で地山。
37	H28.5.26	93 条	西元町 4-13804-14	分譲住宅	確認調査	—	MK Ⅲ -716 次調査。
38	H28.5.27	93 条	泉町 1-2458-53	個人住宅	工事立会	H28.9.12	解体。旧車庫部分は -50cm まで掘削。ほぼガラ混じり掘山、深くなるとロームブロックが混じる。南側の庭は +150 ～ 210cm が見えていたが、全て黒色土表土。この後盛土を行う。
39	H28.5.31	94 条	西元町 3-10-7	その他建物（フェンス）	慎重工事	① H28.8.1 ② H28.8.2 ③ H28.8.3 ④ H28.8.4 ⑤ H28.8.5	① GL-60cm まで掘削。校庭の高さ（設計 GL）は道路から +50cm あり､見える範囲は全て砂混じり盛土。②北端、最大 -120cm まで掘削。ほぼ砂の盛土。③②の南側。砂の割合は少なくなり､黒色土が増える。④南の角。-90cm まで掘削。ガラが少し入る盛土。⑤基礎コンクリートが打たれる。遺構面には達していない。
40	H28.6.1	94 条	泉町 2-9-	その他開発（自転車等駐車場）	工事立会	① H28.6.14 ② H28.6.15 ③ H28.6.27	①電気配管。GL-60cm まで掘削。掘山内施工。②ゲート、案内板。ゲートは -30cm まで、看板は -60cm まで掘削。掘山内施工。ガラが多く、看板の方は土にロームが混じる。③電灯。-60cm まで掘削。掘山内施工。
41	H28.6.2	93 条	南町 1-10-	ガス	工事立会	H28.7.1	新設。東側では GL-90cm まで、西側では -80cm まで掘削。東では -50cm、西では -60cm からローム。道路は -40cm まで路盤、以下掘山。
42	H28.6.3	93 条	東元町 3-12-	水道	工事立会	H28.6.21	道路側は GL-100 ㎝まで掘削、-40cm まで路盤、後は掘山。宅地内は -80cm まで掘削。西側にはロームが見えるがそれ以外は表土。
43	H28.6.7	93 条	光町 3-16-	ガス	工事立会		写真依頼。
44	H28.6.7	93 条	本町 4-6-	水道	工事立会	H28.7.14	北端。GL-250cm まで掘削。部分的に -80cm から黒色土地山、-120cm 以下ローム。
45	H28.6.8	93 条	南町 2-4-13	ガス	慎重工事	—	—
46	H28.6.9	93 条	本町 4-23・24	ガス	慎重工事	—	—
47	H28.6.10	93 条	東元町 3-14-9	宅地造成	工事立会	① H28.6.7 ② H28.6.8 ③ H28.6.9	①掘削を伴う工事が行われていたため、施工業者に対して届出が必要であることと、施工主に対してそのことを伝えること、当面の職員が立会いを行うことを伝えた。縄文土器を 1 点検出。②南側隣地（GL とする）から -70cm まで掘削。土地の中央部でさらに -40cm 程度まで掘削。-30cm まで表土、以下ローム。③土砂の搬出が進む。

第７表　平成 28 年度　届出・通知および立会記録等一覧（４）

No.	日付	条	申請地	申請工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査次数・備考
47	H28.6.10	93 条	東元町 3-14-9	宅地造成	工事立会	④ H28.6.10 ⑤ H28.6.14 ⑥ H28.6.17 ⑦ H28.6.21 ⑧ H28.6.28	④西側・南側ブロック塀撤去が始まる。縄文土器を１点検出。道路面から +55 ～ 60cm でⅣ層底部からⅤ層頭になる。⑤道路面より深くまで掘削が行われている所もある。東側は表土または盛土。縄文土器を１点検出。⑥ブロック基礎工事。南側隣地より、東側で -50cm 以下ローム、西側で -30cm 以下ローム。東側中央部では表面から -20cm でロームとなる。縄文土器１点検出。⑦土を動かす工事はほぼ終わった。⑧工事完了。
48	H28.6.10	93 条	東元町 3-14-10	宅地造成	工事立会	—	No.47 と同じ。
49	H28.6.13	93 条	内藤 2-2-17	分譲住宅	工事立会	H28.11.10	GL-50cm まで掘削。表土内施工。
50	H28.6.13	93 条	本町 4-9-10	ガス	工事立会	H28.7.4	新設。GL-150cm まで掘削。-10cm まで路盤、-70cm まで表土、以下ローム。道路は掘山内施工、宅地側はロームが一部残る。
51	H28.6.14	93 条	東元町 4-1781-3,4	集合住宅	工事立会	H28.9.15	基礎根切。GL-30cm まで掘削。ガラが混じる掘山。前身建物の基礎撤去時にかなり深くまで掘削されていた。
52	H28.6.17	93 条	東元町 3-889-9,889-71	個人住宅	工事立会	H28.8.26	盛土事前立会。やわらかいローム掘山とローム地山が混在。縄文土器を２点検出。
53	H28.6.17	93 条	西恋ヶ窪 1-20-1	ガス	慎重工事	—	—
54	H28.6.17	93 条	東元町 3-19-5	個人住宅	工事立会	H28.9.5	基礎根切。GL-40cm まで掘削。前身建物のガラが混じるローム多め掘山。南側に黒色土地山。
55	H28.6.20	93 条	西元町 1-2448-18	集合住宅	確認調査	—	MK Ⅰ -717 次調査。
56	H28.6.20	93 条	東元町 3-25-19	水道	その他	H28.6.8	写真受領。遺物・遺構なし。
57		外	東恋ヶ窪 3-2-2	その他（解体）	包蔵地外立会	① H28.6.22 ② H28.6.29	①基礎解体。GL-160cm まで掘削。基礎の下に山砂と砕石。西面では -60 cmにガス管、以下にロームブロック混じりの表土。②解体工事は終了していた。
58	H28.6.23	93 条	南町 2-1-34	ガス	工事立会	H28.7.25	GL-140cm まで掘削。40cm まで路盤、以下礫・ローム混じり掘山。掘山内施工。
59	H28.6.24	93 条	本町 4-2864-46	個人住宅	工事立会	H28.7.12	基礎根切。最大 GL-60cm、それ以外は -40 ～ 20cm まで掘削。中央部にローム混じり掘山。表土内施工。
60	H28.6.27	93 条	南町 2-8-8	水道	工事立会	H28.7.27	道路側で GL-150cm まで掘削、掘山内施工。宅地側は -60cm まで掘削、黒色土掘山。地山には達せず。
61	H28.6.27	93 条	南町 2-8-8	水道	工事立会	H28.7.25	GL-50cm まで掘削。-20cm まで路盤、以下は黒色土掘山。掘山内施工。
62	H28.6.27	93 条	東元町 3-14-	水道	工事立会	H28.7.14	GL-150cm まで掘削。道路側は砕石、宅地側はローム。
63	H28.6.27	93 条	東元町 3-14-	水道	工事立会	H28.7.11	道路側で GL-170cm まで、宅地側は 110cm まで掘削。道路側は砕石、宅地側はローム。
64	H28.6.28	93 条	西元町 1-2448-1,4	集合住宅	確認調査	—	工事中止。
65	H28.6.29	93 条	東元町 3-889-44,-87	個人住宅	工事立会	H28.8.26	盛土事前立会。ローム盛土とローム地山の部分が混在。盛土はかなりやわらかい。
66	H28.6.30	93 条	本町 4-24	水道	工事立会	H28.9.9	GL-80cm まで掘削。掘山内施工。
67	H28.7.1	93 条	本町 2-5-1	集合住宅	工事立会	① H28.8.31 ② H28.9.5 ③ H28.9.7 ④ H28.9.12	①土すきとり、擁壁撤去。ガラやゴミの燃えカスが多く残る。旧玄関付近には GL+40cm 程度まで黒色土地山、その上に 30cm 厚のローム混じり盛土があり、縄文土器を含む。その上はガラの多い盛土。原地形は南側道路のような敷地東端まで高く、その後下る形だった模様。掘削された土にも縄文土器を検出。②北側のブロック塀撤去。-40cm まで掘削が及ぶが全て黒色土盛土。少しロームが残る場所もある。縄文土器を検出。③北西井戸の内壁は -50cm までⅢｂ層、上にⅢａ層、-80cm からローム。高低差のある東側道路から -20cm でローム地山。縄文土器を検出。④掘削された土に縄文土器を含む。 ※掘削は遺構確認面に達しなかったが、掘り出された黒色土に縄文土器を多く含む場所であった。流れ込みによる堆積土の厚い場所であり、その土に縄文土器が多く含まれたと想定される。 （第８・13・14 図、第 15 表参照）。
68	H28.7.5	93 条	本町 4-9-	ガス	工事立会	—	工事中止。
69	H28.7.5	93 条	西元町 2-11-7	ガス	工事立会	① H28.7.6 ② H28.7.13	①新設。西側。GL-140cm まで掘削。-30cm まで路盤、以下はローム多めの掘山。西側に傾斜している。②新設。東側。-120cm まで掘削。ローム多め掘山だが、一部 -40cm 以下にローム地山。

第８表　平成 28 年度　届出・通知および立会記録等一覧（５）

No.	日付	条	申請地	申請工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査次数・備考
70	H28.7.1	93 条	東恋ヶ窪 1-280	その他（プラント（水槽））	工事立会	H28.7.13	GL-15 ～ 60cm まで掘削。表土内施工。特に東側は掘削深度が浅く、地山のレベルに達してない。
71	H28.7.8	93 条	東元町 3-889-44,-87	個人住宅	工事立会	—	写真受領。遺構・遺物なし。
72	H28.7.11	93 条	本町 4-22-	ガス	工事立会	—	写真受領。遺構・遺物なし。
73	H28.7.11	93 条	南町 1-7-	ガス	慎重工事	—	—
74	H28.7.12	93 条	本町 2-24-7	個人住宅・長屋・ガス・水道	工事立会	① H28.12.15 ② H28.12.16	①解体。既存建物基礎が GL-50cm まで入っており掘削撤去。北東角 -10cm で縄文土器片を検出。②解体。北側最大 -110cm まで掘削。-40cm から褐色土地山、-50cm からローム。東側では -50cm まで全て表土。建設予定の建物の基礎・インフラが遺構面に達しないことを確認。①とほぼ同じ地点で縄文土器片を検出。
75	H28.7.13	93 条	東元町 3-12-11	ガス	工事立会	H28.8.4	GL-150cm まで掘削。掘山内施工、一部 -50cm 以下にローム。
76	H28.7.15	93 条	本町 2-19-17	水道	工事立会	H28.8.2	①新設。南側 GL-180cm まで掘削。ローム多めの掘山内施工。②撤去。北側 -180cm まで掘削。ローム多めの砂を主体とする掘山内施工。
77	H28.7.20	93 条	日吉町 1-35-	ガス	慎重工事	—	—
78	H28.7.20	94 条	泉町 2-102-13	その他建物（公文書館）	確認調査	—	MK Ⅳ -718 次調査（確認調査）。 MK Ⅳ -722 次調査（発掘調査）。
79	H28.7.21	93 条	東元町 3-889-44,-87	個人住宅	工事立会	H28.9.21	排水管接続部。GL-60cm まで掘削、砕石の下に明るいローム地山。
80	H28.7.21	93 条	東元町 3-14-	ガス	慎重工事	—	—
81	H28.7.22	93 条	東元町 3-889-44,-87	個人住宅	工事立会	H28.9.21	排水管接続部。GL-60cm まで掘削、砕石の下に No.79 より暗いローム。縄文土器検出。
82	H28.7.25	93 条	内藤 1-8-26	個人住宅	発掘調査	—	K7-13 次調査。
83	H28.7.25	93 条	西元町 2-2546-73	個人住宅	工事立会	① H28.8.22 ② H28.9.26	①鋼管杭打設。東隣地より +50cm。敷地北側の方が土の締まりが良い。中世溝が推定される部分はよりゆるく入っていく。溝がどこで切れるかは、鋼管杭の打設からは判別し難い。②根切立会の連絡がなかったため、立会が出来なかったため、地盤調査の情報提供を依頼。地盤調査報告書によれば、敷地東部分に GL-300 ～ 400cm にやわらかい部分があり、中世溝の延長の可能性もあるか。
84	H28.7.26	93 条	東元町 3-25-	水道	工事立会	① H28.8.4 ② H28.8.5	①写真受領。②とほぼ同じ状況。敷地内は地山が残っていたようだが、遺構・遺物なし。② GL -100cm まで掘削。道路西端から 130cm までは地山。北の交差点電柱から 4.5m の地点から北にむかって Ⅲ b 層が始まり 2m で底まで達する。北の交差点付近では -60cm までローム混じり掘山、-70cm まで表土、以下ローム。電柱から南に 1 ～ 2m まで、深さ 50cm 程度のゴミ穴、茶碗のかけらやガラス破片などを含む。
85	H28.7.26	93 条	東元町 4-16-	ガス	工事立会	H28.8.12	宅地内は道路面より +40cm。道路は -120cm まで掘削。40cm まで路盤、以下ローム混じり掘山。
86	H28.7.28	94 条	西元町 2-17 ～ 1-14	水道	工事立会	H28.10.13 ～	※本件は立会回数・記録事項が多いため、別報告とする。
87	H28.7.28	94 条	西元町 3-8 ～ 3-4,、南町 3-26-	道路舗装・反射鏡設置	工事立会	① H28.11.18 ② H28.11.21	① GL-45cm まで掘削。-30cm まで路盤、以下Ⅲ c 層。②ぶんバス転回場入口工事。砕石を敷いて、転圧をかける。
88	H28.7.28	94 条	日吉町 1-39 ～ 36	道路舗装・雨水ます設置	慎重工事	—	—
89	H28.7.29	93 条	東元町 4-17-2	個人住宅	工事立会	H28.10.14	基礎根切。GL-20cm まで掘削。すべてローム混じり表土。
90	H28.7.29	緊急	本多 1-22-10 先	ガス	※緊急工事	H28.7.29	写真提供。ただし包蔵地外。
91	H28.8.2	93 条	本町 4-24	水道	慎重工事	—	—
92	H28.8.2	93 条	本町 4-24	水道	工事立会	H28.9.1	状況確認。8/22 に工事済。掘山内施工。
93	H28.8.4	93 条	本町 4-27	ガス	工事立会	H28.8.31	GL-70cm まで掘削。-60cm でローム。掘山内施工。
94	H28.8.8	93 条	西元町 3-10-4	分譲住宅	確認調査	H28.10.17	MK Ⅲ -719 次調査。 解体。元建物は道路面から +40cm の盛土。土は均質な褐色土盛土。敷地中央部の少し盛土が減ったところに黒色土地山が見えるところがあった。
95	H28.8.8	93 条	内藤 1-16	ガス	工事立会	—	写真受取。遺物・遺構なし。

第９表　平成 28 年度　届出・通知および立会記録等一覧（６）

No.	日付	条	申請地	申請工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査次数・備考
96	H28.8.8	93 条	東元町 3-25-19 の内	個人住宅	工事立会	H28.8.23	基礎根切。GL-40cm まで掘削。庭木による攪乱がある。北側では -40cm、南側では -20cm がⅢ b/c 層の境目。縄文（後期）土器・古代瓦検出。
97	H28.8.9	93 条	本町 1-3 ～ 4	ガス	慎重工事	—	—
98	H28.8.12	93 条	西恋ヶ窪 3-26-13	分譲住宅	工事立会	H28.10.20	柱状改良。盛土は道路面 +120cm 。根切では遺構面に届かないことが確認できた。
99	H28.8.16	93 条	西元町 2-2456-48 の一部	個人住宅	工事立会	① H28.8.18 ② H28.10.4	①鋼管杭打設。敷地の北側半分が地盤のしまりが強い。一部でガリガリと音がする。GL-300cm 程度になるか、2 回音がするところもあった。敷地は東隣地より +50cm、西隣地より -50cm、道路より +400cm。②根切立会の連絡がなかったため、地盤調査の情報提供を依頼。GL-250 ～ 275cm に空洞か非常に柔らかい所があった。
100	H28.8.19	93 条	西元町 4-2	ガス	工事立会	H28.10.31	GL-80cm まで掘削。掘山内施工。
101	H28.8.24	94 条	光町 2-9-11 先	水道	工事立会	H28.11.29	GL-250cm まで掘削。掘山内施工。
102	H28.8.25	93 条	東元町 4-1734	分譲住宅	工事立会	H28.9.26	西側 2 棟は GL-5cm まで掘削、東側 1 棟は盛土をするため掘削せず。-5cm まで耕作土・盛土、底部は黒色土・ロームが見えるが、前身建物の解体時のガラが入り込んでいるので、表面近くは掘山と思われる。
103	H28.8.29	93 条	内藤 1-16-1	ガス	慎重工事	—	—
104	H28.9.2	94 条	日吉町 1-31 ～ 35 先	水道	慎重工事	—	—
105	H28.9.2	94 条	西元町 3-6 先	水道	慎重工事	—	—
106	H28.9.2	93 条	東元町 3-14-	個人住宅	工事立会	H29.3.30	敷地南端では GL-30cm まで掘削。-20cm まで褐色土盛土、以下ローム。北側給排水工事部分では、-50cm まで盛土。
107	H28.9.5	93 条	西恋ヶ窪 1-24-7	分譲住宅	工事立会	① H28.9.23 ② H28.10.13	①解体。全体的にやわらかい茶褐色土。一部、道路から 10 ～数 cm で明るいローム系の土が見えるが地山か不明。②基礎根切。コンクリートが打たれていたので、南側で砕石を少しだけよけて様子を見たところ、GL-30cm くらいまで黒色土地山。遺構面には届かなかった模様。
108	H28.9.5	93 条	西元町 2-2546-54	分譲住宅	工事立会	—	工事中止。
109	H28.9.6	93 条	西恋ヶ窪 2-20-1	ガス	工事立会	—	写真提供。掘山内施工。
110	H28.9.6	93 条	西恋ヶ窪 1-28-2	宅地造成	確認調査	—	K2-98 次調査。
111	H28.9.13	93 条	南町 2-8 ～ 3	ガス	慎重工事	—	—
112	H28.9.14	93 条	東元町 4-2-	水道	工事立会	H28.11.11	西・中央部分。GL-150cm まで掘削。南側隣地から 1.5m は掘山、その先 1.5m は地山。-30cm まで路盤、-70cm まで黒色土地山、以下ローム。南に向かって下がり傾斜。
113	H28.9.16	93 条	東元町 3-25-19 の内	個人住宅	工事立会	H28.9.29	GL-40cm まで掘削。-20cm まで表土、以下はⅤ層。東側はローム多めの表土。古代瓦・古代須恵器を検出。
114	H28.9.20	93 条	西元町 3-11- 先	電気	工事立会	H28.10.26	電柱新設。GL-250cm まで掘削。-60cm 以下はローム。
115	H28.9.21	93 条	西恋ヶ窪 1-13-5	ガス	工事立会	H28.11.15	北側撤去。GL-110cm まで掘削。一部 20cm まで路盤、以下黒色土地山。-50 ～ 60cm に縄文土器片（2 点､接合できる）検出。南側新設。-100cm まで掘削。同じ状況。
116	H28.9.26	外	東恋ヶ窪 4-11-14	その他（解体）	包蔵地外立会	① H28.9.26 ② H28.9.27	①解体。全面表土、ガラは少ない。②東側道路から 3.5m 北側道路から 3.5m の地点から西に幅 0.4m 南に長さ 0.9m の硬質面を検出。Ⅲ c 上面が 2cm 厚で硬化しており、面的に確認されたが、ブロック状にもろくくずれる。その下の 30cm の厚さのⅣ層はⅤ層位の硬さで非常に硬くしまる。敷地西端から 4m、南端から 3m では -40cm でⅢ c/ Ⅳ層。
117	H28.9.26	93 条	東元町 3-889-9 外	個人住宅	工事立会	H28.10.14	基礎根切。無連絡着工。道路より +30cm。GL-40cm まで掘削。ローム盛土。盛土中から縄文土器が検出された。
118	H28.9.27	93 条	本町 2-19-17	ガス	慎重工事	—	—
119	H28.9.27	94 条	本町 4-24 先	水道	慎重工事	—	—
120	H28.9.27	93 条	西元町 1-1 先	水道	工事立会	H28.10.24	GL-200cm まで掘削。砂・砂利とロームが混じった掘山内施工。
121	H28.9.27	93 条	西元町 1-1 先	水道	慎重工事	—	—

第 10 表　平成 28 年度　届出・通知および立会記録等一覧（７）

No.	日付	条	申請地	申請工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査次数・備考
122	H28.9.28	外	東恋ヶ窪 4-11-20	その他 （解体）	包蔵地外 立会	H28.9.28	解体。庭はやわらかい黒色土。建物基礎中央部では GL-10cm くらいから黒色土があり、下に河原石が並んでいるが、この建物とは無関係。基礎内には乾燥したローム混じり土が入っていた。西側隣地では浅めの掘削でロームが出ている。
123	H28.9.30	93 条	泉町 2-2	水道	工事立会	H28.10.20	市道では GL-175cm まで、公文書館用地では -110cm まで掘削。掘山内施工。
124	H28.10.6	93 条	東元町 3-1347-1	個人住宅	工事立会	—	写真受領。遺物・遺構なし。
125	H28.10.6	93 条	西恋ヶ窪 3-13-16	ガス	慎重工事	—	—
126	H28.10.6	94 条	西元町 3-6 番地先、3-5 番地先	消火栓	工事立会	① H28.11.28 ② H28.11.29	①消火栓蓋形状変更。GL-50cm まで掘削。-30cm まで砕石､以下掘山。②制水弁設置。-100cm まで掘削。北面 -30cm まで路盤、-70cm まで褐色土地山、以下ローム。南側は耕作にかかわる攪乱（イモ穴）がある。 ※史跡地内・現状変更にも該当。
127	H28.10.11	93 条	西元町 2-16-11	ガス	工事立会	H28.11.14	西側撤去。GL-70cm 以下に砂。会社敷地内東側新設。-100cm まで掘削。-40cm に砂の層がありそこまで掘山、-70cm から褐色土地山。道路東側新設。-100cm まで掘削、-80cm 以下に一部褐色土地山。
128	H28.10.21	93 条	泉町 3-1-	ガス	※緊急工事	—	遺物・遺構なし。
129	H28.10.17	緊急	本町 4-24-31	ガス	※緊急工事	—	写真提供。GL-65cm まで掘削、掘山内施工。遺物・遺構なし。
130	H28.10.21	93 条	本町 4-9-	ガス	慎重工事	—	—
131	H28.10.24	93 条	内藤 1-18-1	宅地造成・インフラ	確認調査	—	K41-1 次調査。
132	H28.10.24	93 条	西恋ヶ窪 1-12-21	分譲住宅	工事立会	H28.12.5	根切工事。道路から +190cm。GL-40cm まで掘削。ほぼロームの盛土。
133	H28.10.25	93 条	本町 2-4-6	集合住宅	確認調査	① H29.2.7 ② H29.2.9	K28-14 次調査。 ①事前確認、解体。基礎が残っていて判断できず、一部スコリア多めの黒色土地山。② GL-80cm まで前身建物の基礎が入っている。建物外周および基礎内側で縄文土器片 2 点検出。
134	H28.10.25	94 条	西元町 2-1・3-23	史跡保存整備工事	工事立会	① H28.11.16 ② H28.11.17 ③ H28.11.29 ④ H28.11.30 ⑤ H28.12.12 ⑥ H28.12.13 ⑦ H28.12.14 ⑧ H28.12.19 ⑨ H29.1.17 ⑩ H29.1.18	①車止め撤去。GL-20cm まで基礎が入っていたが、盛土内施工。②鐘楼跡。盛土内施工。③鐘楼跡、砕石敷き。掘削なし。④隅切。-30cm まで掘削。盛土内・表土内施工。⑤散水栓、中門金網フェンス設置。散水栓は -30cm まで掘削。表土内施工。中門は -40cm で礎石検出。ただし表土内。原位置から移動・投棄されたものと思われる。⑥電気配管、散水栓。西・東：-30cm まで掘削。表土内施工。電気配管は部分的に整地層を検出。⑦中門礎石埋戻し。保護砂・保護用シートを入れた後埋戻し。⑧車止め設置。-20cm まで掘削。盛土内施工。⑨金銅全面・幡竿。-40cm まで掘削。盛土内施工。⑩中門説明版。-40cm まで掘削。盛土内施工。 ※史跡地内・現状変更にも該当。
135	H28.10.26	93 条	本町 4-24-	ガス	※緊急工事	—	—
136	H28.10.27	93 条	東恋ヶ窪 3-3-8	ガス	工事立会	H28.11.21	GL-150cm まで掘削。歩道北側 0.3cm まで地山、道路側が掘山。-40 ～ 100cm まで黒色土地山､以下ローム。
137	H28.10.28	93 条	東恋ヶ窪１-217	ガス	工事立会	H28.11.10	GL-170cm まで掘削。歩道の南 1.1m まで地山、全て明るいローム。北側。-130cm まで掘削。以下同じローム。
138	H28.10.28	93 条	西恋ヶ窪 1-17-31,29-7	集合住宅	工事立会	① H28.12.13 ② H29.3.6	①鋼管杭打設。750cm の杭打設、特に異音なし。駐車場として使われていた土地だが、砕石に土器片らしきものが混じる。また杭の周辺を堀った所を見ると北東側には地山が残っている可能性がある。西側は擁壁があり盛土であると思われる。②基礎根切。北東部で -40cm まで掘削。-10cm まで砕石混じり掘山、以下褐色土地山。北西部で -30cm まで掘削。全て砕石混じりの掘山。
139	H28.10.31	94 条	西元町 3-11-（2093-1、2096-3）	バス暫定転回場	工事立会	① H28.11.18 ② H28.11.21 ③ H28.11.22	①街灯。GL-95cm まで掘削。-15cm まで耕作土、-25cm Ⅲ c 層土、-70cm まで Ⅳ 層土、以下 Ⅴ 層土。② L 型ブロック設置工。盛土内施工。③フェンス基礎、街灯。フェンス、盛土内施工。街灯、-105cm まで掘削。-10cm まで耕作土、-20 までⅢ c 層土。-60 までⅣ層土、以下Ⅴ層土。

第 11 表　平成 28 年度　届出・通知および立会記録等一覧（８）

No.	日付	条	申請地	申請工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査次数・備考
139	H28.10.31	94 条	西元町 3-11-（2093-1、2096-3）	バス暫定転回場	工事立会	④ H28.11.25 ⑤ H28.11.29	④アングル部分鋤取り、出庫灯及び支柱外灯。鋤取り、-20cm まで掘削、表土内施工。出庫灯、-100cm まで掘削。-25cm まで耕作土、-35cm までⅢc 層土、-70cm までⅣ層土、以下Ⅴ層土。⑤嵩増し用砂搬入。掘削なし。
140	H28.11.1	93 条	西元町 3-8-	電気	工事立会	H29.1.18	GL-110cm まで掘削。-30cm まで路盤、以下ケーブルや下水管の掘山。
141	H28.11.1	94 条	泉町 3-31 先	水道	慎重工事	—	—
142	H28.11.4	93 条	南町 1-11	駐車場屋根柱工事	工事立会	—	口頭で出土等がなかったことを確認。
143	H28.11.4	93 条	泉町 2-9 他（4 ヶ所）	バス停	工事立会	① H28.12.1 ② H28.12.6 ③ H28.12.14	①郵政宿舎前・武蔵国分寺公園東。GL-40cm まで掘削。盛土内施工。②本町 4 丁目都営住宅前。-40cm まで掘削。東側では -20cm、西側では -30cm 以下に黒色土地山。③交通広場。-40cm まで掘削。盛土内施工。
144	H28.11.7	93 条	西元町 1-2448-1	集合住宅	確認調査	—	MK Ⅰ -712 次調査。
145	H28.11.10	93 条	西恋ヶ窪 3-35-3	個人住宅	工事立会	H29.1.10	GL-20cm まで掘削。-10cm までロームの多い盛土、以下黒色土地山、遺構面には達しない。縄文土器片を 2 点回収、52 番遺跡で縄文時代の遺物が確認されたのは、今回が初めてとなる。
146	H28.11.11	93 条	本町 4-6-	電気	工事立会	H29.2.14	GL-360cm まで掘削。-50cm まで路盤、-120cm まで黒色土掘山、次に砂、以下ローム。部分的には -20 ～ 50cm に黒色土地山。
147	H28.11.11	93 条	東元町 3-19-5	ガス	慎重工事	—	—
148	H28.11.11	93 条	西恋ヶ窪 1-24-	ガス	工事立会	—	写真提供。遺物・遺構なし。
149	H28.11.14	93 条	東元町 4-13-20	ガス	慎重工事	—	—
150	H28.11.15	93 条	東元町 3-25 ～ 14	ガス	工事立会	H28.12.7	新設。GL-120cm まで掘削。道路の西側は明るいローム、東側は褐色土地山。掘山が入っている所があり、近現代の野川に向かう溝と思われる。縄文土器片 1 点検出。
151	H28.11.15	93 条	西恋ヶ窪 1-18-3	分譲住宅	工事立会	H29.1.23	掘削を行わず、+40cm の盛土。表面に建物解体時に出てきたと思われる縄文土器検出。
152	H28.11.17	93 条	本町 2-5-1	ガス	工事立会	—	写真提供。縄文土器片らしきものが見える。
153	H28.11.18	93 条	西元町 2-17-13	電気	工事立会	H28.12.8	電柱新設。GL-270cm まで掘削。両側にインフラの掘山があり、-70cm 以下でローム。
154	H28.11.18	94 条	泉町 2-102-13	観測井戸設置	慎重工事	—	—
155	H28.11.25	93 条	東元町 3-33-4(3-2382-6)	個人住宅	工事立会	H29.1.24	解体。GL は南東隅道路面から +130cm。北西部で GL-30cm まで掘削。全て黒色土地山。北東部では -60cm まで掘削。一部ローム。
156	H28.11.25	93 条	西恋ヶ窪 1-28-9	個人住宅	工事立会	—	写真提供。遺物・遺構なし。
157	H28.11.28	93 条	東元町 4-2-	ガス	工事立会	H28.11.29	新設。GL-130cm まで掘削。-30cm まで路盤、-70cm まで掘山、-100cm まで黒色土地山、以下ローム。
158	H28.11.28	93 条	東恋ヶ窪 1-280-	ガス	慎重工事	—	—
159	H28.11.29	93 条	東元町 3-23-11	個人住宅	工事立会	H29.1.10	GL-40cm まで掘削。盛土内施工。
160	H28.11.29	93 条	南町 2-287-23	宅地造成	工事立会	H29.2.22	解体。西角が道路から 150cm 下がり、一旦平面となり、再度傾斜して 300cm 下がる。道路の下から平面はほぼ褐色土地山。
161	H28.12.1	93 条	西恋ヶ窪 1-12-	ガス	慎重工事	—	—
162	H28.12.2	93 条	東元町 3-1-3	ガス	※緊急工事	H28.12.2	遺物・遺構なし。
163	H28.12.2	93 条	内藤 2 - 22 - 21 先	水道	※緊急工事	H28.12.2	南東側は、GL-100cm まで掘削。掘山内施工、一部 -40cm 以下に黒色土地山、-60cm 以下にローム。北西側は -150cm まで掘削。ほぼ掘山、-70cm 以下にローム。
164	H28.12.9	93 条	東元町 3-25-14 先	電気	工事立会	H29.2.10	試掘 2 箇所。GL-140cm まで掘削。-30cm までほぼローム盛土、以下はローム地山。
165	H28.12.12	93 条	東元町 4-3-12 西隣	個人住宅	工事立会	H29.2.9	GL-100cm まで掘削。-30cm まで掘山、以下黒色土地山。
166	H28.12.19	93 条	泉町 1-18-15 先	ガス	慎重工事	—	写真提供。遺物・遺構なし。
167	H28.12.19	緊急	東元町 3-23-2 先	ガス	※緊急工事	—	写真提供依頼。
168	H28.12.20	93 条	東元町 3-14-	その他（地盤改良）	工事立会	H29.2.14	鋼管杭打設。南東角 GL-50cm まで黒色土地山、北西角 -30cm までローム・黒色土掘山。ほぼ全面に解体の攪乱が及んでいる。縄文土器片複数検出。

第 12 表　平成 28 年度　届出・通知および立会記録等一覧（９）

No.	日付	条	申請地	申請工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査次数・備考
169	H28.12.21	緊急	西元町 2-17-13 先	ガス	※緊急工事	H28.12.21	緊急工事。掘削は GL-140cm まで。黒色土掘山。
170	H28.12.21	93 条	東元町 3-8-	ガス	慎重工事	—	—
171	H28.12.26	93 条	西恋ヶ窪 1-18- 先	水道	工事立会	H29.2.13	GL-100cm まで掘削。北側では -30cm まで掘山、-70cm までⅢｂ層、以下Ⅲｃ層。縄文土器片を複数検出。南に向かって黒色土地山が減ってロームが増える。道路（東西方向）に合流するところの南半分は掘山。
172	H28.12.27	94 条	泉町 2-9 先（4 ヶ所）	案内看板	工事立会	H29.1.18	2 箇所。GL-110cm まで掘削。砕石混じり掘山。
173	H29.1.10	93 条	南町 3-28 ～ 29	耐震補強	工事立会	H29.1.31	写真提供。遺物・遺構なし。
174	H29.1.12	93 条	西元町 3-2-24	集合住宅	確認調査	—	MK Ⅱ -723 次調査。（平成 29 年度実施）
175	H29.1.17	93 条	西恋ヶ窪 3-17-4	個人住宅	工事立会	H29.4.19	GL-70cm まで掘削。掘山内施工。
176	H29.1.17	93 条	東恋ヶ窪 1-280	電気	工事立会	H29.2.28	GL-70cm まで掘削。表土中施工。
177	H29.1.17	93 条	東元町 3-18-5	個人住宅	工事立会	H29.4.19	基礎根切。GL-30cm まで掘削。盛土内施工。
178	H29.1.17	93 条	南町 2-9 ～ 2	ガス	工事立会	① H29.2.22 ② H29.2.24 ③ H29.2.27	①中央部分。道路を横断する工事。GL-80cm まで掘削。-30cm まで路盤、-70 cmまで褐色土地山、以下ローム。道路の北東側はロームが見えないので、原地形は北東に下がっている模様。②数 m ごとに確認したところ、-70cm・-90cm・-80cm 以下で褐色土地山となり、-80cm・なし・-110cm でロームになる。②数 m ごとに確認したところ、-30cm・-30cm・-30cm 以下で褐色土地山となり、-70cm・-60cm・-60cm でロームになる。
179	H29.1.18	緊急	西元町 2-11-42	ガス	※緊急工事	H29.1.18	GL-130cm まで掘削。-30cm まで路盤、-90cm まで掘山、以下地山。南面は地山が残るが、すぐ南に水道管がある。
180	H29.1.18	93 条	西元町 2-16-	ガス	慎重工事	—	—
181	H29.1.23	93 条	西元町 3-10-4(A 号棟)	分譲住宅	工事立会	H29.3.30	基礎根切。道路面より +50cm の盛土がある。盛土内施工。
182	H29.1.23	93 条	西元町 3-10-4(B 号棟)	分譲住宅	工事立会	H29.3.30	基礎根切。道路面より +50cm の盛土がある。盛土内施工。
183	H29.1.24	93 条	東元町 4-18-25	電気	工事立会	H29.3.7	アース工事。アースを差し込む工事のため、地中の様子は確認できず。
184	H29.1.24	93 条	本町 4-22 ～ 21	ガス	工事立会		写真提供。遺物・遺構なし。
185	H29.1.24	93 条	東元町 3-19-10	分譲住宅	工事立会	① H29.1.26 ② H29.4.4	①解体。設計 GL は北側のお鷹の道より +150cm。-30cm まで掘削。盛土内施工。その後地盤改良を実施。地盤調査の結果、盛土が厚いことが分かる。②基礎根切。-10cm まで掘削。盛土内施工。
186	H29.1.24	94 条	西元町 3-26-	工作物設置	工事立会	—	工事中止。
187	H29.1.27	93 条	東元町 3-19-5	電気	工事立会	—	写真提供。遺物・遺構なし。
188	H29.2.3	93 条	東元町 4-17-2	ガス	慎重工事	—	—
189	H29.2.10	93 条	南町 2-2-21	ガス	工事立会	H29.2.28	GL-120cm まで掘削。-30cm まで路盤、-60cm まで褐色土地山、以下ローム。宅地内は +30cm でローム多めの盛土。
190	H29.2.15	外	東恋ヶ窪 4-11-20	集合住宅	包蔵地外立会	H29.2.15	基礎根切。GL-40cm まで掘削。ほぼ黒色土、ロームやガラが混じる掘山。
191	H29.2.17	93 条	西元町 2-16-17	集合住宅	確認調査	—	MK Ⅳ -725 次調査。（平成 29 年度実施）
192	H29.2.20	93 条	東元町 4-14-4	個人住宅	工事立会	H29.3.6	根切立会。GL-10cm まで掘削。表土内施工。
193	H29.2.22	93 条	南町 1-11-10	ガス	慎重工事	—	—
194	H29.2.22	93 条	南町 2-11-11	ガス	慎重工事	—	—
195	H29.2.22	93 条	本町 4-18-7	ガス	慎重工事	—	—
196	H29.2.22	93 条	西恋ヶ窪 1-19-17	ガス	慎重工事	—	—
197	H29.2.23	93 条	西元町 3-15-2	ガス	慎重工事	—	—
198	H29.2.23	93 条	西恋ヶ窪 1-1-8	その他 (解体)	工事立会	H29.2.27	隣地境のブロック塀を外すと、道路面 +30cm まで表土。一部攪乱があるが、基礎（道路面より下）は地山の可能性あり。
199	H29.2.23	93 条	西恋ヶ窪 1-17-35	個人住宅	発掘調査	—	K2-99 次調査。（平成 29 年度実施）
200	H29.2.24	93 条	東恋ヶ窪 1-217	水道	慎重工事	—	—
201	H29.2.27	93 条	南町 1-7-34	排水溝	工事立会	H29.2.22	表土から -60 cmまで掘削。盛土・地山。遺構面には達していない。
202	H29.2.27	93 条	泉町 1-10 ～ 20	ガス	慎重工事	—	—

第 13 表　平成 28 年度　届出・通知および立会記録等一覧（10）

No.	日付	条	申請地	申請工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査次数・備考
203	H29.2.28	93 条	内藤 1-18-1	電気	慎重工事	—	—
204	H29.2.28	93 条	東元町 4-16-	電気	工事立会	H29.3.28	電柱新設。GL-120cm まで掘削。-30cm まで路盤、-70cm まで褐色土掘山、以下ローム。
205	H29.2.28	93 条	泉町 3-6 ～府中市武蔵台 2-20	ガス	工事立会	① H29.2.22 ② H29.2.24 ③ H29.3.8 ④ H29.3.9	①府中市境東隣。GL-150cm まで掘削。-50cm まで路盤、-100cm まで黒色土地山、-125cm まで褐色土地山、以下ローム。②①より東。-150cm まで掘削。-50cm まで路盤、-110cm まで黒色土地山、以下ローム混じり掘山。別の場所では -120cm で褐色土地山、-140cm でローム。③道路を横断。道路中央部で -210cm まで掘削。-80cm まで路盤、-110cm まで黒色土地山、-130cm まで褐色土地山、以下ローム。宅地･歩道境目で -120cm まで掘削。-80cm まで路盤、-100cm まで黒色土地山、以下褐色土地山。インフラの掘山が多く地山で確認できる部分での判断。④③の東側、東西方向。-120cm まで掘削。南面では 100cm まで盛土、以下褐色土地山、北面では 120cm まで黒色土地山。一部溝と思われる部分があり、覆土は暗茶褐色土、下にいくほどローム粒が増える、しまり弱い、粘性弱い、遺物なし、道路縁から 0.6 ～ 0.9m の範囲。東に進み駐車場看板前、南面では -210cm まで掘削。-50cm まで路盤、-80cm までローム（溝を掘った時のロームか）、-140cm まで黒色土地山､-160cm まで褐色土地山､以下ローム。溝の底部が出たところでは 150cm まで底は平らではなく、黒色土が多く、上に行くと褐色土。駐車場入口付近､北面 -170cm が溝の底､下に黒色土､ローム多めの土､上に褐色土が入っている。駐車場東角、南面は -130cm 以下が褐色土、北面は -150cm が溝の底、入っている土は同じ。
206	H29.2.28	93 条	泉町 3-1	ガス	工事立会	—	写真提供。遺物・遺構なし。
207	H29.3.7	93 条	東元町 3-21	分譲住宅	工事立会		排水接続部。GL-50 cmまで掘削。表土･盛土内施工。
208	H29.3.8	93 条	南町 1-9-25	ガス	工事立会	—	連絡がなく、写真もなかったため、注意。何か出てきたという報告はない。
209	H29.3.8	93 条	西元町 2-17	ガス	慎重工事	—	—
210	H29.3.8	93 条	南町 1-11-4	ガス	工事立会	—	写真提供依頼。
211	H29.3.14	93 条	西恋ヶ窪 3-17-4	ガス	慎重工事	—	—
212	H29.3.14	外	東恋ヶ窪 4-12-14	その他（解体）		H29.3.14	東側畑と同レベル、西側道路より +10cm。東側では GL-20cm でⅢｂ /c 層となる。西側では -30cm でローム。北西隅には浄化槽があったため､深く掘削。中央部を掘った際にかなり黒い土があり、遺構の覆土の可能性も考えられる。
213	H29.3.17	93 条	内藤 1-16 ～ 18	ガス	慎重工事	—	—
214	H29.3.24	93 条	東元町 4-1865-3	個人住宅	工事立会	H29.5.29	基礎根切。GL-30cm まで掘削。-10cm まで砕石、以下は耕作土。
215	H29.3.27	93 条	本町 4-20 ～ 12	ガス	慎重工事	H29.7.6	本町 4-20-10 前､T 字路中央部。GL-120cm まで掘削。-30cm まで路盤、砂、以下黒色土ローム混じり掘山。南面は掘山。
216	H29.3.27	94 条	西元町 3-10-4 先	その他開発（電話）	慎重工事	—	—
217	H29.3.31	93 条	内藤 1-18-1	分譲住宅	工事立会	H29.6.7	GL-30cm（深基礎）でⅢｂ層、-20cm（通常の基礎）では盛土内施工。

第 14 表　平成 26 年度の届出に対する立会記録

No.	日付	条	申請地	申請工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査次数・備考
218	平成 26 年度年報 No. 161	93 条	東恋ヶ窪 1-280 地内			① H29.4.7 ② H29.4.18 ③ H29.4.27 ④ H29.4.28	①GL-350 cmまで掘削。-30cmまで路盤。掘山内施工。②-110 cmまで掘削。-10cmまでアスファルト、以下ガラ。掘山内施工。③-110cm まで掘削。-30cm まで路盤、以下ガラ。掘山内施工。④-110cm まで掘削。-30cm まで路盤、以下ガラ。掘山内施工。

第５図　No.１　立会状況

第６図　No.29　立会・溝検出状況

第７図　No.32　立会状況

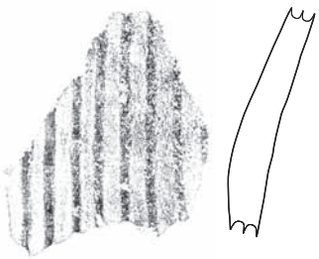
第８図　No.67　立会状況

第９図　No.126　立会状況

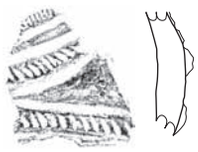
第 10 図　No.179　立会状況

第 11 図　No.181　立会状況

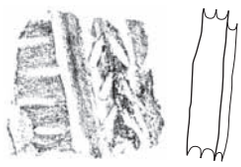
第 12 図　No.214　立会状況



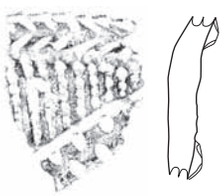
1
JE01
28-335 6



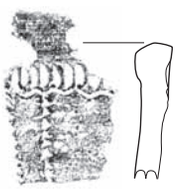
2
JE02
28-335 19



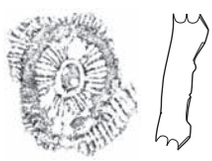
3
JE03
28-335 9



4
JE04
28-335 8

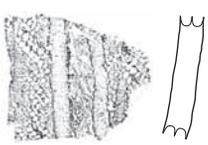


5
JE05
28-335 4



6
JE06
28-335 14

7
JF01
28-335 10



8
JF02
28-335 12

9
JF03
28-335 11

10
JF04
28-335 18

11
JJ01
28-335 32

12
JJ02
28-335 15

13
JJ03
28-335 27

0 〔S=1/3〕 10cm
(JE. JF. JJ)

第 13 図　平成 28 年度　届出・通知および立会記録№.67 で出土した遺物実測図

1
JE01
28-335 6

2
JE02
28-335 19

3
JE03
28-335 9

4
JE04
28-335 8

5
JE05
28-335 4

6
JE06
28-335 14

7
JF01
28-335 10

8
JF02
28-335 12

9
JF03
28-335 11

10
JF04
28-335 18

11
JJ01
28-335 32

12
JJ02
28-335 15

13
JJ03
28-335 27

0 〔S=1/3〕 10cm
(JE. JF. JJ)

第 14 図　平成 28 年度　届出・通知および立会記録№.67 で出土した遺物写真

第 15 表　平成 28 年度　届出・通知および立会記録№.67　遺物観察表

№.67			縄文時代　土　器							
番号 遺物番号	時期 型式	器種 部位	調整	文様	縄文	外面色調	内面色調	焼成	胎土	備考
1 JE01	中期前半 勝坂 3 式	深鉢 胴部	内面横位ナデ	幅広く浅いナデ状の縦位沈線。	―	赤褐 5YR4/6	にぶい褐 7.5YR5/3	良	長石、石英、雲母、橙粒、小礫	胎土に雲母を多く含む。内面にスス付着。
2 JE02	中期前半 勝坂 3 式	深鉢 胴部	内面横位ナデ	弧状・横位の隆帯。隆帯上連続刺突。弧状の隆帯脇・内側に沈線施文。	―	黒褐 10YR3/2	灰黄褐 10YR4/2	良	長石、石英、角閃石、小礫	胎土に角閃石を多く含む。
3 JE03	中期前半 勝坂 3 式	深鉢 胴部	内面ナデ	縦位の隆帯。隆帯断面形状三角形で矢羽根状刺突施文。隆帯左脇 2 条の縦位単沈線。横位の短沈線を交互に施文。	―	黒褐 10YR3/2	褐灰 10YR4/1	良	長石、橙粒、小礫	―
4 JE04	中期前半 勝坂 3 式	深鉢 胴部	内面ナデ	隆帯による区画。隆帯上交互刺突・矢羽根状刺突施文。隆帯内縦位の押引文。	―	灰黄褐 10YR4/2 ～ にぶい黄褐 10YR5/3	褐灰 10YR4/1	良	長石、石英、角閃石、小礫	胎土に角閃石を多く含む。
5 JE05	中期前半 勝坂 2 式	深鉢 口縁部	口唇部横位ナデ。内面横位ナデ	口縁部に沿う幅広角押文状の連続刺突と波状沈線。縦位 2 条の三角形の連続刺突。	―	灰黄褐 10YR4/2	褐 7.5YR4/4	良	長石、角閃石、小礫	―
6 JE06	中期前半 勝坂 2 式	深鉢 胴部	内面ナデ	環状の隆帯。隆帯脇幅広角押文施文。	―	褐 7.5YR4/3 ～黒褐 10YR2/2	黒 10YR2/1	良	長石、石英、小礫	―
7 JF01	中期後半 加曽利 E3 式	深鉢 胴部	内面横位ナデ後横位ミガキ	縄文施文。幅広く浅いナデ状の横位沈線・弧状の沈線。右側の弧状の沈線は副文様か。	縄文 RL 横位（上部）・縦位（下部）	褐 7.5YR4/3	にぶい褐 7.5YR5/4	良	長石、石英、角閃石、小礫	―
8 JF02	中期後半 加曽利 E3 ～ 4 式	深鉢 胴部	内面横位ナデ	幅広く浅いナデ状の縦位沈線。縄文施文。	縄文 LR 縦位	赤褐 5YR4/6	にぶい黄褐 10YR5/4	良	長石、石英、角閃石、橙粒、小礫	―
9 JF03	中期後半 曽利 E Ⅰ 式	深鉢 胴部	内面横位ナデ	撚糸文施文。横位の隆帯貼付。	撚糸文 L 縦位	褐 7.5YR4/3	灰黄褐 10YR4/2	良	長石、石英、橙粒、小礫	―
10 JF04	中期後半 加曽利 E3 式	深鉢 胴部	内面ナデ後横位ミガキ	隆帯による区画。区画内縄文施文。隆帯脇に幅広く浅いナデ状の沈線。	縄文 RL 縦位	褐 7.5YR4/3	黒褐 10YR3/2	良	長石、角閃石、橙粒、小礫	―
11 JJ01	中期 不明	深鉢 胴部	内面横位ナデ	縄文施文。	縄文 RL 横位	にぶい赤褐 5YR4/4	褐 7.5YR4/4	良	長石、雲母、橙粒	胎土に雲母を多く含む。勝坂式か。
12 JJ02	中期 不明	深鉢 胴部	内面ナデ	縄文施文。	縄文 R 縦位	黒褐 10YR3/2	橙 5YR6/6 ～黒褐 2.5Y3/2	良	長石、小礫、礫	―
13 JJ03	中期 不明	深鉢 胴部	内面ナデ	縦位の条線。	―	にぶい赤褐 2.5YR4/4	暗赤褐 5YR3/4	良	長石、石英、小礫	―

第２章　平成 28 年度に実施した発掘調査

第１節　遺跡の概要

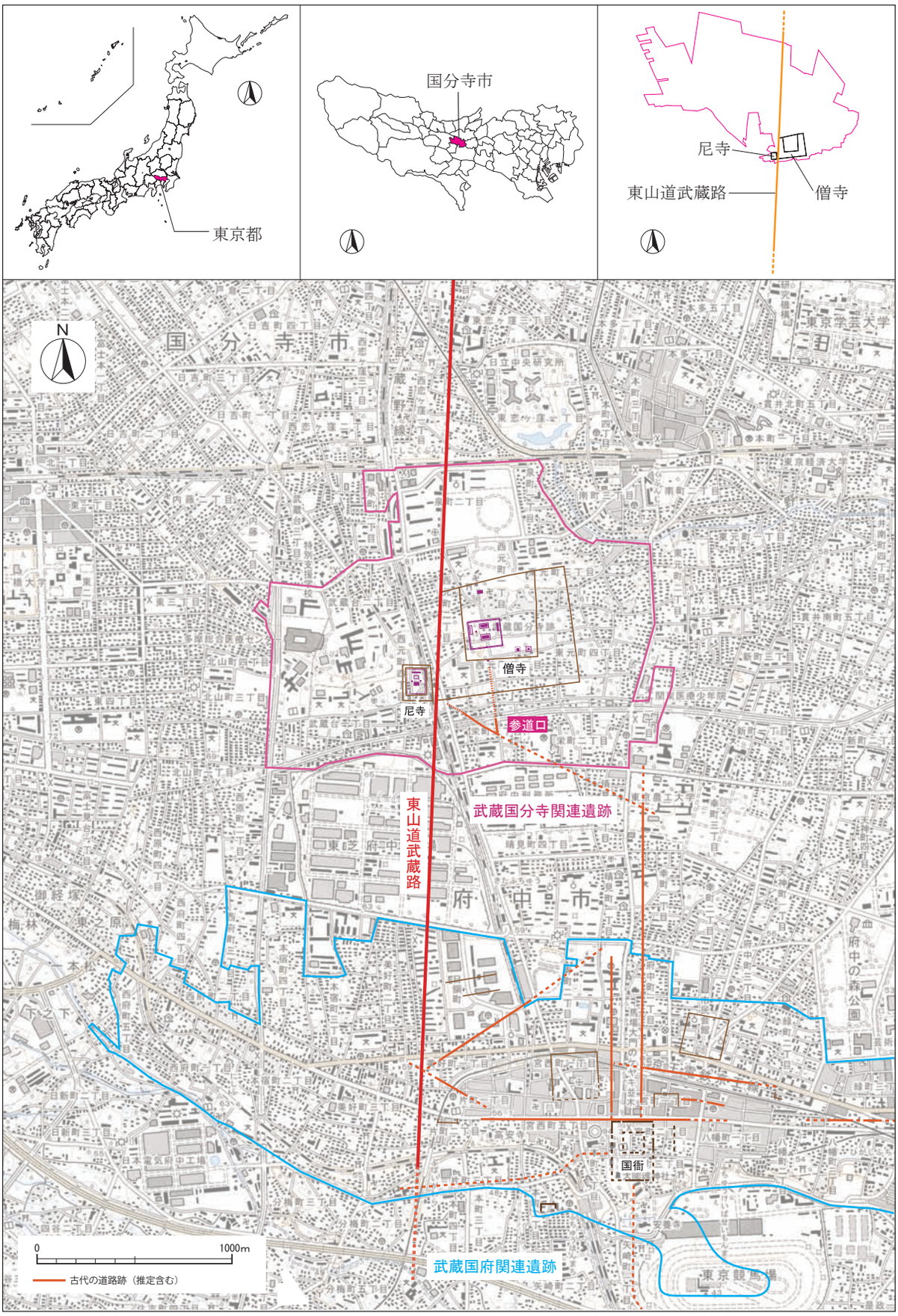
平成 28 年度に実施した個人住宅建設に伴う発掘調査および個人住宅・民間開発事業等に伴う確認調査は、武蔵国分寺跡（№.10・19 遺跡）５地区、恋ヶ窪遺跡（№.２遺跡）１地区、多摩蘭坂遺跡（№.７）１地区、本町（国分寺村石器時代）遺跡（№.28）１地区、№.29 遺跡１地区、№.41 遺跡１地区の計 10 地区である（付録除く）。調査を実施した各遺跡の概要は次の通りである。

武蔵国分寺跡（№.10・19 遺跡）

武蔵国分寺は、天平 13 年（741）に聖武天皇により発布された国分寺建立の詔で、全国 60 余国に設置された国分寺の一つである。古代の官道である東山道武蔵路を挟んで東に僧寺、西に尼寺が配置され、遺跡の範囲は東西約 1.5km、南北は国分寺崖線を挟んで約１km に及ぶ。遺跡は現在の西元町１～４丁目、東元町３・４丁目、泉町１・２丁目、西恋ヶ窪１丁目に所在する。

僧寺は「寺院地」・「伽藍地」・「中枢部」の三重に、尼寺は「伽藍地」・「中枢部」の二重に区画され、その周囲の寺院に関連する遺跡を含めて「寺地」と称している。前者が№.10 遺跡、後者が№.19 遺跡に該当し、寺院跡のほか、東山道武蔵路、推定鎌倉街道などの道路跡が確認されている。

第 15 図　武蔵国分寺跡伽藍配置模式図



第 16 図　武蔵国分寺跡の位置

恋ヶ窪遺跡（№.２遺跡）

恋ヶ窪遺跡は、西恋ヶ窪１丁目、東恋ヶ窪１・３丁目に所在する。野川の源泉を見下ろす武蔵野台地上に立地する縄文時代中期を中心とした集落跡で、北側を除く三方向を野川の開析谷に囲まれた舌状台地南西縁に広がっている。野川流域の代表的な大規模集落として知られており、これまでに約 160 軒の住居跡が確認されている。恋ヶ窪遺跡の中央やや西側の位置には、遺跡内を南北方向に縦走する東山道武蔵路（№.58）があり、恋ヶ窪遺跡の東側には羽根沢遺跡（№.５）、さらに東には恋ヶ窪東遺跡（№.57）がある。恋ヶ窪谷を挟んだ南側の台地には、恋ヶ窪南遺跡（№.３）、日影山遺跡（№.９）、そして武蔵国分寺跡（№.10・19）の各遺跡がある。

多摩蘭坂遺跡（№.７遺跡）

多摩蘭坂遺跡は、内藤一・二丁目周辺に所在する旧石器時代、・縄文時代、奈良・平安時代の集落遺跡である。国分寺崖線に東南部から入るノッチ（凹部）状の小谷を取り囲むように武蔵野段丘面沿いに広がっており、特に旧石器時代においては、約３万 5000 年前にさかのぼる市内最古の遺跡である。石器はナイフ形石器、打製石斧、槍先形尖頭器などが多く出土している。

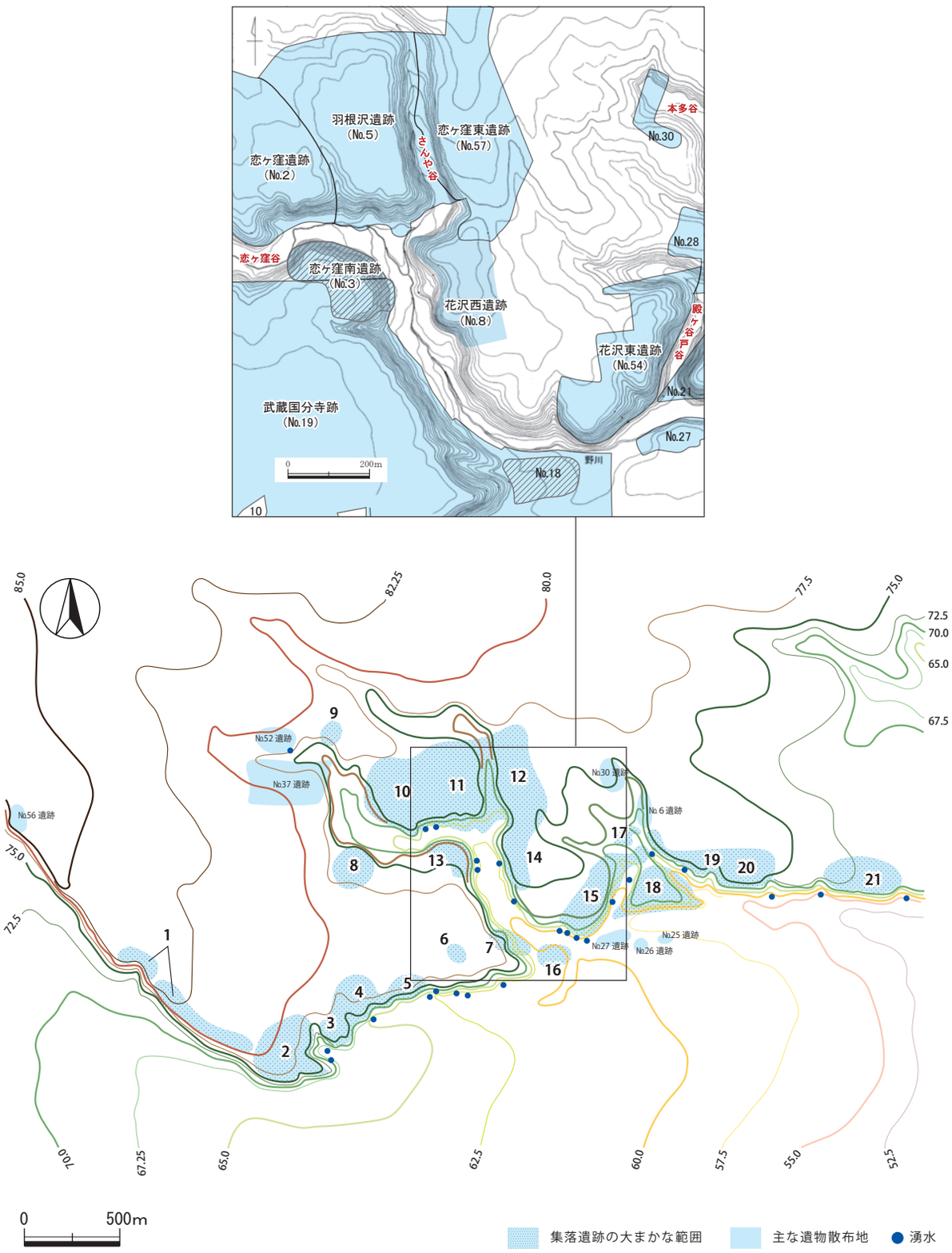
本町（国分寺村石器時代）遺跡（№.28 遺跡）

遺跡の名称は、大野延太郎と鳥居龍蔵が明治 27 年（1894）に『東京人類学会雑誌』に「武蔵国北多摩郡国分寺村石器時代遺跡」として論文を４号にわたって発表したことによる。この論文では、現在も考古学用語として用いられている「遺物包含層」の概念が規定されたこともあり、考古学研究史の中でも著名な遺跡である。

遺跡は、本町二丁目・南町二丁目周辺に所在し、地理的には開析谷である本多谷と殿ヶ谷戸谷によって区画された武蔵野台地上に立地する。旧石器時代・縄文時代・古代の集落遺跡として周知されているが、主な時代は縄文時代中期で、これまでに 20 軒を超える住居跡が検出されている。

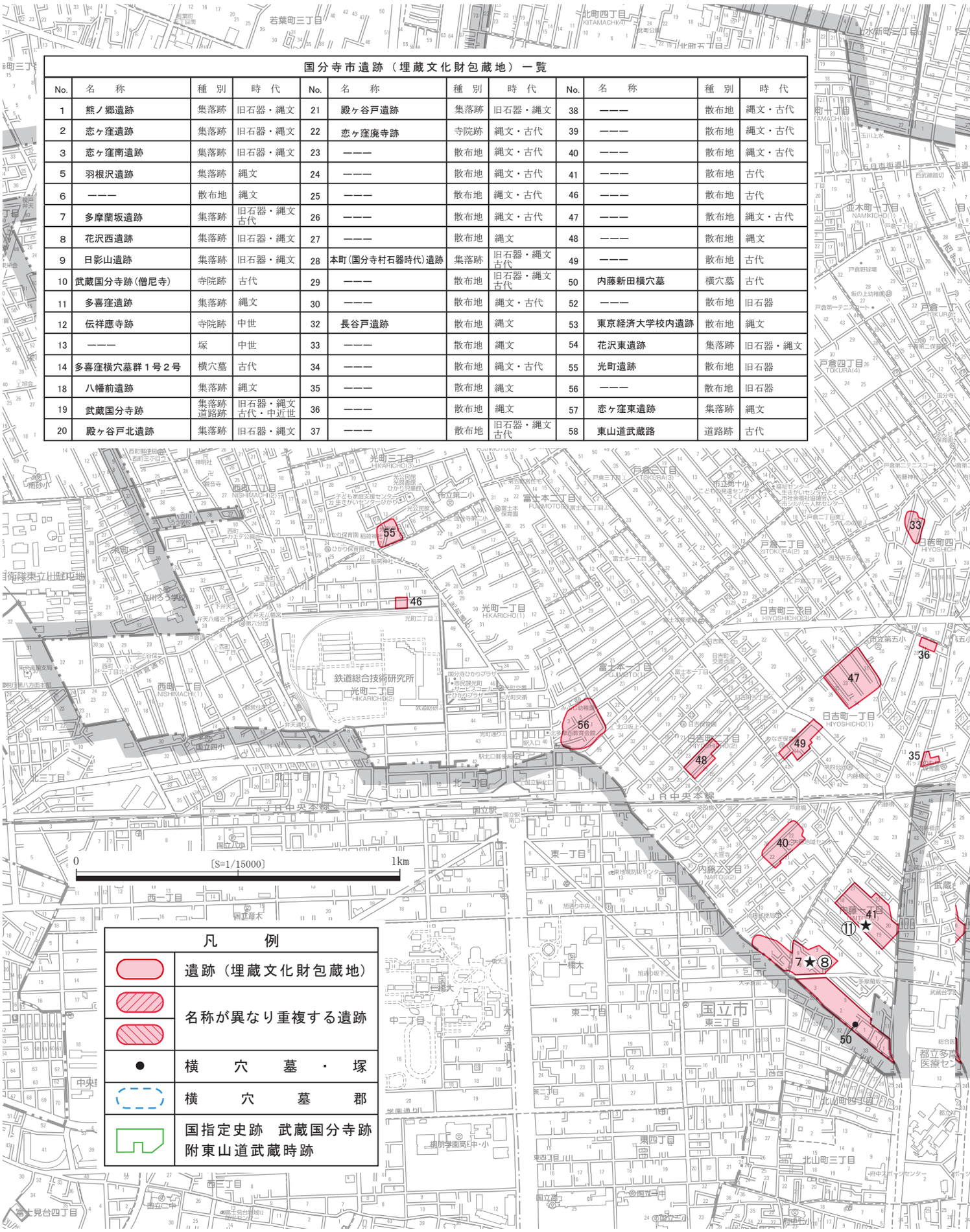
№.41 遺跡

遺跡は、内藤一丁目に所在する奈良・平安時代の散布地である。国分寺崖線沿いに展開する多摩蘭坂遺跡からやや北に離れた場所に位置し、東側は武蔵台遺跡（府中市）が展開する。



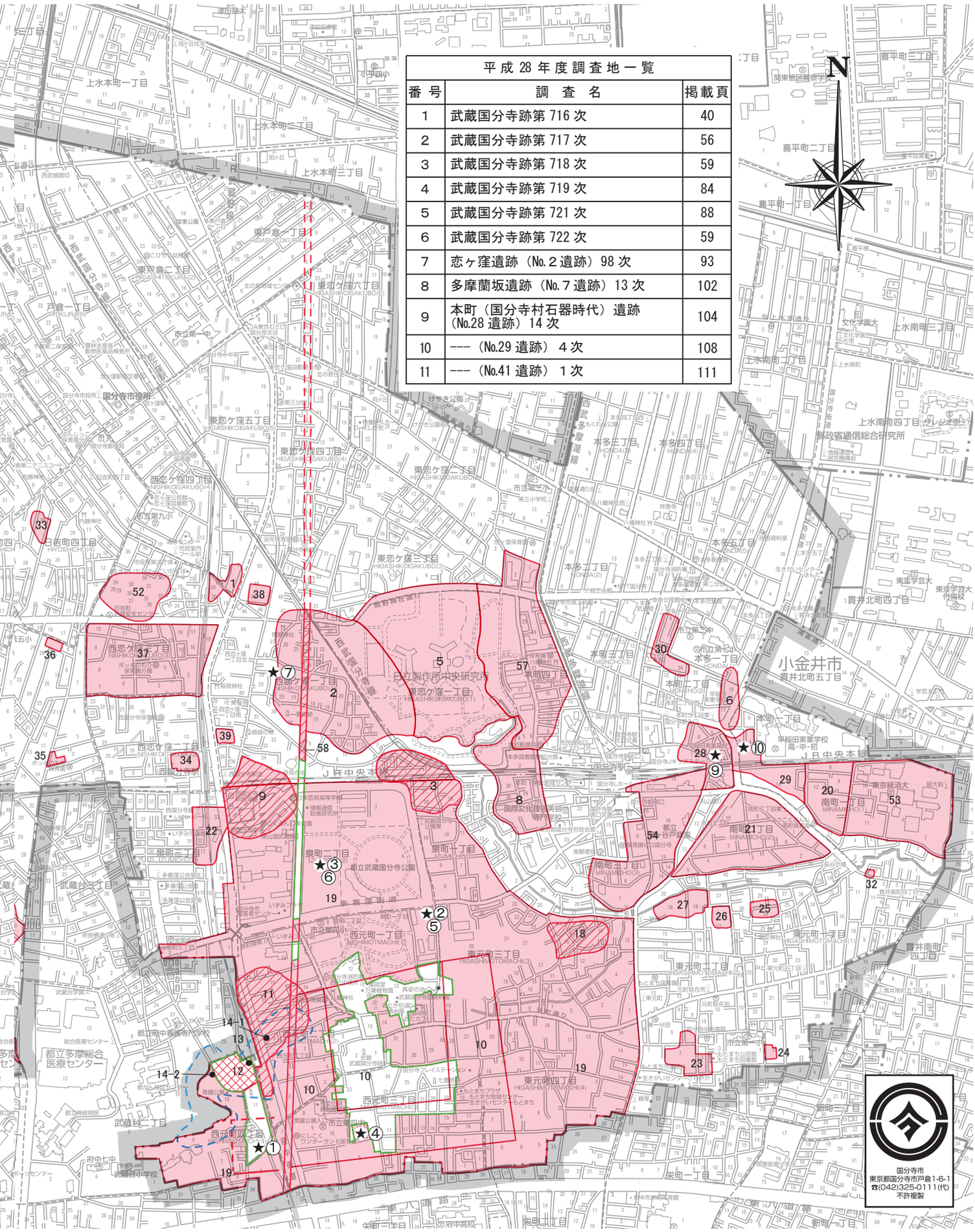
1. 多摩蘭坂遺跡（国分寺市No.７遺跡）
2. 武蔵台遺跡
3. 府中市武蔵台東遺跡
4. 多喜窪遺跡（国分寺市No.11 遺跡）A 地点
5. 多喜窪遺跡 B 地点
6. 多喜窪遺跡 C 地点
7. 多喜窪遺跡 D 地点
8. 日影山遺跡（国分寺市No.９遺跡）
9. 熊ノ郷遺跡（国分寺市No.１遺跡）
10. 恋ケ窪遺跡（国分寺市No.２遺跡）
11. 羽根沢遺跡（国分寺市No.５遺跡）
12. 恋ケ窪東遺跡（国分寺市No.57 遺跡）
13. 恋ケ窪南遺跡（国分寺市No.３遺跡）
14. 花沢西遺跡（国分寺市No.８遺跡）
15. 花沢東遺跡（国分寺市No.54 遺跡）
16. 八幡前遺跡（国分寺市No.18 遺跡）
17. 本町（国分寺村石器時代）遺跡（国分寺市No.28 遺跡）
18. 殿ケ谷戸遺跡（国分寺市No.21 遺跡）
19. 殿ケ谷戸北遺跡（国分寺市No.20 遺跡）
20. 東京経済大学構内遺跡（国分寺市No.53 遺跡）
21. 小金井市貫井遺跡

第 17 図　野川上流域の主な旧石器・縄文時代集落遺跡



◎この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図2500（空間データ基盤）を使用したものである。（承認番号 平24情使、第348－514号）

第 18 図　調査地点位置図

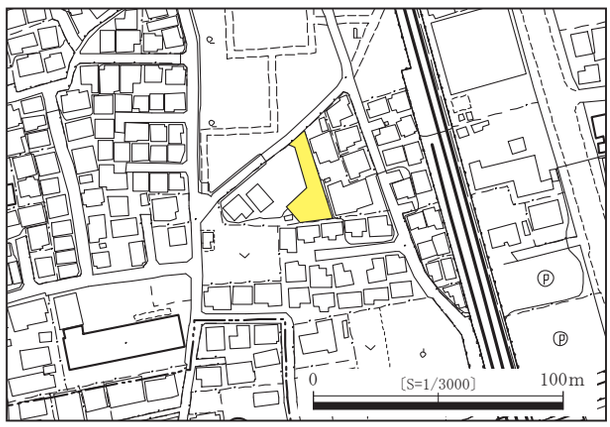


平成 28 年度調査地一覧		
番号	調査名	掲載頁
1	武蔵国分寺跡第 716 次	40
2	武蔵国分寺跡第 717 次	56
3	武蔵国分寺跡第 718 次	59
4	武蔵国分寺跡第 719 次	84
5	武蔵国分寺跡第 721 次	88
6	武蔵国分寺跡第 722 次	59
7	恋ヶ窪遺跡（No.２遺跡）98 次	93
8	多摩蘭坂遺跡（No.７遺跡）13 次	102
9	本町（国分寺村石器時代）遺跡（No.28 遺跡）14 次	104
10	---（No.29 遺跡）４次	108
11	---（No.41 遺跡）１次	111

第２節　調査の概要

（１）武蔵国分寺跡第 716 次調査

所 在 地	西元町四丁目 13804-14		
調査原因	分譲住宅建設	調査種別	確認調査
調査費用	国庫補助等	調査体制	委託
調査期間	平成 28 年６月７日～６月 23 日		
調査面積	18.18 ㎡	遺物箱数	３箱
検出遺構	SA19-2・SA19-3、SD44・SD436A・SD436B		
主な遺物	須恵器・瓦・塼		



第 19 図　ＭＫⅢ－ 716　調査地位置図

【１．調査の目的と経緯】 本調査は、平成 28 年５月 26 日付国教教ふ収第 205 号文化財保護法（以下、法と称する）第 93 条第１項届出に基づき、国分寺市教育委員会（以下、市教委と称する）が国分寺市遺跡調査会（以下、調査会と称する）に委託して行ったものである。

調査区は、国分寺市西元町四丁目 13804-14 に所在し、武蔵国分寺跡（遺跡№.10・19）に該当する。当該地は、国指定史跡武蔵国分寺跡の尼寺中枢部付近にあたり、西隣の敷地で行った調査（武蔵国分寺跡第 675 次調査（市教委『平成 23 年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』2013 年 所収、以下『年報』））では、尼寺の掘立柱塀（SA19）と区画溝（SD44）が検出されている。このため、本工事で予定されている下水道工事によってこれらの遺構の一部が破壊される可能性があり、より詳しく埋蔵文化財の内容・性格等を把握するために、部分的な確認調査を行った。調査面積は 18.18 ㎡である。現地調査は平成 28 年６月７日から同年６月 23 日（実働 13 日）まで実施した。

【２．検出された遺構と出土遺物】 調査区内は、地表より約 25 ～ 40 ㎝の深さまで、表土（耕作土含む）に覆われており、その下層から奈良・平安時代の遺構確認面である基本層序Ⅲｂ層が検出された。Ⅲｂ層は上方が大きく撹乱されており、下方が薄く残っている状況であったが、同レベルで遺構確認を行ったところ、トレンチの北端で柱穴２基（SA19-2・3）、中央から南端にかけて溝３条（SD44・436A・436B）が検出された。

SA19-2 掘立柱塀柱穴（第 23 図）

尼寺の中枢部を区画する南辺の掘立柱塀で、中門より東へ取りつく２本目の柱穴と考えられる。遺構の北側約半分と中央部は撹乱を受けており、全体の規模は不明だが、撹乱を掘り上げた南壁断面で確認された規模は東西幅約 1.0 ｍ、深さは確認面から約 0.9 ｍである。掘方は下端に向かって僅かに内傾する逆台形を呈する。埋土は底部にロームブロック層があり、それより上層は黒褐色土を基本とした土が順次 10 ～ 15 ㎝毎の厚さでほぼ水平に埋められている状況であった。また柱穴には柱抜き取り穴の痕跡が見受けられたが、本工事の掘削深度に達しないため、断ち割りは行わず表面観察に留めた。時期は１

期のみと想定され、柱の抜き取り後人為的に埋め戻されたと考えられる。遺物は抜き取り穴の埋土上面から須恵器蓋（番号１、以下「番号」）が出土した。

SA19-3 掘立柱塀柱穴（第 24 図）

SA19-2 の東隣に位置する柱穴で、19-2 ～ 19-3 の柱間の距離は推定で約 2.4 ｍと想定される。規模・形状は南北方向が長辺で約 1.4 ｍ、東西が約 1.0 ｍの隅丸長方形を呈し、確認面からの深さは約 1.0 ｍである。本遺構は工事によって遺構の一部が破壊されるため、遺構の一部を断ち割って建て替えの有無等を確認した。掘方は、2 と同様にほぼ垂直に立ち上がる逆台形で、埋土は底部にロームブロック層、その上層は黒色土、黒褐色土、ロームブロック主体土が互層のように充填されていた。掘方底部には柱を据えた際に残る圧痕である所謂「あたり」が認められた。また、柱穴中央には、平面形態が径約 0.8 ｍの不整形な円形状の柱抜き取り穴があったが、柱痕跡は確認できなかった。これらのことから、柱は１度建てられたのちに抜き取られ、その後建て替えを行わずに人為的に埋められたものと想定される。

伽藍を区画する東辺の掘立柱塀の柱穴も１時期のみが確認されているが、一方で武蔵国分寺跡第 383 次調査で確認された中門の西側に取り付く掘立柱塀（第 21 図参照）では、１度の建て替えによる２時期が確認されている。今回の調査では遺構を完掘していないため、現状での判断になるが、中門の西側と東側で柱の建て替え回数が異なる可能性があり、今後も検証を重ねる必要がある。

なお、遺物は柱抜き取り穴の埋土から礫や瓦片（８・９）が出土している。

SD44 溝（第 25・26 図）

掘立柱塀から約 6 ～ 7 ｍ離れて外周し、塀とともに尼寺を区画する機能をもつ溝と考えられる。溝の規模は上端幅約 1.7 ｍ、下端約 0.9 ｍ、深さは確認面から約 0.8 ｍである。断面形態は上端から下端にかけて 20 ～ 30 度の角度で内傾する逆台形を呈し、SD436 と比べると壁面・底面ともに丁寧に掘られている。覆土は、底部にロームブロックを主体とする整地土があり、その直上は早い段階に埋まった暗褐色土が堆積しているが、中層～上層の暗褐色土・黒褐色土は自然堆積と考えられる。遺物は、覆土から瓦片が出土している。

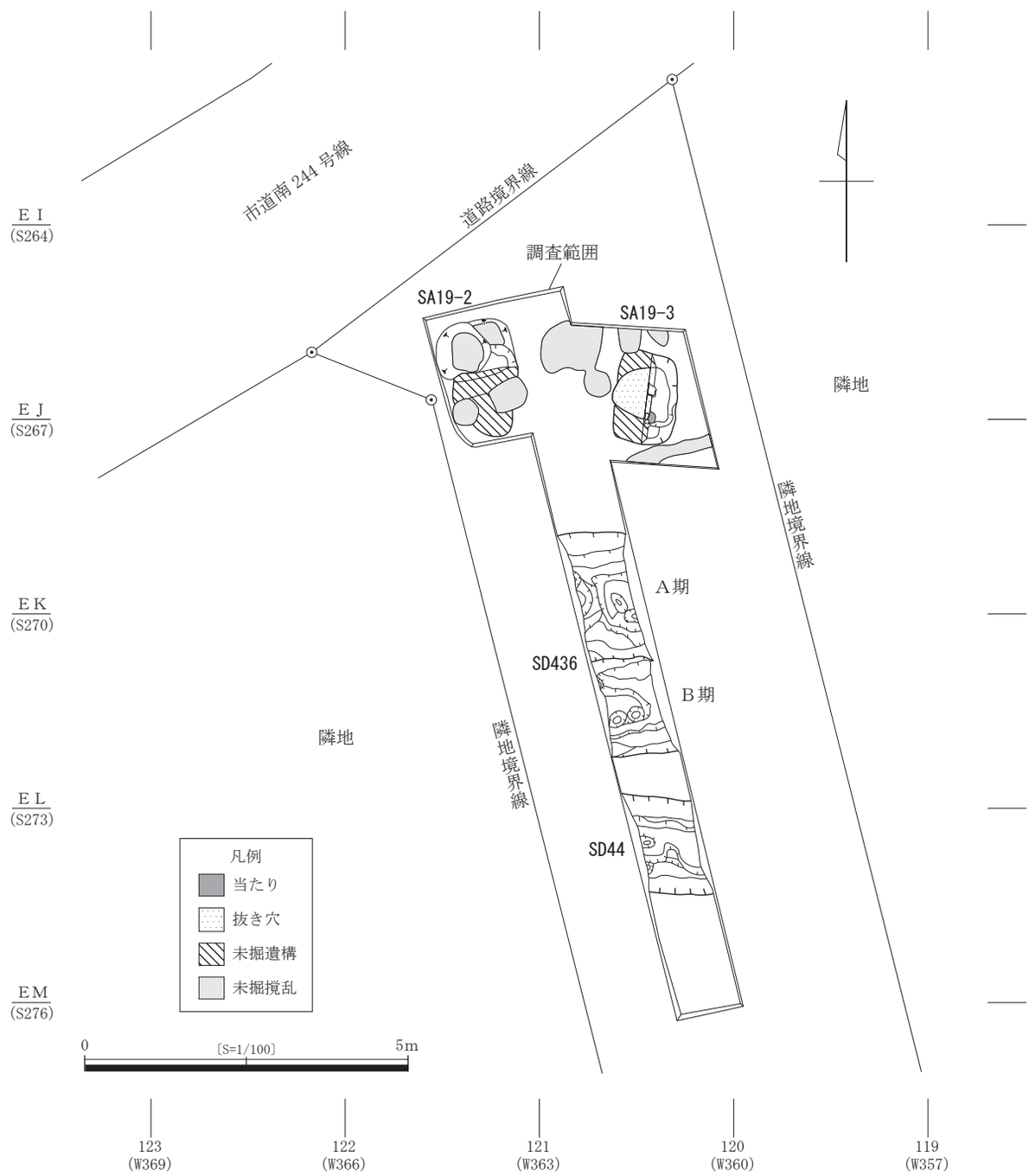
SD436 溝（第 25・26 図）

尼寺の掘立柱塀に並行して掘られた溝で、塀から約２～３ｍ外側に位置する。溝は新旧２時期あり、内側の溝が古く（Ａ期）外側の溝（Ｂ期）が新しく構築されている。

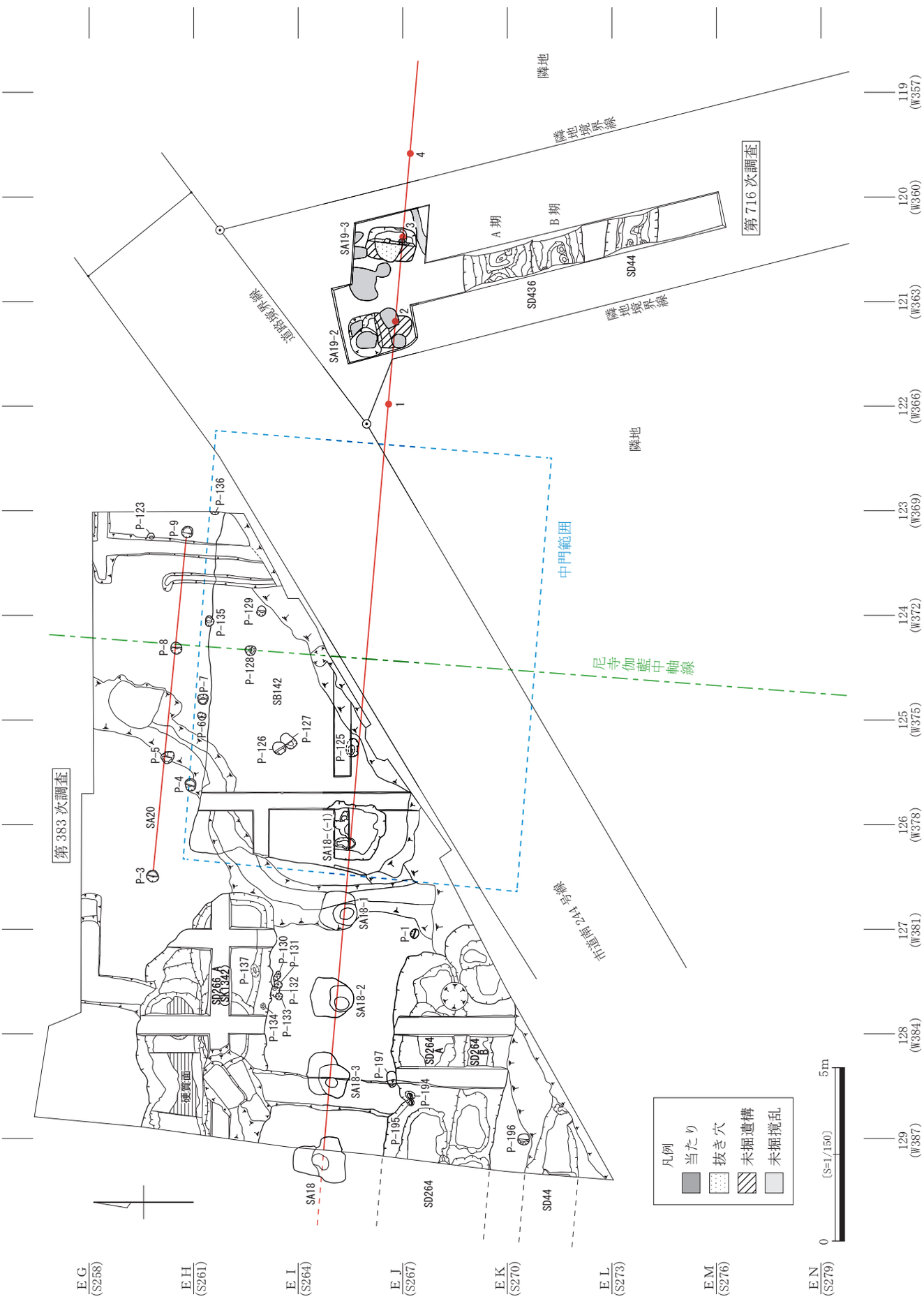
Ａ期の溝は、重複して構築されたＢ期の溝によって一部が破壊されているため、正確な規模は不明であるが、遺存している範囲では上端で幅 2 ｍ以上、確認面からの深さは約 1.2 ｍである。断面形状は、底部から上端にかけて 40 ～ 50 度ほどの角度で緩やかに立ち上がる逆三角形で、掘方は全体にやや粗く掘られている。底部は、土坑が連結した形態で、底部には締まりのあるロームブロック主体土が堆積していた。溝の覆土は、ロームブロック主体土・黒褐色土・灰黄褐色土・褐色土からなり、一部に白色粘土を含んでいる。堆積状況は自然ではなく短い期間で人為的に埋められたものと看取され、埋め方は北側から先に埋められている状況である。遺物は、覆土より約 30 点ほどの瓦片が出土しており、特に中層から多く出土した。図化したのは、武蔵国分寺再建期の鐙瓦（３）である。

Ｂ期の溝は、Ａ期の溝の一部を壊して構築されており、規模は上端で幅約 1.7 ｍ、確認面からの深さ約 1.2 ｍである。断面形態は上端から中段までは垂直に近い角度で掘り込まれ、底部は湾曲して窪み、拳大の凹凸が多く見られる。覆土は、底部にロームブロックを主体とする整地もしくは掘り残し土があったが、それより上層の土は比較的長い時間をかけて自然に堆積した土と考えられる。これまでの尼寺周辺の調査成果からは、SD436 は建物等を構築する際に必要な土を取るために掘った溝と想定されていたが、Ｂ期覆土の堆積状況からは長期にわたって溝が開口していたたことが想定される。

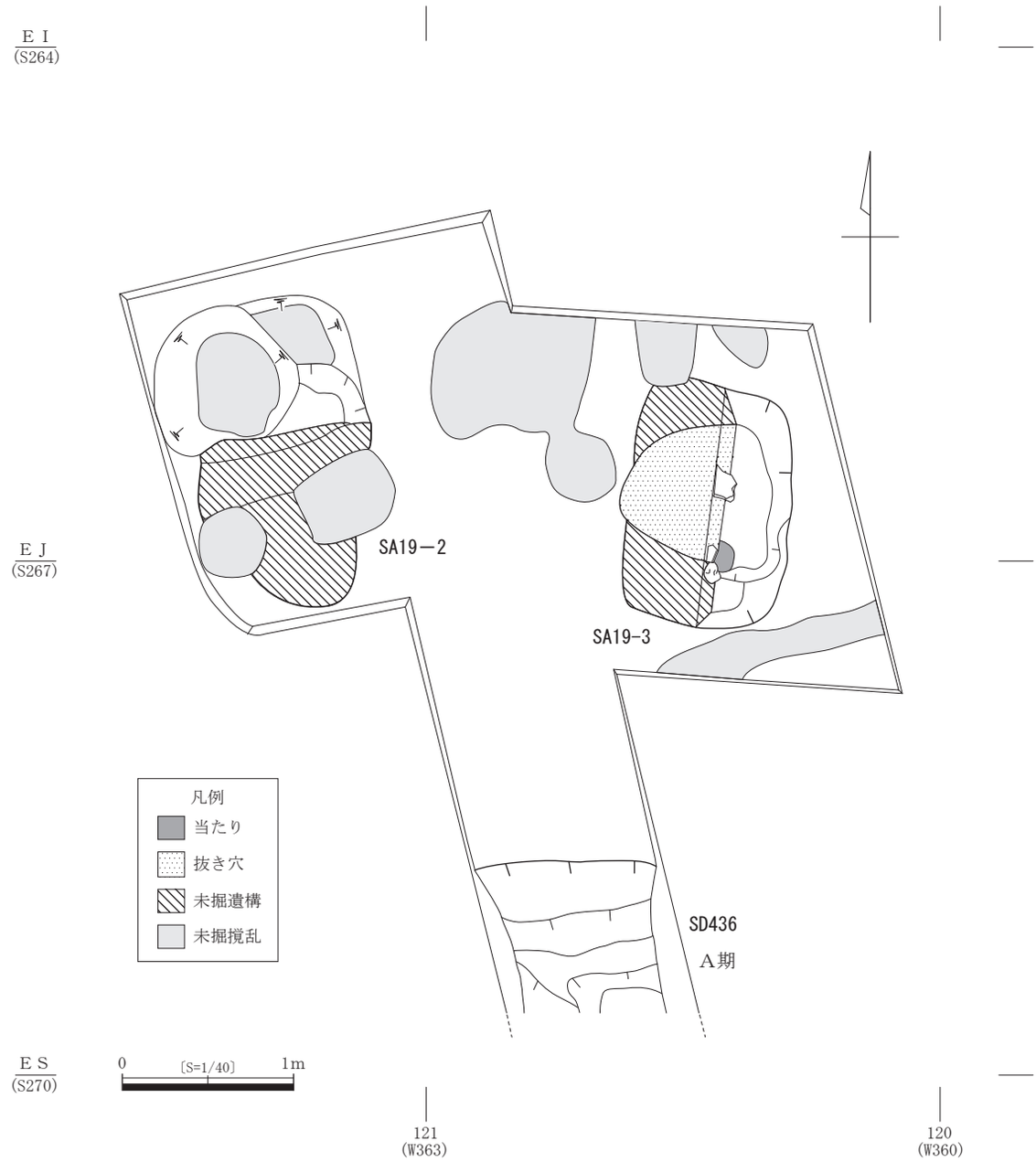
遺物は、覆土の上層がやや多く、須恵器坏（２）や瓦片（４～６・10）が出土している。



第 20 図　ＭＫⅢ－ 716　調査区全体図

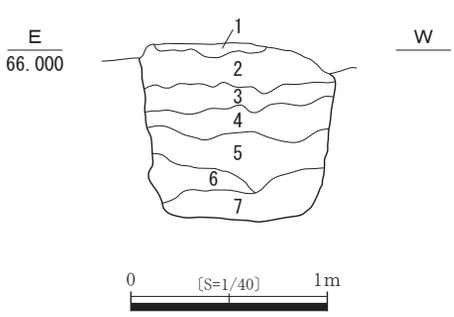


第 21 図　ＭＫⅢ－ 716・383 調査区



第 22 図　ＭＫⅢ－ 716　SA19　平面図

SA19-2　土層断面図（東西）



1．10YR3/1　黒褐色土　粘性なし、しまりややあり。
ローム粒微量、1～5㎝のロームブロック少量含む。

2．10YR3/3　暗褐色土　粘性なし、しまりややあり。
ローム粒・2㎜～7㎝のロームブロック多量、
赤色スコリア微量含む。

3．10YR3/1　黒褐色土　粘性ややあり、しまりややあり。
ローム粒・2㎜～6㎝のロームブロック（6点）
少量含む。瓦を包含する。

4．10YR2/1　黒色土　粘性なし、しまりややあり。
部分的にしまりあり。ローム粒極微量、1㎝大の
ロームブロック微量（3点）含む。

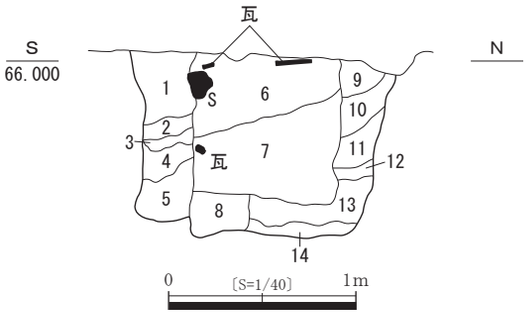
5．10YR4/2　灰黄褐色土　粘性ややあり、しまりややあり。
西側から中央付近にかけてローム粒2㎜～7㎝の
ロームブロック少量含む。

6．10YR2/1　黒色土　粘性なし、しまりややあり。ローム粒極微量含む。

7．ロームブロック主体土　粘性ややあり、しまりあり。
2㎜～10㎝のロームブロックを主体とする。
部分的に灰黄褐色土を少量含む。

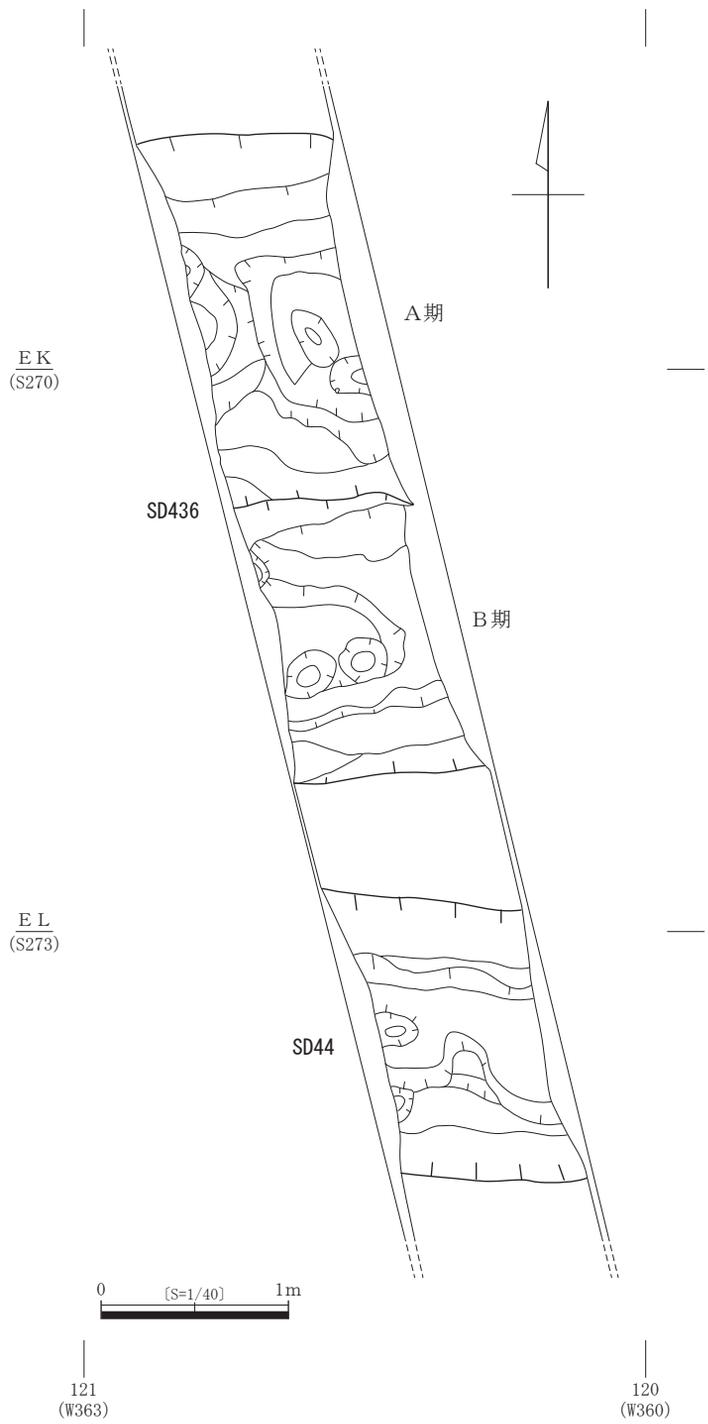
第 23 図　SA19-2　土層断面図

SA19-3　土層断面図（南北）



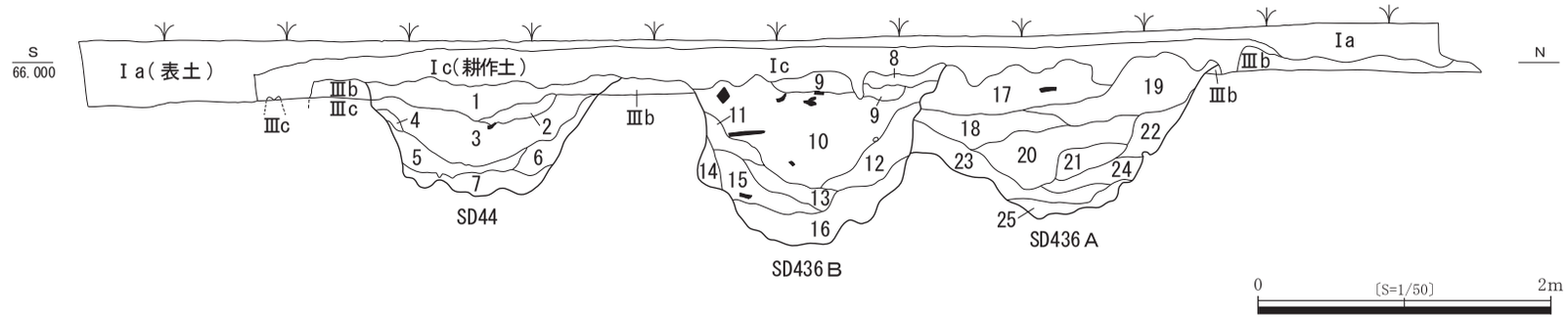
1．10YR2/1　黒色土
粘性ややあり、しまりややあり。
ローム粒・２㎜～５㎝のロームブロックやや多量、
オレンジスコリア微量含む。
2．ローム粒主体土
粘性ややあり、しまりややあり。
ローム粒を主体とする。２～３㎝のロームブロック、
にぶい黄褐色土を部分的に少量含む。
3．10YR2/2　黒褐色土
粘性なし、しまりややあり。
ローム粒・２㎜～３㎝のロームブロックやや多量、
赤色スコリア微量含む。
4．ローム粒主体土
粘性なし、しまりややあり。
部分的に３層土、２㎝大のロームブロックを少量、
オレンジスコリア微量含む。
5．ロームブロック主体土
粘性ややあり、しまりあり。
２㎜～ 12 ㎝のロームブロックを主体とし、ローム粒も多量含む。
6．10YR4/3　にぶい黄褐色土
粘性なし、しまりややあり。
ローム粒・２㎝～５㎝のロームブロック少量、赤色スコリア、
オレンジスコリア、黒色スコリア微量。
白色粘土微量、黒色土をしみ状に少量含む。瓦・礫を上層に
包含する。
7．10YR4/2　灰黄褐色土
粘性なし、しまりややあり。
ローム粒・２㎜～８㎝のロームブロック少量、赤色スコリア、
オレンジスコリア、黒色スコリア微量。
白色粘土極微量含む。中層に瓦を包含する。
8．10YR3/3　暗褐色土
粘性なし、しまりなし。
ローム粒少量、白色粘土微量含む。ボソボソして、13 層土が
崩れ混入した土。底部のアタリの上に２～
３㎜のしまった黒色土あり。
9．10YR2/1　黒色土
粘性ややあり、しまりややあり。
ローム粒・２㎜～５㎝のロームブロックやや多量、
オレンジスコリア微量。１層土に似る。
10. ローム粒主体土
粘性ややあり、しまりややあり。
ローム粒を主体とする。２㎝大のロームブロックを少量含む。
11. 10YR2/1　黒色土
粘性なし、しまりややあり。
ローム粒・２㎜～３㎝のロームブロックやや多量、
赤色スコリア微量含む。
12. ローム粒主体土
粘性ややあり、しまりなし。
ローム粒を主体とし２～３㎝のロームブロックを少量含む。
13. 10YR2/2　黒褐色土
粘性なし、しまりあり。
ローム粒・１㎝大のロームブロック微量含む。８層との境は
肩がつぶれて不明瞭。
14. ロームブロック主体土
粘性ややあり、しまりあり。
２㎜～８㎝のロームブロック主体。一部に 13 層土が上から
混ざる。

第 24 図　SA19-3　土層断面図



第 25 図　SD436・SD44　平面図

SD44・SD436Ａ・Ｂ　土層断面図（南北）



SD44　覆土

1．10YR3/3　暗褐色土　粘性なし、しまりややあり。ローム粒を全体にやや多量、炭化物を微量、赤色スコリア極微量含む。中～底層にロームブロック３㎝をしみ状に含む。
2．10YR3/3　暗褐色土　粘性なし、しまりややあり。ローム粒を全体に少量含む。炭化物、赤色スコリア、オレンジスコリアを微量含む。
3．10YR3/2　黒褐色土　粘性なし、しまりややあり。ローム粒を全体に少量含む。上層中央に焼土を少量含む。炭化物・赤色スコリア、オレンジスコリアを微量含む（１㎝の角礫を１点含む）。
4．10YR3/2　黒褐色土　粘性なし、しまりややあり。ローム粒を全体に微量含む。赤色スコリア、オレンジスコリアを微量含む。
5．10YR3/4　暗褐色土　粘性なし、しまりややあり。ローム粒を全体にやや多量含む。炭化物、赤色スコリア微量、上層に３層の黒褐色土少量、底層に５㎜～２㎝のロームブロック少量。（比較的早く埋まった層）
6．10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性なし、しまりなし。ローム粒を全体に多量含み、炭化物、赤色スコリア微量、５㎜のロームブロック微量。ローム粒は中～下層に顕着。（比較的早く埋まった層）
7．ロームブロック主体土　粘性ややあり、しまりあり。整地層。

SD436　Ｂ期覆土

8．10YR3/3　暗褐色土　粘性なし、しまりややあり。ローム粒を少量、オレンジスコリア、炭化物を微量含む。スコリアはやや大きく２㎜～３㎜。
9．10YR3/3　暗褐色土　粘性なし、しまりややあり。全体にローム粒、３㎜～１㎝のロームブロックを少量含む。オレンジスコリア、炭化物を微量含む。
10．10YR3/2　黒褐色土　粘性なし、しまりややあり、部分的によくしまる。全体にローム粒を微量、中層にローム粒を５㎝～10㎝しみ状に含む。にぶい黄色土を10㎝～15㎝しみ状に含む。赤色スコリア、オレンジスコリア、炭化物を微量に含む。歴史時代の遺物を多く包含する。
11．10YR4/4　褐色土　粘性なし、しまりなし。ローム粒子を主体とし、10層の土をしみ状に含む。炭化物を微量含む。
12．10YR3/2　黒褐色土　粘性なし、しまりややあり、北側がよくしまる。全体に均一にローム粒を微量含む。赤色スコリア、オレンジスコリア、炭化物を微量含む。
13．10YR3/3　暗褐色土　粘性ややあり、しまりややあり。全体の役半分ほどローム粒がしみ状に含む。10層との境はやや不明瞭。
14．10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性ややあり、しまりなし。ローム粒、１㎜～２㎜のロームブロックやや多量。（比較的早く埋まった層）
15．10YR3/1　黒褐色土　粘性ややあり、しまりなし。南側にローム粒、１㎜～10㎜のロームブロックを多く含む。（比較的早く埋まった層）
16．ロームブロック主体土　粘性ややあり、しまりややあり。１㎜～10㎝のロームブロックを主体とし、北側の上層の一部に12層に似る黒褐色土をローム粒が混ざった層がある。（比較的早く埋まった層）

SD436　Ａ期覆土

17．10YR4/4　褐色土　粘性なし、しまりややあり。全体にローム粒、１㎜～２㎝のロームブロックがやや多量。赤色スコリア、オレンジスコリア、炭化物微量。埋め戻し土。
18．10YR4/2　灰黄褐色土　粘性なし、しまりややあり。全体にローム粒、１㎜～２㎝のロームブロックが少量。オレンジスコリア、炭化物微量。埋め戻し土。
19．10YR4/2　灰黄褐色土　粘性なし、しまりあり。全体にローム粒、１㎜～３㎝のロームブロックをやや多量、赤色スコリア、オレンジスコリア微量、炭化物少量。埋め戻し土。
20．ロームブロック主体土　粘性ややあり、しまりあり。ローム粒、１㎜～４センチのロームブロックを主体とする。ごく微量黒色土を含む。埋め戻し土。
21．10YR3/2　黒褐色土　粘性ややあり、しまりややあり。白色粘土を多く含む。部分的に黒色土をしみ状に含む。赤色スコリア微量。埋め戻し土。
22．ロームブロック主体土　粘性ややあり、しまりあり。ローム粒、１㎜～７㎝のロームブロックを主体とする。埋め戻し土。
23．10YR3/2　黒褐色土　粘性ややあり、しまりややあり。ローム粒少量、オレンジスコリア、炭化物微量。（自然堆積で比較的早く埋まった層）
24．10YR4/2　灰黄褐色土　粘性なし、しまりなし。全体にローム粒を少量、２㎝～５㎝のロームブロック微量、炭化物、オレンジスコリア微量。21層との境はやや不明瞭。（自然堆積で比較的早く埋まった層）
25．ロームブロック主体土　粘性ややあり、しまりあり。ロームブロック２㎝～５㎝を主体とする。

第26図　SD44・SD436Ａ・Ｂ　土層断面図

第 27 図　ＭＫⅢ－ 716　調査区全景（南から）

第 28 図　ＭＫⅢ－ 716　調査区全景（北から）

第 29 図　SA19-2・3　検出状況（北から）

第 30 図　SA19-2・3　検出状況（東から）

第 31 図　SA19-2・3 全景（東から）

第 32 図　SA19-2・3 全景（西から）

第 33 図　SA19-2 断面（南から）

第 34 図　SA19-3 断面（東から）

第 35 図　SD436・SD44 検出状況（南から）

第 36 図　SD436 Ａ・Ｂ全景（北から）

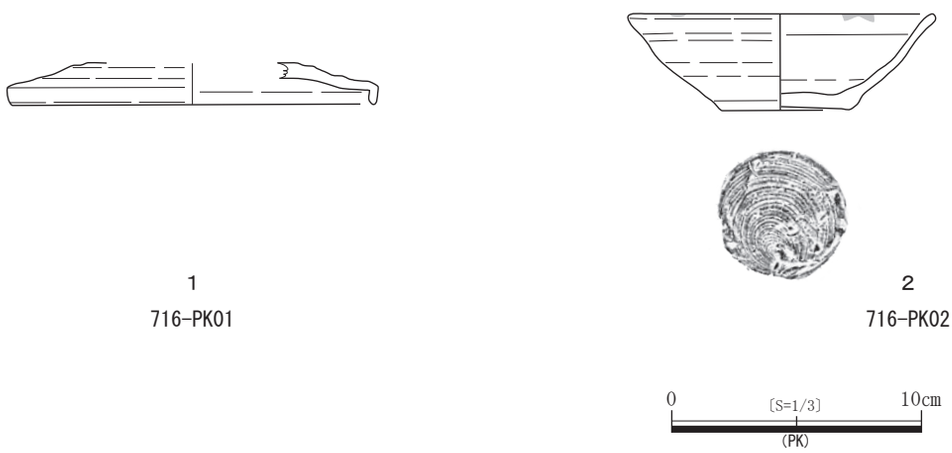
第 37 図　SD436 Ａ・Ｂ土層断面（東から）

第 38 図　SD44 全景（南から）

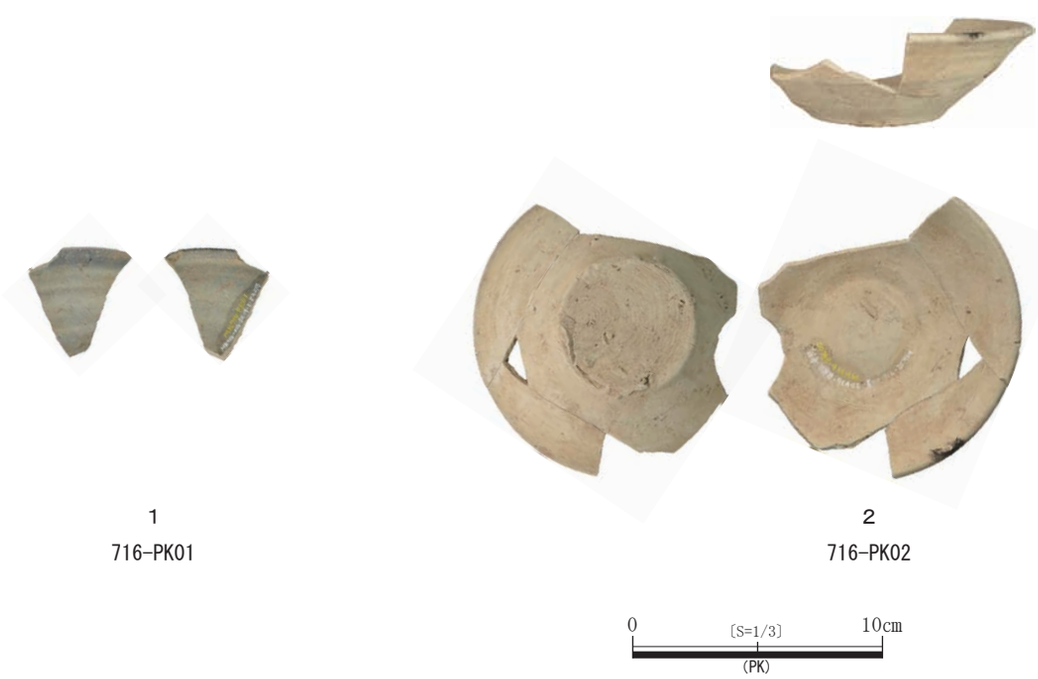
第 39 図　SD44 土層断面（東から）

第 40 図　調査風景 1（北から）

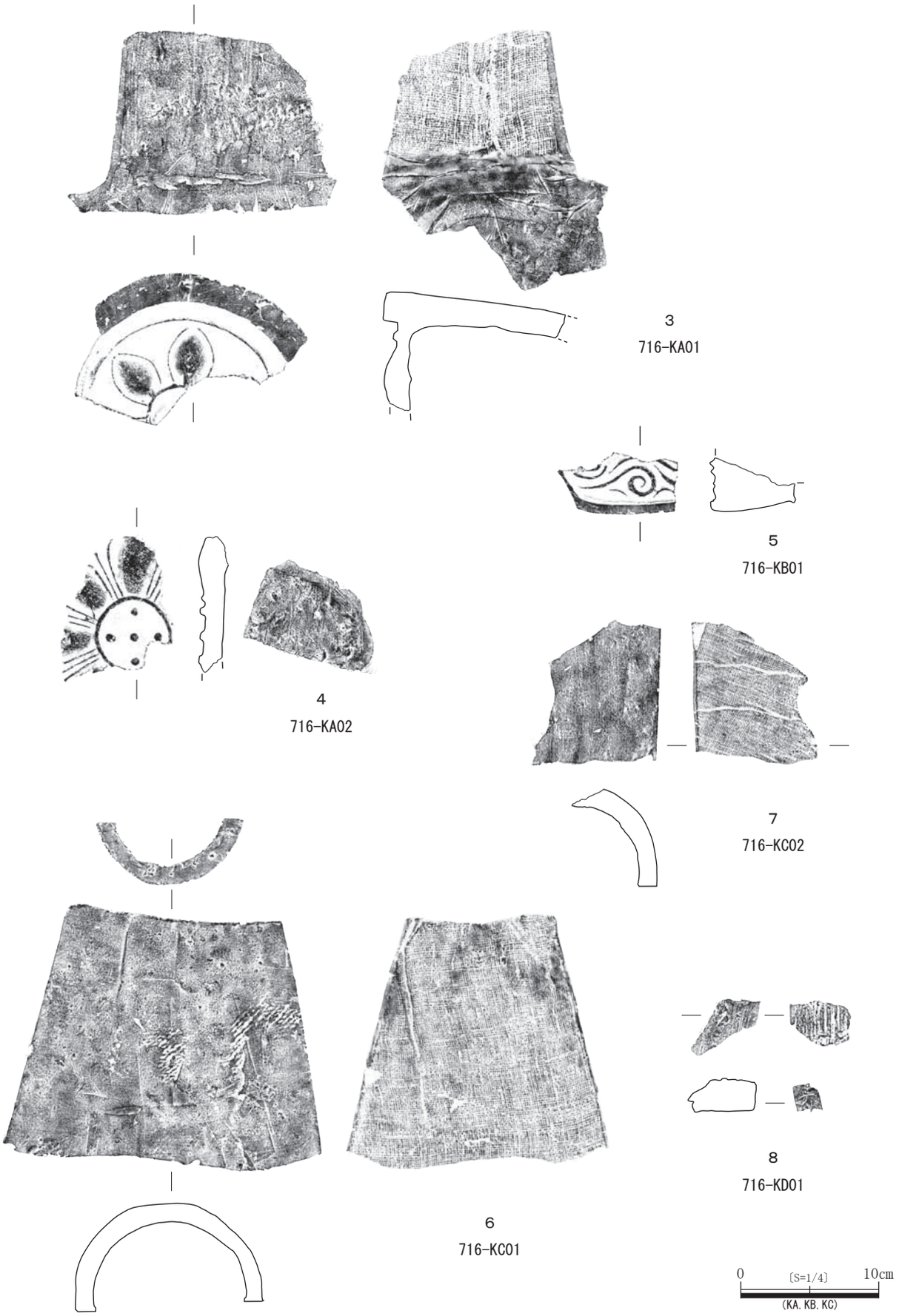
第 41 図　調査風景 2（北から）



第 42 図　ＭＫⅢ－ 716　出土遺物実測図 1

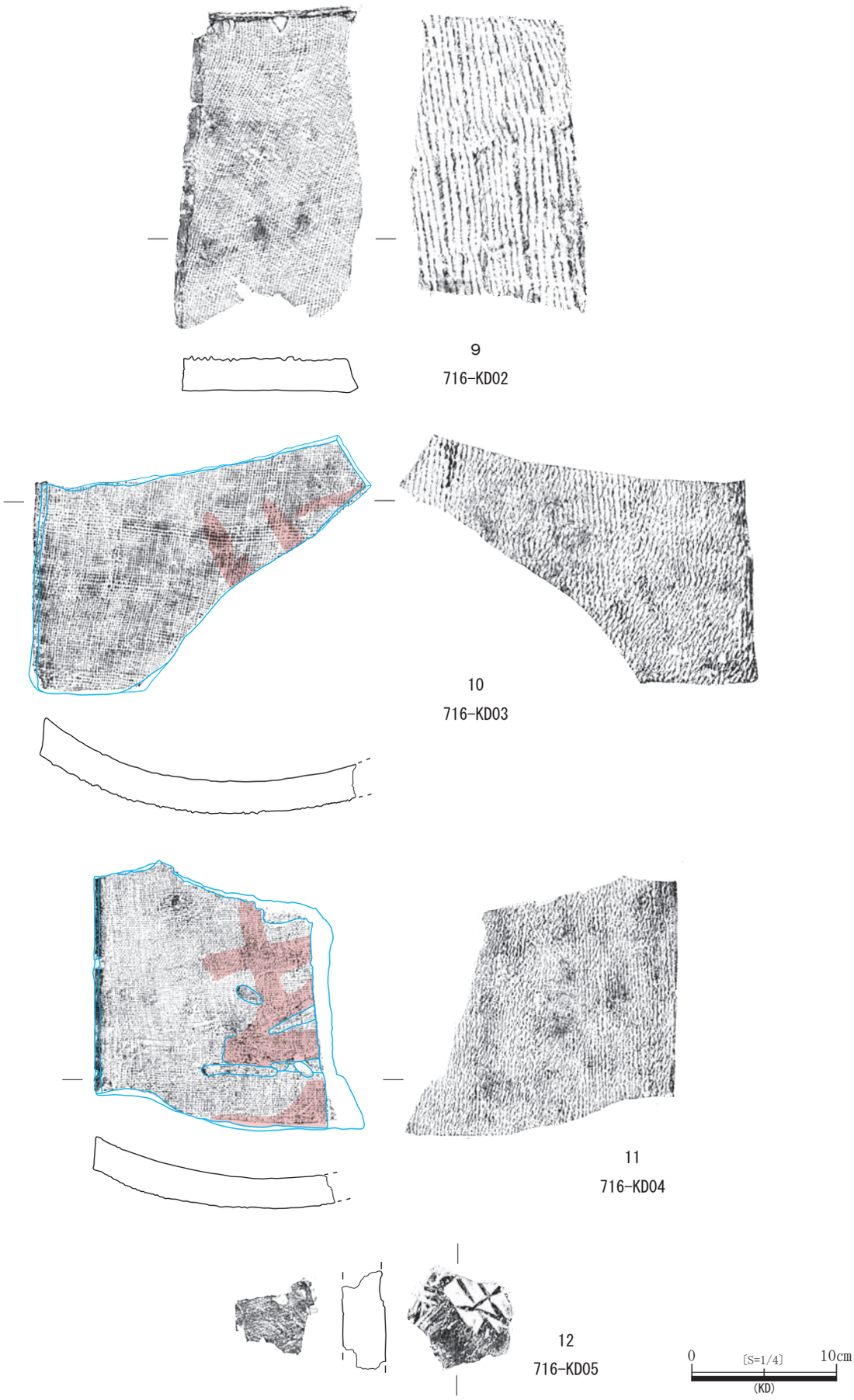


第 43 図　ＭＫⅢ－ 716　出土遺物写真 1



第 44 図　ＭＫⅢ－ 716　出土遺物実測図２

第 45 図　ＭＫⅢ－ 716　出土遺物写真２



第 46 図　ＭＫⅢ－ 716　出土遺物実測図３

9
716-KD02

10
716-KD03

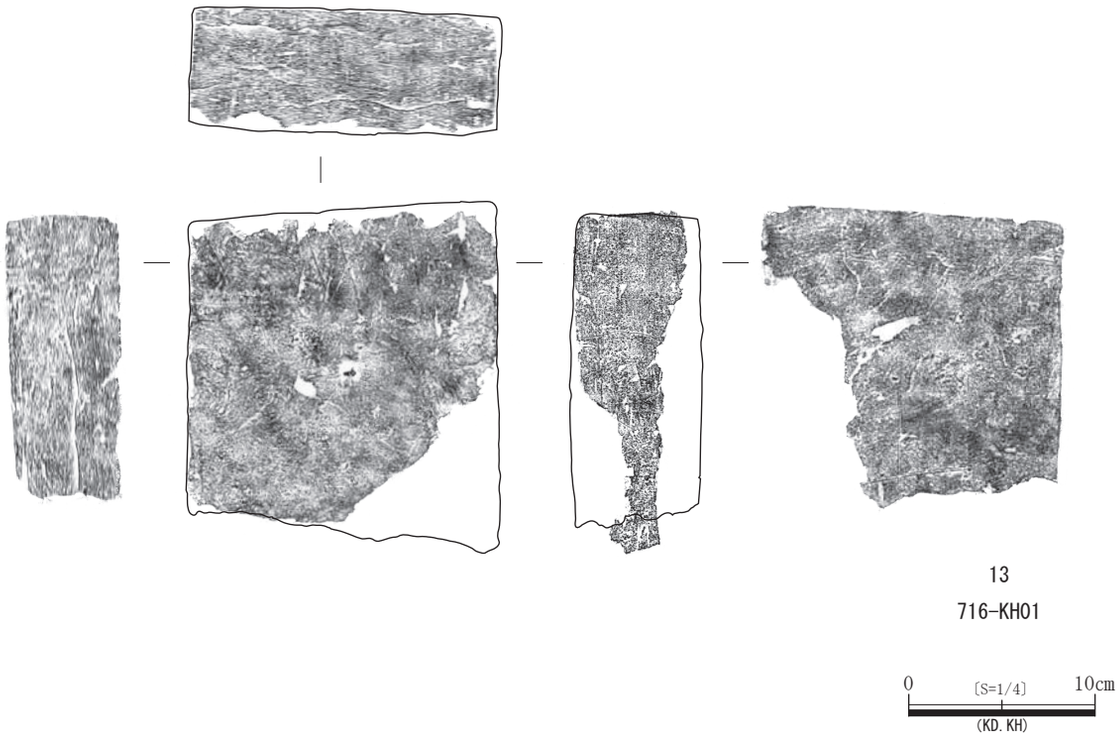
11
716-KD04

716-KD05
押型「荏」
〔S＝1/1〕

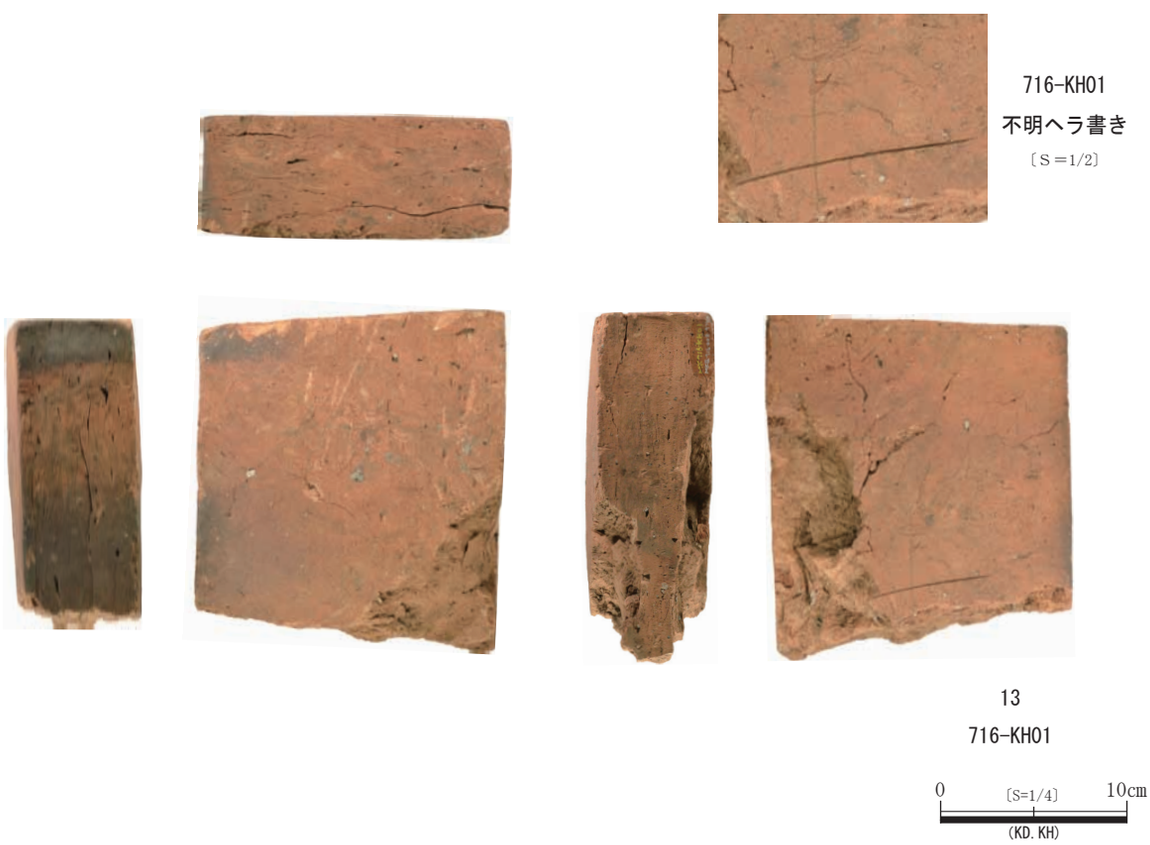
12
716-KD05

0 〔S=1/4〕 10cm
(KD)

第 47 図　ＭＫⅢ－ 716　出土遺物写真３



第 48 図　ＭＫⅢ－ 716　出土遺物実測図４



第 49 図　ＭＫⅢ－ 716　出土遺物写真４

第 16 表　ＭＫⅢ－ 716　遺物観察表

ＭＫⅢ－ 716　歴史時代　土　器

番号 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	残量	備考
1 PK01	須恵器 蓋	SA19-2 抜き上層	((15.0)) (1.6) —	体部外面はナデの凹凸が顕著。体部内面は天井部から体部にかけて内湾気味に緩やかに垂下る。	体部内外面回転ナデ。	小片	内外面:灰色 5Y6/1。堅い。焼成普通。微砂粒微量、白色針状物質やや多量。
2 PK02	須恵器 坏	SD436 Ｂ期 中層	((12.1)) 3.8 5.1	体部はやや内湾して立ち上がる。	ロクロ調整の後、底部は回転糸切をし、無調整。	3/4	内外面：灰黄色 2.5Y7/2。堅い。焼成普通。微砂粒微量、1 ～ 3 ㎜角礫微量。口縁部と体部内面の一部に煤付着。

ＭＫⅢ－ 716　歴史時代　鐙瓦

番号 遺物番号	出土 位置	直径	内区				外区						全長	種別
			中房径 形態	蓮子数	弁区径 弁幅	弁数	幅	内縁		外縁				
								幅	文様	幅	高	文様		
3 KA01	SD436 Ａ期 上層	((20.0))	((5.5)) B1	—	((14.0)) 3.4	6	3.0	1.0	a	2.0	1.0	a	(13.2)	単弁六葉蓮華文
	備考	中房の形状：B1。弁の形状：TC。製作技法：A。堅い、焼成普通。凹面布目（18 × 17）。凸面叩きの後、タテナデ。瓦当と男瓦凹面の接合部はヨコナデ。灰色 5Y4/1。微砂粒多量、1 ～ 8 ㎜角礫やや多量。												
4 KA02	SD436 Ｂ期 下層	—	5.8 B1	5	(9.3) ((3.5))	8	—	—	—	—	—	—	(2.3)	単弁八葉蓮華文
	備考	中房の形状：B1。弁の形状：TC。製作技法：A。堅い、焼成普通。瓦当と男瓦凹面の接合部はヨコナデ。灰色 5Y5/1。微砂粒少量、1 ～ 4 ㎜角礫少量、白色針状物質やや多量、石英微量。												

ＭＫⅢ－ 716　歴史時代　宇　瓦

番号 遺物番号	出土 位置	上限弧幅 下限弧幅 弧深 (cm)	厚さ (cm)	内区		外区				脇区		文様 深さ (cm)	全長 (cm)	備考
						上		下						
				厚さ (cm)	文様	厚さ (cm)	文様	厚さ (cm)	文様	幅 (cm)	文様			
5 KB01	SD436 Ｂ期 上層	(10.8) (8.7) —	4.2	(3.4)	HK	—	a	0.8	a	—	a	0.4	6.2	右偏行唐草文。製作技法：D。段顎:形態B。堅い。焼成普通。顎部ヨコナデ。灰色 N5(B)。微砂粒やや多量、1 ～ 8 ㎜角礫少量。

ＭＫⅢ－ 716　歴史時代　男　瓦

番号 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長 (cm)	厚さ (cm)	成・整形の特徴						備考
				素材	凹面		凸面		端面	
					布目	特徴	叩き	特徴	特徴	
6 KC01	SD436 Ｂ期 上層	10.2 — 18.3	1.3	粘土 横紐	21 × 19	側端縁ヘラケズリ。一部指ナデ。	布目	側端縁の一部ヘラケズリ。縄目叩きの後、全体ナデ。	狭・側端面ヘラケズリ。	無段。灰色 5Y4/1。堅い。焼成普通。微砂粒微量、1 ～ 5 ㎜角礫微量。
7 KC02	表土	— — 11.3	1.5	粘土 横紐	24 × 24	側端縁ヘラケズリ。粘土横紐の痕跡顕著。	—	側端縁無調整。全体タテナデ。	側端面ヘラケズリ。	灰オリーブ色 5Y5/2。堅い。焼成普通。微砂粒微量、1 ～ 3 ㎜角礫微量。

ＭＫⅢ－ 716　歴史時代　女　瓦

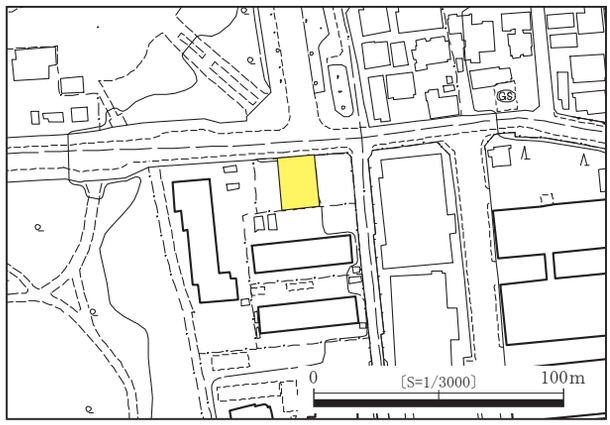
番号 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長 (cm)	厚さ (cm)	成・整形の特徴						備考
				素材	凹面		凸面		端面	
					布目	特徴	叩き	特徴	特徴	
8 KD01	SA19 抜き穴	— — (4.7)	2.3	—	—	凹面櫛状工具による浅いタテナデ。側端縁ヘラケズリ。	—	凹面櫛状工具によるタテナデ。側端縁ヘラケズリ。	側端面ヘラケズリ。ヘラ書き「□方□」あり	灰黄色 2.5Y7/2。堅い。焼成普通。微砂粒少量、1 ～ 6 ㎜角礫微量。
9 KD02	SA19 抜き穴	(10.3) — (22.0)	2.1	粘土板 ？	19×23	狭・側端縁ヘラケズリ。狭端縁に棒状圧痕。	縄目 R6	狭・側端縁無調整。	狭・側端面ヘラケズリ。	灰色 10Y5/1。堅い。焼成普通。微砂粒やや多量、1 ～ 6 ㎜角礫少量。
10 KD03	SD436 Ｂ期 上層	— (7.6) (18.0)	2.2	粘土板 ？	18×19	広・側端縁無調整。不明朱墨書あり。	縄目 L8	広・側端縁ナデ。	広・側端面ヘラケズリ。	灰黄色 2.5Y6/2。堅い。焼成普通。微砂粒少量、1 ～ 3 ㎜角礫微量。
11 KD04	表土	— — (18.5)	2.1	粘土板 ？	29×24	側端縁ヘラケズリ。指頭痕あり。朱墨書「寺」？あり。	縄目 L11	側端縁ナデ。	側端面ヘラケズリ。	灰オリーブ色 5Y6/2。堅い。焼成普通。微砂粒やや多量、1 ～ 5 ㎜角礫少量、白色針状物質やや多量。
12 KD05	表土	— — (7.7)	3.0	—	((15× 15))	布目を消すナデ。	—	押型「荏」（荏原郡）あり。	—	灰白色 2.5Y7/1。堅い。焼成普通。微砂粒少量、1 ～ 11 ㎜角礫少量。

ＭＫⅢ－ 716　歴史時代　塼

番号 遺物番号	出土 位置	長辺長 (cm) 短辺長 (cm)	厚さ (cm)	素材	上面特徴	下面特徴	側面特徴	備考
13 KH01	撹乱	(11.6) 11.4	6.7	粘土板積み （5 枚？）	全体ナデ。極一部に布目痕あり。側端から中心部に向かってやや盛り上がる。	全体ナデ。極一部に布目痕あり。不明ヘラ書きあり。	ヘラケズリ。	橙色 7.5Y6/6。堅い。焼成普通。微砂粒やや多量、1 ～ 12 ㎜角礫やや多量。

（２）武蔵国分寺跡第 717 次調査

所 在 地	西元町一丁目 2448-18		
調査原因	集合住宅建設	調査種別	確認調査
調査費用	国庫補助等	調査体制	委託
調査期間	平成 28 年７月４日～７月 13 日		
調査面積	29.08 ㎡	遺物箱数	１箱
検出遺構	なし		
主な遺物	土師器・須恵器・瓦、縄文時代石器		



第 50 図　ＭＫＩ－717　調査地位置図

【１．調査の目的と経緯】 本調査は、平成 28 年６月 20 日付国教教ふ収第 293 号法第 93 条第１項届出に基づき、市教委が調査会に委託して実施した。調査区は、国分寺市西元町一丁目 2448-18 に所在し、武蔵国分寺跡（遺跡№.19）に該当する。本敷地内で平成 22 年度に実施した確認調査（MK663 次）では奈良・平安時代の遺構や遺物が出土しており（市教委『平成 22 年度年報』2012 年）、また南側の隣地でも奈良・平安時代、縄文時代の住居等が多数検出されている。

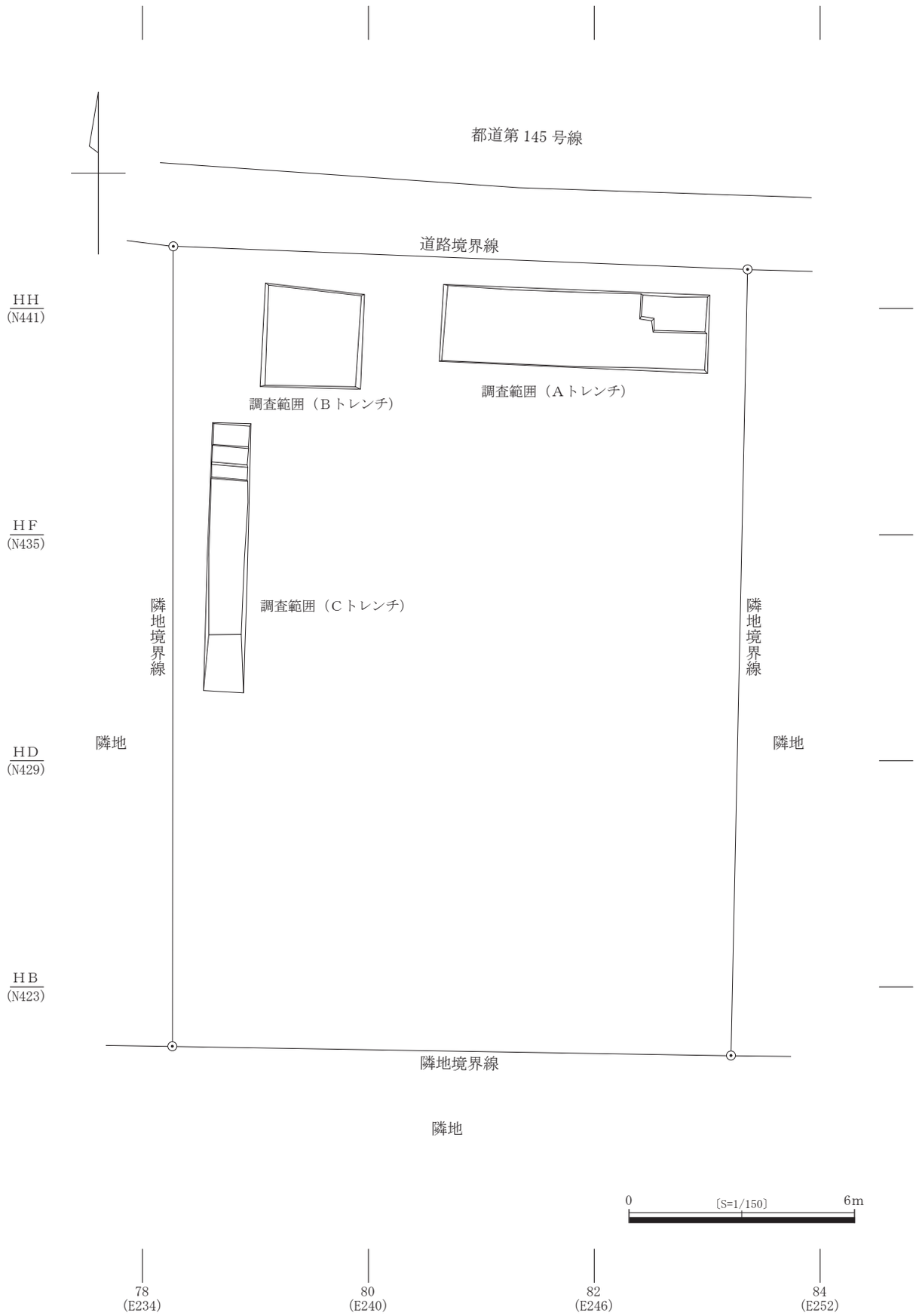
このため届出記載の工事によって住居や土坑などの遺構が破壊される可能性を検証するために、トレンチを３箇所設定して確認調査を実施した。調査面積は 29.08 ㎡である。現地調査は平成 28 年７月４日から同年７月 13 日（実働８日）まで実施した。

【２．調査結果と出土遺物】 調査区内は、Ａトレンチ（東側）、Ｂトレンチ（中央）、Ｃトレンチ（南側）の各トレンチとも地表より約 1.2 ｍの深さまで、盛土・耕作土等による表土（基本層序Ⅰ層）に厚く覆われていた。その下層から奈良・平安時代の遺構確認面である基本層序Ⅲｂ層（厚さ約 30 ～ 40 ㎝）が検出されたため、遺構の有無を確認したが、住居等は検出されなかった。さらに縄文時代の遺構を確認するためにＡ・Ｃトレンチ内の一部をⅢｃ層、Ⅳ層（中間まで）まで掘下げて遺構確認を行ったが、遺構や遺物は未検出であった。遺物は、Ⅲｂ層から縄文時代の打製石斧（１）が出土した。このほか、表土から古代の土師器・須恵器等・瓦の破片が出土したが、小片のため図化し得なかった。

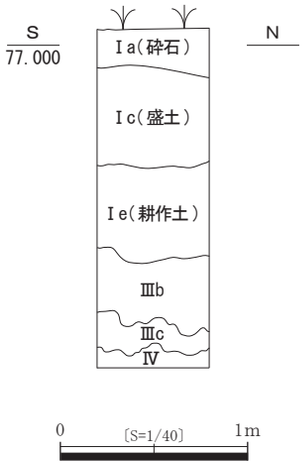
第 51 図　Ａトレンチ全景（東から）

第 52 図　Ｂトレンチ全景（南から）

第 53 図　Ｃトレンチ全景（北から）



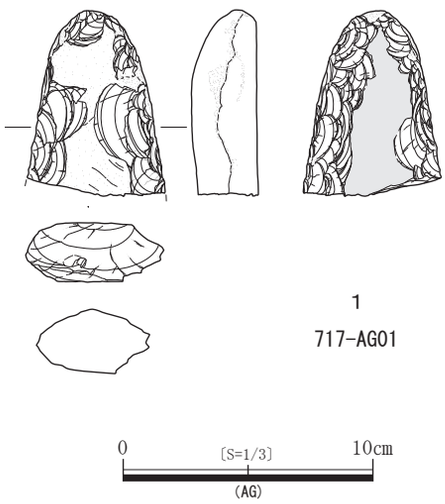
第 54 図　ＭＫＩ－717　調査区全体図

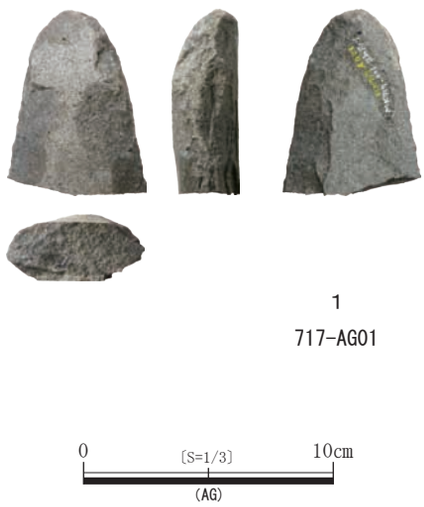


第 55 図　ＭＫＩ－717
土層柱状図（西壁）

第 56 図　Ｃトレンチ
西壁土層断面

第 57 図　遺物出土状況（AG01）
Ａトレンチ（東から）





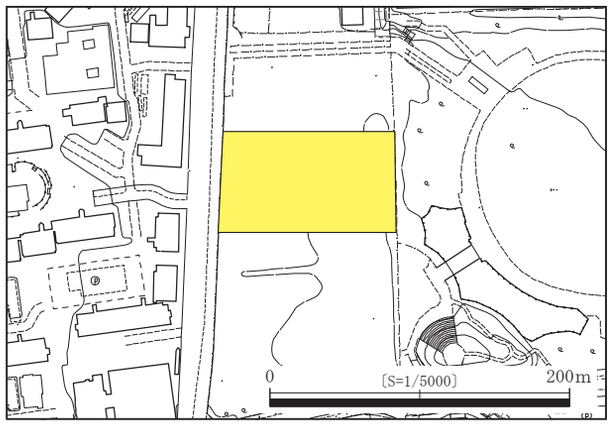
第 58 図　ＭＫⅢ－716　出土遺物実測図・写真

第 17 表　ＭＫＩ－717　遺物観察表

ＭＫＩ－717	縄文時代　石　器								
番号 遺物番号	種別 器種	出土 位置	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石材	備考
1 AG01	打製石斧	Ⅲｂ層	(7.4)	5.5	2.6	151.75	欠損	砂岩	

（３）武蔵国分寺跡第 718・722 次調査

所 在 地	泉町二丁目 102 番 13		
調査原因	都公文書館 改築	調査種別	確認調査 発掘調査
調査費用	公共機関負担	調査体制	委託
調査期間	〔確〕平成 28 年 10 月 24 日～ 11 月 29 日 〔発〕平成 29 年２月７日～２月 28 日		
調査面積	〔確〕507.13 ㎡ 〔発〕326.30 ㎡ 計　833.43 ㎡	遺物箱数	計２箱
検出遺構	SD153（SD3）・SD170、SK3458J ～ 3460J、PJ-1 ～ 4		
主な遺物	須恵器・瓦、白磁、近世陶磁器、縄文土器・石器		



第 59 図　ＭＫⅣ－ 718・722　調査地位置図

【１．調査の目的と経緯】 東京都公文書館改築工事に伴う発掘調査は、平成 28 年７月 20 日付国教教ふ収第 396 号法第 94 条第１項通知、平成 28 年９月 29 日付「東京都公文書館改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査委託に関する協定書」に基づき、東京都総務局が調査会に委託して行ったものである。

対象地は、国分寺市泉町二丁目 102 番 13 に所在し、周知の埋蔵文化財包蔵地である武蔵国分寺跡（No. 19）に該当する。

当該地の周辺の発掘調査（西国分寺地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査、都立多摩図書館改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査、都立小金井特別支援学校改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（本書付編（４）参照））では、歴史時代の掘立柱建物跡・竪穴住居跡・溝跡・土坑・地下式横穴墓、縄文時代の集石・土坑、旧石器時代の石器集中部を検出している。

このため、東京都総務局と市教委の間で協議、調整を行い、本工事で予定されている建物基礎工事等によって埋蔵文化財が破壊される可能性がある部分については、事前に埋蔵文化財確認調査を行う旨を確認し、平成 28 年９月 29 日に東京都総務局、市教委、遺跡調査会の間で「東京都公文書館改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査委託に関する協定書」を締結した。

この協定に基づき、まず確認調査（以降、その１調査）を平成 28 年 10 月 24 日から 11 月 29 日（現場実働 23 日）まで実施した。調査面積は 507.13 ㎡である。

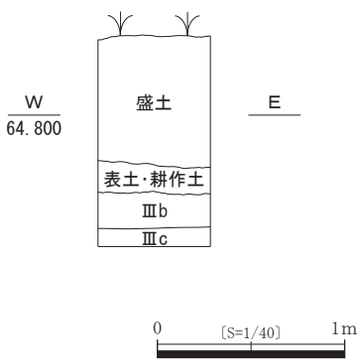
その１調査の結果、Ｂトレンチで歴史時代の溝跡（SD170）が良好な状態で検出されたが、施工計画に照らすと同溝の大部分が未調査のまま滅失してしまう可能性が明らかとなったため、協定書第９条に基づき、歴史時代の溝跡が延長する部分について追加で発掘調査を行うこととし、平成 29 年１月６日に「東京都公文書館改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査委託に関する協定書（第１回変更）」、および１月 16 日に「東京都公文書館改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査委託（その２）契約書」を締結し、「東京都公文書館改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（その２）」として歴史時代溝跡（SD170）の延長が予

測される範囲、約 460 ㎡を対象にトレンチを設定し、発掘調査を実施することとした。

その２調査の調査面積は 326.30 ㎡、調査期間は平成 29 年２月７日から２月 28 日（現場実働 15 日間）である。

【２．検出された遺構と出土遺物】 その１・その２調査ともに、まず地表から 1.5 ｍほどまで重機による掘削を行った。調査地内は広い範囲で地表から 150 ～ 200㎝ 以上まで盛土に覆われており、またその下層は旧鉄道学園内の道路・建物の基礎等による削平を大きく受けていた。

その後人力により不陸を精査し遺構確認を行った結果、その１調査では、調査区の西半で遺構確認面を検出し、歴史時代の溝（SD170）、縄文時代の土坑（SK3458・J3459J・3460J）、縄文時代の小穴（PJ-1 ～ 4）を検出した。



第 60 図　ＭＫⅣ－ 722　土層柱状図（北壁）

第 61 図　ＭＫⅣ－ 718　Ｂトレンチ東壁土層断面

SD170 溝（第 75・76 図）

歴史時代の SD170 溝については、近隣の調査（遺跡調査会第 168・364 次調査）において検出されている溝の主軸と同一線上にあり、覆土の堆積状況を考え合わせて同一の遺構であると考え、遺跡調査会で取得していた遺構番号 SD170 を付与したものである。

遺物は、近世の陶磁器片が３点、縄文土器片が５点（中期加曾利Ｅ式）、縄文時代の石器（打製石斧）が２点出土した。

引き続き行ったその２調査では、トレンチ西側において SD170 を東西 46 ｍにわたって検出した。東側は旧鉄道学園時代の削平が地表から２ｍより深くまで及んでおり同溝の検出はできなかった。

SD170 は上面幅 1.4 ～ 2.0 ｍ、底面幅 0.6 ｍ、深さ 70 ㎝を測り、断面形は逆台形を呈し、主軸方向は武蔵国分僧寺中軸線から 80 度西偏してる。覆土は、下層はロームブロック・Ⅲｂブロックを多く含み，中・上層は黒褐色土を主体とする自然堆積である。

SD170 は、西国分寺地区遺跡調査会が平成５年から８年に実施した西側隣接地（西国分寺地区住宅市街地整備総合支援事業）の発掘調査で検出された SD5 とも同一の遺構である可能性が高く、その場合、東山道武蔵路を横切り東西約 340 ｍ以上を測る。

また、東京都埋蔵文化財センターが実施した東京都立多摩中央図書館改築工事に伴う発掘調査（北側隣接地）で検出された溝跡 SD3（以下 SD3）が本調査区内の SD170 まで延びていることが確認され、当該部分の溝を SD153 と命名して調査を行った。

遺物は縄文土器片（第 718 次５～７）、古代の須恵器・瓦（第 722 次２・３）、そして白磁片（第 722 次１）が出土した。

このほか、調査区全体の表土やⅢ層から縄文時代の打製石斧（第 718 次９･10）なども出土している。

【３．小　結】 今回の調査で特筆される成果の一つは、前述のとおり SD170 が再開発事業に伴う調査の SD5 と一連の東西溝で、約 340 m以上にも及ぶ延長距離が判明したことである（第 62 図）。再開発事業の調査では「古代の遺構」は基本土層のＩｃ層、「中世・近世の遺構」は上位層のＩｂ層をそれぞれ覆土の主体と認識し、土師器・須恵器・瓦片が出土する SD5 は前者の遺構として扱っているが、報告書には交差する東山道武蔵路との新旧関係は明示されていない（伊藤 1999）。ところが、SD170 覆土中より大宰府分類で 13 世紀後半～ 14 世紀前半の白磁皿Ⅸ類（山本 1995）が出土したことに及び、これらが中世の所産であったということは大きな発見となった（第 102・103 図）。というのも、第１期から第４期までの変遷が説かれている泉町地区の東山道武蔵路は、道路自体から出土する遺物が極めて僅少のため、最終段階の第４期の存続期間「11 世紀の初めより以前」（福嶋 2003）という時間的尺度でしか把握出来ておらず、その明確な下限年代を押さえる意味で本溝の調査成果は貴重といえるだろう。

また、再開発の調査では、東山道武蔵路の東側に並走する南北溝 SD33 も、規模・形状から SD5 と一連の区画溝を構成している遺構の可能性が触れられ、覆土内からは「常滑と思われる陶器片４点」他多くの遺物が出土しているが、その時期は東山道武蔵路 SF1 および 10 世紀中頃の遺物を含む SX13 と「さほどへだたりない時期に構築された溝」と推測されている（伊藤前掲）。現時点で白磁皿と SD33 の「常滑と思われる陶器片４点」以外に詳細な情報は無いが、ひとまず SD5・33・170 の溝は 14 世紀以降の区画溝として再検討してみる必要がありそうである。

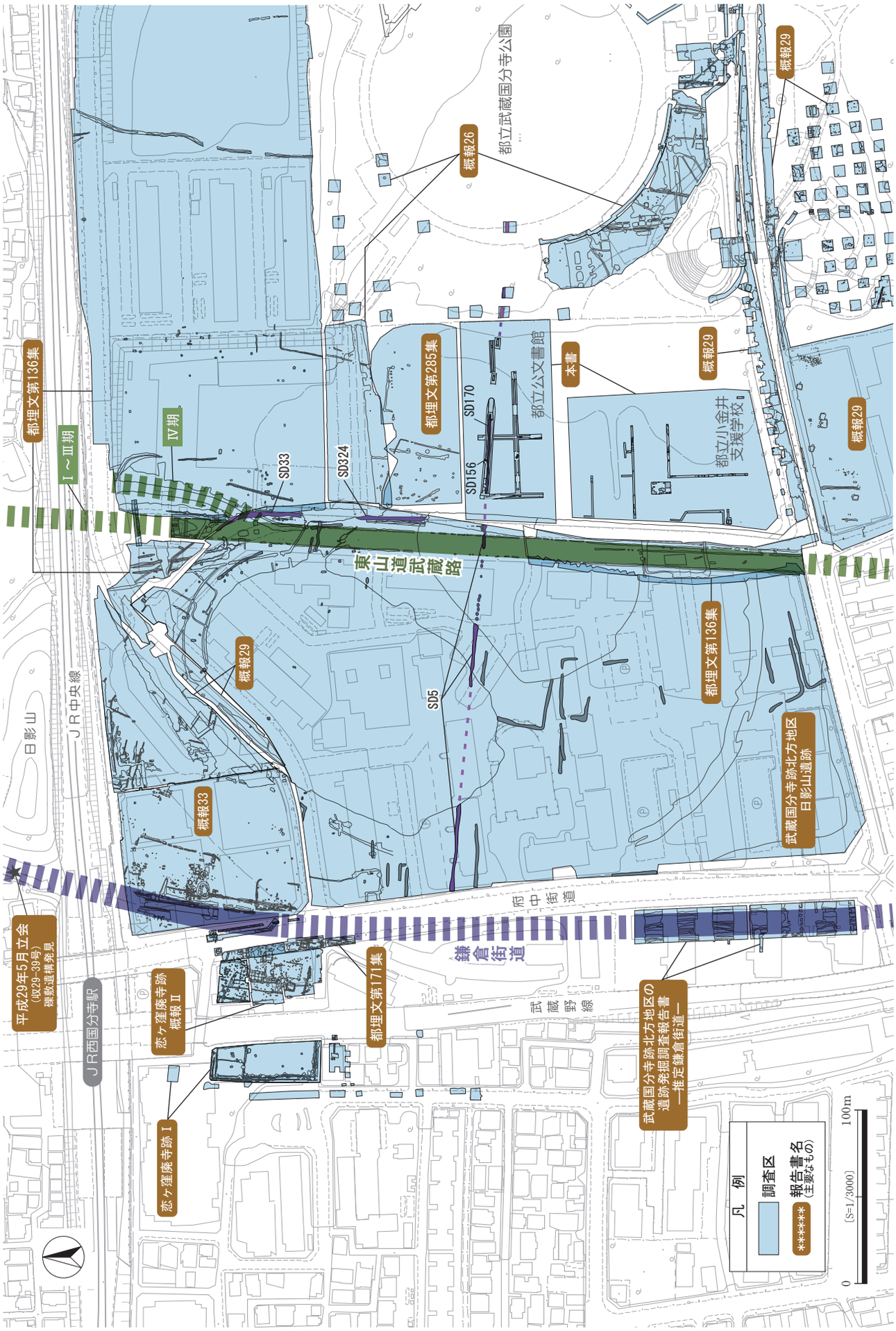
その際に気がかりなのは、JR 西国分寺駅周辺に広がる「恋ヶ窪廃寺跡」との関連である。恋ヶ窪廃寺跡は、昭和 46 年の第１次調査で、土壇を伴う礎石建物 SB1 と板碑等が検出されたことを嚆矢として、以後、数次に亘る調査によって、鎌倉街道に沿って溝で囲繞された範囲に複数棟の掘立柱建物、火葬墓・土壙墓、方形周溝状遺構等の存在が判明し（第 63 図）、これらの遺構は、①礎石建物跡のみで構成される平安時代後半の第一期（創建期）、②掘立柱建物跡や溝跡等で構成される 13 世紀末を中心とした第二期（再建期）、③寺域南辺溝埋没後に土壙墓・火葬墓等で構成される 14 世紀前半～ 15 世紀末の第三期、という概略３時期に亘って変遷する古代末～中世の寺院跡と捉えられている（有吉 1986･板倉 2006 等）。ただ、これまでに周辺一帯で出土した銭貨を除く中世の遺物は第 64 ～ 66 図に掲げた程度であり、個別遺構の年代は遺物の出土状況に照らして更なる精査が必要だが、SD5・170 は、このうち武蔵国分寺跡第 294 次調査の方形区画溝 SD208・209 や、第 16・104・134 次調査の掘立柱建物・方形周溝状遺構等と主軸方位が近似している点は留意すべきであろう。『新編武蔵風土記稿』の恋ヶ窪村の項には、「弥陀堂三間四面、村の南境にあり、府中高安寺持、木の坐像二尺許、此堂昔は無量山道成寺とも云、或いは飯

寺とも云へるよし、いずれ寺の廃跡なるべし」といって、現在はJR西国分寺駅の北東に集合墓地の遺称として名を留める弥陀堂が、道成寺の後継寺院であったことが触れられており、道成寺と恋ヶ窪廃寺跡の関係は引き続き追究すべき課題の一つである。

ところで、延宝６（1678）年の国分寺村検地帳に、小名の一つで中世武士の館跡に関係する「堀之内」地名が確認され（大澤1990）、明治２年の国分寺村絵図には２箇所に「堀之内」の表記が見える（第67図）。これを現在の地図に当てはめると第68図に示した範囲に該当し、一つは国分寺薬師堂の北西側、もう一つは黒鐘谷周辺となる。薬師堂北西側一帯は、これまでに多くの発掘調査が行われているものの中世に関わる情報が少ない一方で、黒鐘谷周辺は伝祥応寺跡で土塁を伴う礎石建物跡が発見され、14～15世紀代を中心とした遺物も出土している（第69・70図）。このような点も踏まえ、市内における中世遺跡のあり方を注意してみていく必要があるだろう。

〔引用・参考文献〕

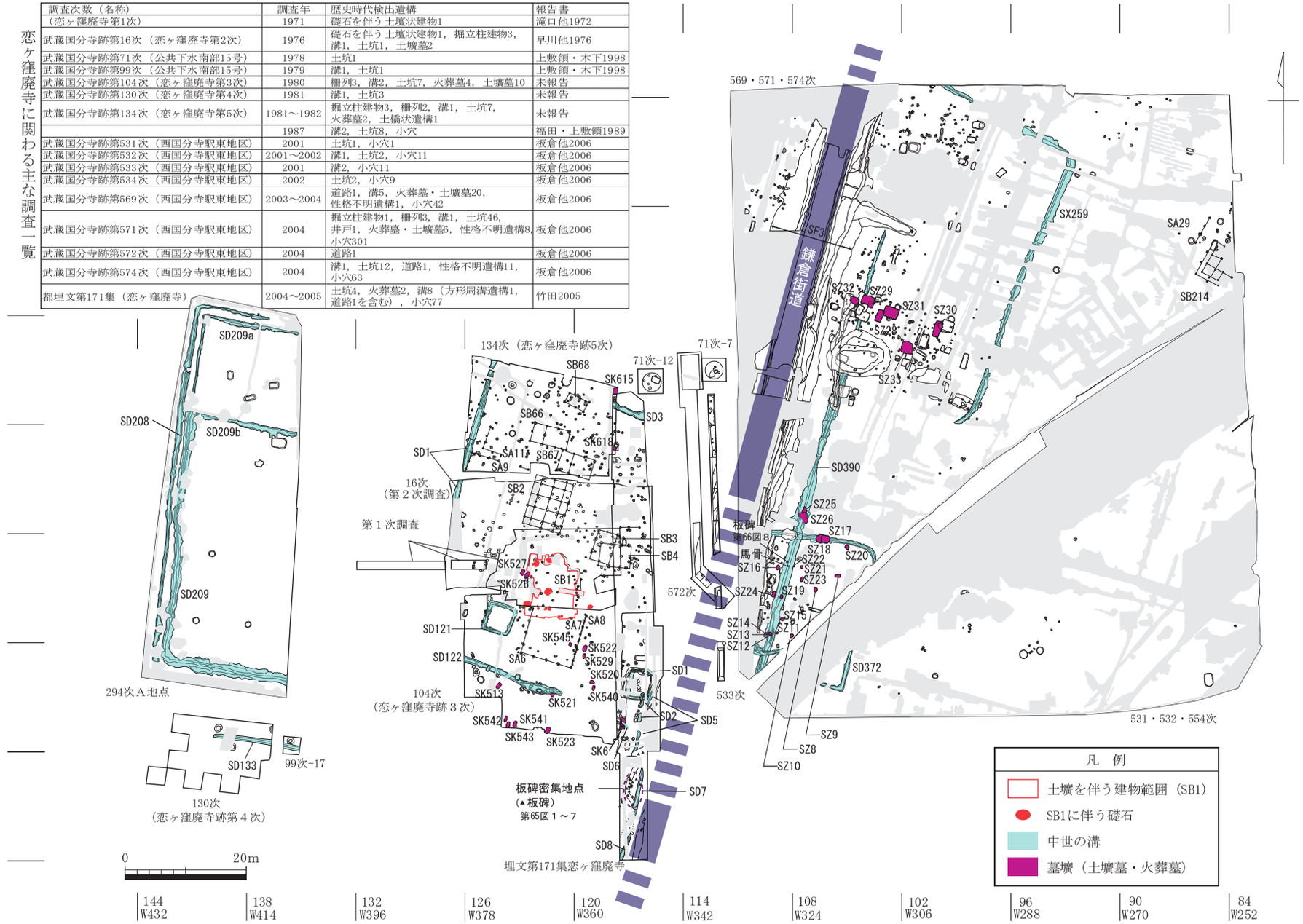
有吉重蔵1986「国分寺市域における中世遺跡」『国分寺市史　上巻』国分寺市
有吉重蔵他1989『武蔵国分寺跡発掘調査概報ＸⅣ－昭和52～57年度　尼寺々域確認調査－』国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会
伊藤俊治1999「Ⅳ．歴史時代　２．古代　２）遺構　②溝跡」『武蔵国分寺跡北方地区　日影山遺跡・東山道武蔵路』西国分寺地区遺跡調査会
板野普鏡他1996『武蔵国分寺跡北西地区の遺跡発掘調査報告書－推定鎌倉街道－』西国分寺地区遺跡調査会
板野普鏡他1999『武蔵国分寺跡北方地区　日影山遺跡・東山道武蔵路』西国分寺地区遺跡調査会
板倉歓之他2006『武蔵国分寺跡発掘調査概報33－北方地区・西国分寺駅東地区第一種市街地再開発事業に伴う調査－』国分寺市遺跡調査会
大澤理恵1990「第１章　近世初期の村落　第２節　検地と村落」『国分寺市史　中巻』国分寺市
小川将之他1999『武蔵国分寺南西地区発掘調査報告書－府中都市計画道路３・２・２の２号線建設に伴う調査－』武蔵国分寺関連（府中都市計画道路３・２・２の２号線）遺跡調査会・東京都北多摩南部建設事務所
上敷領久他1998『武蔵国分寺跡発掘調査概報ＸＸⅡ－国分寺市公共下水道面整備南部地区15号工事他に伴う調査－』国分寺市遺跡調査会
上村昌男他2002『武蔵国分寺跡発掘調査概報26－北方地区・平成８～10年度西国分寺地区土地区画整理事業及び泉町公園事業に伴う調査－』国分寺市遺跡調査会
上村昌男他2003『武蔵国分寺跡発掘調査概報29－北方地区・平成11～13年度西国分寺地区土地区画整理事業及び泉町公園事業に伴う調査－』国分寺市遺跡調査会
滝口　宏他1972『恋ヶ窪廃堂址調査報告』東京都国分寺市・泉町廃寺址遺跡調査会
竹田　均2005「恋ヶ窪廃寺跡遺跡－国分寺３・４・14是政恋ヶ窪線整備事業に伴う発掘調査」『東京都埋蔵文化財センター調査報告　第171集』東京都埋蔵文化財センター
西野善勝他1999『武蔵国分寺跡西方地区　武蔵台東遺跡』都営川越道住宅遺跡調査会
早川　泉他1976『武蔵国分寺跡調査概報Ⅱ－恋ヶ窪堂址第二次調査－』国分寺市教育委員会・武蔵国分寺遺跡調査会
福嶋宗人2003「Ⅶ　まとめ　３　古代」『武蔵国分寺跡遺跡北方地区－西国分寺地区土地区画整理事業に伴う調査－』東京都埋蔵文化財センター調査報告第136集
福嶋宗人他2003「武蔵国分寺跡遺跡北方地区－西国分寺地区土地区画整理事業に伴う調査－」『東京都埋蔵文化財センター調査報告第136集』東京都埋蔵文化財センター
福田信夫他1989『恋ヶ窪廃寺跡発掘調査概報Ⅰ－西国分寺駅南口地区第一種市街地再開発事業に伴う調査－』国分寺市遺跡調査会
福田信夫1995『武蔵国分尼寺跡Ⅱ－平成５年度発掘調査概報－』国分寺市教育委員会
福田信夫1996『武蔵国分尼寺跡Ⅲ－平成６年度発掘調査概報－』国分寺市教育委員会
福田信夫1997『武蔵国分尼寺跡Ⅳ－平成７年度発掘調査概報－』国分寺市教育委員会
山本信夫1995「11．貿易陶磁器〔２〕中世前期の貿易陶磁器」『概説　中世の土器・陶磁器』真陽社



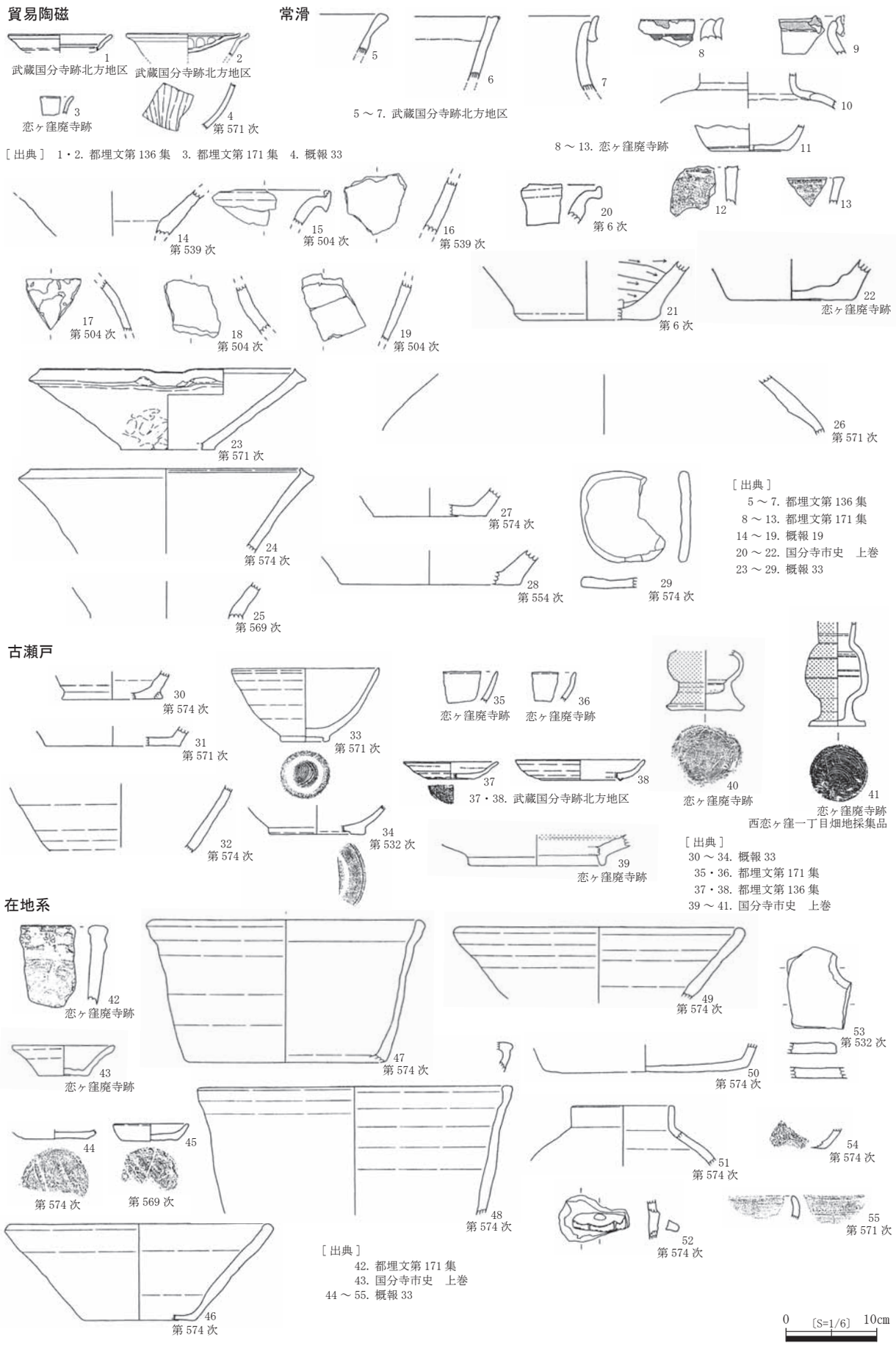
第 62 図　恋ヶ窪廃寺跡と周辺の中世遺構群

恋ヶ窪廃寺に関わる主な調査一覧

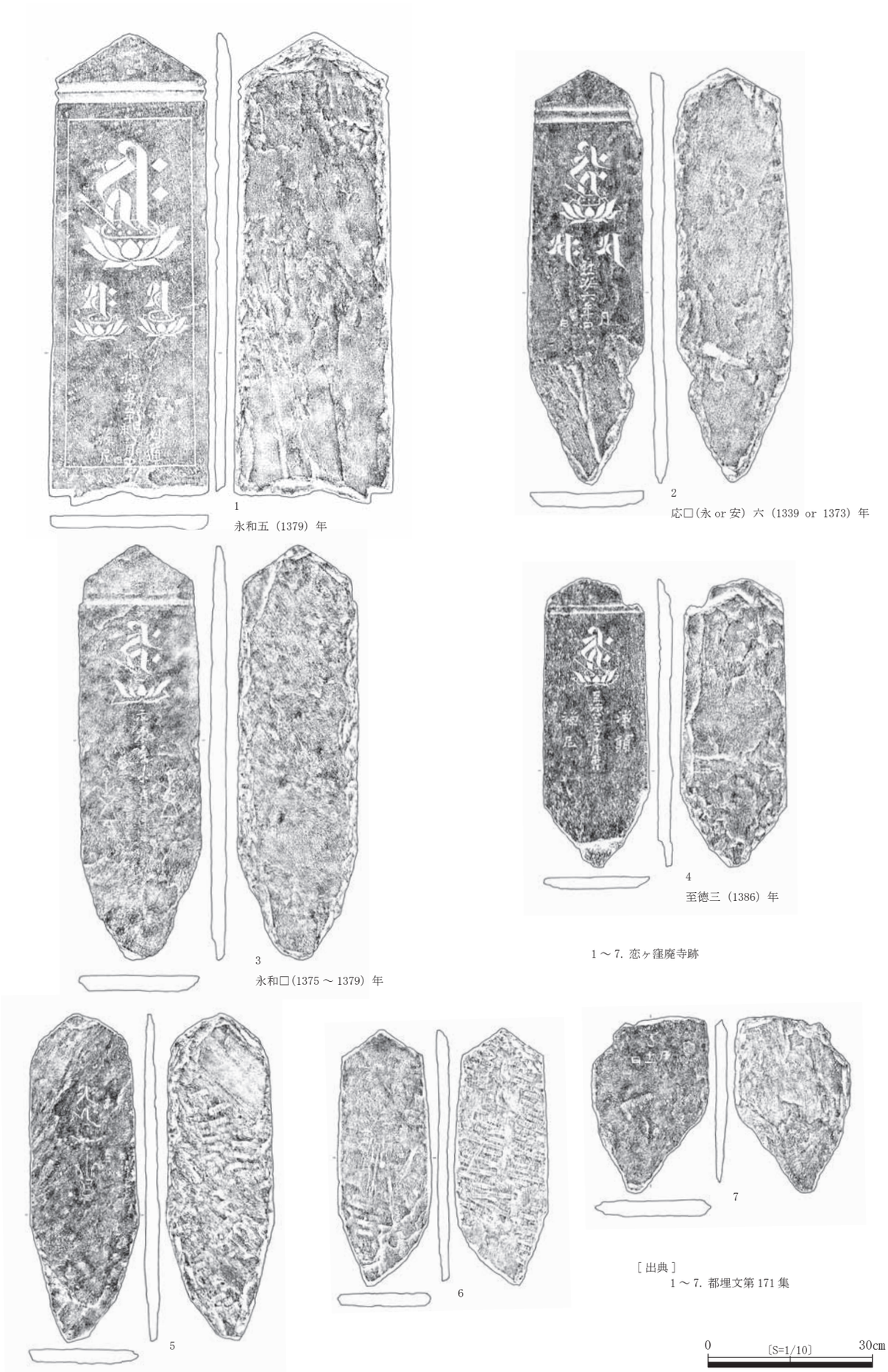
調査次数（名称）	調査年	歴史時代検出遺構	報告書
（恋ヶ窪廃寺第1次）	1971	礎石を伴う土壇状建物1	滝口他1972
武蔵国分寺跡第16次（恋ヶ窪廃寺第2次）	1976	礎石を伴う土壇状建物1，掘立柱建物3，溝1，土坑1，土壙墓2	早川他1976
武蔵国分寺跡第71次（公共下水南部15号）	1978	土坑1	上敷領・木下1998
武蔵国分寺跡第99次（公共下水南部15号）	1979	溝1，土坑1	上敷領・木下1998
武蔵国分寺跡第104次（恋ヶ窪廃寺第3次）	1980	柵列3，溝2，土坑7，火葬墓4，土壙墓10	未報告
武蔵国分寺跡第130次（恋ヶ窪廃寺第4次）	1981	溝1，土坑3	未報告
武蔵国分寺跡第134次（恋ヶ窪廃寺第5次）	1981～1982	掘立柱建物3，柵列2，溝1，土坑7，火葬墓2，土橋状遺構1	未報告
	1987	溝2，土坑8，小穴	福田・上敷領1989
武蔵国分寺跡第531次（西国分寺駅東地区）	2001	土坑1，小穴1	板倉他2006
武蔵国分寺跡第532次（西国分寺駅東地区）	2001～2002	溝1，土坑2，小穴11	板倉他2006
武蔵国分寺跡第533次（西国分寺駅東地区）	2001	溝2，小穴11	板倉他2006
武蔵国分寺跡第534次（西国分寺駅東地区）	2002	土坑2，小穴9	板倉他2006
武蔵国分寺跡第569次（西国分寺駅東地区）	2003～2004	道路1，溝5，火葬墓・土壙墓20，性格不明遺構1，小穴42	板倉他2006
武蔵国分寺跡第571次（西国分寺駅東地区）	2004	掘立柱建物1，柵列3，溝1，土坑46，井戸1，火葬墓・土壙墓6，性格不明遺構8，小穴301	板倉他2006
武蔵国分寺跡第572次（西国分寺駅東地区）	2004	道路1	板倉他2006
武蔵国分寺跡第574次（西国分寺駅東地区）	2004	溝1，土坑12，道路1，性格不明遺構11，小穴63	板倉他2006
都埋文第171集（恋ヶ窪廃寺）	2004～2005	土坑4，火葬墓2，溝8（方形周溝遺構1，道路1を含む），小穴77	竹田2005



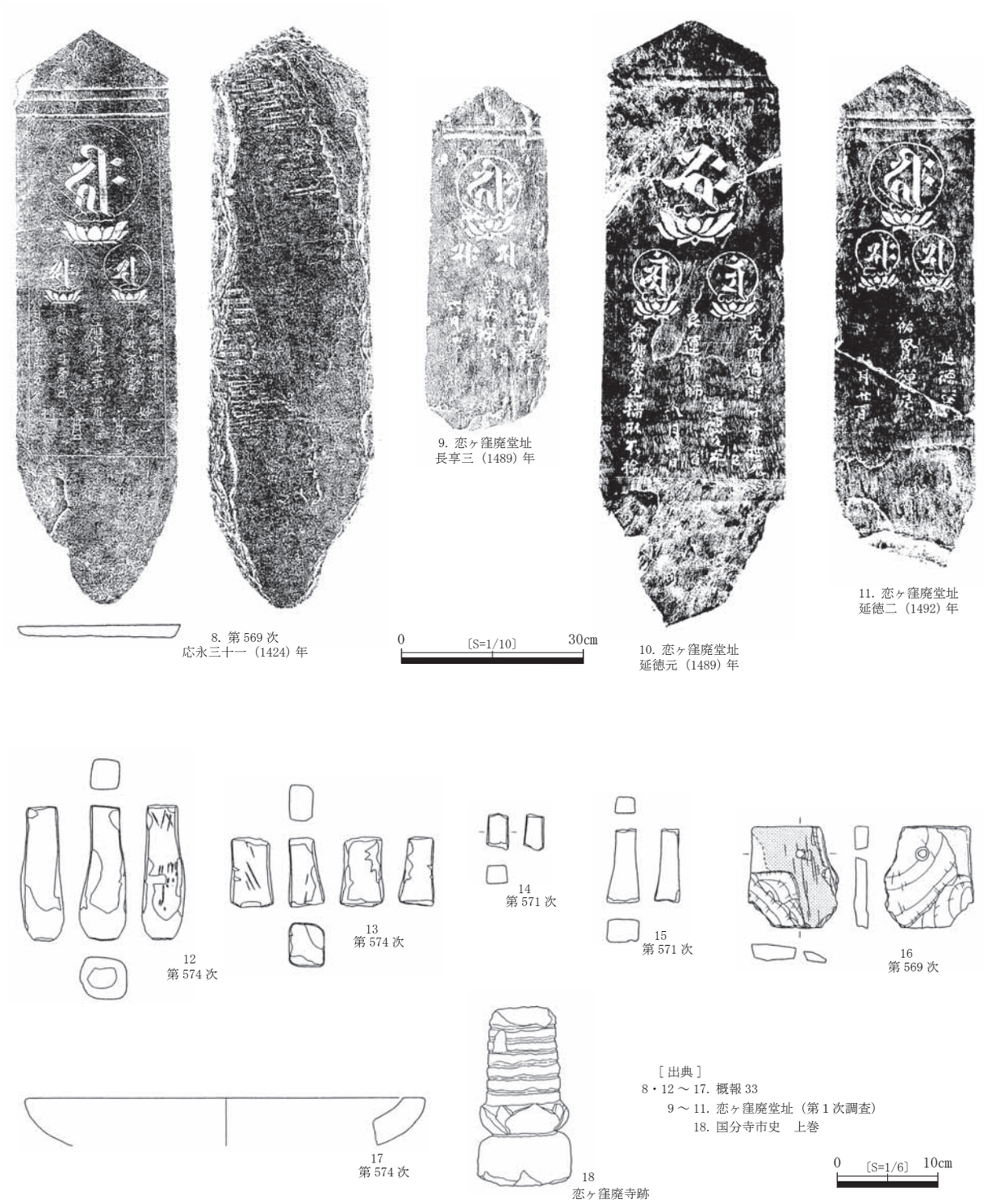
第63図　恋ヶ窪廃寺跡　全体図



第 64 図　恋ヶ窪廃寺跡周辺出土の中世遺物 -1（土器・陶磁器）



第 65 図　恋ヶ窪廃寺跡周辺出土の中世遺物 -2（石塔）



第 66 図　恋ヶ窪廃寺跡周辺出土の中世遺物 -3（石塔・石製品）

字名＼年	1678年（延宝6）	1678年（延宝6）新田	1678年（延宝6）検地帳	1733年（享保18）	1733年（元文元）	1752年（宝暦2）新田	1757年（宝暦7）新田	1869年（明治2）	番号
赤はけ（※明治２：赤破下）	●							●	㊿①
市海道	●							●	㉔
井戸久保	●							●	㉕
大橋	●		●					●	㊼
押切間	●		●					●	⑭
川久保	●		●					●	㊲
こしまき	●							●	㊹
こはね沢	●							●	㊸
出口	●							●	㉙
八幡前	●							●	㉓
花ノ木	●							●	㉛
富士塚之下	●								
堀之内	●		●					●	⑮
向田	●		●					●	㊿
屋敷廻（屋鋪廻）	●							●	⑯
一り山（一里山）	●	●	●					●	㉟
井戸尻	●	●	●					●	㉖
金突堂（かねつき堂）	●	●	●					●	㉒
恋ヶ久保境	●	●	●					●	②
とうか森	●	●	●					●	㉜
殿ヶ谷戸（※明治２：殿ヶ谷）	●	●	●					●	㊹
長谷戸	●	●						●	㊶
富士塚	●	●	●					●	㉑
細ノ入	●	●						●	⑬
堀ぶち	●	●	●					●	㉗
大橋台	●	●		●	●			●	㊽
姥ヶ谷戸	●			●				●	㊽
細入	●			●				●	⑫
くろかね（黒鐘）	●		●	●	●			●	④
丸山下	●			●	●			●	㊸
石釜	●					●		●	㉘
新井久保		●	●					●	㊴
一里塚		●						●	㉞
川越道東		●	●					●	⑥
恋ヶ久保田場		●	●						
滝久保		●	●					●	⑦
長谷下		●						●	㊵

字名＼年	1678年（延宝6）	1678年（延宝6）新田	1678年（延宝6）検地帳	1733年（享保18）	1733年（元文元）	1752年（宝暦2）新田	1757年（宝暦7）新田	1869年（明治2）	番号
古宿		●	●					●	㉝
前野		●						●	㉚
泪こほし		●	●	●				●	⑪
川越道西		●	●	●	●			●	①
壱番久保				●				●	㊻
花沢				●				●	㊷
花沢台				●				●	⑩
明王下				●				●	⑧
谷田破下				●					
壱番窪府中道より西ノ方					●				
姥ヶ谷戸ノ上					●				
諏訪之上					●			●	㊾
本多新田之内府中道より西之方					●				
神明山							●		
丸山							●	●	㊺
いなぶりど			●						
上野			●						
□（押）切間下			●						
川越道			●						
三王塚之上			●						
新久保			●						
はけ通			●						
はね沢			●						
姥ヶ谷								●	㊷
鎌倉街道より西								●	⑤
川久保台			●					●	㊳
（仲右衛門新田）字神明山								●	㊺
北川久保								●	㊻
恋ヶ窪台								●	③
恋ヶ窪田端上								●	⑨
中丸								●	⑰
長谷								●	㊱
本多新田江入込府中道西								●	㊼
八ツ田はけ								●	㊾
野銭山（※明治２：山銭場）			●					●	⑱
屋敷（屋鋪）			●					●	⑳
屋敷付除藪（※明治２：除藪）			●					●	⑲

第67図　国分寺村の字別開発と国分寺村絵図（明治２年）

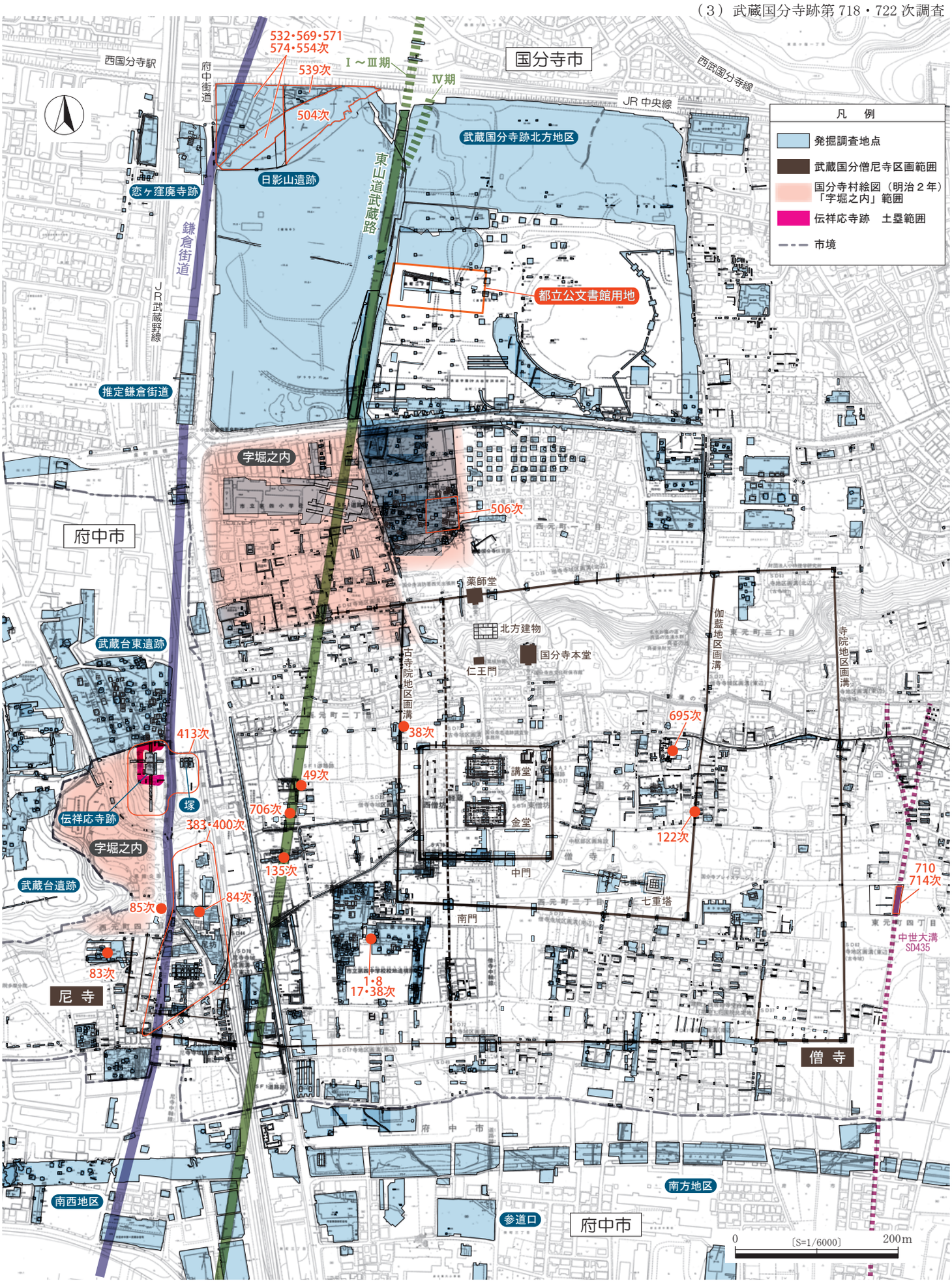
国分寺村絵図（明治２年９月）

※ ❶･･･延宝６（1678）年の検地帳に見られる小名（小字）。

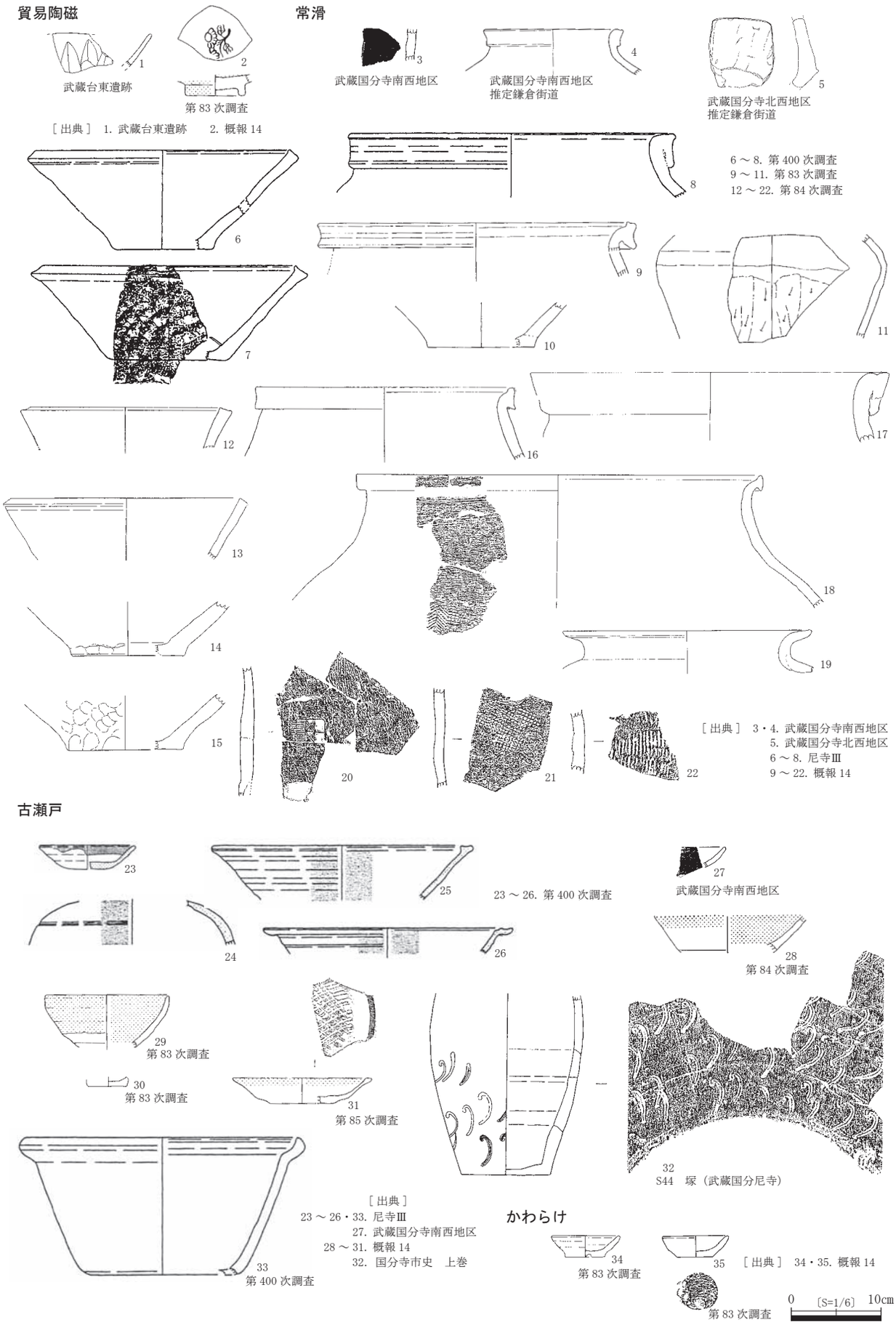
（注１）左表は、大澤1990文献の「表7　国分寺村の字別開発」に、「1678（延宝６）年検地帳」と「1869巳（明治２）年」を加筆したもので、表中の黒丸印は当該年の古文書に左欄の地名（字名）表記が確認されることを意味する。また、「番号」蘭の丸数字は、右図の国分寺村絵図中の丸数字と対応関係にある。
　大澤理恵1990「第１章　近世初期の村落　第２節　検地と村落」『国分寺市史　中巻』

（注２）「1678年検地帳」の地名は、国分寺市史編さん委員会編1982『国分寺市史料集Ⅱ』所収の以下の出典文書から書き起こした（一部欠損している史料もある）。
　一．検地帳（本多幸次家）
　二．武州多摩郡府中領国分寺村御検地水帳（本多良雄家）
　三．武州多摩郡府中領国分寺村屋鋪御検地水帳（小柳亨司家）
　四．国分寺村野銭山屋敷除籔御検地水帳（本多幸次家）
　五．武州多摩郡府中領国分寺村之内薬師堂領御検地水帳（坂本義政家）
　六．武州多摩郡府中領国分寺村新田御検地水帳（本多良雄家）

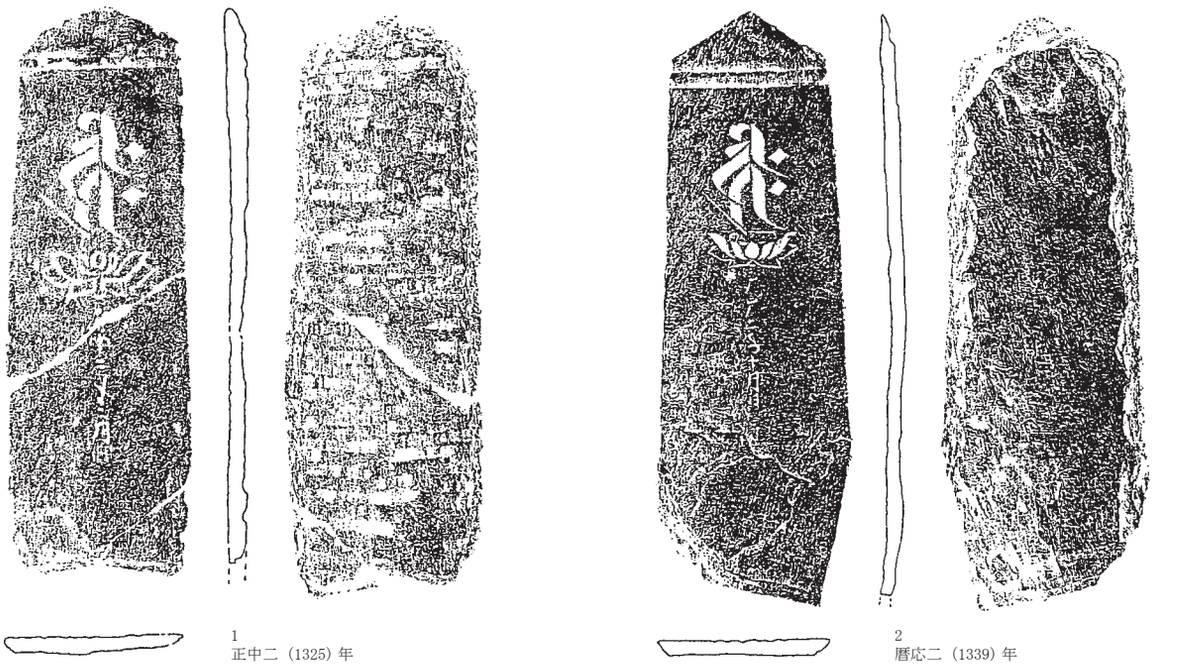
（注３）左表中の字名のうち、「赤はけ」から「丸山」までは、天保14年（1843）「国分寺村同所新田高段別小前帳」（国分寺市史編さん委員会編『国分寺市史料目録Ⅰ』1979の60頁、本多良雄家文書土地99号）に拠るが、同文書の翻刻資料は未公表である。



第 68 図　武蔵国分寺跡周辺の中世遺物出土地点と国分寺村絵図（明治２年）「字堀之内」範囲



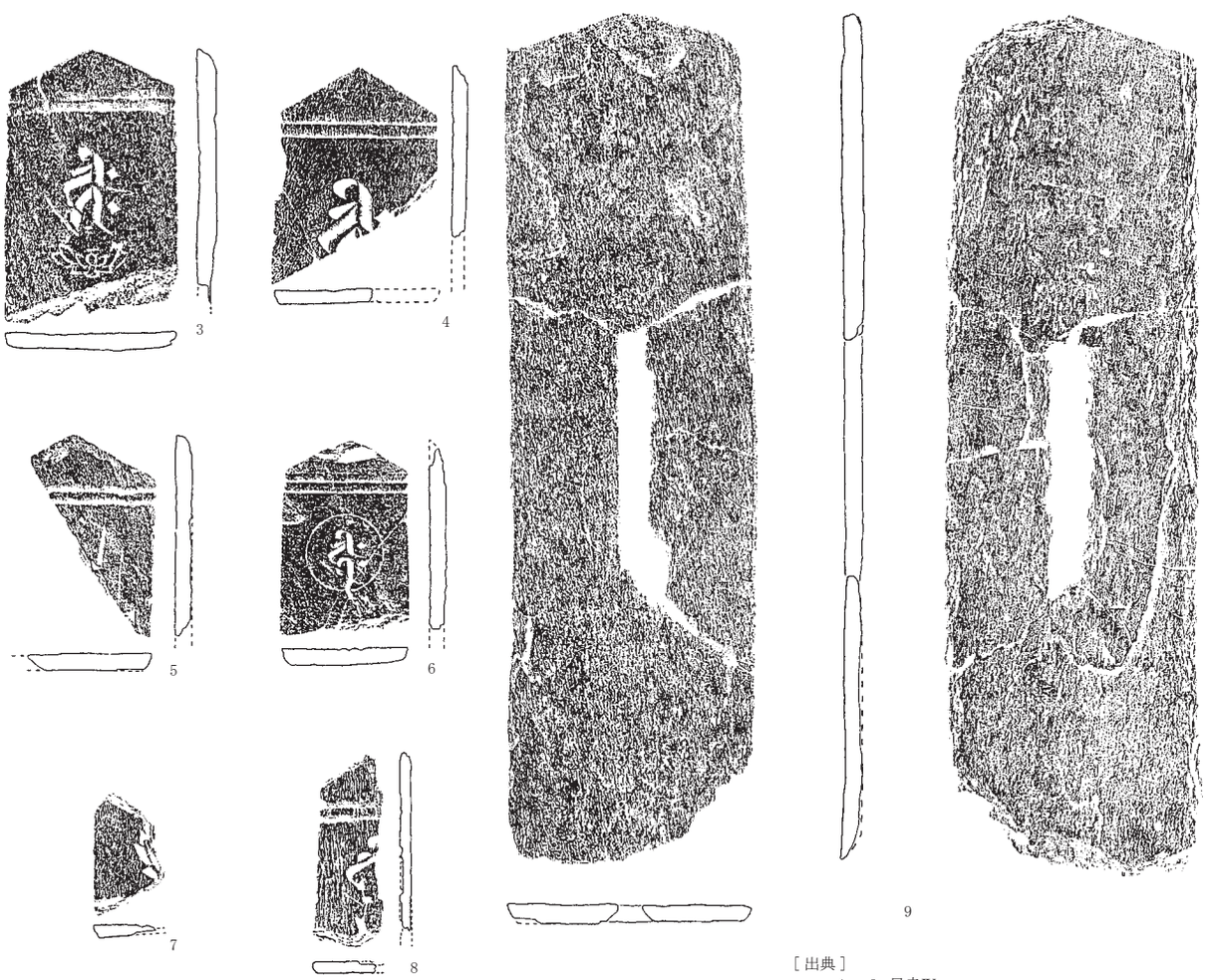
第 69 図　伝祥応寺跡周辺出土の中世遺物 -1（土器・陶磁器）



1
正中二（1325）年

2
暦応二（1339）年

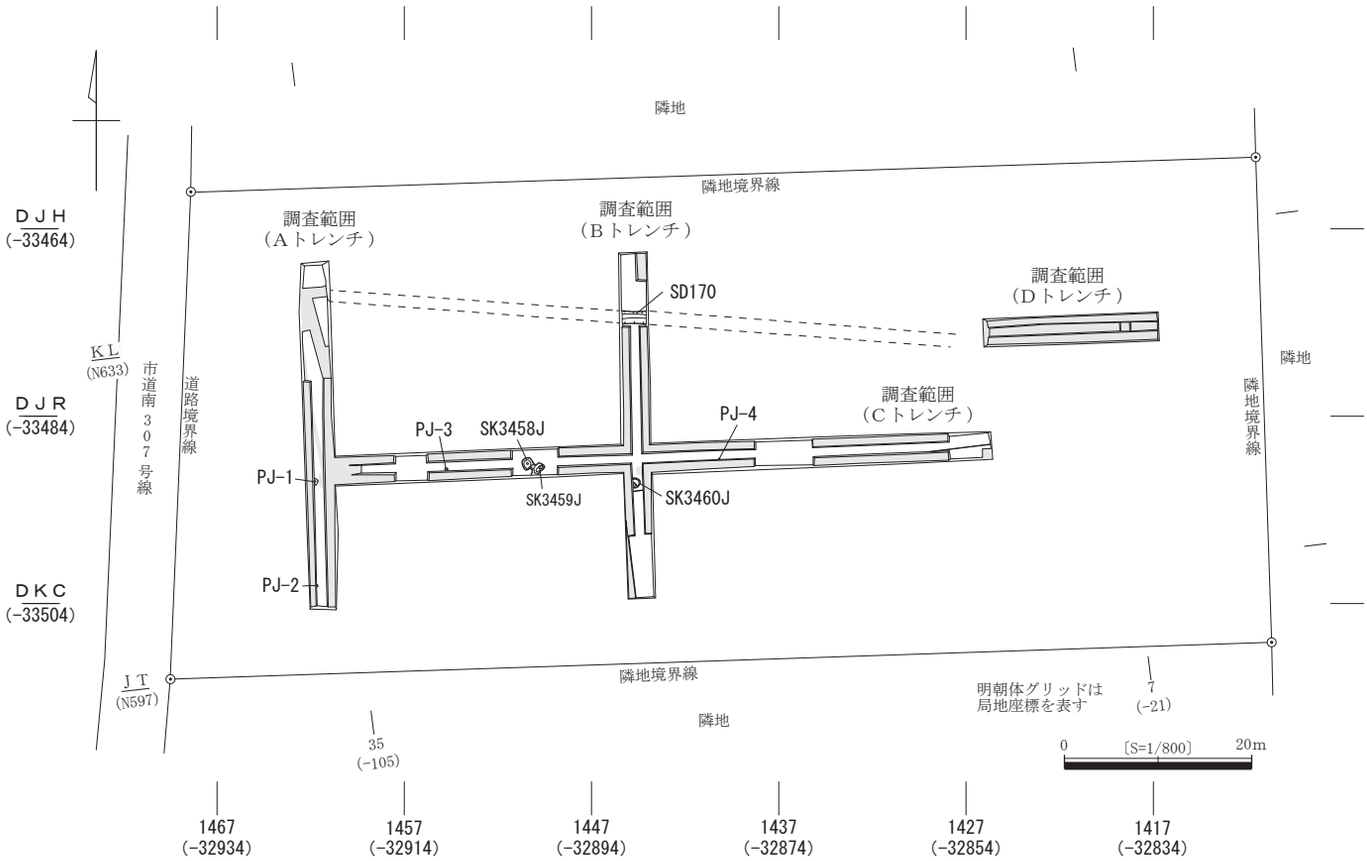
1 ～ 9. 第 413 次



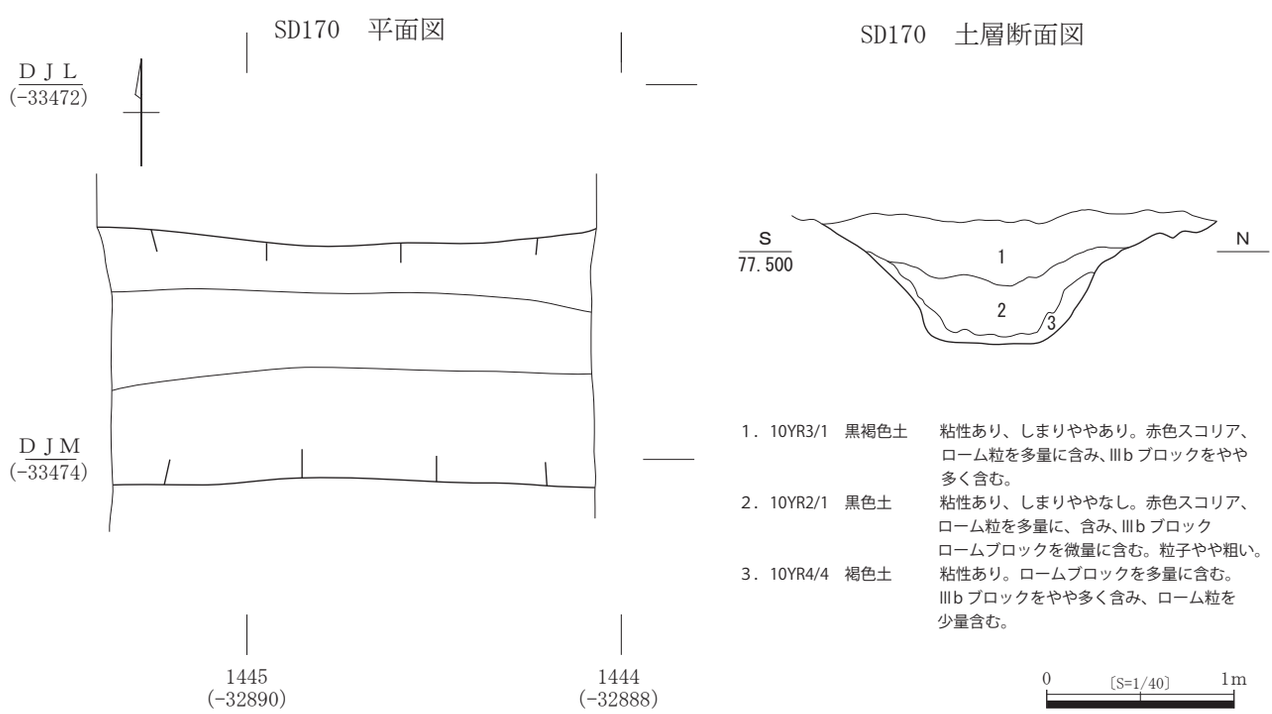
［出典］
1 ～ 9. 尼寺Ⅳ

0 〔S=1/10〕 30cm

第 70 図　伝祥応寺跡周辺出土の中世遺物 -2（石塔）

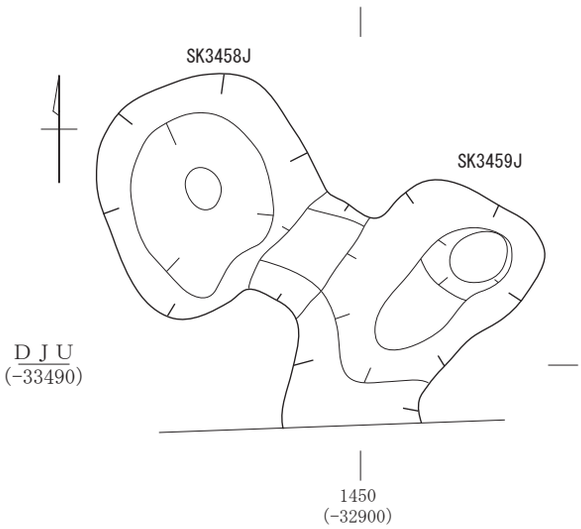


第 71 図　ＭＫⅣ－ 718　調査区全体図

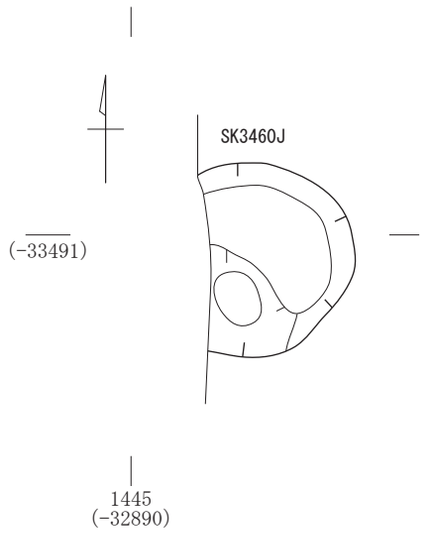


第 72 図　ＭＫⅣ－ 718　SD170　平面・断面図

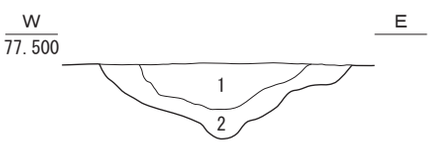
MKⅣ－718　SK3458J・SK3459J　平面図



MKⅣ－718　SK3460J　平面図

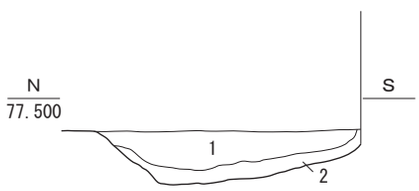


SK3458J　土層断面図



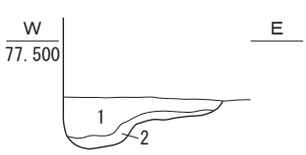
1．10YR3/2　黒褐色土　粘性あり、しまりあり。赤色スコリア、ローム粒、ロームブロックを微量含む。
2．10YR4/4　褐色土　粘性あり、しまりあり。ローム粒、ロームブロックをやや多く含み、黒色スコリアを微量含む。

SK3459J　土層断面図

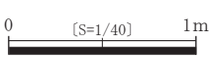


1．10YR2/2　黒褐色土　粘性あり、しまりあり。赤色スコリア、ローム粒を少量含み、黒色スコリア、ロームブロックを微量に含む。
2．10YR5/6　黄褐色土　粘性あり、しまりあり。ローム粒、ロームブロックを多量に、黒色スコリアを少量含む。

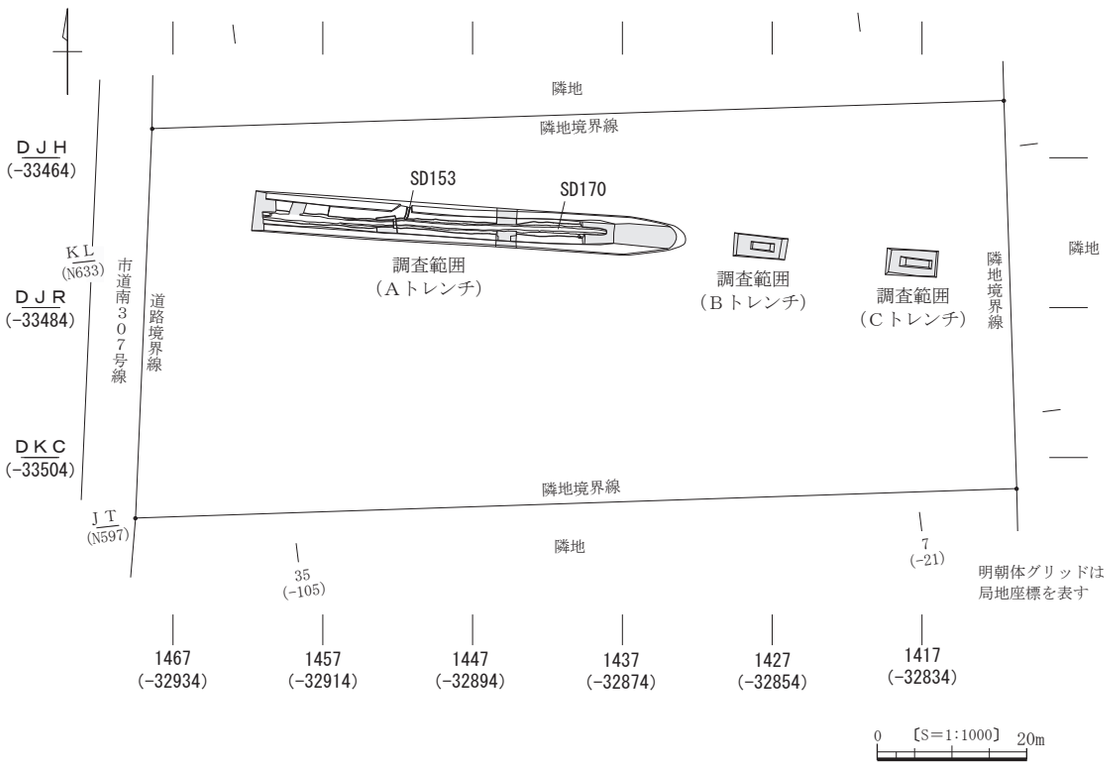
SK3460 J　土層断面図



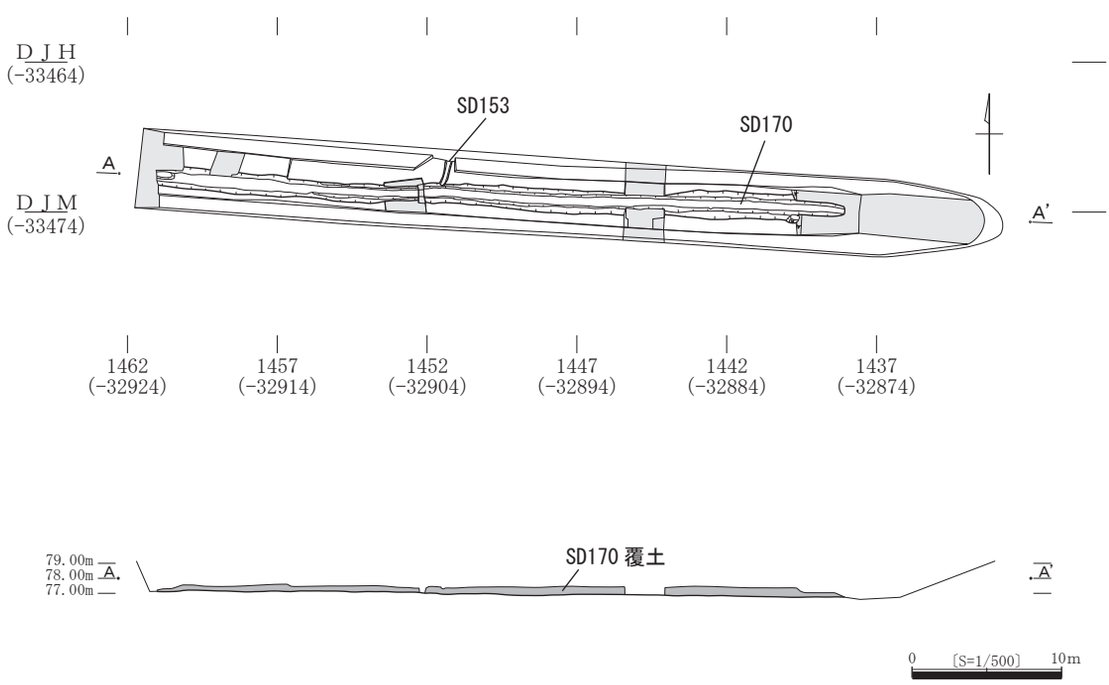
1．10YR2/3　黒褐色土　粘性あり、しまりあり。赤色スコリア、黒色スコリアをやや多く含む。
2．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり、しまりあり。ロームブロックを多量に含み、赤色スコリア、黒色スコリアを少量含む。



第 73 図　ＭＫⅣ－ 718　縄文時代遺構　平面・断面図

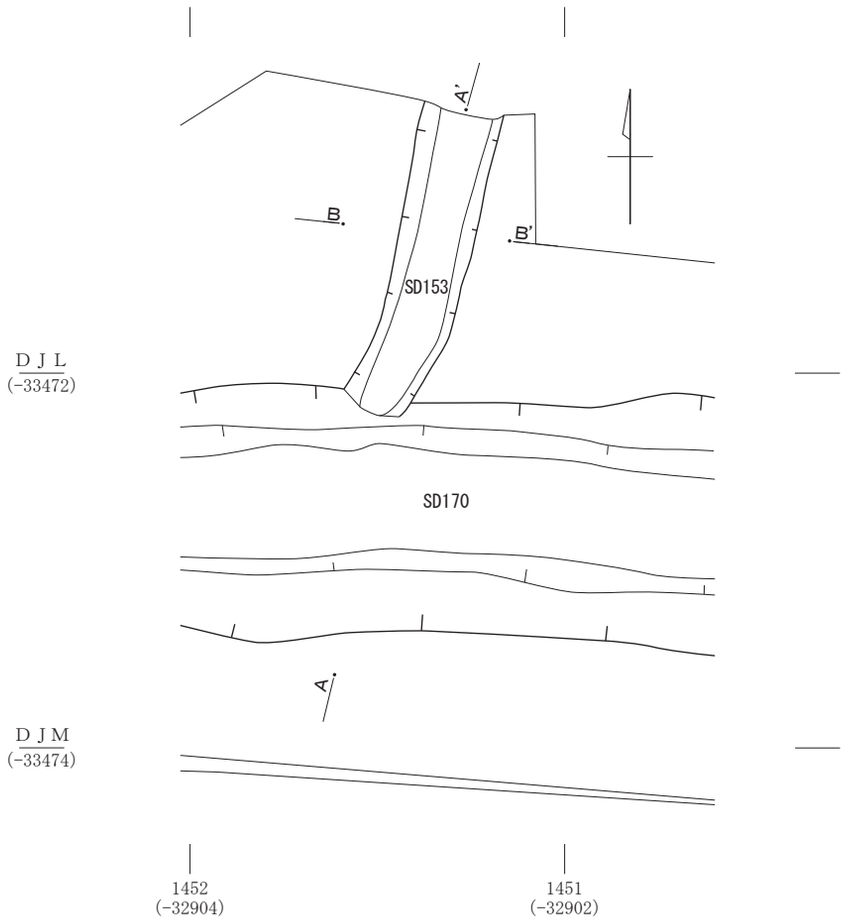


第 74 図　ＭＫⅣ－ 722　調査区全体図

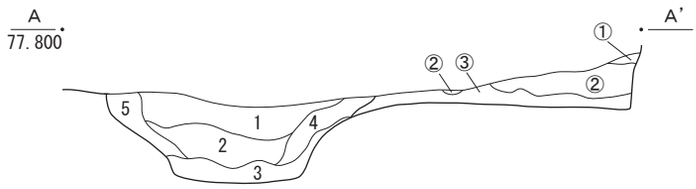


第 75 図　ＭＫⅣ－ 722　SD170　平面・断面図

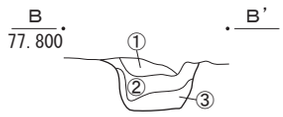
ＭＫⅣ－722　SD153　SD170　平面図



ＭＫⅣ－722　SD170　土層断面図



ＭＫⅣ－722　SD153　土層断面図

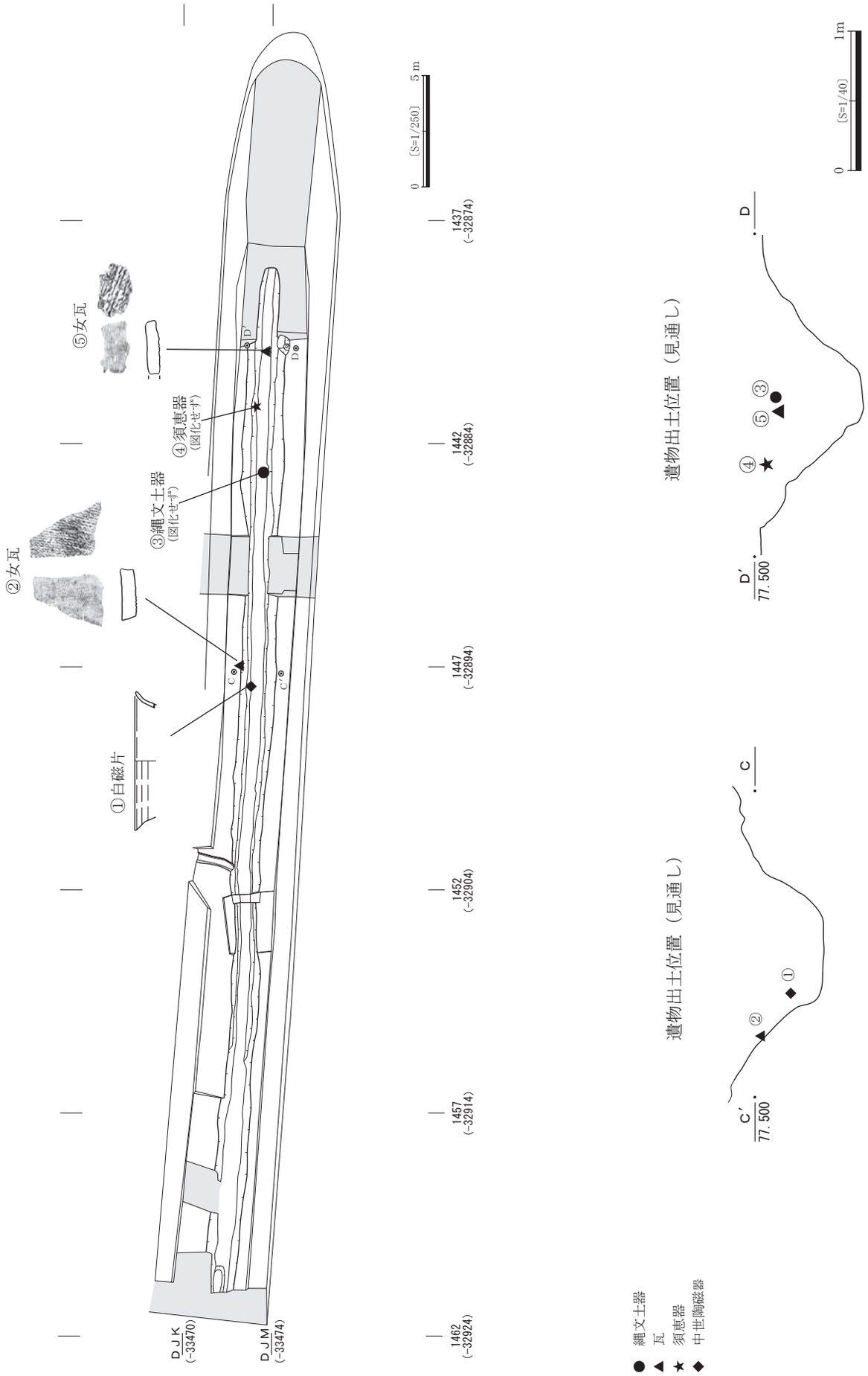


SD153
①．10YR3/1　粘性ややあり、しまりあり。ローム粒、赤スコリアを少量含み、粒子やや粗い。
②．10YR3/2　粘性ややあり、しまりあり。ローム粒、赤スコリアを微量、直径１㎝～３㎝のⅢｂブロックを少量含む。
③．10YR4/2　粘性あり、しまりあり。ローム粒、赤スコリアを微量、ロームブロックを少量、Ⅲｂブロックを多量に含む。

SD170
１．10YR3/2　粘性ややあり、しまりややあり。ローム粒、赤スコリアを多く含む。
２．10YR3/1　粘性有あり、しまりあり。ローム粒を多く、赤スコリアを少量、直径１㎝のⅢｂブロックを微量に含む。
３．10YR3/3　粘性あり、しまりややあり。ロームブロックを多量、ローム粒、赤スコリアを少量含み、全体的に粒子あらい。
４．10YR3/1　粘性あり、しまりあり。ローム粒を多量、赤スコリアを少量、直径１㎝～５㎝のⅢｂブロックを少量含む。
５．10YR3/4　粘性あり、しまりあり。直径１㎝～３㎝のⅢｂブロック、ロームブロックを多く、ローム粒、赤スコリアを少量含む。

0　〔S=1/40〕　1m

第 76 図　ＭＫⅣ－ 722　SD153・170　平面・断面図



第 77 図　ＭＫⅣ－ 722　遺物出土位置図

第 78 図　ＭＫⅣ－ 718　Ａトレンチ全景（南から）

第 79 図　ＭＫⅣ－ 718　Ｂトレンチ全景（北から）

第 80 図　ＭＫⅣ－ 718　Ｃトレンチ全景（東から）

第 81 図　ＭＫⅣ－ 718　Ｃトレンチ全景（西から）

第 82 図　SD170 確認状況（北から）

第 83 図　SD170 完掘全景（南から）

第 84 図　SD170 土層断面（西から）

第 85 図　SK3458J・3459J 完掘全景（西から）

第 86 図　SK3458J 土層断面（南から）

第 87 図　SK3459J 土層断面（西から）

第 88 図　SK3460J 完掘全景（西から）

第 89 図　SK3460J 土層断面（南から）

第 90 図　ＭＫⅣ－ 722　Ａトレンチ完掘全景
（東から）

第 91 図　ＭＫⅣ－ 722　Ａトレンチ完掘全景
（西から）

第 92 図　SD170 完掘全景（西から）

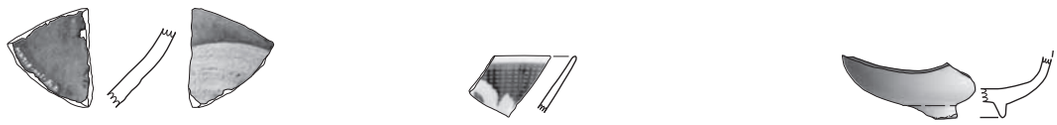
第 93 図　SD170 完掘全景（東から）

第 94 図　SD170 土層断面及び白磁出土状況(西から)

第 95 図　SD170・SD3 土層断面（東から）

第 96 図　SD3 土層断面（南から）

第 97 図　SD170 遺物出土状況（東から）



1
718-PT01

2
718-PT02

3
718-PT03

第 98 図　ＭＫⅣ－ 718　出土遺物実測図（歴史時代）

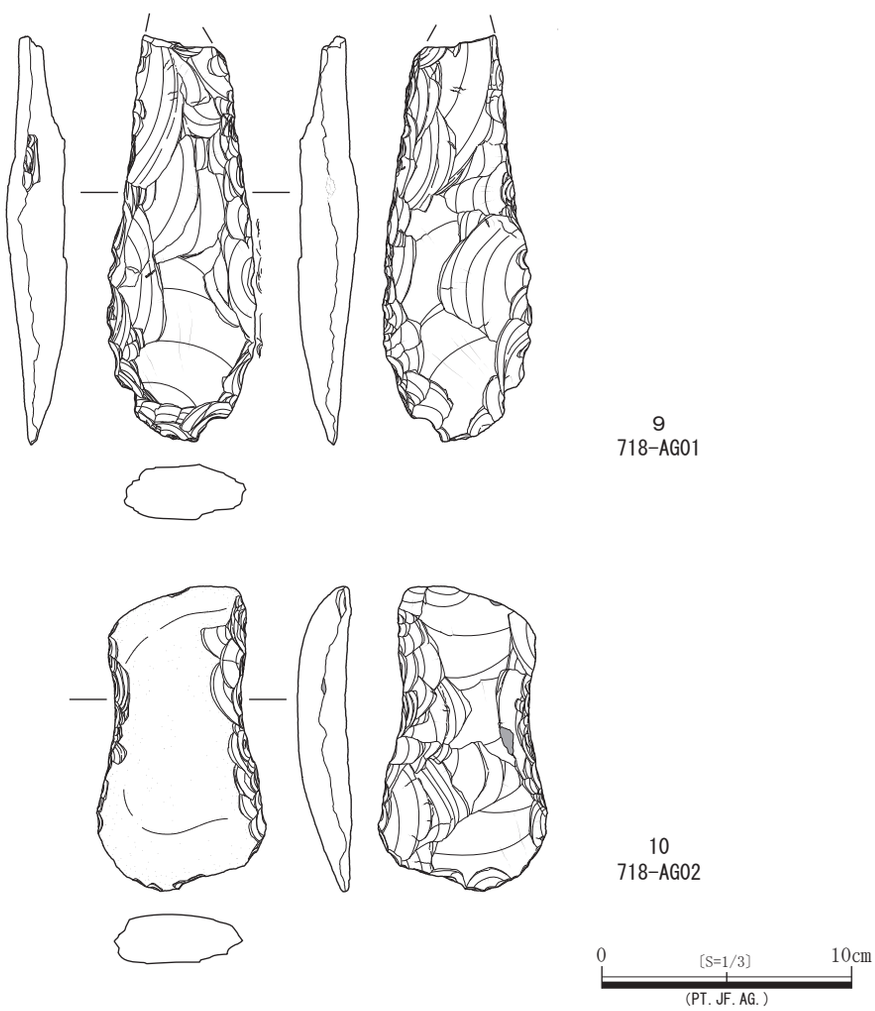
4
718-JF01

5
718-JF02

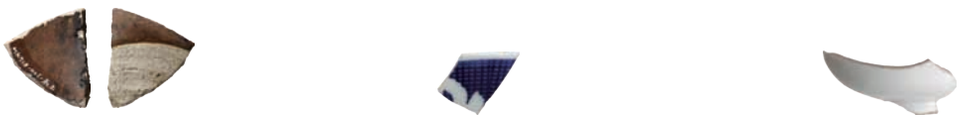
6
718-JJ01

7
718-JJ02

8
718-JJ03



第 99 図　ＭＫⅣ－ 718　出土遺物実測図（縄文時代）



1
718-PT01

2
718-PT02

3
718-PT03

第 100 図　ＭＫⅣ－ 718　出土遺物写真（歴史時代）

4
718-JF01

5
718-JF02

6
718-JJ01

7
718-JJ02

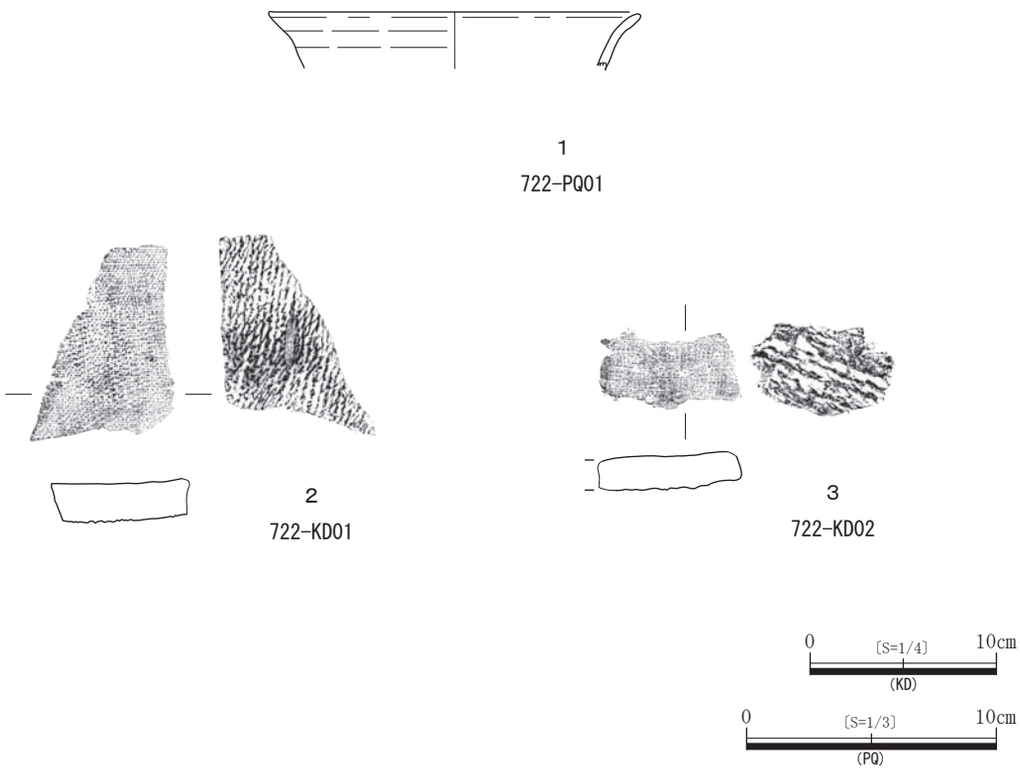
8
718-JJ03

9
718-AG01

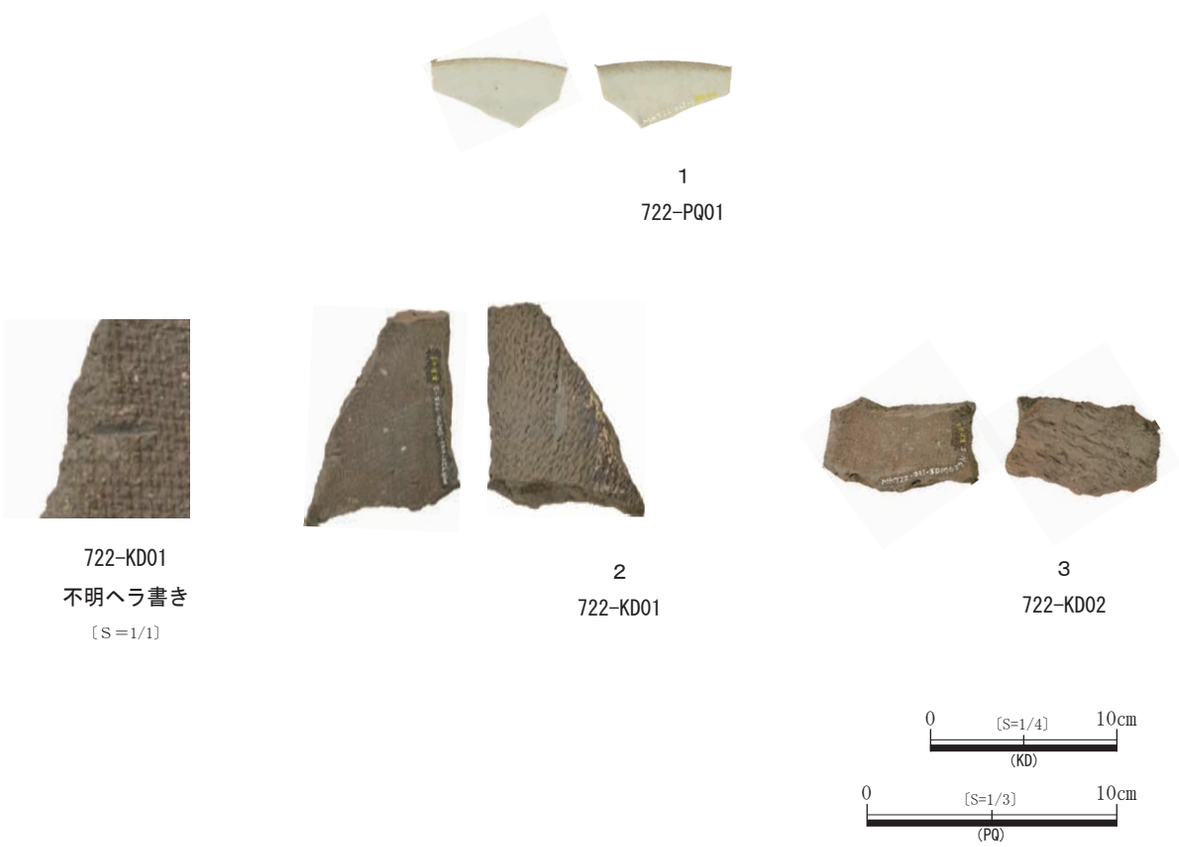
10
718-AG02

0　〔S=1/3〕　10cm
（PT. JF. AG.）

第 101 図　ＭＫⅣ－ 718　出土遺物写真（縄文時代）



第 102 図　ＭＫⅣ－ 722　出土遺物実測図



第 103 図　ＭＫⅣ－ 722　出土遺物写真

第 18 表　ＭＫⅣ－ 718・722　遺物観察表

ＭＫⅢ－ 718　歴史時代　陶　器

番号 遺物番号	種別 器種	出土 位置	器厚 (mm)	文様構成・文様要素・要素の種類	残量	備考
1 PT01	天目茶碗	表土	5.42	体部片。内外面に濃茶色の鉄釉を施す。体部下半は露胎。	体部	瀬戸・美濃。
2 PT02	染付 碗	表土	2.38	酸化コバルト絵具で体部外面に文様描く。	口縁	19 世紀後半以降。
3 PT03	白磁 碗	表土	4.65	体部外面に色絵あり。	底部片	19 世紀後半以降。

ＭＫⅣ－ 718　縄文時代　土　器

番号 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
4 JF01	深鉢	表土	— (3.1) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面はナデと思われる。外面は不鮮明であるが縦位の縄文 L を地文とし、沈線による懸垂文が施される。	加曽利 E2 ～ 3。内面はにぶい黄 (2.5Y6/4)、外面は明褐色 (7.5YR5/6) を呈する。長石、石英、雲母、角閃石を含む。焼成は良好。
5 JF02	深鉢	SD	— (4.6) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は丁寧な磨き。外面は縦位の縄文 LR を地文とし、沈線と磨消縄文による懸垂文を施す。	加曽利 E3。内面は黄褐色 (2.5Y5/3)、外面はにぶい黄色 (2.5Y6/4) を呈する。長石、石英、角閃石、小石を含む。焼成は良好。
6 JJ01	深鉢	SD	— (1.4) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は未調整。外面は不鮮明だが縦位の縄文 LR が右端に施されると思われる。	型式不明。中期か。褐色 (7.5YR4/6) を呈する。長石、石英、角閃石、小石を含む。焼成は良好。
7 JJ02	深鉢	SD	— (2.4) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は未調整。外面はナデで無文。	型式不明。中期か。褐色 (7.5YR4/4) を呈する。長石、石英、小石を含む。焼成は良好。
8 JJ03	深鉢	Ⅲ層	— (1.9) —	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は未調整。外面はナデで無文。	型式不明。中期か。褐色 (7.5YR4/6) を呈する。長石、石英、小石を含む。焼成は良好。

ＭＫⅣ－ 718　縄文時代　石　器

番号 遺物番号	種別 器種	出土 位置	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石材	備考
9 AG01	打製石斧	Ⅲ層	(16.3)	6.0	2.5	232.6	基部一部欠損	頁岩	撥形。
10 AG02	打製石斧	Ⅲ層	12.2	6.8	2.2	197.4	完形	ホルンフェルス	分銅形。

ＭＫⅣ－ 722　歴史時代　磁　器

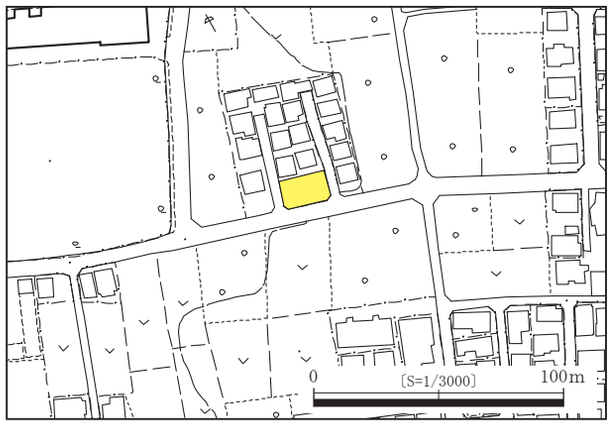
番号 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	残量	備考
1 PQ01	白磁 皿	SD01 覆土	((15.0)) (2.3) —	口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部の釉剥ぎ取り。	小片	大宰府分類白磁皿Ⅸ類。

ＭＫⅣ－ 722　歴史時代　女　瓦

番号 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長 (cm)	厚さ (cm)	成・整形の特徴						備考
				素材	凹面		凸面		端面	
					布目	特徴	叩き	特徴	特徴	
2 KD01	SD170 覆土	— — (11.5)	2.0	—	22×21	不明ヘラ書き？あり。	縄目 L10	一部に指ナデ。	—	灰色 5Y4.5/1。堅い。焼成普通。微砂粒多量、1 ～ 7 ㎜角礫少量。
3 KD02	SD170 覆土	— — (4.8)	1.7	—	23×23	側端縁ヘラケズリ。	縄目 R6	側端縁無調整。表面の摩耗激しい。	側端面ヘラケズリ。	暗灰黄色 2.5Y5/2。堅い。焼成普通。微砂粒やや多量、1 ～ 5 ㎜角礫少量。

（４）武蔵国分寺跡第 719 次調査

所 在 地	西元町三丁目 10-4		
調査原因	分譲住宅建設	調査種別	確認調査
調査費用	国庫補助等	調査体制	委託
調査期間	平成 28 年 10 月 24 日から 11 月８日		
調査面積	11.39 ㎡	遺物箱数	１箱
検出遺構	SK3457、P-1・2		
主な遺物	土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・瓦、近世陶磁器		



第 104 図　ＭＫⅢ－ 719　調査地位置図

【１．調査の目的と経緯】 本確認調査は、平成 28 年８月８日付国教教ふ収第 464 号法第 93 条第１項届出に基づき、市教委が調査会に委託して行ったものである。

調査区は、国分寺市西元町三丁目 10-4 に所在し、周知の埋蔵文化財包蔵地である武蔵国分寺跡（遺跡№.10・19）に該当する。同敷地内及び周辺で実施された発掘調査（武蔵国分寺跡第 21・36・234 次）では、複数の竪穴住居が検出されるなど、僧寺中心部に近いことからも遺構が密集している地域である。このため工事で予定されていた基礎敷設及び排水管埋設工事によって住居や土坑などの遺構が破壊される可能性があるため、より詳しく埋蔵文化財の内容・性格等を把握するために、確認調査を実施した。

調査面積は 11.39 ㎡である。現地調査は平成 28 年 10 月 24 日から同年 11 月８日（実働７日）まで実施した。

【２．検出された遺構と出土遺物】 調査区内は、地表より約 80 ～ 90 ㎝の深さまで、盛土・耕作土等による表土（基本層序Ⅰ層）に覆われていた。その下層から奈良・平安時代の遺構確認面である基本層序Ⅲｂ層が検出されたが、広範囲にわたって撹乱があり、調査区内のⅢｂ層は全体的に上方が大きく削平されている状況であった。このⅢｂ層で遺構の有無を確認したところ、土坑１基（SK3457）、小穴２個が検出された。

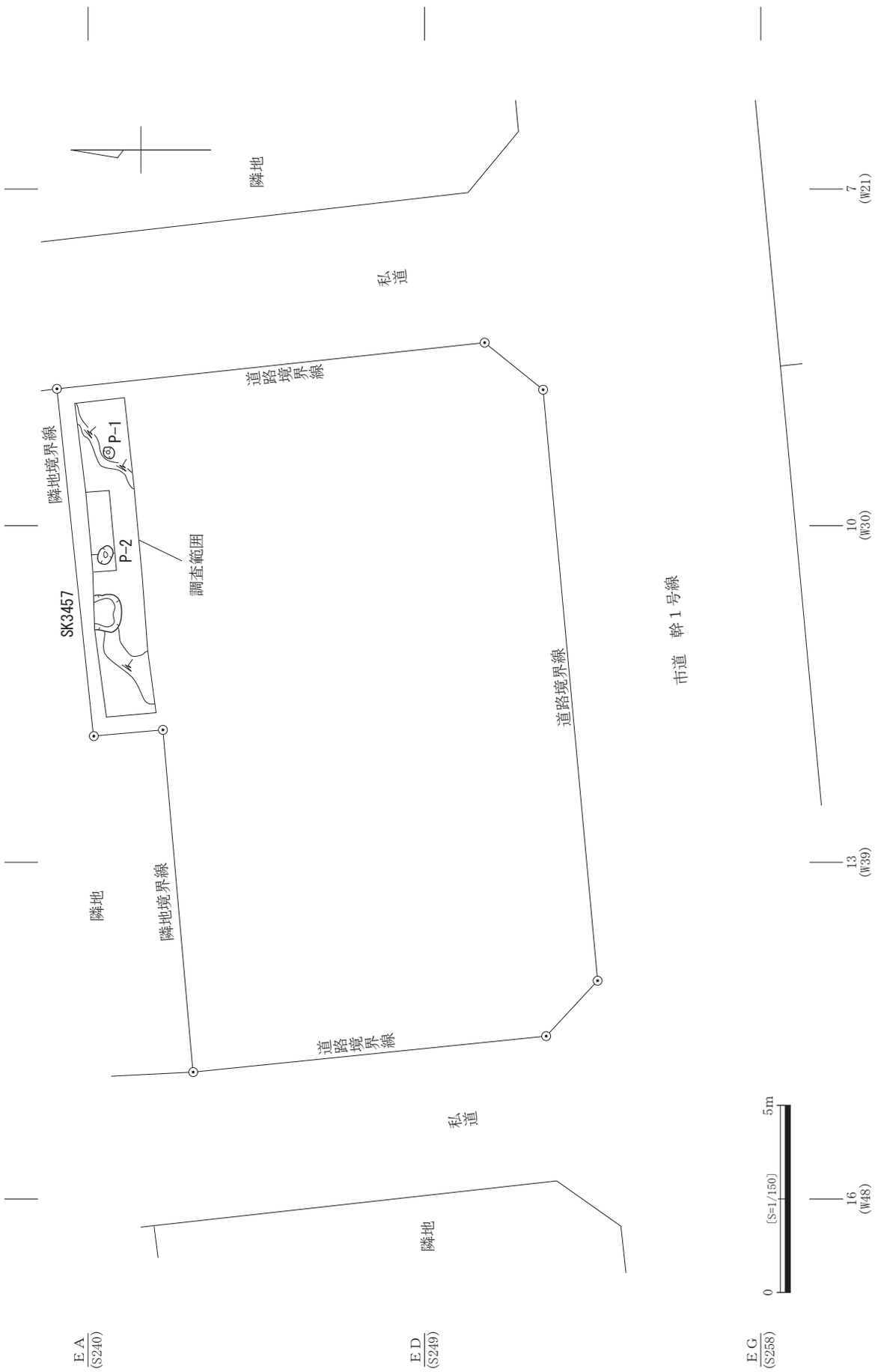
SK3457 土坑（第 109 図）

調査区の中央付近で検出されたが、遺構の北側は調査区外へと続いており、全体の規模は不明である。遺構の規模は、現状で東西約 75 ㎝、南北約 80 ㎝（以上）、確認面からの深さは約 45 ㎝である。

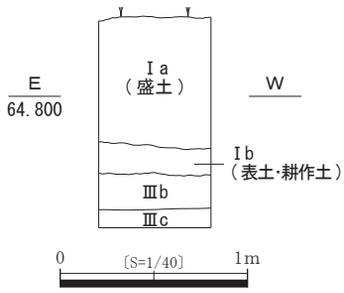
遺物は覆土から土師器や須恵器、瓦の破片が出土しているが図化し得なかった。

小穴（pit）1・2（第 109 図）

小穴は、調査区の中央付近（P2）と東側（P1）から１個ずつ検出された。P1 は直径約 30 ㎝の楕円形の平面形状を呈し、深さは８㎝ほどと浅いもので、遺物は検出されなかった。P2 は、直径約 40 ㎝のほぼ真円形で、深さは確認面から約 75 ㎝あった。深度から柱穴の可能性も考えられたが、明確な柱痕や抜き取り穴などは確認できなかった。覆土からは古代の遺物が供出している。このほか、調査区の表土から古代の緑釉陶器や灰釉陶器（１）などの土器片や瓦（２）、近世の陶磁器片などが出土している。



第 105 図　ＭＫⅢ－ 719　調査区全体図

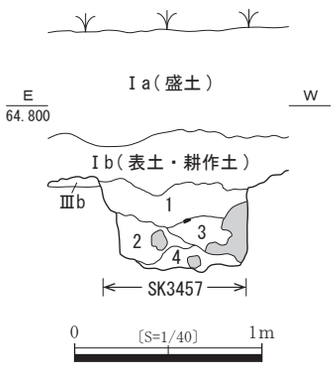


第 106 図　ＭＫⅣ－ 719
土層柱状図（北壁）

第 107 図　北壁土層
断面（南から）

第 108 図　ＭＫⅣ－ 719　調査区全景
（東から）

SK3457　土層断面図（東西）

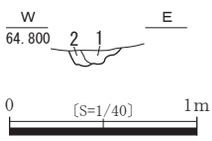


第 110 図　SK3457 断面（南から）

第 111 図　SK3457 調査区内完掘状況（南から）

1．10YR3/3　暗褐色土　　粘性ややあり、しまりややあり。上層からの転圧の影響を受け、上方はよく締まる。５～30 ㎜のロームブロックを西側にやや多量含む。ローム粒少量、炭化物微量、赤色スコリア微量含む。
2．10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性ややあり、しまりややあり。ローム粒、赤色スコリア微量含む。
3．10YR4/4　褐色土　　粘性なし、しまりあり。ローム粒やや多量、赤色スコリア微量含む。
4．10YR4/4　褐色土　　粘性なし、しまりなし。色味は３に似る。ローム粒多量含む。

P-1　土層断面図（東西）

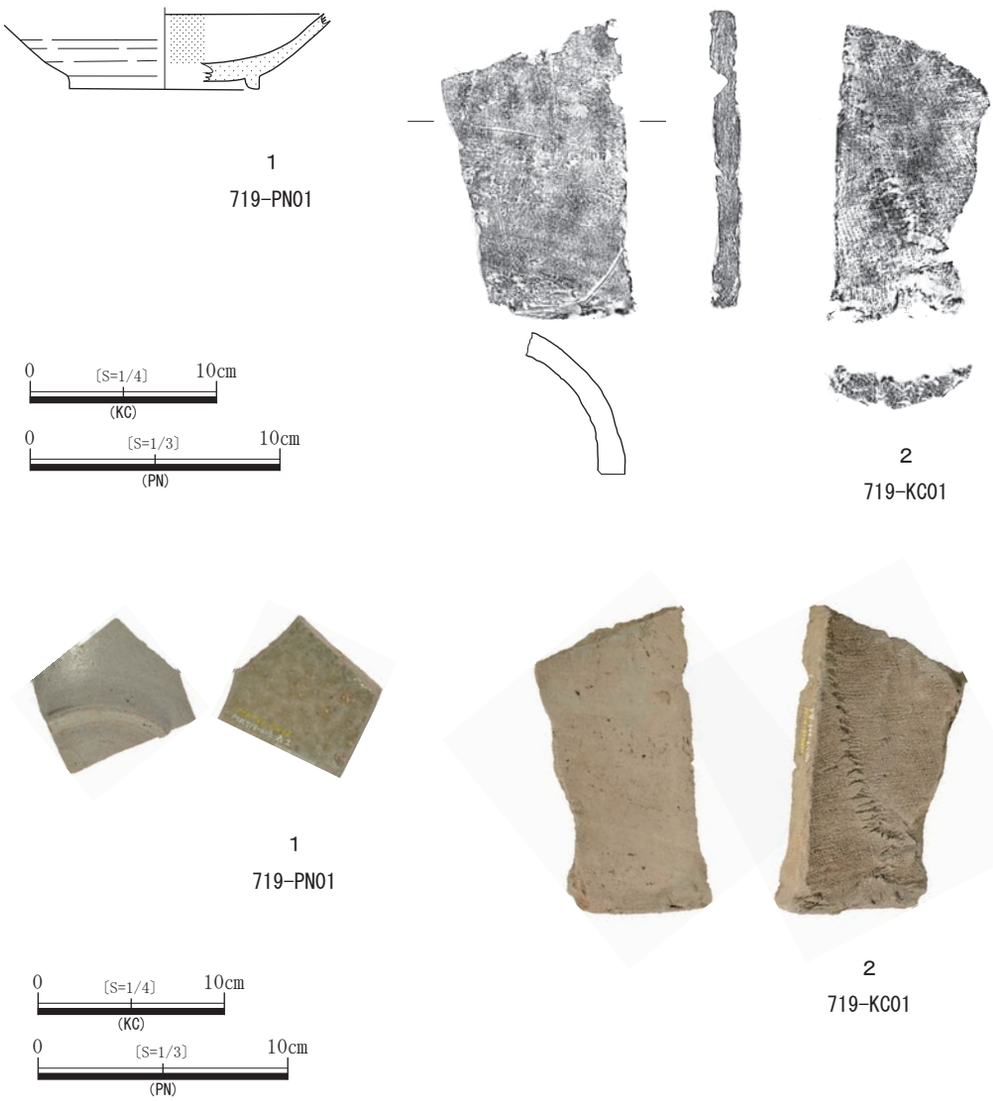


1．10YR2/2　黒褐色土　　粘性あり、極度にしまる（現代重機による）。下部にⅢ層１～３㎝ブロック、焼土粒を極微量含む。
2．10YR4/3　黄褐色土　　粘性あり、しまりⅠ層と同じ。Ⅲ層ブロックに黒褐色土が混じる。焼土粒を極微量含む。

第 109 図　ＭＫⅣ－ 719　遺構断面図

第 112 図　P-1 断面
（南から）

第 113 図　P-2 完掘状況
（東から）



第 114 図　ＭＫⅣ－ 719　出土遺物実測図（上）・出土遺物写真（下）

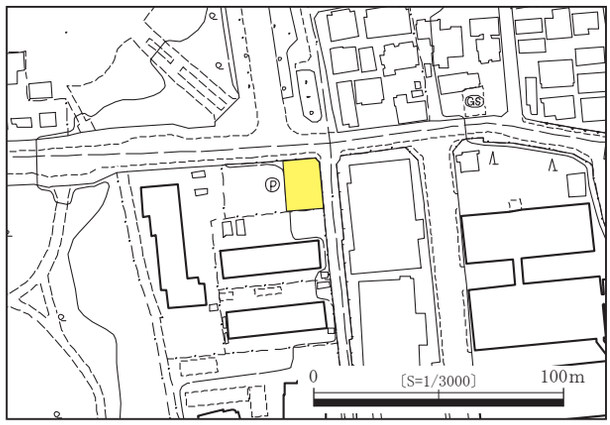
第 19 表　ＭＫＩ－ 719　遺物観察表

ＭＫⅣ－ 719			歴史時代　土　器					
番号 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径 高台高 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	残量	備考
1 PN01	灰釉陶器 椀	表土	— (3.0) ((9.0)) 0.4	体部は内湾して立ち上がる。低い角高台。	ロクロ調整の後、底部は回転糸切をし、高台貼付。体部内面に刷毛塗りによる施釉（オリーブ灰色）。	底部～体部 1/10	内外面：灰白色 5Y7.5/1。堅い。焼成普通。微砂粒微量。

ＭＫⅣ－ 719			歴史時代　男　瓦							
番号 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長 (cm)	厚さ (cm)	成・整形の特徴						備考
				素材	凹面		凸面		端面	
					布目	特徴	叩き	特徴	特徴	
2 KC01	表土	— (5.5) (16.5)	1.3	—	25 × 26	広・側端縁ほぼ無調整。	—	全体ヨコナデ。広・側端縁無調整。	広・側端面へラケズリ。	無段。灰黄色 2.5Y7/2。堅い。焼成普通。微砂粒やや多量、1 ～ 3 ㎜角礫微量。

（５）武蔵国分寺跡第 721 次調査

所 在 地	西元町一丁目 2448 番１外		
調査原因	集合住宅建設	調査種別	確認調査
調査費用	国庫補助等	調査体制	委託
調査期間	平成 29 年１月 16 日～１月 27 日		
調査面積	38.39 ㎡	遺物箱数	１箱
検出遺構	PJ-1		
主な遺物	瓦、縄文土器・石器		



第 115 図　ＭＫＩ－721　調査地位置図

【１．調査の目的と経緯】 確認調査は平成 28 年 11 月 7 日付国教教ふ収第 750 号法第 93 条第 1 項届出に基づき、市教委が調査会に委託して行ったものである。調査区は、国分寺市西元町一丁目 2448 番１外に所在し、武蔵国分寺跡（遺跡№.19）に該当する。先に報告した武蔵国分寺跡第 717 次調査区の東隣にあたり、先述したように敷地内で過去に実施した調査では、遺構や遺物の出土が確認されている。このため、当該地においても、工事に先立ち、埋蔵文化財の有無、内容・性格等を把握するため、トレンチを３箇所設定して確認調査を実施した。調査面積は 38.39 ㎡である。現地調査は平成 29 年１月 16 日から同年１月 27 日（実働９日）まで実施した。

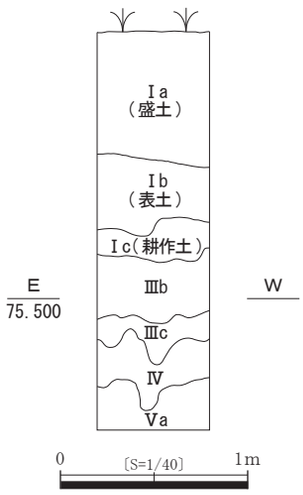
【２．検出された遺構と出土遺物】 調査区内は、Ａトレンチ（北側）、Ｂトレンチ（中央）、Ｃトレンチ（南側）の各トレンチとも地表より 0.9 ～ 1.2 ｍの深さまで､盛土･耕作土等による表土（基本層序Ⅰ層）に覆われていた。その下層から奈良･平安時代の遺構確認面である基本層序Ⅲｂ層（厚さ約 30 ～ 40 ㎝）が検出されたため、遺構の有無を確認したが、歴史時代の住居跡等は検出されなかった。さらに縄文時代の遺構を確認するために各トレンチ内の一部をⅢｃ層まで掘下げて遺構確認を行ったところ、Ａトレンチで小穴（Pit、第 120 図）を１個検出した。また、旧石器時代の遺物の有無を確認するために、各トレンチの端を部分的にⅤａ層の途中まで掘下げたが、石器などの遺物は出土しなかった。

遺物は、表土やⅢｂ層から縄文時代の土器片・打製石斧（２）、古代の瓦（１）が出土している。

第 116 図　Ａトレンチ全景 歴史時代確認面
（東から）

第 117 図　Ｂトレンチ全景 歴史時代確認面
（西から）

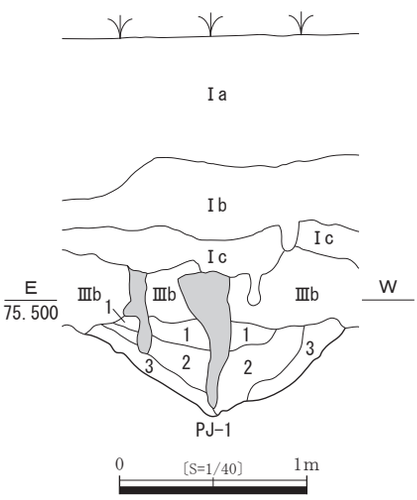
第 118 図　ＭＫＩ－721　調査区全体図



第 119 図　ＭＫⅣ－ 721　土層柱状図（南壁）

第 121 図　Ｃトレンチ東壁土層断面（西から）

PJ-1　土層断面図（東西）



1．10YR3/2　黒褐色土　　粘性あり、しまりあり。赤色スコリア少量、ローム粒微量含む。
2．10YR3/3　暗褐色土　　粘性あり、しまりあり。赤色スコリアやや多く、ローム粒、ロームブロック多く含む。
3．10YR4/4　黄褐色土　　粘性あり、しまりあり。赤色スコリア少量、ローム粒、ロームブロック多量含む。

第 120 図　ＭＫⅣ－ 721　遺構断面図

第 122 図　PJ-1 断面（北から）

第 123 図　遺物出土状況（AG01）
Ｂトレンチ（北から）

第 124 図　Ｃトレンチ全景縄文確認面（東から）

第 125 図　Ｂトレンチ全景縄文確認面（西から）

第 126 図　Ａトレンチ　プレ坑（西から）

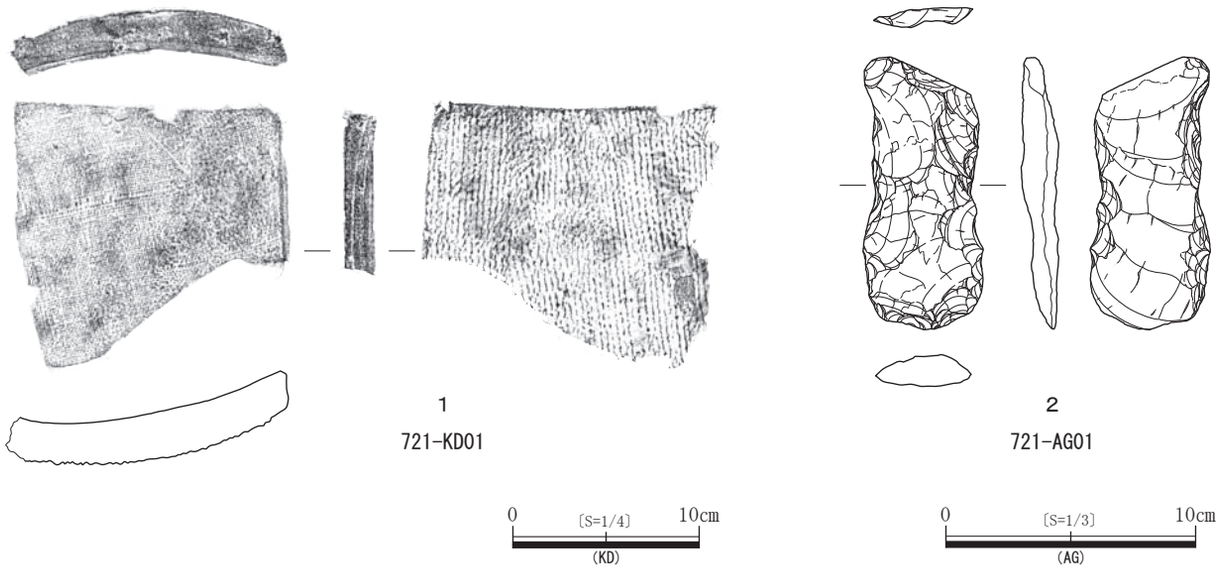
第 127 図　Ａトレンチ　縄文土器出土状況(南から)

第 128 図　Ｃトレンチ　南壁土層堆積状況(北から)

第 129 図　Ｂトレンチ　南壁土層堆積状況(北から)

第 130 図　作業風景１

第 131 図　作業風景２



第 132 図　ＭＫⅣ－ 721　出土遺物実測図

第 133 図　ＭＫⅣ－ 721　出土遺物写真

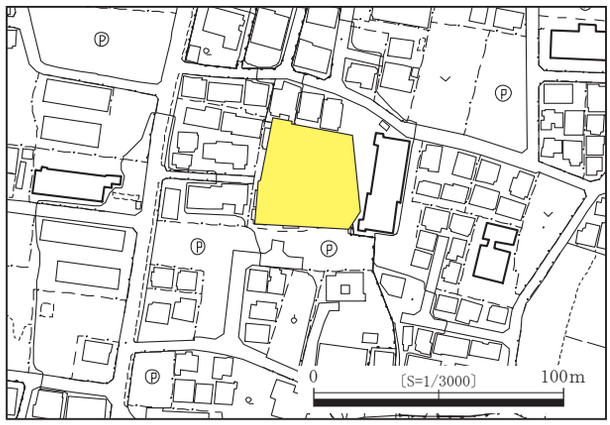
第 20 表　ＭＫⅣ－ 721　遺物観察表

ＭＫⅣ－ 721　　歴史時代　　女　瓦										
番号 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長 (cm)	厚さ (cm)	成・整形の特徴						備考
				素材	凹面		凸面		端面	
					布目	特徴	叩き	特徴	特徴	
1 KD01	表土	(14.9) — (14.7)	2.3	粘土	28 × 22	狭・側端縁ヘラケズリ。	縄目 R10	狭・側端縁ナデ。	狭・側端面ヘラケズリ。	にぶい黄色 2.5Y6/3。堅い。焼成普通。微砂粒微量。

ＭＫⅣ－ 721　　縄文時代　　石　器									
番号 遺物番号	種別 器種	出土 位置	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石材	備考
2 AG01	打製石斧	Ⅲ層	10.8	4.8	1.5	97.11	一部 欠損	ホルンフェルス	

（６）恋ヶ窪遺跡第 98 次調査

所 在 地	西恋ヶ窪一丁目 28- 9		
調査原因	土地造成	調査種別	確認調査
調査費用	国庫補助等	調査体制	委託
調査期間	平成 28 年 11 月 14 日～ 12 月２日		
調査面積	40.91 ㎡	遺物箱数	１箱
検出遺構	SX2 ～ 4		
主な遺物	須恵器、近世陶磁器、黒曜石		



第 134 図　Ｋ２－ 98　調査地位置図

【１．調査の目的と経緯】 本確認調査は、平成 28 年９月６日付国教教ふ収第 563 号法第 93 条第１項届出に基づき、市教委が調査会に委託して行ったものである。

調査区は、国分寺市西恋ヶ窪一丁目 28 番地９に所在し、恋ヶ窪遺跡（遺跡№.２）に該当する。平成７年に実施された東隣地の発掘調査（恋ヶ窪遺跡第 55 次調査、未報告）では旧石器時代の石器集中部や礫群が検出され、縄文時代の土器や石器、近世の古銭などが出土していた。このため、本計画で予定されている雨水浸透施設等の工事によって遺構や遺物が破壊される可能性があるため、部分的な確認調査を行った。調査面積は 40.91 ㎡である。現地調査は平成 28 年 11 月 14 日から同年 12 月２日（実働 14 日）まで実施した。

【２．検出された遺構と出土遺物】 調査はトレンチを３箇所（Ａ～Ｃ）設定して行った。Ａトレンチ内は、地表より約 50 ～ 70 ㎝の深さまで、盛土・耕作土等による表土（基本層序Ⅰ層）に覆われており、撹乱も広範囲に及んでいた。Ⅰ層と撹乱を掘下げたところ、シルト質の自然堆積土（地山）を検出した。シルト質の土は、火山灰由来の立川ローム層の土とは異なり、水の流れなどによって二次的に堆積した水成ロームである。シルト層には、地下水中の鉄分が葦などの根回りに水酸化鉄として形成されるいわゆる高師小僧や、微細砂の集積が部分的に確認された。

シルト層の下層は砂礫層で、地表から約 1.4 ｍの深さで検出された。砂礫層は、直径２～ 50 ㎜の礫を主体とする層で、河川堆積物を含んでいることから、旧河床と考えられる。Ａトレンチの場所は、土地造成のために上面が削平されていたため、旧地表の状況は把握できないが、地形的には開析谷である恋ヶ窪谷の低地にあたり、立川ローム形成時には周辺の湧水を集めた河川の流れがあったと考えられる場所である。高師小僧の検出は、シルト層形成時に葦などが茂る場所だったことを示しており、河川堆積物である砂の集積層からは増水などによる河川の氾濫などが窺える。なお、Ａトレンチ内のシルト層の上方は地表からの水の染み込みからか、部分的に変色している。Ａトレンチからは、SX2 が検出された。

SX2 不明遺構（第 138 図）

トレンチ内の南側で確認された。地表下約 75 ㎝の位置で検出され、深さは確認面から約 55 ㎝である。平面形態は不整形な円形で、西端は幅約１ｍのかつての水路口と想定される

開口部に連結している。規模は、南北方向2.5ｍ、東西方向約2.0ｍである。おそらくは溜池で、江戸時代に数十ｍ西側を南北方向に流れていた恋ヶ窪用水（恋ヶ窪村分水）の水を敷地内まで引き込んで利用するために掘削されたものと想定される。遺物は覆土より灰釉鉄絵丸碗（１）や常滑の甕（２）が出土している。このほか撹乱覆土より黒曜石が出土しているが、図化し得なかった。

Ｂトレンチは、Ａトレンチの北東約15ｍの位置に設定した。Ｂトレンチも地表より0.8～1.5ｍの深さまでＩ層が厚く堆積しており、その下層でシルト層を確認した。シルト層には１～５㎝の小石が極微量含まれており、高師小僧も部分的に見受けられた。遺構は、トレンチの南端でSX3が検出された。

SX3 不明遺構（第140図）

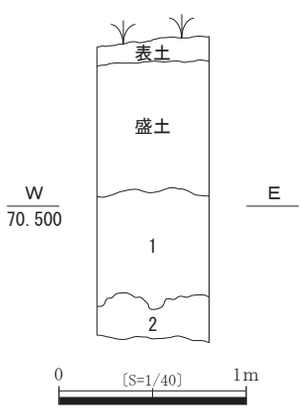
現状で南北約1.5ｍ、東西約１ｍを確認したが、東側・南側は調査区外へと続いており、全体の規模は不明である。遺構の性格は不明であるが、SX2の底部と標高がほぼ同じことから、SX2同様に水を溜めるための掘り込みの可能性がある。なお、基本層序確認のために遺構下部を部分的に掘り下げたところ、標高69.13ｍで礫層が検出した。遺構に伴う遺物は出土していない。

Ｃトレンチは、敷地内の東端に位置する。トレンチの東側から中央にかけて４段ほどの階段状遺構SX4が検出された。

SX4 不明遺構（第141図）

階段状遺構は、各段が20～50㎝と一定ではないものの、人為的に掘りこまれている。また、トレンチ中央は平坦なテラスが設けられ、西端からまた１段下がっていることから、段掘りと想定される。地山は、地表下10㎝ほどでローム層が現れたが、立川ロームの何層かは不明である。おそらくは、江戸時代以降に段掘りによって土地を開拓し、大部分削平されたと考えられる。遺物は出土していない。

なお、調査区全体の表土や撹乱からは古代の須恵器や近世以降の陶磁器（３～６）が出土している。

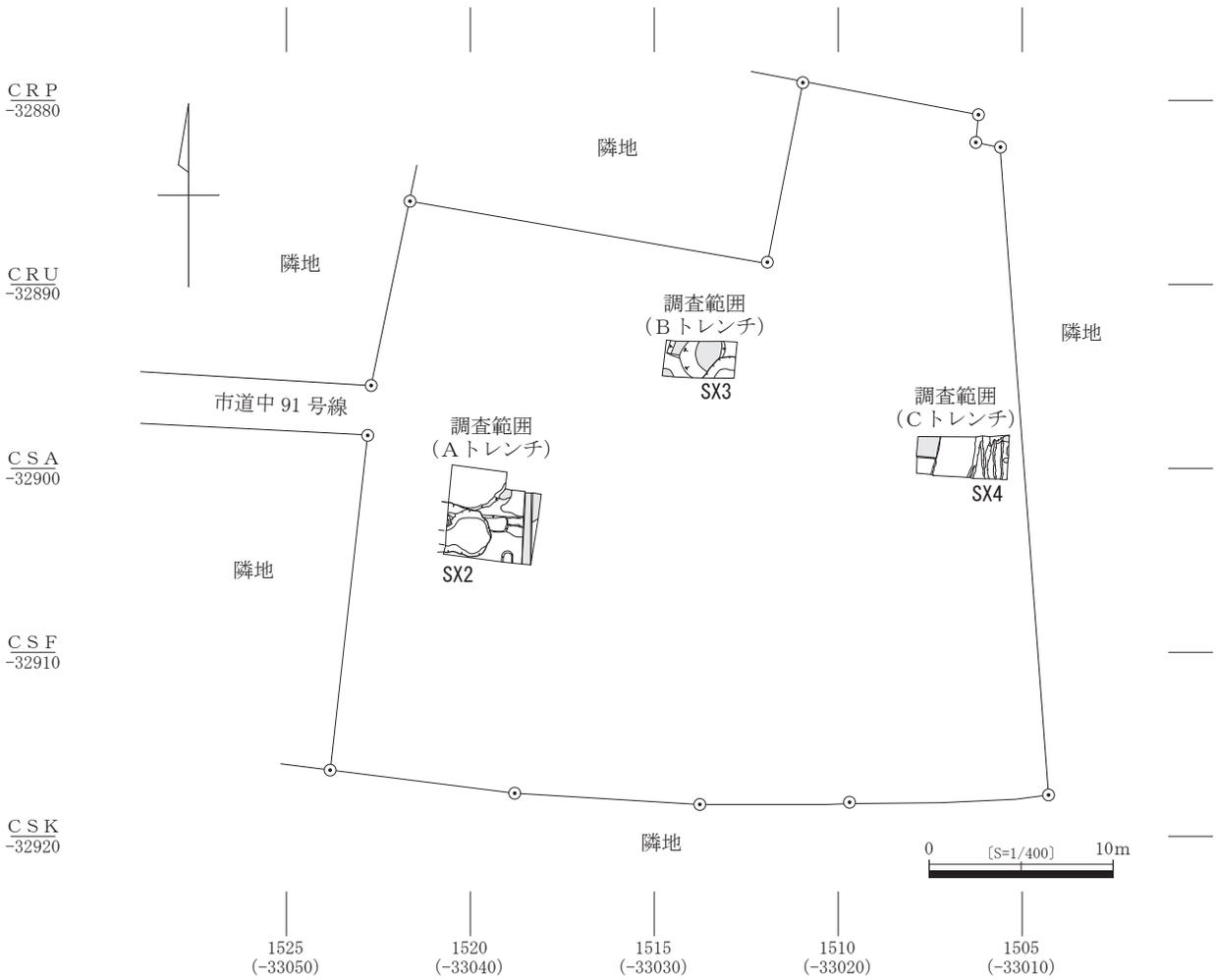


1．10YR6/4　にぶい黄橙色土
粘性ややあり、しまり強い。シルト質でロームに似る地山。砂質で削るとシャリシャリする。赤色スコリア、黒色スコリア極微量。幅１㎜長さ 10～ 20 ㎜程度の高師小僧と少量（長いものは 20 ㎝）。高師小僧の周りのみ２層の色となっており、周辺の鉄分を吸ったものと考えられる。10～50㎜の礫を極微量含む。

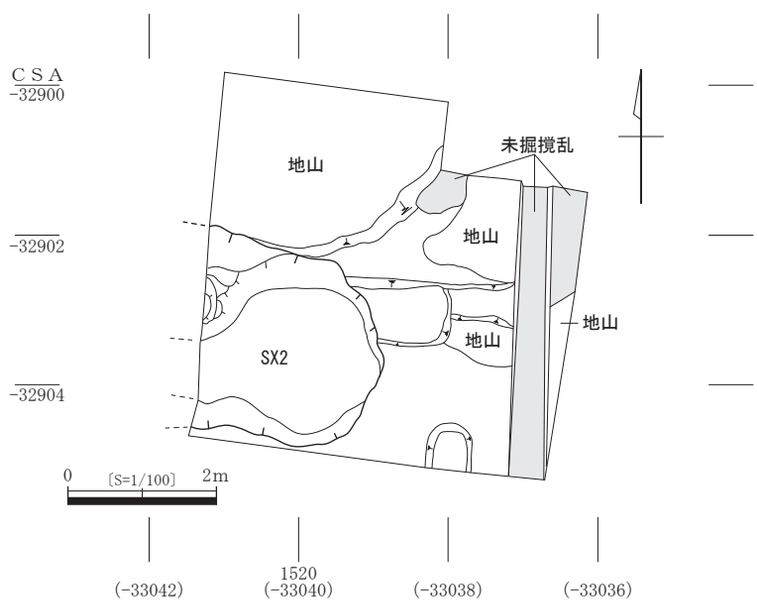
2．10YR6/6　明黄褐色土
粘性やや強い、しまり強い。シルト質でロームに似る地山。粘性が高い。赤色スコリア、黒色スコリア極微量。高師小僧微量、５㎝大の礫数点含む。

第135図　Ｋ２－98　土層柱状図（Ｂトレンチ北壁）

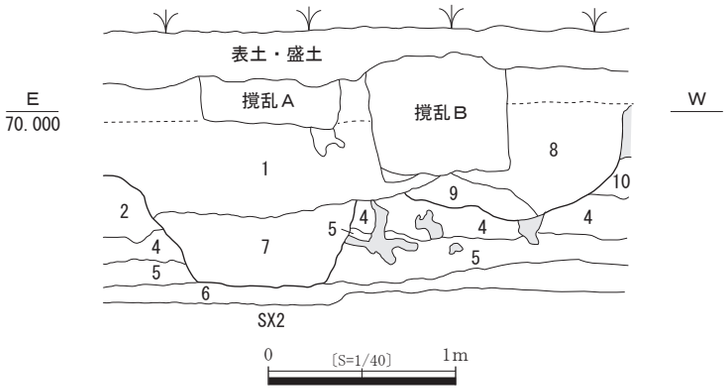
第136図　Ｂトレンチ北壁土層断面（南から）



第 137 図　Ｋ２－98　調査区全体図



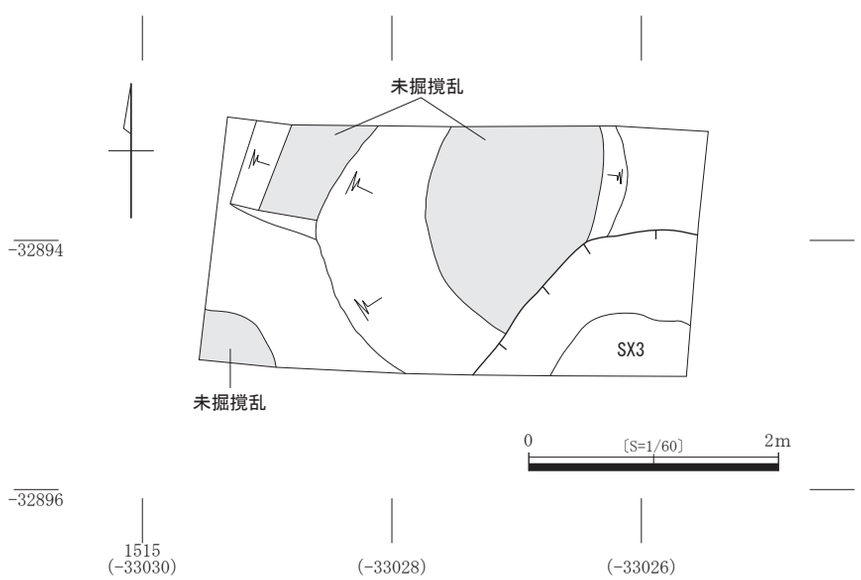
第 138 図　SX2　平面図



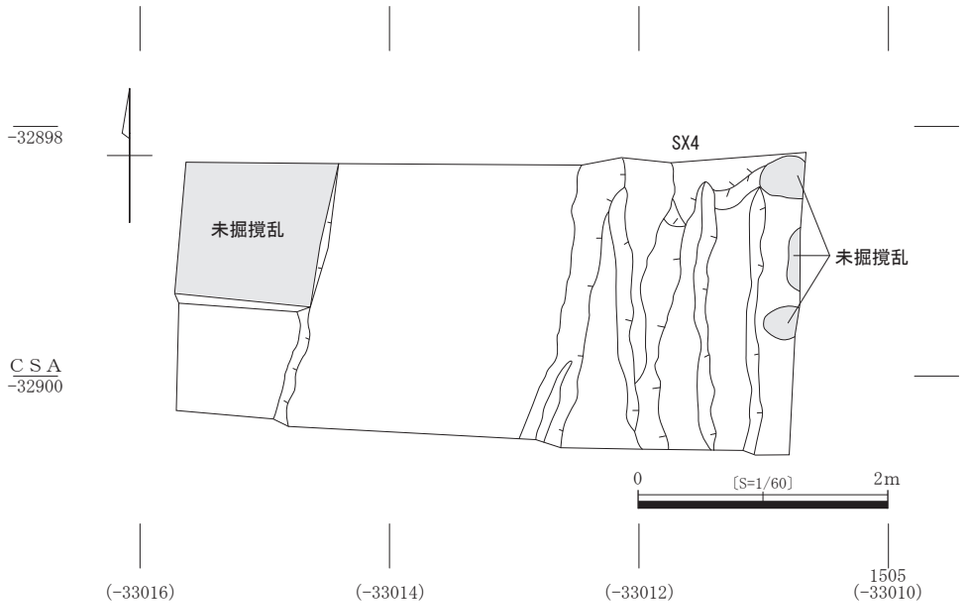
１．7.5YR5/3	にぶい褐色土	粘性ややあり、しまりなし。下層はしまりよい。５～40 ㎜のシルトブロック少量、赤色スコリア、炭化物微量含む。層は上下で２層に分かれ - - - - 部により旧表土に分かれる。
２．10YR6/6	明黄褐色土	粘性あり、しまり強い。シルト質でロームに似る地山。やや砂質で削るとシャリシャリとした感触を受ける。赤色スコリアを少量、幅１㎜、長さ 10 ～ 20 ㎜の高師小僧をやや多量含む。
３．10YR7/4	にぶい黄橙色土	粘性あり、しまり強い。シルト質でロームに似る地山。赤色スコリア・幅１㎜長さ 10 ～ 20 ㎜の高師小僧を微量含む。極微細の砂が 10 ～ 20 ㎜の規模で集積する箇所がみられる。
４．10YR7/4	にぶい黄橙色土	粘性あり、しまり強い。シルト質でロームに似る地山。赤色スコリア・幅１㎜長さ 10 ～ 15 ㎜の高師小僧を微量含む。極微細の砂が 10 ～ 50 ㎜の規模で集積する箇所がみられる。
５．10YR7/4	にぶい黄橙色土	粘性あり、しまり強い。シルト質でロームに似る地山。赤色スコリア微量含む。05 ～１㎜の砂がレンズ状に集積する箇所が多く見られる。全体的に砂質でシルト砂岩の崩壊したものをブロック状に含む。酸化鉄の集積あり。
６．砂礫層		粘性ややあり、しまり非常にあり。２～ 50 ㎜の礫を主体とし 0.5 ～１㎜の砂を多量に含む。シルト質砂岩の崩壊したものをブロック状に含む。ガチガチしている。
７．7.5YR5/4	にぶい褐色土	粘性なし、しまり弱い。５～ 20 ㎜のシルトブロックをやや多量含む。全体的にボソボソしている。SX の覆土で、堆積状況からは一度に埋められたと看取りされる。７と１の境はやや不明瞭。覆土としては同じ。
８．7.5YR5/4	にぶい褐色土	粘性なし、しまりややあり。１～ 10 ㎜のシルトブロックをやや多量含む。赤色スコリア、炭化物を微量、シルト粒子やや多く含む。
９．7.5YR5/4	にぶい褐色土	粘性ややあり。しまりなし。４のシルトブロックを埋める際の崩壊土を部分的に含む。８層を基準とする。
10．10YR7/4	にぶい黄橙色土	粘性ややあり、しまり強い。シルト質でロームに似る地山。上層からの水の影響で部分的に 10YR5/3 灰色に変色している。赤色スコリア微量、（高師小僧なし）部分的にシャリシャリする。

撹乱
Ａ．7.5YR3/1　暗褐色土
Ｂ．８層主体でボソボソ

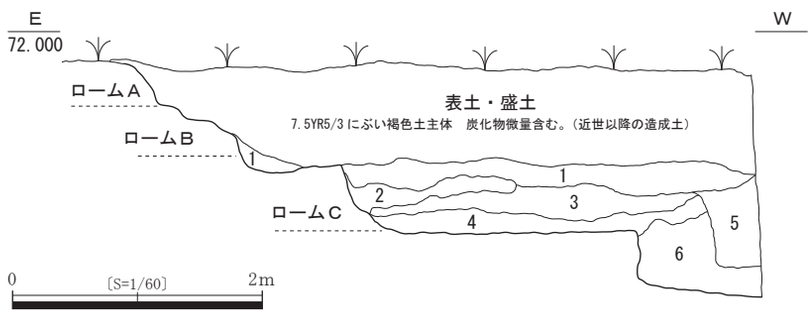
第 139 図　SX2　断面図



第 140 図　SX3　平面図



第 141 図　SX4　平面図



1．10YR5/3　にぶい黄褐色土　粘性あり、しまりややあり。ローム粒を多量、10 ～ 20 ㎜のロームブロック少量、赤色スコリア微量含む。
2．ロームブロック主体土　粘性あり、しまりややあり。 1 ～ 140 ㎜のロームブロック主体、赤色スコリア微量含む。
3．10YR4/2　灰黄褐色土　粘性あり、しまりややあり。ローム粒・1 ～ 30 ㎜のロームブロック少量、赤色スコリア微量含む。
4．ロームブロック土　粘性あり、しまり強い。ロームブロックのみを固く締めて造成された層。他の土の混ざりはない。
5．10YR5/3　にぶい黄褐色土　粘性なし、しまりややあり。ローム粒・1 ～ 60 ㎜のロームブロックやや多量、黒褐色土のブロック微量混入。赤色スコリア微量含む。
6．10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性ややあり、しまりあり。ローム粒・1 ～ 30 ㎜のロームブロック少量赤色スコリア、黒色スコリア微量。

立川ロームの特徴

A～Cの共通　10YR5/8　黄褐色　立川ロームⅣ層に似るが層位は不明。
A．粘性あり、しまり強いがやや粗い。削るとシャリシャリする。赤色スコリア、青灰スコリア、黒色スコリア 10 ～ 20%。10 ㎜大の礫を微量、白色物質微量（5 %）含む。
B．Aに比べて粘性弱く、しまり強い。削るとジャリジャリしAより砂質である。含有物はAに同じ、高師小僧ごく微量。
C．下にいくほど粘性を増す。しまり強い。シャリシャリはほとんどなく粘質。青灰色スコリアほとんどなく、赤色スコリア主体（10 ～ 15%）。10 ～ 40 ㎜のもろいシルト砂岩微量含む。

第 142 図　Cトレンチ　南壁土層断面図

第 143 図　Ａトレンチ表土下遺構確認面（西から）

第 144 図　Ａトレンチ全景（北から）

第 145 図　Ａトレンチ南壁土層断面（北から）

第 146 図　Ａトレンチ砂礫層近影（北から）

第 147 図　SX2 完掘状況（北から）

第 148 図　作業風景 1

第 149 図　Ｂトレンチ全景（北から）

第 150 図　SX3 完掘状況（北から）

第 151 図　Ｂトレンチ北壁土層断面（南から）

第 152 図　作業風景２

第 153 図　Ｃトレンチ調査前の現況（南から）

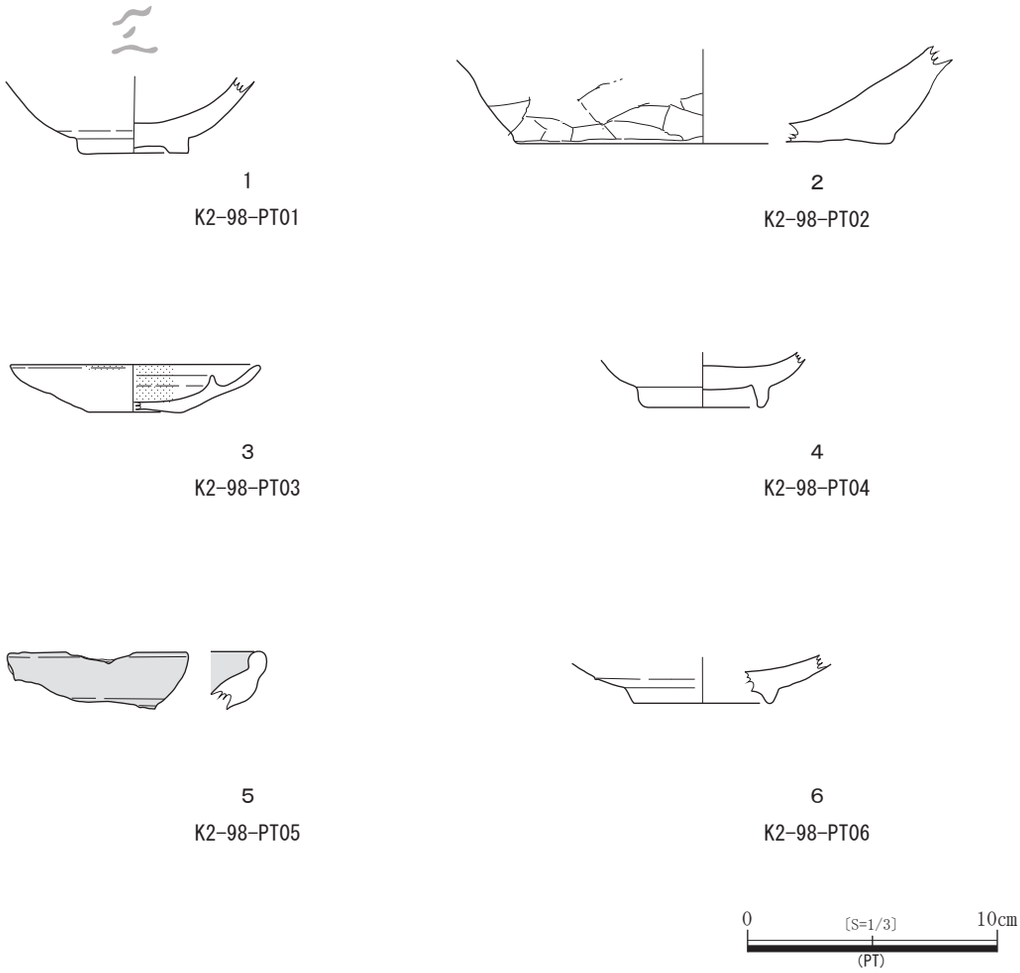
第 154 図　Ｃトレンチ全景（西から）

第 155 図　SX3 東側完掘状況（西から）

第 156 図　SX3 東側完掘状況（北から）

第 157 図　Ｃトレンチ南壁土層断面（北から）

第 158 図　SX3 西側（北から）



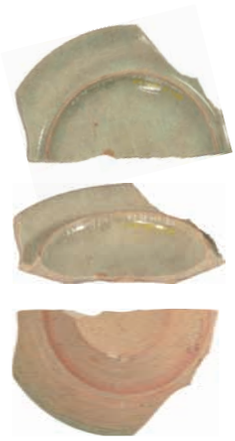
第 159 図　Ｋ２－98　出土遺物実測図

第 21 表　Ｋ２－98　遺物観察表

Ｋ２－98			歴史時代　　陶磁器				
番号 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径 高台高 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	残量	備考
1 PT01	灰釉鉄絵 丸碗	SX2 覆土	— (3.1) 4.4 0.2	腰部はやや丸みをもって立ち上がる。	削り出し高台で、畳付部は平坦を呈する。	体部 2/3 ～ 底部	胎土は軟質で灰白色を呈し、高台・体部下半を除く内外面に乳灰色の灰釉を施す。見込みに薄茶色の鉄釉で川の字状に波線を４本描く。18 世紀の唐津系の製品。
2 PT02	常滑 甕	SX2 覆土	— (3.8) ((15.0)) —	肉厚の底部からやや緩やかに外上方へ立ち上がる。	胴部外面にヘラケズリを施す。	底部片	砂粒・白色粒を多く含む、赤褐色の胎土。 中世か？
3 PT03	灰釉 灯明受皿	表土	((10.0)) 1.9 ((4.0)) —	薄作りで、底部から緩やかに立ち上がり、口縁端部はやや直立する。	体部～底部外面は回転ヘラケズリを施す。	1/2 弱	硬質で灰白色の胎土。灰褐色の灰釉を内面～外面口縁端部に施釉するが、凸帯の受皿端部は拭き取っている。体部外面に１個所のピン痕あり。18 世紀の瀬戸・美濃系製品。
4 PT04	染付 梅樹文碗	撹乱	— (2.2) ((4.6)) 0.7	肉厚な底部を有する。		底部片	淡青色の呉須で、高台内に一重、高台外面に二重の圏線、体部外面に梅樹文を描く。18 世紀の肥前系製品。
5 PT05	鉄釉 擂鉢	撹乱	((24.4)) (2.7) — —	口縁端部でやや内傾する。		小片	灰白色の軟質な胎土を有し、茶褐色の鉄釉を内外面に施釉する。18 世紀の瀬戸・美濃系製品。
6 PT06	銅緑釉 輪禿皿	撹乱	— (2.9) ((5.4)) 0.5		高台は削り出しで、見込みは蛇ノ目状に釉を剥がしている。釉剥面に砂目痕あり。	小片	草色の銅緑釉を高台内を除く全面に施釉。17 世紀後半～ 18 世紀前半の唐津系製品。

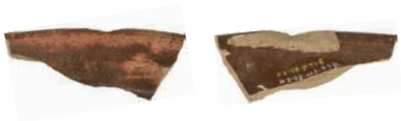
1
K2-98-PT01

2
K2-98-PT02

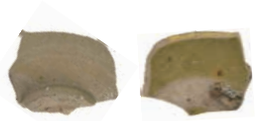


3
K2-98-PT03

4
K2-98-PT04



5
K2-98-PT05



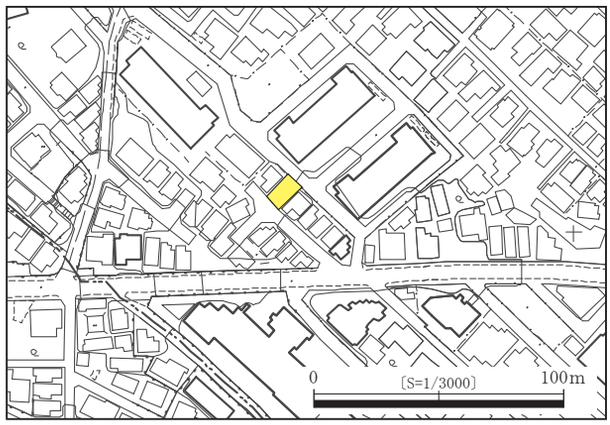
6
K2-98-PT06

0 〔S=1/3〕 10cm
(PT)

第 160 図　Ｋ２－98　出土遺物写真

（７）多摩蘭坂遺跡第 13 次調査

所 在 地	内藤一丁目 8-26		
調査原因	個人住宅	調査種別	発掘調査
調査費用	国庫補助等	調査体制	委託
調査期間	平成 28 年８月 29 日～９月８日		
調査面積	8.95 ㎡	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
主な遺物	なし		



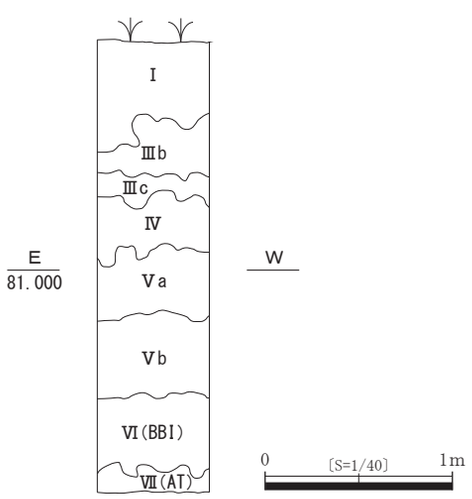
第 161 図　Ｋ７－13　調査地位置図

【１．調査の目的と経緯】 本発掘調査は、平成 28 年７月 21 日付国教教ふ収第 406 号法第 93 条第１項届出に基づき、市教委が調査会に委託して行った。

調査区は、国分寺市内藤一丁目 8-26 に所在し、周知の埋蔵文化財包蔵地である多摩蘭坂遺跡（遺跡№７）に該当する。遺跡は、旧石器時代、縄文時代、奈良時代の集落跡であり、工事で予定されている地階造成工事等によって旧石器時代の石器や縄文時代の土坑・住居などの埋蔵文化財が破壊される可能性があるため、掘削深度が埋蔵文化財に影響を及ぼす範囲について事前に発掘調査を行った。

調査面積は 8.95 ㎡である。現地調査は平成 28 年８月 29 日から９月８日（雨天の為、現場実働７日）まで実施した。

【２．調査結果】 調査区内は、地表より約 40 ～ 60 ㎝の深さまで表土（基本層序Ⅰａ層）に覆われており、その下層から奈良・平安時代の遺構確認面であるⅢｂ層が検出された。同面で遺構の確認を行ったが、住居などは検出されなかった。このため、下層のⅢｃ層まで掘下げて縄文時代の遺構を探ったが、土坑などは検出されなかった。続いて、旧石器時代の遺物の有無を確認するために、工事予定深度（約２ｍ、一部 2.4 ｍ）まで手掘りで掘り下げたが、遺物は検出されなかった。



第 162 図　Ｋ７－13　土層柱状図（南壁）

第 163 図　南壁土層断面（北から）

第 164 図　Ｋ７－13　調査区全体図

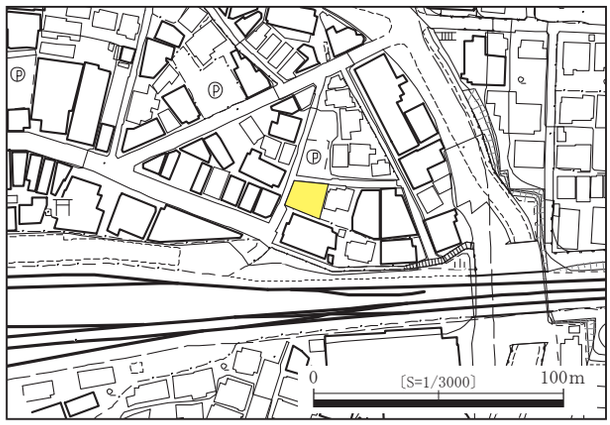
第 165 図　Ｋ７－13　調査区全景（北から）

第 166 図　調査区縄文確認面（北から）

第 167 図　作業風景

（８）本町（国分寺村石器時代）遺跡
第 14 次調査

所 在 地	本町二丁目 4-6		
調査原因	集合住宅建設	調査種別	確認調査
調査費用	国庫補助等	調査体制	委託
調査期間	平成 29 年 2 月 13 日～２月 17 日		
調査面積	5.54 ㎡	遺物箱数	１箱
検出遺構	PJ-1 ～ 4		
主な遺物	縄文土器		



第 168 図　Ｋ 28 － 14　調査地位置図

【１．調査の目的と経緯】 本調査は平成 28 年 10 月 25 日付国教教ふ収第 709 号法第 93 条第１項届出に基づき、市教委が調査会に委託して実施した。

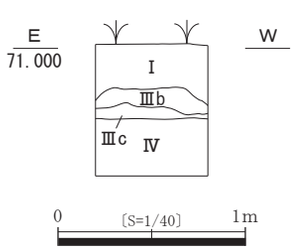
調査区は、国分寺市本町二丁目 4-6 に所在し、本町（国分寺村石器時代）遺跡（遺跡№.28）に含まれている。昭和 54 年に南隣の敷地内で実施した調査（本町遺跡第１次調査・未報告）では、縄文時代の住居等が検出され、土器などの遺物も多数出土している。このため、予定されている雨水浸透設備設置等によって住居や土坑などの遺構が破壊される可能性があり、埋蔵文化財の有無、性格等を把握することを目的として、敷地内に２箇所のトレンチを設定して調査を行った。

調査面積は 5.54 ㎡である。現地調査は平成 29 年２月 13 日から同年２月 17 日（実働５日）まで実施した。

【２．検出された遺構と出土遺物】 調査区内は、Ａトレンチ（北側）、Ｂトレンチ（南側）の各トレンチとも地表より 35 ～ 50 ㎝の深さまで、盛土・耕作土等による表土（基本層序Ⅰ層）に覆われており、また撹乱も広範囲に及んでいた。表土直下の大半は、縄文時代の遺構確認面であるⅢｃ層もしくはその下層のⅣ層で、縄文時代の遺物を包含するⅢｂ層は僅かに遺存している程度であった。

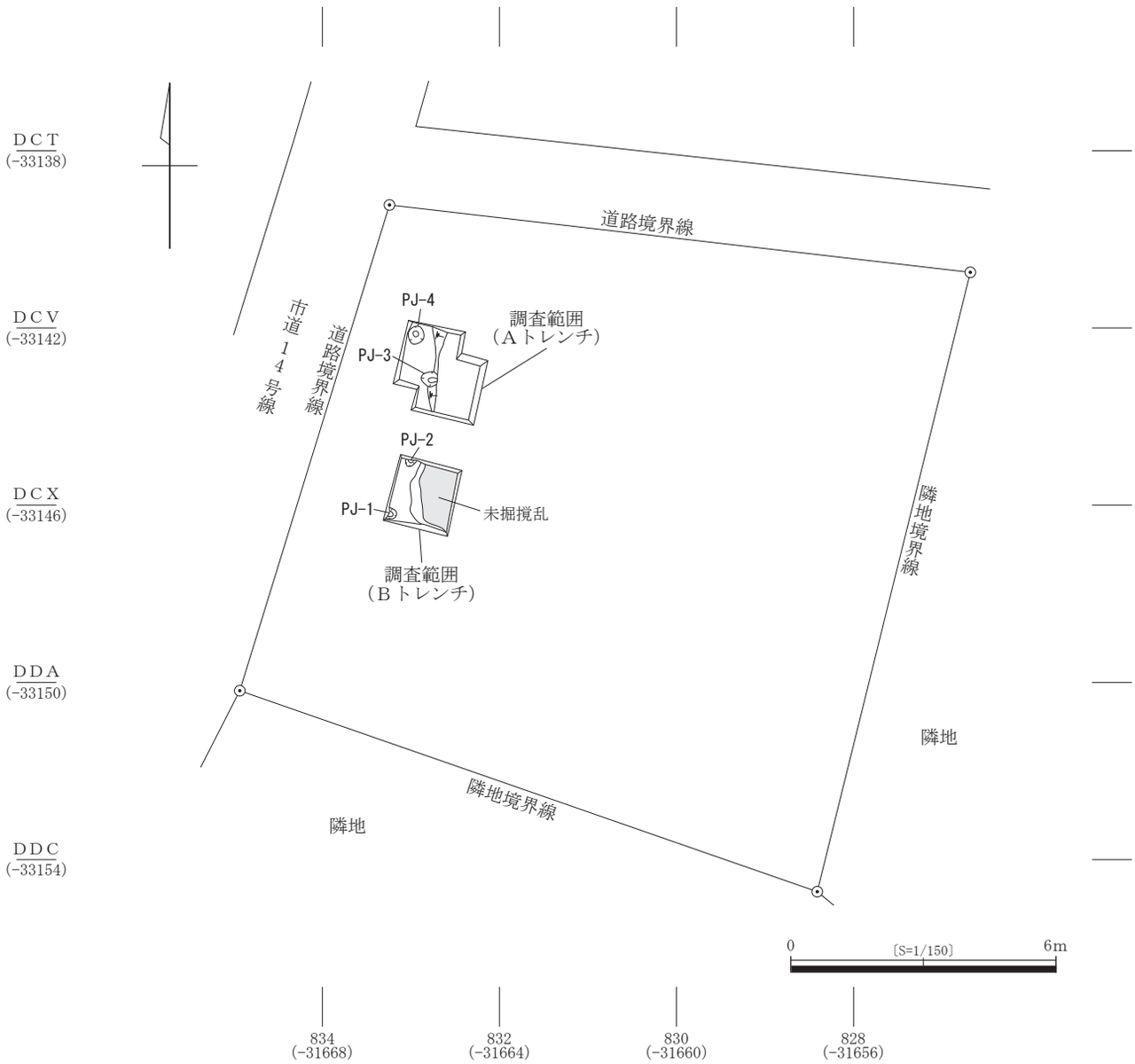
Ⅲｃ層で縄文時代の遺構確認を行ったところ、Ａトレンチで小穴２個、Ｂトレンチでも小穴２個を検出した。

遺物は、表土等から縄文土器の破片が出土したが、小片のため図化し得なかった。



第 169 図　Ｋ 28 － 14　Ｂトレンチ
土層柱状図（南壁）

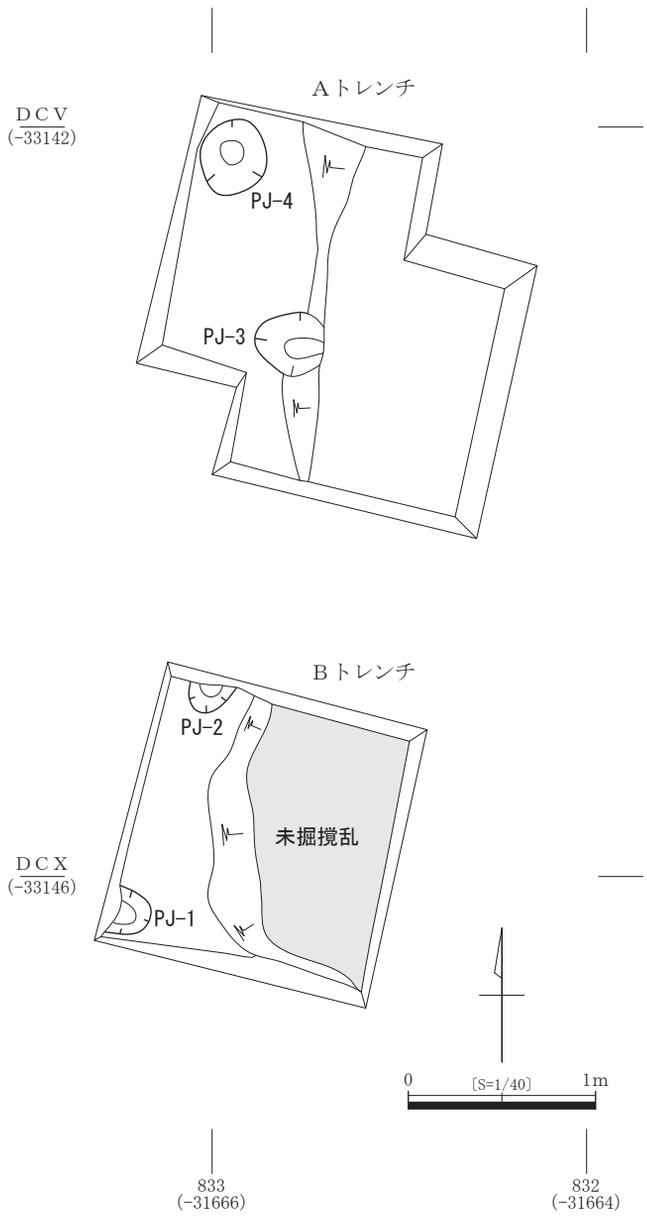
第 170 図　Ｂトレンチ　南壁土層断面（北から）



第 171 図　Ｋ 28 － 14　調査区全体図

第 172 図　Ａトレンチ全景（東から）

第 173 図　Ｂトレンチ全景（東から）



第 174 図　Ｋ 28 － 14　平面図

第 175 図　Ａトレンチ　北壁土層断面（南から）

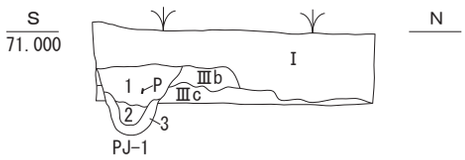
第 176 図　調査前の状況（西から）

第 177 図　作業風景

第 178 図　PJ-1 断面（東から）

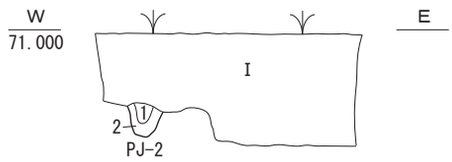
第 179 図　PJ-2 断面（南から）

PJ-1　土層断面図



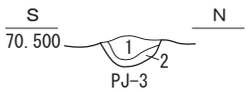
1．10YR3/3　粘性あり、しまりあり。赤色スコリアやや多く含む。
2．10YR4/3　粘性あり、しまりあり。赤色スコリア、ローム粒多く、炭化物少量含む。
3．10YR4/4　粘性あり、しまりあり。赤色スコリア、ローム粒、炭化物少量。
　　ロームブロックやや多く含む。

PJ-2　土層断面図



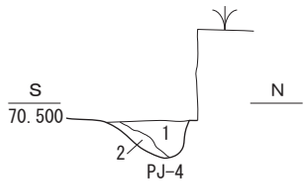
1．10YR4/2　粘性あり、しまりあり。赤色スコリア、ロームブロック少量。
2．10YR4/4　粘性あり、しまりあり。赤色スコリアやや多く、ローム粒少量。
　　ロームブロック多く含む。

PJ-3　土層断面図

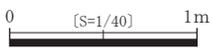


1．10YR3/4　粘性あり、しまりあり。３㎜赤色スコリア多く、ローム粒微量。
　　ローム土やや多い。
2．10YR4/6　粘性あり、しまりあり。赤色スコリア微量。ローム土、
　　ロームブロック多い。

PJ-4　土層断面図



1．10YR3/3　粘性あり、しまりあり。３㎜赤色スコリア多く、ローム粒ローム土
　　やや多い。１㎝ロームブロック少量含む。
2．10YR3/4　粘性あり、しまりあり。赤色スコリア微量。ローム土やや多く含む。



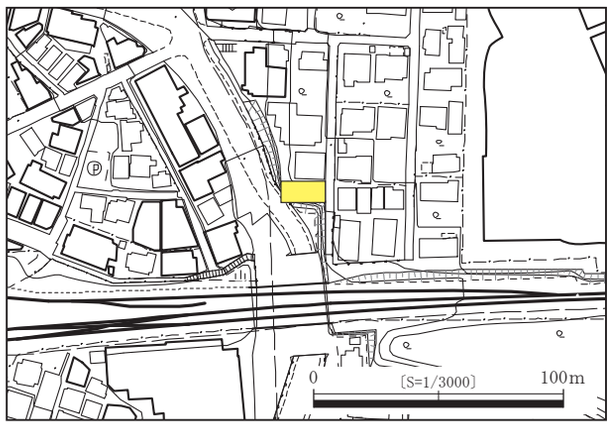
第 180 図　PJ-1 ～ 4 断面図

第 181 図　PJ-3 断面（東から）

第 182 図　PJ-4 断面（東から）

（９）№29 遺跡第４次調査

所 在 地	本町一丁目 324-91		
調査原因	集合住宅建設	調査種別	確認調査
調査費用	国庫補助等	調査体制	委託
調査期間	平成 29 年５月９日～５月 20 日		
調査面積	15.27 ㎡	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
主な遺物	なし		

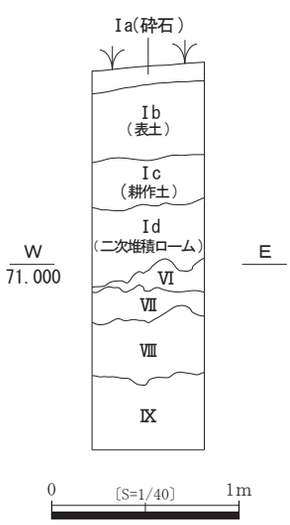


第 183 図　Ｋ 29 －４　調査地位置図

【１. 調査の目的と経緯】 調査は平成28年３月７日付国教教ふ収第1087号法93条第１項届出に基づき、市教委が調査会に委託して行った。

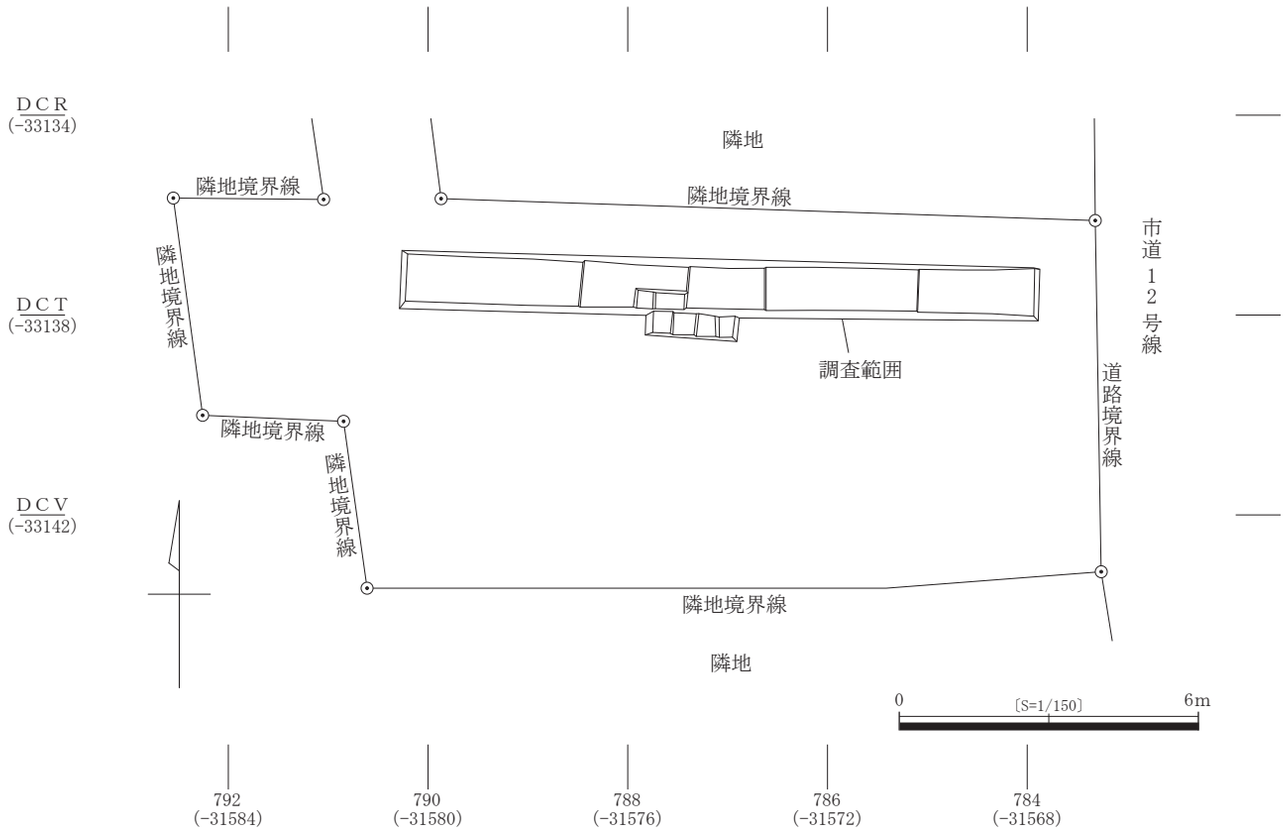
調査区は、国分寺市本町一丁目 324-91 に所在し、№29 遺跡に該当する。当該地は、旧石器・縄文・奈良・平安時代の散布地（包蔵地）であり、工事で予定されている建物基礎工事等によって旧石器時代の礫や縄文時代の土坑・住居などの埋蔵文化財が破壊される可能性があるため、埋蔵文化財の内容・性格等を把握するための確認調査を実施した。調査は、トレンチを１箇所設定して行った。面積は 15.27 ㎡である。現地調査は平成 28 年５月９日か５月 20 日（現場実働９日）まで実施した。

【２. 調査結果】調査区内は、地表より約 50 ～ 75 ㎝の深さまで表土（基本層序Ｉａ～Ｉｃ耕作土含む）に覆われており、その下層から２次堆積の立川ローム層（Ｉｄ）が検出された。市内の一般的な層序では、Ｉ層の下層には奈良・平安時代の遺構確認面であるⅢｂ層と縄文時代の遺構確認面であるⅢｃ層・Ⅳ層が検出されるが、現地が斜面地であること、また後世の削平などにより、Ⅱ～Ⅳ層は確認できなかった。続けて、縄文時代より古い旧石器時代の遺物の有無を確認するために、地表より約 1.8 ｍの深さまで掘削し、Ｖａ～Ⅸ層の途中まで確認したが、遺物は検出されなかった。



第 184 図　Ｋ 29 －４　土層柱状図（北壁）

第 185 図　Ｂトレンチ　南壁土層断面（北から）



第 186 図　Ｋ 29 －４　調査区全体図

第 187 図　調査区縄文確認面全景（東から）

第 188 図　調査区全景（東から）

第 189 図　調査地点遠影（南西から）

第 190 図　調査前　トレンチ設置状況（南西から）

第 191 図　調査地点から南東を望む

第 192 図　調査地点から南を望む

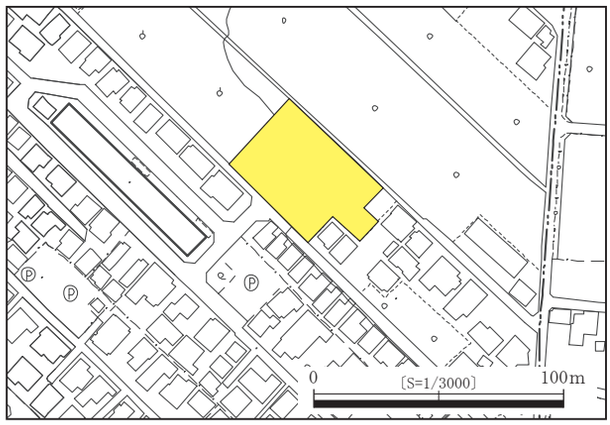
第 193 図　調査地点から西を望む

第 194 図　作業風景

第 195 図　北壁東側土層断面　合成写真（南から）

（10）№.41 遺跡第１次調査

所 在 地	内藤一丁目 18 番１		
調査原因	土地造成	調査種別	確認調査
調査費用	国庫補助等	調査体制	委託
調査期間	平成 28 年 12 月８日～ 12 月 22 日		
調査面積	70.80 ㎡	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
主な遺物	なし		



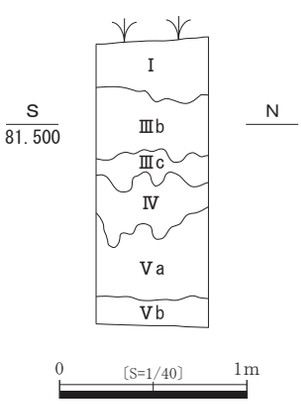
第 196 図　Ｋ 41 －１　調査地位置図

【１．調査の目的と経緯】 調査は、平成 28 年 10 月 24 日付国教教ふ収第 705 号法第 93 条第１項届出に基づき、市教委が主体となり、調査会に委託して実施した。

調査区は、国分寺市内藤一丁目 18 番１に所在し、№.41 遺跡（遺跡№.41）に該当する。届出記載の計画で予定されている造成工事によって土地に包含されている遺物が破壊される可能性があるため、埋蔵文化財の有無を確認するために部分的な調査を行った。

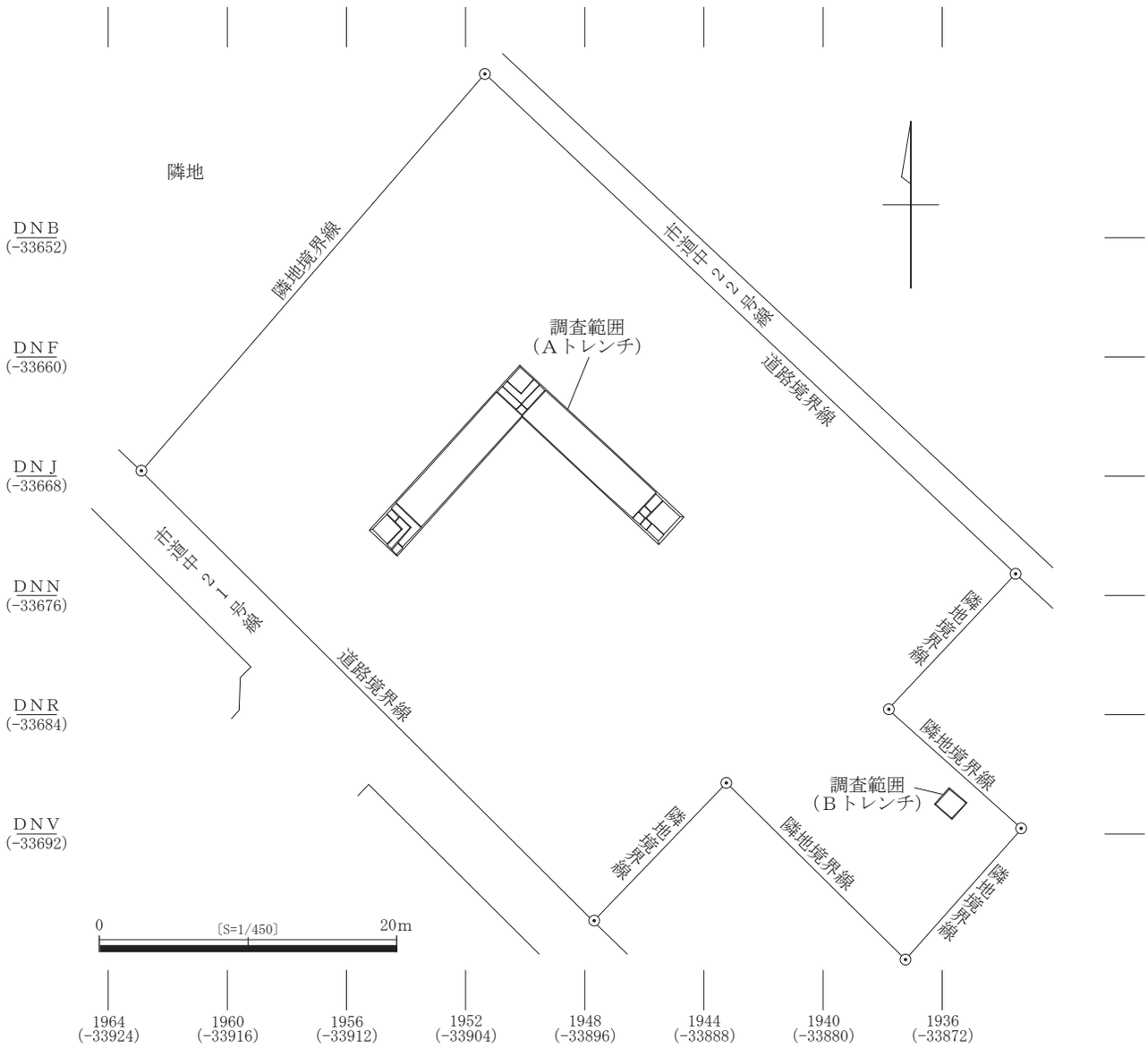
調査面積は 70.799 ㎡である。現地調査は平成 28 年 12 月８日から同年 12 月 22 日（実働 11 日）まで実施した。

【２．調査結果】調査区内は、Ａトレンチ（北西側）とＢトレンチ（南東側）の両トレンチとも地表より約 40 ～ 50 ㎝の深さまで、耕作土等による表土（基本層序Ⅰ層）に覆われていた。その下層から奈良・平安時代の遺構確認面である基本層序Ⅲｂ層（厚さ約 30 ～ 40 ㎝）が検出されたため、遺構の有無を確認したが、住居等は検出されなかった。さらに縄文時代、旧石器時代の遺物等を確認するためにトレンチ内の一部をⅢｃ層、Ⅳ層、Ⅴａ層、Ⅴｂ層（途中まで）の最大 1.65 ｍの深さまで掘下げて遺構確認を行ったが、遺構や遺物は未検出だった。



第 197 図　Ｋ 41 －１　土層柱状図（西壁）

第 198 図　Ａトレンチ　西壁土層断面（東から）



第 199 図　K 41 － 1　調査区全体図

第 200 図　Aトレンチ奈良・平安時代確認面
（南東から）

第 201 図　Aトレンチ奈良・平安時代確認面
（北東から）

第 202 図　Ａトレンチ　縄文時代確認面（北東から）

第 203 図　Ａトレンチ　縄文時代確認面（南西から）

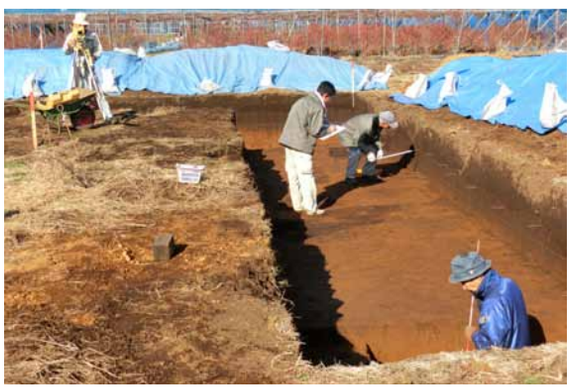
第 204 図　Ａトレンチ　北端プレ坑全景（北東から）

第 205 図　Ｂトレンチ　縄文時代確認面（北西から）

第 206 図　Ｂトレンチ　プレ坑全景（南東から）

第 207 図　Ｂトレンチ　南東壁土層断面（北西から）

第 208 図　調査前の状況



第 209 図　作業風景

第３章　総　括

平成 28 年度に国庫補助事業及び国分寺市遺跡調査会が事業者から委託を受けて実施した埋蔵文化財の調査は、武蔵国分寺跡（№.10･19 遺跡）５地区、恋ヶ窪遺跡（№.２遺跡）１地区、多摩蘭坂遺跡（№.７）１地区、本町（国分寺村石器時代）遺跡（№.28）１地区、№.41 遺跡１地区の計 10 地区（調査は 11 カ所）である。これらの調査面積の合計は、1,070 ㎡であるが、法 92 条に基づいて平成 27 年度から実施している調査などを加えると、市内全体では 7,858 ㎡の調査が実施された。このうち、公共機関が事業主となって実施した調査は 1,617 ㎡である。調査面積の総計は、昨年度の 15,793 ㎡に比べると約半分の面積だが、それ以前の平成 24 ～ 26 年度の平均が 3,206 ㎡であることを考えれば、依然として調査面積は多い傾向にある。

以下、本報告書に掲載した６遺跡、11 カ所及び立会調査の補足も加えて、時代ごとに主な調査成果と課題についてまとめる。

【旧石器時代】

旧石器時代の調査は、武蔵国分寺跡第 721 次調査、恋ヶ窪遺跡第 98 次調査、多摩蘭坂遺跡第 13 次調査、№.29 遺跡第４次調査において、トレンチの一部をⅣ層以下まで掘り下げて遺物の有無を確認したが、遺物の出土はなかった。特に多摩蘭坂遺跡第 13 次調査では、北隣りの第４次調査（国分寺市遺跡調査団 1997）で、７枚の文化層が確認され、第３・６文化層のブロックの広がりから台地の奥部（現在の武蔵野段丘面の台地縁から北へ約 90 m）における石器群の形成が注目されていたため、部分的にⅦ層まで掘り下げて調査を実施した。今回の調査では、石器の出土はなかったものの、調査範囲は比較的小規模であったこともあり、石器群の検出傾向や遺跡の広がりなどを把握するためにも、今後も継続して周辺の調査を重ねていく必要があろう。

なお、№.29 遺跡第４次調査のトレンチ北壁の土層観察から、調査区の旧地形は、東から西へ向かって緩やかな斜面が続き、西端付近から本多谷へ向かって西へ深く落ち込む急斜面の地形であったことが想定された。谷を挟んだ対岸にある本町（国分寺村石器時代）遺跡との関連を考察する上でも、旧地形の把握も調査の重要な成果と言えよう。

【縄文時代】

武蔵国分寺跡第 717 次調査では、縄文時代の遺物包含層包含層であるⅢｂ層から砂岩の打製石斧が出土している。また、第 718・722 次では、３基の土坑（SK3458J ～ 3460J）と加曽利 E2 ～ 3 式の縄文土器の破片や打製石斧が出土した。第 717 次の東隣りの敷地で実施した第 721 次調査でも縄文土器の破片や打製石斧が出土している。これらの遺物はいずれも縄文時代の遺構には伴わず、表土や包含層、歴史時代の遺構の覆土から出土したものであるが、台地上における縄文時代の生活圏を知る新たな材料となった。

その他の遺跡では、本町遺跡第 14 次調査で、４個の小穴と縄文土器片が確認された。本町遺跡は、国分寺駅周辺という立地からか、近年は調査が少なく平成 19 年度の第 13 次調査（国分寺市教育委員会

2009）から約10年ぶりの調査となった。小規模な調査区で、さらに上部削平が激しかったものの、縄文土器を伴う小穴が検出されたことは留めておく必要がある。

また、本町遺跡では、工事の立会調査でも縄文土器を確認している（届出・通知および立会記録№67）。発見された場所は、武蔵野台地縁辺から開析谷の本多谷に向かう斜面地付近で、攪乱された表土層から包含層の上層から収集した。出土した土器は勝坂３式から加曽利E3式まで認められ、中期でもやや時代幅があり、遺跡の広がりや今後の埋蔵文化財の保護を図る上で貴重な情報が得られた。

【古　代】

武蔵国分寺跡第716次調査では、尼寺の中枢部を区画する南辺掘立柱塀の柱穴２基（SA19-2・3）、及び塀に並行して掘られた３条の溝（SD44・SD436 Ａ・Ｂ）が検出された。掘立柱塀の柱穴は、中門より東へ取りつく２本目（SA19-2）と３本目（SA19-3）と想定された。SA19-2は遺構の半分が撹乱により消滅していたが、残存する規模は東西幅約1.0ｍ、深さは確認面から約0.9ｍを確認した。SA19-3はSA19-2の東側で検出され、両者の柱間は約2.4ｍ（約８尺）と他地点の柱間と相違ない距離であった。平面形状は南北方向が長い隅丸長方形を呈し、長辺約1.4ｍ、短辺約1.0ｍ、確認面からの深さは約1.0ｍあり、掘方底部には柱を据えた圧痕「あたり」が認められた。

本調査で注目されたのは、SA19-3（SA19-2は未確認）の建替えの回数である。中門の西側に取り付く同じ掘立柱塀SA18では、１度の建て替えによる２時期が確認されている（国分寺市教育委員会1995）。一方で、尼寺伽藍東辺の掘立柱塀の柱穴は、１時期のみで建替えがなく、柱の抜き取りで終わっていた。このことから、寺観の正面を整える目的をもって、南辺は柱の建て替えを行い、東辺･西辺（未調査）は建替えを行わなかった可能性が考えられた。しかし、今回検出された中門の東へ取り付く南辺のSA19-3は、東辺と同じく１時期のみで建替えがなく、柱の抜き取りをもって完結していることから、尼寺における掘立柱塀の建替え回数は、伽藍中軸線を挟んで東西で異なる可能性も想定される。

また、同調査では、尼寺の掘立柱塀に外側に塀と並行して掘られた南面東側の溝SD44と、その内側を廻るSD436が検出されており、SD436は２時期（Ａ・Ｂ）にわたることも確認された。既往調査では、SD436と同じ性格をもつ南面西側の溝（SD264）について､僧寺のように塀に併設された溝というよりは、整地や基壇築造のための土採取跡とし、すぐに埋められて開口していなかったとする考えが有力視されており（国分寺市教育委員会1996）、塀に伴う溝はさらに外をめぐるSD44と想定されていた。本調査地点においても、SD44の覆土はその大半が自然堆積土であり、区画溝としての機能を有していたことが追認された。一方で、SD436については、Ａ期は短い期間で人為的に埋められた覆土と看取されたものの、Ｂ期はＡ期に比べると長い時間をかけて埋まったものと捉えられた。これにより、Ｂ期の溝は、場所によって長期間開口していた可能性があり、かつ本地点が中門のすぐ東側という寺観に影響を及ぼす場所であったことを含めば、南面のＢ期の溝については、区画施設としての機能も果していた可能性が窺えよう。尼寺の西辺区画施設については、市街化が進んでいることもあり、未だ不明な点が多い。今後も遺構の保存を図りながら、必要最小限の範囲で成果が得られるよう精度の高い調査を行っていくことが肝要である。

武蔵国分寺跡第 719 次調査では、土坑１基（SK3457）が検出された。調査区は、僧寺伽藍中心から南へ約 240 m、東へ約 30 mと中心部に近い位置にあり、周辺の調査では多数の遺構が確認されていた。同敷地内で実施された第 21 次調査（国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会 2011）では、竪穴住居３軒（SI107・108・110）、そして第 36 次調査（国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会 1988）では、本調査区の西側と東側の道路から竪穴住居３軒（SI169・183・184）と土坑１基（SK355）が検出されていた。今回の調査区は小規模なものであったが、土坑が検出されたことにより改めて遺構の密度が濃い地域であることが確認された。

武蔵国分寺第 717・721 次調査区は、武蔵国分寺跡北方地区の北東部に位置し、僧寺伽藍中心からは北へ約 430 m、東へ約 250 mの位置にあたる。周辺では、平安時代の遺構が多数検出されていたが、平成 27 年度に本調査区の南側で実施した第 709 次調査（国分寺市遺跡調査会 2017）では、縄文時代の小穴と土坑のみが検出され、古代遺構は未検出であった。今回の調査区からも古代遺構は検出されておらず、南方の湧水源をはじめとする水場から離れるにつれて遺構が希薄になる状況を再確認する結果となった。

【中　世】

中世の遺構で特筆されるのは、武蔵国分寺跡第 718・722 次調査で検出された溝 SD170（SD5）が東西約 340 m以上にも及ぶこと、SD170 覆土中より大宰府分類で 13 世紀後半～ 14 世紀前半の白磁皿Ⅸ類（山本 1995）が出土したことで、これまで古代と捉えられていた遺構の年代が中世と判明したことである。

SD5 は、東山道武蔵路の東側を並走する南北溝 SD33 と同じ性質の区画溝として考えられており、年代は他の遺構との関係から 10 世紀中頃に近い時期とされていたが、調査成果から SD5・33・170 は 14 世紀以降の区画溝である蓋然性が高くなった。本調査区の西方に位置する恋ヶ窪廃寺跡や伝鎌倉街道沿いの伝祥応寺など、周辺の中世遺構との関係を引き続き検証していくことが課題であろう。

【近世以降】

恋ヶ窪遺跡第 98 次調査で検出された遺構は、溜池と考えられる SX2・3 及び段掘り SX4 であった。溜池 SX-2 は、地表下約 75 ㎝の位置で検出された。深さは確認面から約 55 ㎝あり、平面形態は不整形な円形を呈していた。池の西端には水路口があり、西方を南北に流れる恋ヶ窪用水（恋ヶ窪村分水）から分水して敷地内へ引き込んだものと考えられた。SX3 は部分的な調査に留まったが、同じ用途で造られたものと考えられる。なお、SX2 の覆土からは 18 世紀の灰釉鉄絵丸碗の破片が出土しており、近世の所産と想定される。

なお、本調査は、縄文時代・旧石器時代の遺構・遺物有無の確認を目的として実施したものであったが、結果として市域でもあまり例のない低湿地における旧地形の情報が得られた。調査区で確認された水性ロームで形成されたシルト質堆積土や砂礫層、河川堆積物の層位関係の情報は、遺跡の性格を把握する上でも貴重である。また、江戸時代の集落の様子を窺い知る遺構も検出され、地域史の復原につながる貴重な成果といえよう。

今後も引き続き遺跡の広がりや性格を把握するための調査を継続して実施することが必要である。

最後に、本書をまとめるにあたって、発掘調査の際に多大な御理解・御協力をいただいた工事主体者や施工業者をはじめとする関係者の皆様には、深く感謝を申し上げます。

〔引用・参考文献〕

武蔵国分寺遺跡調査会・国分寺市教育委員会 1979『武蔵国分寺遺跡調査会年報 1974　武蔵国分寺跡』

国分寺遺跡調査会・国分寺市教育委員会 1982『武蔵国分寺遺跡発掘調査概報 Ⅶ－佐藤国分寺共同住宅建設に伴う調査－』

滝口　宏「地と人と」1986『国分寺市史　上巻』国分寺市史編さん委員会

国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会 1989『武蔵国分寺跡発掘調査概報ⅩⅣ－昭和 52 ～ 57 年度尼寺々域確認調査－』

国分寺市遺跡調査会 1995『武蔵国分尼寺跡Ⅱ―平成５年度発掘調査概報』

国分寺市遺跡調査会 1996『武蔵国分尼寺跡Ⅱ―平成６年度発掘調査概報』

国分寺市遺跡調査会 1997『多摩蘭坂遺跡Ⅱ―都営内藤１丁目第３団地建設に伴う事前調査－』

国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会 1988『武蔵国分寺跡発掘調査概報ⅩⅡ－昭和 50 ～ 53 年度公共下水道面整備に伴う調査－』

国分寺市遺跡調査会 1999『武蔵国分寺跡発掘調査概報ⅩⅩⅣ－北方地区・三菱地所㈱共同住宅建設工事に伴う発掘調査－』

国分寺市遺跡調査会 2002『武蔵国分寺跡発掘調査概報 26 －北方地区・平成 8 ～ 10 年度西国分寺土地区画整理事業及び泉町公園工事に伴う調査－』

国分寺市遺跡調査会 2003『武蔵国分寺跡発掘調査概報 29 －北方地区・平成 11 ～ 13 年度西国分寺地区土地開発事業及び泉町公園事業に伴う調査－』

江坂輝彌・芹沢長介・坂詰秀一編 2005『新日本考古学小辞典』ニュー・サイエンス社

国分寺市教育委員会 2009『平成 19 年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』

国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会 2012『武蔵国分寺跡発掘調査概報 37 －昭和 50 ～ 55 年度僧寺寺院地内等の調査－』

国分寺市教育委員会 2013『平成 23 年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』

国分寺市教育委員会 2016『平成 26 年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』

国分寺市遺跡調査会 2017『平成 27 年度国分寺市埋蔵文化財調査概報』

国分寺市教育委員会 2017『平成 27 年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』

付　編

（１）元町通り水道管布設替工事に伴う立会調査

－僧寺伽藍中枢部北辺区画掘立柱塀・薬師道跡・市立第四小学校付近の古代遺構等の記録－

【１．調査に至る経緯】 平成 28 年７月 28 日、東京都水道局多摩水道改革推進本部立川給水管理事務所（以下、水道局と略）から市教委に、法第 94 条に基づく埋蔵文化財発掘の通知が提出された（国教教ふ収第 422 号）。本工事は、西元町二丁目 17 番地先（元町通りの武蔵国分寺跡資料館入口付近）から、西元町一丁目 14 番地先（多喜窪通りの市立第四小学校前交差点付近）に至る、延長距離約 560 ｍの区間において、昭和 63 年～平成元年度に施工した給水管の付設替を目的とした工事である（第１図）。その内容は、径 150㎜ の既設管を径 200㎜ に増径し、幅 0.60 ～ 0.85 ｍ、深さ 1.20 ～ 1.52 ｍの規模で人力併用の機械掘削を行い、同日中には埋め戻して舗装を仮復旧するのが基本的な仕様で、新旧管の切り替えには、既設管の脇に一旦は地表下約 50㎝ 付近の深さで仮設管を設け、切り替え後は仮設管を撤去し、施工区間全体で舗装の本復旧を行うというものであった。

ところが、施工範囲のうち、国分寺薬師堂仁王門下から史跡公園北東エントランスに至る区間は国指定史跡地内に含まれていることから、市教委は水道局に対して、法 125 条に基づく史跡の現状変更許可申請も合わせて提出するよう求め、同日付で申請書を受理した（国教教ふ収第 425 号）。なお、従前の法施行令では、文化庁長官の権限であった「埋設されているガス管・水管」等の改修に伴う現状変更行為の許可及びその取消し並びに停止命令は、平成 28 年３月 25 日改正の政令第 78 号（平成 28 年４月１日施行）により当該市区町村の教育委員会で行うことになったため､同令第５条第４項一のホに基づき、許可判断は市教委で行うこととなった。

そこで、これらの申請・通知を受理した市教委は、施工者と本工事が基本的に既設水道管の付設替えであり、工事が原則的に掘山内での施工となることを確認したため、工事にあたっては市職員が立ち会い、遺跡が発見された場合は所要の措置をとるものとした。また、法 94 条の通知については、その旨の意見を付して都教委へ進達した。本件にかかる都の通知文書は、８月 16 日付 28 教地管埋第 1379 号にて施工者・市教委の両者に送付され、法 125 条については市職員の工事立会を条件に、８月３日付国教教ふ発第 425 号により市教委から水道局宛てで現状変更の許可通知を送付した。なお、市教委では、昭和 63 年～平成元年当時の水道管付設工事の取り扱い協議記録が現存していないため、工事に立会うにあたっては慎重な姿勢で臨むこととした。

【２．工事立会の概要】 施工範囲内での掘削工事は 10 月 13 日より翌年２月 22 日まで行われ、この間、土曜日も含めて延べ 55 日間の工事に立会うこととなった。工事は、歩行者・自転車を除く車両の規制をかけたうえで、当該日中に一定区間の掘削と管付設及び撤去、さらには埋戻しと仮舗装までを行うなど、極めて迅速に進められたため、遺跡の記録作業に時間的な猶予があまりとれなかったのが実情であるが、周辺地形の状況把握はもとより、幾つかの地点では遺構や遺物の検出も認められたので、以下、

立会で特筆すべき点を中心に報告する。なお、立会箇所とそれぞれの調査所見は、第１図・第１～３表に示したとおりである。

僧寺伽藍中枢部北辺区画掘立柱塀 SA12（東）　僧寺伽藍中枢部では、市教育委員会が平成 15 ～ 24 年度に史跡整備に伴う事前遺構確認調査を実施し、金堂・講堂等の伽藍を構成する主要な建物を、塀や溝等の遮蔽施設で囲繞していたことが明らかになっている（中道 2016）。その規模は、掘立柱塀の心心距離で東西約 152 m、南北約 132 mの規模にも及び、調査の結果、当初の塀は掘立柱であったものが、後に築地塀へと作り替えが行われたことや、塀の内側・外側には大小の溝も並走していた様子が判明しているが、このうち今回の工事箇所は、北辺区画塀・溝がめぐる位置に該当することになった（第３・４図・図版１－１～３）。

北辺区画塀は、従前からの調査で「SA12」の遺構番号を付しており、武蔵国分寺の伽藍中軸線を挟んで東側を SA12（東）、西側を SA12（西）と称し、凡そ７尺（2.0 m）スパンで柱穴が存在すると仮定した場合に、東側で 33 基・西側で 33 基の合計 66 基が一列に並んでいることが想定される。このうち昭和 55 年度に実施した第 117 次調査では東端部の柱穴、平成 20・23 年度に実施した区画北辺地区で４基の柱穴、平成 24 年度に実施した区画北西地区でコーナーを含む４基の柱穴をそれぞれ確認した。また、平成 24 年度には、元町通り上で、同様に現状変更に伴うガス管布設替工事が行われ、区画北辺地区に続く東側で柱穴の痕跡を記録している（依田 2013）。

今回の工事では、総延長距離約 34.5 mの区間で、SA12（東）の柱穴９～ 23 の 15 基を掘り山の南壁断面にて確認した（第５・６図）。柱穴９以西の柱穴は、既設の給水管が北側にずれている関係もあって検出されなかったが、柱穴２に該当する柱穴は先述のガス管工事の際に存在を確認している。また、柱穴９～ 18 の 10 基は、既設の工事によって柱穴掘り方の北側 30 ～ 40cm 程度分が削られていたが（図版１－５～８、図版２－９～ 13 等）、柱穴 19 以東は再び既設管が北側にずれており、柱穴掘り方の北側 10 ～ 20cm 程度分が失われている状況を確認した（図版２－ 14 ～ 16、図版３－ 17・18 等）。なお、南壁断面中に見えた柱穴の土層断面図は第５・６図に示したとおりで、柱穴掘り方幅は約 1.1 ～ 1.4 m を測り、いずれも工事の掘削深度以上の掘り込みを有している。

近世薬師道の痕跡　立会い№.43・48 地点の国分寺薬師堂階段下において、アスファルト・砕石を除去した下面から、非常に固く締まった茶褐色土が検出され、同層上面の一部に細かい玉砂利が敷かれている様子が見られた（第６図・図版３－ 21）。遺物等は出土していないため厳密な年代は押さえられないが、薬師堂に通じる南北道路は明治２年の国分寺村絵図にも明確に描かれており（68 頁第 67 図）、恐らくはアスファルトが敷かれる以前の薬師道の痕跡と思われる。

武蔵国分寺跡北方地区周辺の古代遺構　現在の多喜窪通りに程近い工事区間の北側付近は、市立第四小学校やマンション・老健施設等の建設に伴い広域の発掘調査が行われ、特に古代に関わる遺構の広がりが把握されている一帯である（第２図）。今回の工事では、特に、立会い№.１・10・11・12・16・17・19 の各地点において、遺構と思われる土層の堆積を確認しており、以下にその概略を記す。№.１地点では、東山道武蔵路東側溝に比定される深さ 40cm 程の溝状の落ち込みを検出した（図版３－ 22）。また、

№.10・11・12・16・17・19 では、それぞれ竪穴住居とみられる土層の堆積状況を確認したが（図版３－23・24、図版４－25～28)、このうち№.11・12・16 地点では、今回の施工箇所の東側に隣接地で、昭和 53 年度に実施した公共下水道南部地区 18 号工事施工に伴う武蔵国分寺跡第 79 次調査で竪穴住居が数件確認されており（第２図、上村・上敷領 1990)、それらの延長部分が確認されたことになる。さらに、立会№.17 地点では、焼土と白色粘土中に女瓦が差し込まれている状況が確認され、カマドの構築部材と思われる（図版４－27)。№.16・17 地点では当該土層中より遺物を回収したので、詳細は次項に掲げた。

【３．出土遺物】 当該、工事立会い中に回収した遺物４点を図示した（第７・８図)。１は須恵器埦で、口径 14.7cm、高台径 6.6cm、器高 5.1cm を測る。緻密でやや軟質な胎土には少量の砂粒を含んでおり、色調は灰褐色を呈する。９世紀後半頃の東金子窯製品と思われる。内底面には煤が付着しており、灯明具としての使用が想定されるが、口縁部内面と高台内には液垂れ状の痕跡が認められる。立会№.17 地点より出土した。２は須恵器坏で、口径 11.3cm、底径 5.6cm、器高 3.5cm を測る。腰部は丸みを持ち、肥厚する口縁部は外反気味に立ち上がる。砂粒を少量含む、硬質な胎土で、色調は灰褐色を呈する。肉厚な感じから、９世紀後半頃の東金子窯製品と思われる。立会№.16 地点より出土した。３は土師質土器の高台付皿で、口径 11.5cm、高台径 6.0cm、器高 3.7cm を測る。橙褐色をした、大粒の砂礫を含む粗い胎土で、細かい粘土塊が器表面に多く付着している。口縁部はやや肥厚気味で、底部は回転糸切後に、接地面がやや外傾する高台を貼り付けている。10 世紀前半頃の製品であろう。立会№.10 地点より出土した。４は立会№.16 地点より出土したもので、刃先が屈曲しているが刀子の刃部と思われる。重量は 19.4 ｇを有する。

【４．工事終了後の措置】 工事終了後の３月 13 日に、水道局より市教委宛てに現状変更終了報告書が提出された（国教教ふ収第 1146 号)。また、立会中に発見した出土品については、市教委が工事立会最終日の２月 22 日付で事務連絡にて小金井警察署へ埋蔵物発見通知を、同日付国教教ふ発第 270 号で都教委へ出土品保管証を、それぞれ提出を済ませ、都教委からは３月９日付 28 教地管埋第 1379-2 号にて文化財認定及び出土品の帰属にかかる通知を受理した（受理日３月 17 日国教教ふ収第 1176 号)。

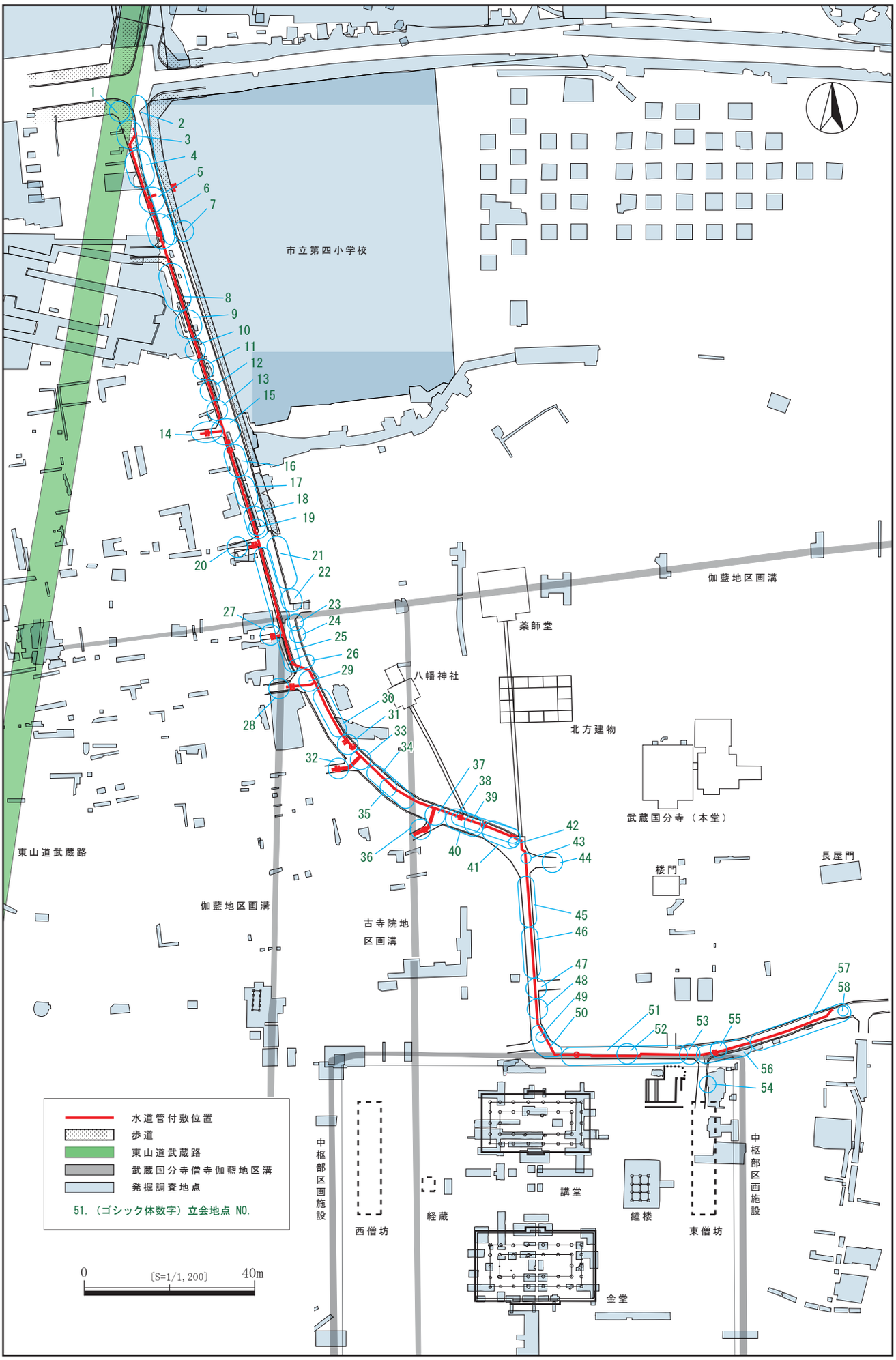
なお、史跡地内で発見された僧寺伽藍中枢部北辺区画掘立柱塀（SA12 東）は、平成 29 年５月 31 日に開催した平成29年度第１回国分寺市史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会で、「平成28年度の史跡現状変更」として報告し、文化庁より今後の史跡整備の一環で、現行道路の路面上に柱穴の検出位置を表示することの可否について関係部局と調整をはかるよう提案を受け、今後の課題とした。

〔参考文献〕

上村昌男・上敷領久 1990『武蔵国分寺跡発掘調査概報ＸⅥ－国分寺市公共下水道面整備南部地区 18 号工事に伴う調査－』国分寺市遺跡調査会

中道　誠 2016『国指定史跡武蔵国分寺僧寺跡発掘調査報告書　Ⅰ遺構編－史跡保存整備に伴う事前遺構確認調査－』国分寺市教育委員会

依田亮一 2013『国指定史跡武蔵国分寺跡附東山道武蔵路跡－平成 24 年度保存整備事業に伴う事前遺構確認調査－』国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会



第１図　元町通り水道管布設替工事　立会地点全体図

第１表　元町通り水道管布設替工事に伴う立会調査記録一覧１

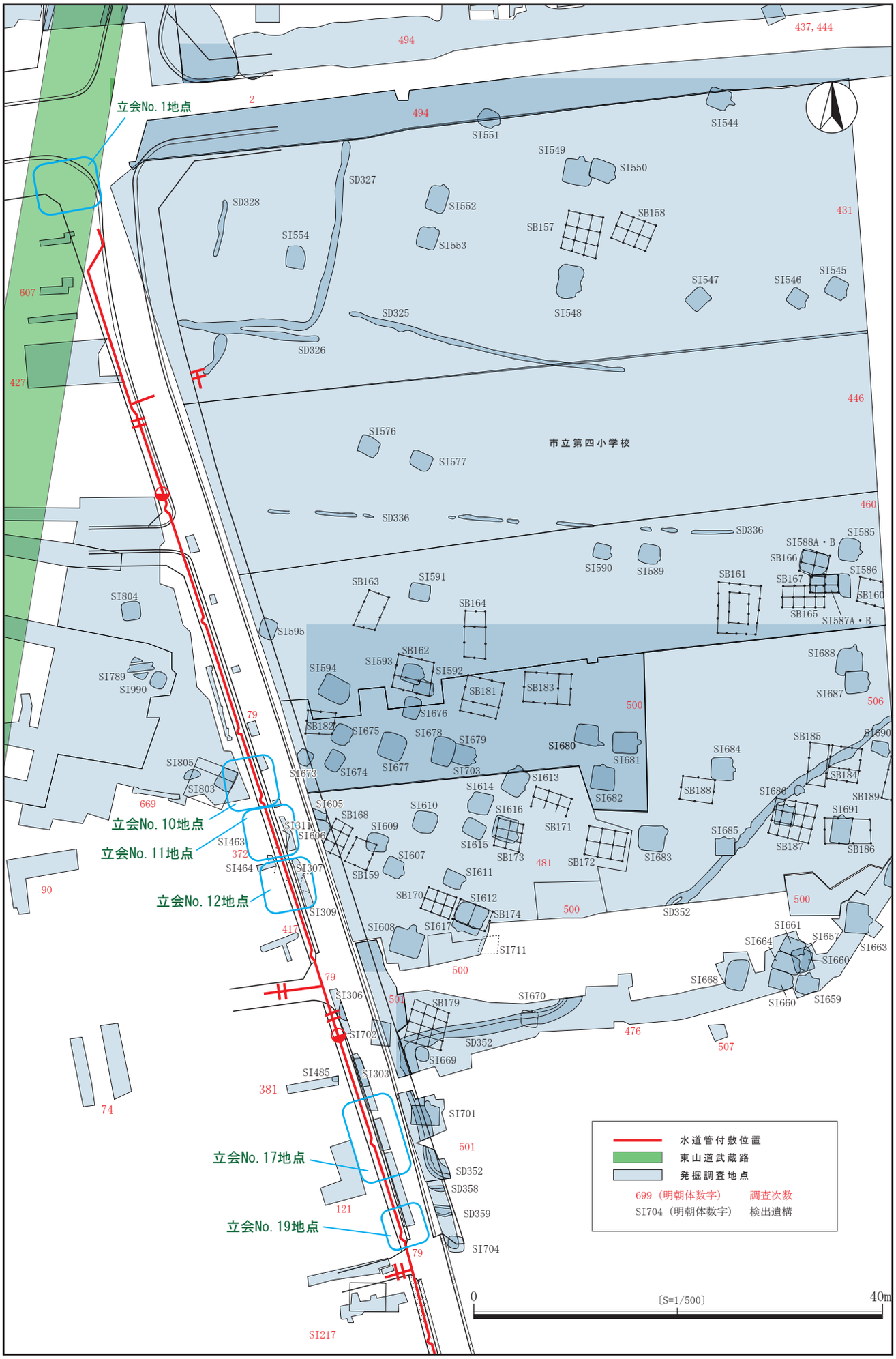
地点	工事箇所	立会日	立会所見	No.
1	四小交差点南西歩道	H28.10.13	既設水道管位置確認のための試掘（以下、試掘と表記）。 GL-120cm 掘削。路盤 50cm、Ⅲｂ層 30cm、以下Ⅲｃ層。	1
		H28.12.1	試掘。東山道武蔵路東側溝検出。GL-180cm 掘削。路盤 80cm、Ⅲｂ層 20cm、Ⅲｃ層 10cm、以下Ⅳ層、底面はⅤ層。側溝はⅢｂ層上面で確認、40cm の深さを有する。上層はⅢｂ層に似るが、下層は転圧を受けた硬い黒褐色土で、ローム粒少量含む。【図版３】	119
		H29.1.7	掘山内。	151
2	四小西　西側歩道	H28.10.13	試掘。GL-50cm まで路盤、黒色土 30cm、Ⅲｂ層 40cm、以下Ⅲｃ層。	2
		H29.1.6	GL-100cm 掘削。路盤 30cm、路盤下はスコリア混じりの黒色土。古代溝 SD336 の延長にあたるため、溝覆土の可能性あり。	150
3	四小西　西側歩道 個人宅前	H28.12.12	西面。GL-110cm 掘削。路盤 40cm、黒色土 60cm、以下ローム。下部に下水管が通っているが、推進工法のようで、上層は自然堆積の可能性あり。	140
4	四小西　西側歩道 西元町 2-17-17・18	H28.12.5	GL-110cm 掘削。路盤 40cm、黒色土 60cm、以下褐色土。	126
		H28.12.6	GL-110cm 掘削。路盤 50cm、Ⅲｂ層 40cm、Ⅲｃ層 20cm、以下Ⅳ層。	127
		H28.12.6	GL-100cm 掘削。歩道は掘山。車道は路盤 50cm、Ⅲｂ層 30cm、Ⅲｃ層 20cm、以下Ⅳ層。	128
		H28.12.9	GL-150cm でローム。	138
		H28.12.12	GL-130cm 掘削。路盤下 -110cm で漸移層。	141
5	四小西　西側歩道 西元町 2-17-18　動物病院前	H28.12.5	GL-90cm 掘削。路盤 40cm、黒色土 20cm、以下Ⅲｃ層。黒色土は縄文遺構の覆土の可能性あり。	125
		H28.12.9		137
6	西元町 2-17-18・19 個人宅前	H28.12.5	GL-110cm 掘削、路盤 30cm、黒色土 20cm、褐色土 20cm、以下ローム。	124
7	四小体育館前水栓	H28.12.12	GL-110cm 掘削。路盤 40cm、褐色土 50cm、黒色土 10cm、以下ローム。	142
8	西元町 2-16-40 老健施設前歩道	H28.11.30	GL-110cm 掘削。路盤 50cm、黒色土 20cm、褐色土 30cm、以下ローム。	117
		H28.12.9		136
		H28.12.16		146
		H29.1.10		152
9	西元町 2-16-40 老健施設前歩道	H28.11.29	GL-110cm 掘削。路盤 50cm、Ⅲｂ層 30cm、以下Ⅲｃ層。Ⅲｂ層上面で底部に褐色土、ロームブロック少量混入する黒褐色土の落ち込みがあり、溝遺構の覆土の可能性あり。	111
		H28.12.9		135
10	西元町 2-16-40 老健施設南東隅歩道	H28.11.29	GL-90 ～ 110cm 付近でロームブロックを多く含む明褐色土があり、土師質土器出土、竪穴住居覆土の可能性あり。	110
11	西元町 2-16-44 駐車場前歩道	H28.11.29	路盤 50cm、路盤下に深さ 30cm 程のロームブロック少量含む黒褐色土の落ち込みあり、竪穴住居覆土の可能性あり。【図版３】	109
12	西元町 2-16-45 個人宅前歩道	H28.11.29	路盤 50cm。GL-90cm に貼床と思しき薄い硬質面あり。硬質面上は暗褐色土ベース、竪穴住居覆土の可能性あり。【図版３】	108
13	西元町 2-16-45 個人宅前歩道	H28.11.29	GL-100cm 掘削。路盤 50cm、Ⅲｂ層 30cm、Ⅲｃ層 10cm。	107
14	西元町 2-16-45 南側市道	H28.10.15	試掘。硬質面を検出。	4
		H28.12.2	GL-100cm 掘削。路盤 40cm、Ⅲｂ層 50cm、以下Ⅲｃ層。	122
		H28.12.15	GL-170cm 掘削。路盤 40cm、黒色土 40cm、褐色土 20cm、以下ローム。-80cm に縄文土器片、-50cm で瓦片確認。	145
		H28.12.21	GL-80cm 掘削。路盤 40cm、褐色土 20cm、漸移層 20cm。掲示板の南側で -70cm 付近に黒色土、古代溝の覆土の可能性あり。	149
15	西元町 2-16 交差点	H28.11.28	GL-110cm 掘削。路盤 80cm、以下 10cm 程のローム混じり土、黒色土。	105
		H28.12.9	GL-80cm 掘削。路盤 30cm、以下黒色土・ローム。黒色土上面に焼土らしきものが混じる。	134
16	西元町 2-15-40・41 個人宅・アパート前歩道	H28.11.28	GL-100cm 掘削。-50cm 付近で、南北１ｍ幅、深さ約 30cm の黒色土。黒色土は竪穴住居覆土の可能性あり、土師器・須恵器・金属製品を含む。遺構外は褐色土（Ⅲｂ層）。	102
17	西元町 2-15-41・42 アパート・駐車場前歩道	H28.11.25	路盤 30cm、黒色土 20cm、以下ローム。黒色土は焼土・粘土を含み、粘土中に大型の瓦片が含まれる。竪穴住居のカマドの可能性あり。【図版４】	99
		H28.11.28	アパート入口のゲートから北へ 6m。南北約 2.9m 幅で黒色土の広がりを確認。黒色土中から須恵器坏片出土。竪穴住居の可能性あり。【図版４】	101

第２表　元町通り水道管布設替工事に伴う立会調査記録一覧２

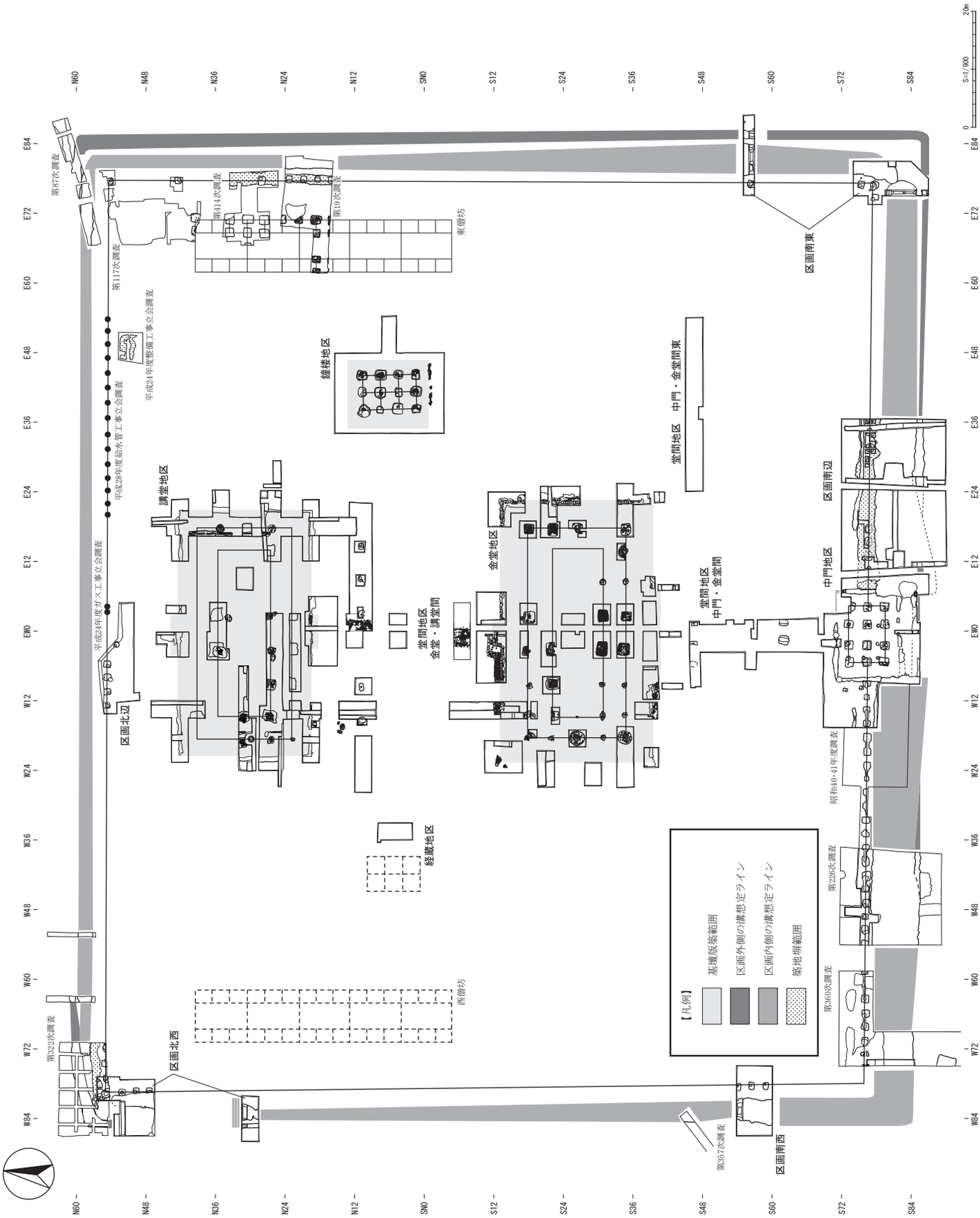
地点	工事箇所	立会日	立会所見	No.
18	西元町 2-15-42 個人宅前歩道	H28.11.25	GL-130cm 掘削。路盤 60cm。黒色土 40cm、以下ローム。	96
19	西元町 2-15-42 個人宅前歩道	H28.10.15	試掘。GL-100cm 掘削。路盤 60cm、Ⅲb 層 10cm、以下Ⅲc 層。個人宅門から南へ 0.5m から南北 1m 幅で遺構と思しき覆土を確認、その南は攪乱。遺構覆土は 90cm の厚みあり。灰・粘土・焼土を混入。竪穴住居のカマドの可能性あり。【図版４】	6
20	西元町 2-14-16 北側市道	H28.10.15	試掘。	5
		H28.12.2	GL-100cm 掘削、路盤 40cm、黒色土 40cm、以下ローム。	120
		H28.12.13	既設ガス管の掘山。	144
21	消防署前道路	H28.12.20	掘山内。	148
22	消防署南西 薬師堂西側入口部	H28.12.8	GL-80cm 掘削。路盤 40cm、褐色土 20cm、以下ローム。	130
		H28.12.19	伽藍地北辺区画溝の走行予測地点であったが、掘山内のため未検出。	147
		H29.1.11	道路横断。仮設管の撤去。	153
23	国分寺公園西側	H28.10.14	試掘。GL-110cm 掘削。路盤 30cm、以下ハードローム。	3
24	国分寺公園西側	H28.11.10	水栓の設置。GL-160cm 掘削。路盤 50cm、以下ローム。	72
25	西元町 2-13-37 ～ 2-14-1 東側	H28.11.21	GL-100cm 掘削。路盤 20cm、以下掘山（山砂）。	87
		H28.11.22	GL-100cm 掘削。路盤 60cm、以下黒色土・褐色土。黒色土中には土器片を含み、幅 2.1m を有する。溝遺構の可能性あり。	92
26	西元町 2-13-37 東側	H28.11.21	GL-100cm 掘削。路盤 50cm、以下ハードローム。	86
27	西元町 2-13-37 北側市道	H28.12.13	GL-160cm 掘削。掘山内。	143
28	幼稚園北側市道	H28.11.2	試掘。路盤 30 ～ 40cm、褐色土 10 ～ 20cm、以下ハードローム。	57
29	市指定史跡 土師竪穴住居前面	H28.11.19	道路西側：路盤 30cm、路盤直下ハードローム。 道路東側：GL-130cm 掘削。路盤 30cm、ハードローム 30cm、第一暗色帯 20cm。	85
30	幼稚園東側（道路横断）	H28.11.17	ほぼ掘山内。	82
31	八幡神社スロープ前	H28.11.15	「幅員減」の道路標識から北へ 5cm。ほぼ掘山内。	77
32	幼稚園南側市道	H28.11.2	試掘。GL-240cm 掘削。路盤 50cm、以下黒褐色土。	58
		H28.11.25	GL-100cm 掘削。路盤 30cm、黒色土 20cm、褐色土 30cm、以下ローム。	95
33	幼稚園東側	H28.11.15	幼稚園前のミラー。GL-110cm 掘削。	78
		H28.11.16	公園角。GL-110cm 掘削。	81
34	西元町 2-11-43・44 東側	H28.11.14	ミラーから北へ 0.3m。GL-110cm 掘削。路盤 40 ～ 50cm。以下掘山でロームブロックが入る。ここより北へ 1m の範囲は、粘土質土を確認。道路標識の直下で近代茶碗出土。標識から 3m 坂下では、-130cm で礫層を検出し、礫層中には深さ 20cm 程の空洞が存在。	73
		H28.11.16	参道から北へ 1.5 m。東面は地山残る。西面は掘山。	80
35	西元町 2-11-43・44 東側	H28.11.15	消火栓。GL-150cm 掘削。路盤下はハードローム。	79
		H28.12.2	試掘。掘山内。	123
36	西元町 2-11-44 南側市道	H28.11.2	試掘。路盤 50cm、褐色土 10cm、以下ハードローム。	59
		H28.12.7		129
37	西元町 2-11-22・44 東側	H28.11.7	ほぼ掘山内。	61
		H28.11.18	GL-130cm 掘削。	83
		H28.11.18	道路標識前。GL-120cm 掘削。路盤 30cm、黒色土 30cm、40cm 褐色土（スコリア多、漸移層）、以下ソフトローム。黒色土は東へ向かって薄くなる。	84
		H28.12.12	仮管撤去。	139
38	八幡神社階段下 ～薬師堂階段下	H28.10.19	仮設水道管を設置。	8
39	八幡神社階段下	H28.11.1	栓の設置。	55
		H28.11.2		56
		H29.1.20	消火栓工事	154

第３表　元町通り水道管布設替工事に伴う立会調査記録一覧３

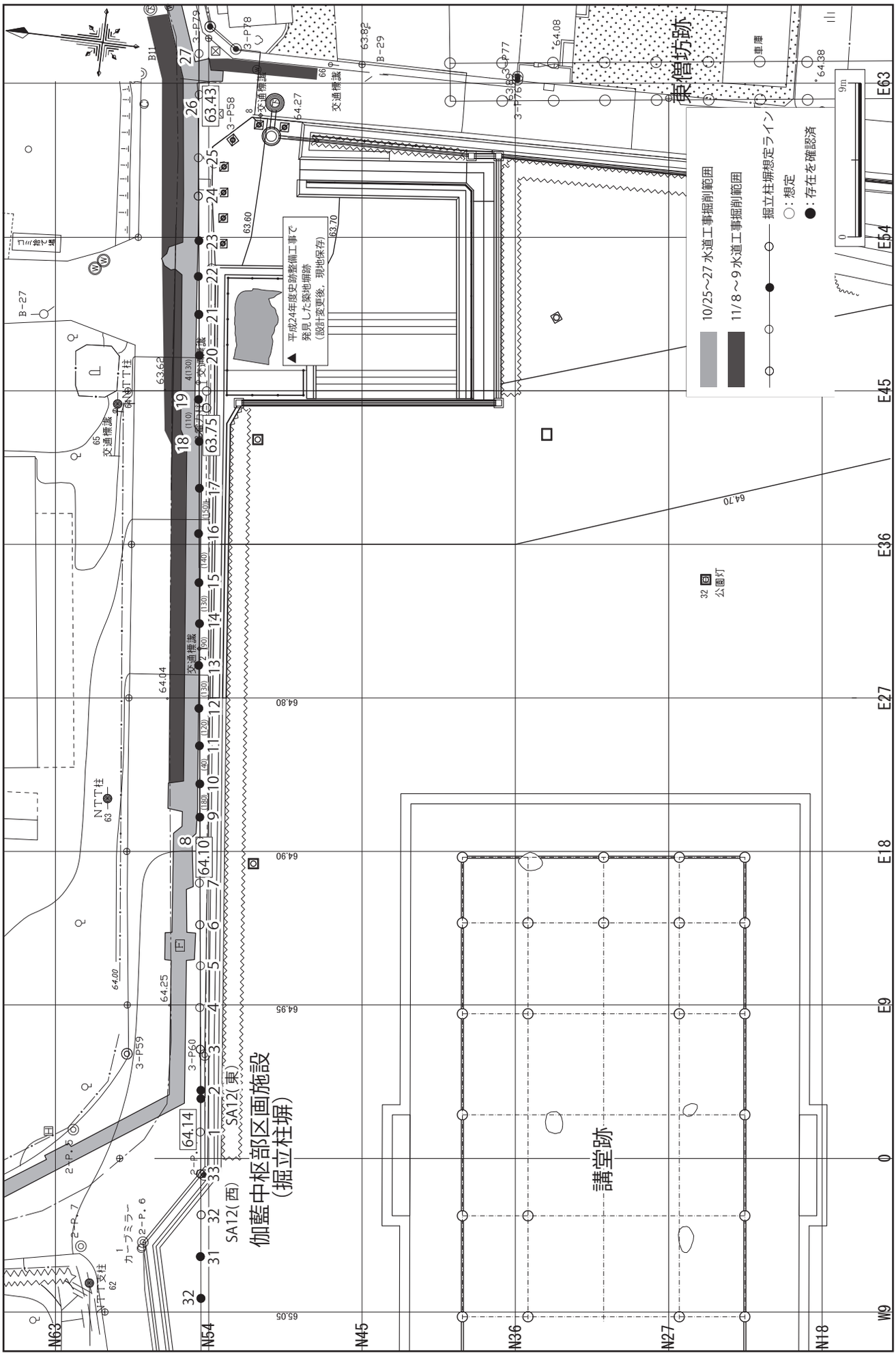
地点	工事箇所	立会日	立会所見	No.
40	八幡神社階段下付近	H28.10.29	路盤・砕石、黒色土、ローム。	51
		H28.10.29	路盤・砕石、ローム。	52
41	薬師堂階段下西側	H28.10.29	ほぼ掘山内。	50
		H28.10.31		53
42	薬師堂階段下	H28.10.22	試掘。薬師堂前の階段西角から南へ2.7m。GL-90cm掘削。路盤30cm、茶褐色土20cm（ローム粒多、やや締まる）、暗褐色土20cm（ローム粒多・小石少、粘性・締まりあり）、暗褐色土5cm（ローム・小石少、粘性・締まりあり）、以下ハードローム。	11
43	薬師堂前	H28.10.22	試掘。42地点から南へ1.8m。GL-130cm掘削。路盤40cm、硬化面10cm（薬師道の可能性あり）、暗褐色土30cm（ローム少、粘性・締まりあり）、以下ハードローム。【図版３】	12
		H28.10.29	路盤30cm。砂利層10cm（薬師道）、明褐色土5cm、黒色土15cm、褐色土20cm、以下漸移層・ソフトローム。	49
44	国分寺墓地北側	H28.10.29	ほぼ掘山内。	48
45	国分寺墓地西側	H28.10.29	ほぼ掘山内。	47
46		H28.10.28	墓地西側フェンス沿い。GL-130cm掘削。路盤40cm、以下褐色土。	45
47	国分寺墓地南西	H28.10.28	GL-120cm掘削。東西に下水道管があり、全体的に攪乱（水路跡）を受けている。	44
48	公衆トイレ西側	H28.10.28	GL-120cm掘削。西面：路盤40cm。70cm厚の褐色土を介して、以下ローム漸移層。東面：路盤40cm。20cm厚で褐色土の硬質面（薬師道の可能性あり）、以下褐色土（底面に粘土・焼土検出）。	43
49	国分寺駐車場南西隅	H28.10.21	試掘。	10
		H28.10.22	試掘。GL-140cm掘削。路盤30cm、硬化面10～20cm（薬師道の痕跡、東側で厚い）、硬化面直下ローム5～10cm、褐色土50cm、以下ハードローム。	13
50	国分寺駐車場南西隅	H28.10.27	GL-120～-150cm掘削。路盤40cm。褐色土20～60cm（瓦･礫を含む）、以下ソフトローム。中枢部区画溝SD214・229の予測地点だが、明確に捉えられなかった。	35
		H28.11.9	旧管撤去。SD214・229は確認できず。南側ではGL-60cm表土、瓦が混じる。北側ではGL-80cmまでロームブロック・瓦片を多く含む。	71
51	史跡公園北側	H28.10.26	柱穴列（SA12東-9～23）検出。【図版１～３】	34
		H28.11.8	国分寺参道東側。路盤40cm、茶褐色土80cm、以下ローム。	64
		H28.11.8	国分寺参道正面。路盤40cm、褐色土50cm、以下ローム。	65
		H28.11.8	国分寺入口の石碑前。路盤30cm、漸移層、ローム。	66
		H28.11.8	北側に電柱。路盤30cm、褐色土40cm、以下ローム。	67
		H28.11.8	南側電柱支線。路盤30cm、褐色土40cm、以下ローム。	68
		H28.11.8	道路標識から東へ1m。GL-80cm掘削。路盤30cm、褐色土50cm、以下黒色土。	69
		H28.11.9	旧管撤去。道路標識から西へ4m、道路肩から北へ1.8m。GL-90cm掘削。路盤30cm、褐色土20cm、以下粘土混じりの黒褐色土10cm。	70
52	公園照明灯北 （講堂基壇の北東隅）	H28.10.22	試掘。道路境界から北へ約1m。GL-140cm掘削、北側に地山。路盤30cm、礫・石多い層20cm、黒色土20cm（粘性・締まりあり）、以下褐色土（粘性・締まりあり）。	14
53	史跡公園入口北側	H28.10.19	試掘。SA12-22・23を検出。【図版３】	9
		H28.11.4	栓の設置。※地中は見えず。	60
54	西元町3-31-10西側	H28.11.8	東面。GL-20～40cm、南北30cmの範囲で一部地山が残る。ローム粒が入り遺構の覆土の可能性あり。西面は掘山のため続かない。	62
55	西元町3-31-10北側	H28.11.8	仮設管撤去。路盤30cm。路盤下黒色土中から明治期の陶器片検出。	63
56	西元町3-31-13北側	H28.10.25	GL-130cm掘削。路盤30cm。瓦・礫・ローム粒を含む褐色土（粘性無し、締まりあり）30cm、以下ハードローム。	27
57	西元町3-31-13・14北側	H28.10.18	仮設水道管を設置。GL-40cm掘削、掘山内。	7
		H28.10.24	道路横断。GL-120cm掘削。北西面。路盤40cm、範囲東側を中心に褐色土20～30cm、須恵器片を含むため、溝遺構の可能性あり、以下ハードローム。	16
58	西元町1-14-1南側	H28.10.22	試掘。掘山内。	15



第２図　元町通り水道管布設替工事　市立第四小学校付近の立会調査と周辺の古代の遺跡

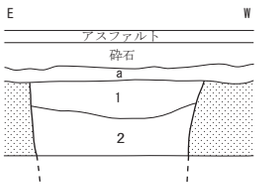


第３図　武蔵国分寺僧寺跡　伽藍中枢部の調査地点と水道工事検出の北辺区画塀位置図



第４図　元町通り水道管布設替工事　伽藍中枢部北辺区画塀検出地点

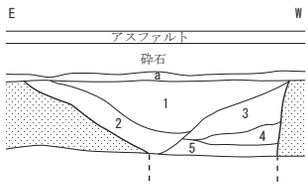
SA12-9



a	暗茶褐色土	粘性あり、しまりあり。粘土粒・瓦片少量含む。

SA12-9		
1	灰白色土	粘性あり、しまりあり。粘土ブロック多量含む。
2	明灰褐色土	粘性あり、しまりあり。粘土粒・瓦片少量含む。

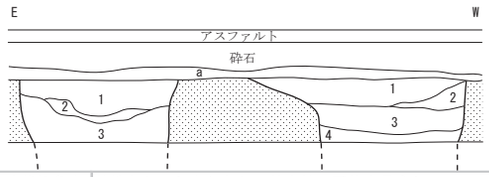
SA12-10



a	暗茶褐色土	粘性あり、しまりあり。粘土粒・瓦片少量含む。

SA12-10		
1	明灰褐色土	粘性あり、しまりあり。瓦片微量、ローム粒・粘土粒多く含む。
2	灰白色土	粘土ブロック主体層。一部被熱。
3	暗灰褐色土	瓦片微量、粘土ブロック多く含む。
4	暗灰褐色土	粘性あり、しまりあり。ロームブロック少量含む。
5	黒褐色土	粘性あり、しまりあり。ローム粒やや多く含む。

SA12-12　　SA12-11

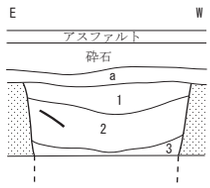


a	暗茶褐色土	粘性あり、しまりあり。粘土粒・瓦片少量含む。

SA12-11		
1	明灰褐色土	粘性あり、しまりあり。灰白色粘土ブロック・瓦片少量、灰白色粘土粒やや多く含む。
2	黄褐色土	粘性あり、しまりあり。ロームブロック主体層。
3	暗灰褐色土	粘性あり、しまりあり。ローム粒少量含む。
4	暗茶褐色土	粘性あり、しまりあり。ローム粒やや多く含む。

SA12-12		
1	暗灰褐色土	粘性あり、しまりあり。瓦片少量、ロームブロックやや多く含む。
2	灰白色土	粘性あり、しまりあり。瓦片少量、粘土ブロック多量含む。
3	明灰褐色土	粘性ややあり、しまりややなし。ローム粒・粘土粒少量含む。

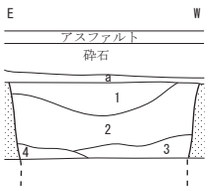
SA12-13



a	暗茶褐色土	粘性あり、しまりあり。粘土粒・瓦片少量含む。

SA12-13		
1	暗褐色土	粘性あり、しまりあり。ロームブロックやや多く含む。
2	暗褐色土	粘性ややあり、しまりややなし。ローム粒・粘土粒少量含む。
3	暗黄褐色土	粘性あり、しまりあり。ロームブロック多量含む。

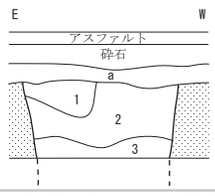
SA12-14



a	暗茶褐色土	粘性あり、しまりあり。粘土粒・瓦片少量含む。

SA12-14		
1	暗灰褐色土	粘性ややあり、しまりあり。灰白色粘土ブロック・ロームブロックやや多く含む。
2	暗褐色土	粘性ややあり、しまりややなし。ローム粒・粘土粒少量含む。
3	暗褐色土	ローム粒・粘土粒微量含む。
4	暗黄褐色土	粘性あり、しまりあり。ロームブロック多量含む。

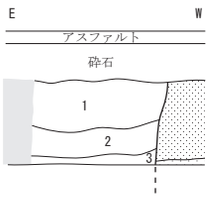
SA12-15



a	暗茶褐色土	粘性あり、しまりあり。粘土粒・瓦片少量含む。

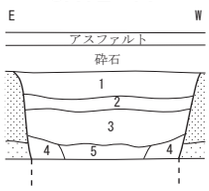
SA12-15		
1	灰黄褐色土	ローム粒・ロームブロックやや多く、灰白色粘土ブロック・粘土粒多量含む。
2	明茶褐色土	粘性あり、しまりあり。粘土粒少量、ロームブロック多く含む。
3	暗灰褐色土	粘性あり、しまりあり。ロームブロック多量含む。

SA12-16

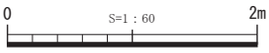


SA12-16		
1	明灰褐色土	粘性あり、しまりあり。ローム粒・粘土粒少量含む。
2	黒褐色土	粘性ややなし、しまりややなし。ローム粒微量含む。
3	明褐色土	粘性あり、しまりあり。ロームブロック多く含む。

SA12-17

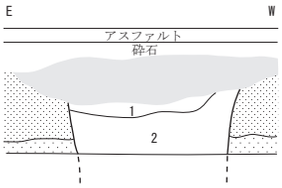


SA12-17		
1	明灰褐色土	粘性あり、しまりあり。ローム粒少量含む。
2	灰褐色土	粘性あり、しまりあり。ロームブロック微量、灰白色粘土ブロック多く含む。
3	暗灰褐色土	粘性ややなし、しまりややなし。ロームブロック微量、粘土粒少量含む。
4	暗灰褐色土	粘土ブロック多量含む。
5	暗褐色土	粘性あり、しまりあり。ローム粒・ロームブロック少量含む。



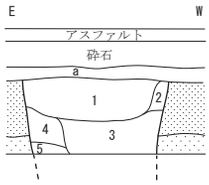
第５図　伽藍中枢部北辺区画塀 SA12（東）　断面模式図１

SA12-18



SA12-18		
1	明黄褐色土	粘性あり、しまりあり。ロームブロック多量含む。
2	暗褐色土	粘性あり、しまりあり。ロームブロック多く含む。

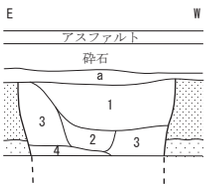
SA12-19



a	暗茶褐色土	粘性あり、しまりあり。粘土粒・瓦片少量含む。

SA12-19		
1	暗灰褐色土	粘性あり、しまりあり。ロームブロック微量、ローム粒少量含む。
2	暗黄褐色土	粘性あり、しまりあり。ロームブロック多量含む。
3	明茶褐色土	粘性あり、しまりあり。ロームブロック微量、ローム粒多量含む。
4	明茶褐色土	粘性あり、しまりややなし。ロームブロック多量含む。
5	黒褐色土	粘性あり、しまりあり。ロームブロック多く含む。

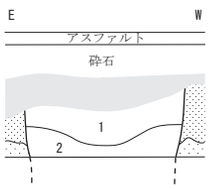
SA12-20



a	暗茶褐色土	粘性あり、しまりあり。粘土粒・瓦片少量含む。

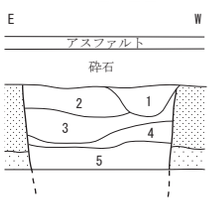
SA12-20		
1	明褐色土	粘性あり、しまりあり。ローム粒・粘土粒少量含む。
2	暗褐色土	粘性あり、しまりあり。ロームブロック多く含む。
3	暗褐色土	粘性あり、しまりあり。ロームブロック少量含む。
4	明黄褐色土	粘性あり、しまりあり。ロームブロック多量含む。

SA12-21



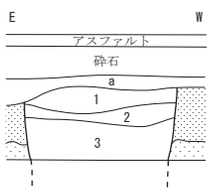
SA12-21		
1	暗褐色土	粘性あり、しまりあり。ロームブロック多量含む。
2	黒褐色土	粘性あり、しまりあり。ローム粒多く含む。

SA12-22



SA12-22		
1	明茶褐色土	粘性あり、しまりあり。ローム粒少量含む。（Pit）
2	明褐色土	粘性あり、しまりあり。粘土ブロック少量、ロームブロック多く含む。
3	明褐色土	粘性あり、しまりあり。ロームブロック多量含む。
4	黒褐色土	粘性あり、しまりあり。ローム粒少量含む。
5	黒褐色土	粘性あり、しまりあり。ロームブロックやや多く含む。

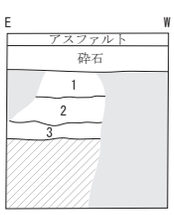
SA12-23

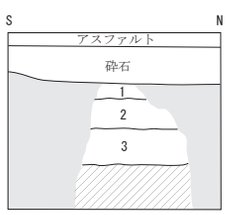


a	暗茶褐色土	粘性あり、しまりあり。粘土粒・瓦片少量含む。

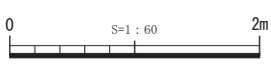
SA12-23		
1	明茶褐色土	粘性あり、しまりあり。ロームブロック多く含む、
2	黒褐色土	粘性あり、しまりあり。ローム粒少量含む。
3	暗茶褐色土	粘性あり、しまりややなし。ロームブロックやや多く含む。

薬師道検出状況





薬師道		
1	茶褐色土	非常に固くしまる。ローム粒多く含む。薬師道。
2	暗褐色土	粘性あり、しまりあり。瓦片少量、ローム粒多量含む。
3	暗褐色土	粘性あり、しまりあり。ローム粒・礫少量含む。



第６図　伽藍中枢部北辺区画塀 SA12（東）　断面模式図２

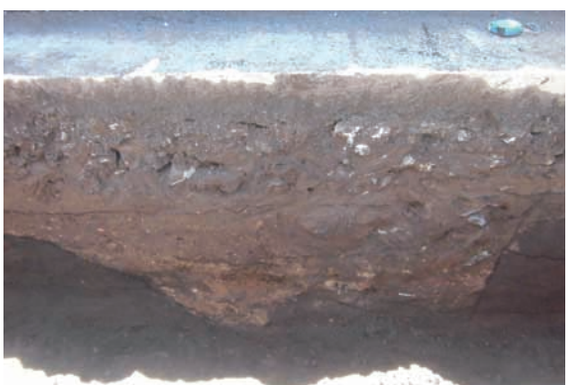
図版１　元町通り水道管布設替工事１

1. SA12 検出範囲（北から）

2. SA12 検出範囲（北東から）

3. SA12 検出範囲（西から）

4. SA12-9 検出状況（北から）



5. SA12-10 検出状況（北から）

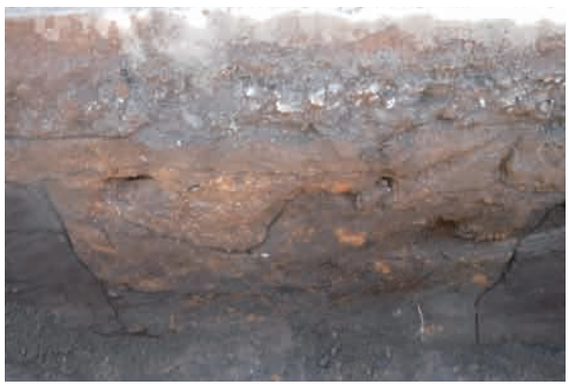
6. SA12-11 検出状況（北西から）

7. SA12-12 検出状況（北東から）

8. SA12-13 検出状況（北東から）

図版２　元町通り水道管布設替工事２

9. SA12-14 検出状況（北東から）



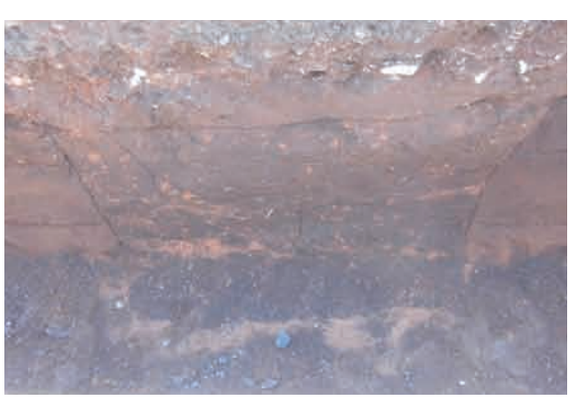
10. SA12-15 検出状況（北から）

11. SA12-16 検出状況（北東から）

12. SA12-17 検出状況（北東から）

13. SA12-18 検出状況（北から）

14. SA12-19 検出状況（北から）



15. SA12-20 検出状況（北から）

16. SA12-21 検出状況（北から）

図版３　元町通り水道管布設替工事３

17. SA12-22 検出状況（北から）

18. SA12-23 検出状況（北から）

19. SA12-22・23 検出状況（北から）

20. №41 地点　工事作業スナップ（南東から）

21. No. 43 地点　薬師道検出状況（北から）

22. No. 1 地点　東山道東側溝（南から）

23. No. 11 地点　竪穴住居 SI2 検出状況（東から）

24. No. 12 地点　竪穴住居 SI3 検出状況（東から）

図版４　元町通り水道管布設替工事４

25. No. 17 地点　竪穴住居 SI4 検出状況（南から）

26. No. 17 地点　竪穴住居 SI5 検出状況（北東から）

27. No. 17 地点　SI6 カマド検出状況（東から）

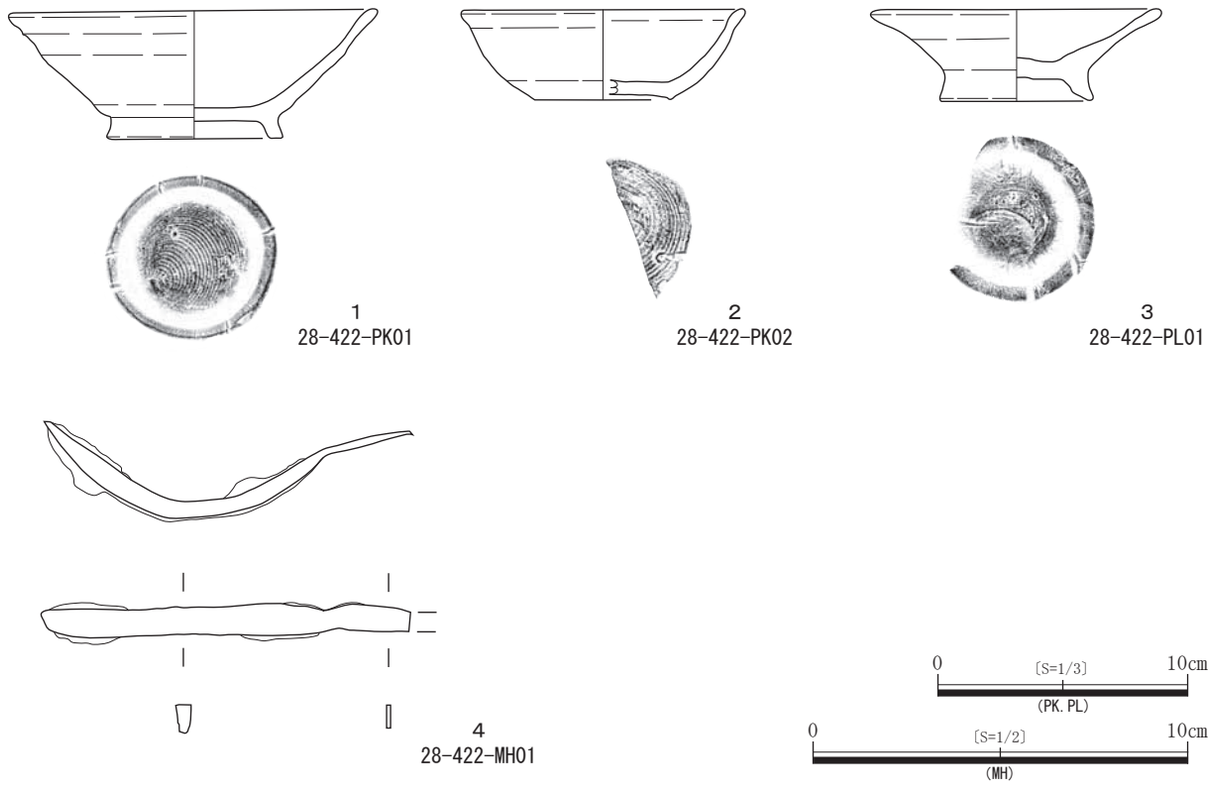
28. No. 19 地点　竪穴住居 SI7 検出状況（東から）

29. No. 45 地点　工事作業スナップ（北から）

30. No. 45・46 地点　仮復旧スナップ（北から）

31. No. 17 地点　工事作業スナップ（南から）

32. No. 13 ～ 15 地点　工事作業スナップ（南から）



第７図　元町通り水道管布設替工事に伴う立会調査　出土遺物実測図

第８図　元町通り水道管布設替工事に伴う立会調査　出土遺物写真

（２）武蔵国分寺跡史跡整備工事に伴う立会調査

－史跡武蔵国分寺跡（僧寺地区）第一期整備工事（中枢地区）中門付近で検出した礎石の記録－

【１．調査に至る経緯】 国分寺市は、大正 11 年 10 月 12 日に国の史跡に指定された武蔵国分寺跡を郷土の歴史を語り継ぐよりどころとして、また豊かな自然を残す場として急速に進む都市化から保護し、歴史公園として整備・活用するための事業を行っている。すでに尼寺地区は歴史公園として平成 15 年から供用を開始しており、僧寺地区についても平成 15 から 24 年度まで、整備を行う基礎的な情報を得ることを目的に事前遺構確認調査を実施した。この調査成果をもとに、平成 23 年度より僧寺地区の第一期整備工事を進めており、平成 27 年度は史跡武蔵国分寺跡（僧寺地区）第一期整備工事（中枢地区）第２工区その２として、中門地区周辺や鐘楼地区の整備工事を進めていた。

平成 28 年 12 月 12 日、市職員立会のもと、中門地区の南側、隣地との境界に設置する金網フェンス基礎部分を掘削している際に未発見の礎石と考えられる石が検出された。

【２．検出された礎石の概要】 石は、地表面から約 40 ㎝の深さで検出された。位置的には、武蔵国分僧寺の中枢部区画施設である SD194 溝・SD197 溝の直上で、層位はこれらの溝を覆う表土中にあたる。礎石の上面から約 10 ㎝程度まで部分的に周りを掘り下げて確認したが、深く地面に埋っている可能性が高かったため、掘削範囲は拡張せずに掘山内での簡易観察を行った。このため、礎石の規模や重量は不明であるが、確認範囲内では縦横ともに約 40 ㎝以上あった。上面は、ほぼ平坦で凹凸が少なく、明確な加工痕は確認できなかったが、調整されている可能性がある。石材はチャートで、色はやや橙色が強く、一部に被熱したような赤い部分が見受けられた。

中門跡は、昭和 40 年と、今回の整備工事に伴う平成 19 年に調査が実施されており、礎石を据えるための基礎地業である壺地業が 12 箇所検出されている。壺地業の数から、八脚門の礎石立建物の構造と想定されているが、実際の礎石は原位置では確認されていない。しかし、昭和 40 年の調査の際に、中門の前面（南側）を東西に走る大きな溝（のちに SD194 溝と呼称）から、礎石に使われたと想定される大きな石が 10 個見つかっており（第１図参照）、畑作の邪魔になるので中門跡から運びこまれたものと考えられていた。今回発見された石は、SD194 のさらに外側（南側）を廻る SD197 溝付近から検出されているが、位置的に接近していることからも、同様の目的で移動・投棄された可能性が考えられる。

【３．検出後の措置】 発見後、礎石は取り上げを行わずに現地に存置する方向で工事請負業者と協議を行い、発見位置を記録し、写真撮影と観察を終えた後に、砂を被せシート養生を施した。

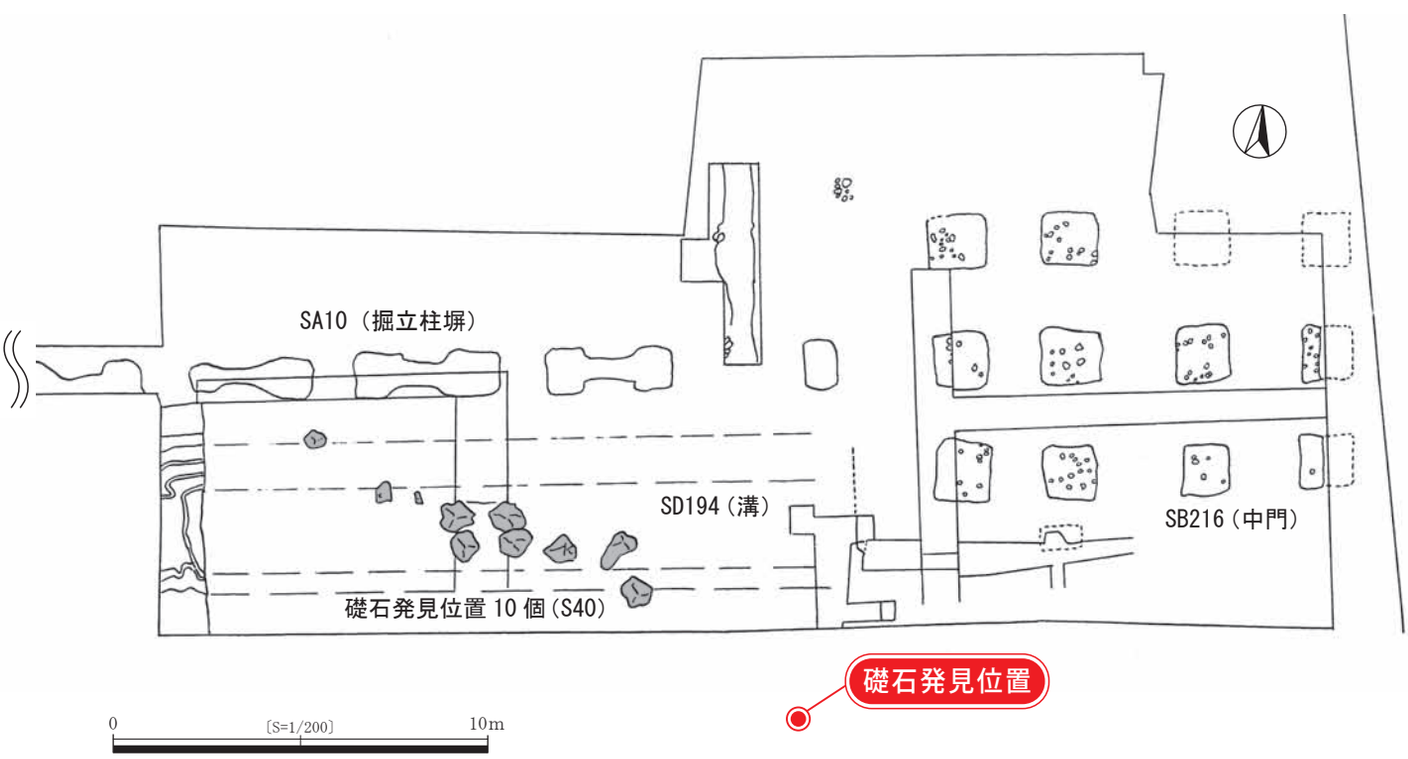
フェンス工事は、礎石を傷つけない形で施工され、原位置で地下保存されている。

〔参考文献〕

滝口　宏編 1987『武蔵国分寺跡調査報告－昭和三十九～四十四年度－』早稲田大学考古学会・国分寺市教育委員会

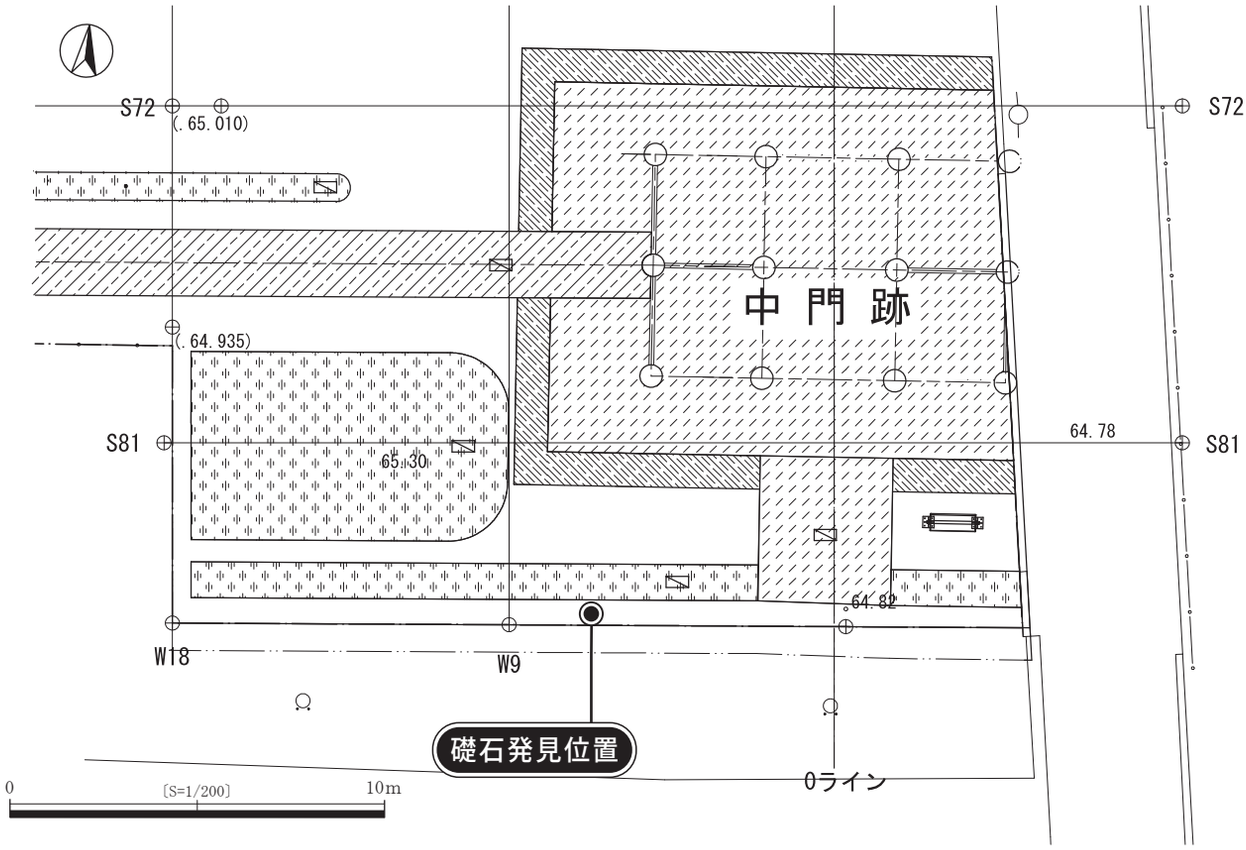
中道　誠 2016『国指定史跡武蔵国分寺僧寺跡発掘調査報告書　Ⅰ遺構編－史跡保存整備に伴う事前遺構確認調査－』国分寺市教育委員会

平成19年度調査



昭和40年度調査

第１図　平成 19 年・昭和 40 年の中門跡発掘調査状況と礎石発見位置



第２図　平成 19 年・昭和 40 年の中門跡発掘調査状況と礎石発見位置

図版　中門付近で検出した礎石

1. 中門礎石検出状況（北から）

2. 中門礎石検出状況その 2（北から）

3. 中門礎石埋め戻し状況（北東から）

4. フェンス基礎設置状況（北東から）

（３）平成 27 年度の立会調査で出土した遺物

平成 27 年度に市教委の職員が西元町二丁目 11-7,8 における宅地造成工事に伴って立会調査（立会№86）を実施した際に出土した遺物について、平成 27 年度の年報（中野他 2017）に紙面の都合上実測図・写真を掲載できなかったため紹介する。

１は須恵器の小型壺である。明灰色を呈し、砂粒・石英を含む胎土で、口径 6.8cm、底径 3.6cm、器高 6.7cm を有する。内面のロクロ目は顕著で、外面胴部下半から底部にかけてはヘラケズリを施す。また、外面肩部には墨痕が付着している。小型の器形と肉厚な胎土の様相から、東金子窯産で９世紀前半頃の製品と思われる。２は土師質土器の坏底部で、底径は 4.2cm を有する。砂粒を多く含む粗い胎土で、橙褐色を呈する。底部はやや下に張り出し、見込内面中央が突出している。10 世紀代の製品であろう。

〔参考文献〕
中野　純他 2017「第１章　届出・通知および立会記録等一覧」『平成 27 年度　国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会

日付	条	申請地	申請工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査次数・備考
H27.9.18	93 条	西元町 2-11-7,8	宅地造成	立会調査	① H28.4.8 ② H28.4.12 ③ H28.4.18 ④ H28.4.25 ⑤ H28.5.27	①道路と同じ高さの面と、300cm 以上の上の面に２段ある。上下とも 300cm 以上掘削。下段：設計 GL-150cm でⅢｂ層検出、厚さ 40cm、Ⅲｃ層 5cm、Ⅳ層 10cm、Ｖａ層 35cm、Ｖｂ層 20cm、Ⅵ層 40cm、Ⅶ層 15cm、Ⅷ層 30cm、Ⅸ層途中まで。②下段、壁面西側に立ち上がりのみ確認。壁面東側、駐車場部分の擁壁裏にも同様の落ち込み確認。③④状況確認。⑤西側溝状落ち込み確認。上面幅約 230cm、深さ約 200cm。上層黒褐色土。細ローム粒を少量含む。しまり弱い。下層茶褐色土。細ローム粒をやや少量含む。しまり弱い。黒褐色土中から須恵器短頸壺出土（第１・２図）。東側溝状落ち込みも西端は黒褐色土の層と茶褐色土の層に分かれるが、工事中のため全容は確認できず。

第１図　平成 27 年度　届出・通知および立会記録№86 で出土した遺物実測図

第２図　平成 27 年度　届出・通知および立会記録№86 で出土した遺物写真

（4）武蔵国分寺跡第 698 次調査

国分寺市

武蔵国分寺跡北方地区

―都立小金井特別支援学校仮設校舎建築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告―

平成 25 年 10 月

国分寺市遺跡調査会

例 言

1．本書は，武蔵国分寺跡（国分寺市№19遺跡）の北方地区における平成25年度都立小金井特別支援学校仮設校舎建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実績報告書である。

2．発掘調査は，東京都教育庁都立学校教育部からの委託を受けて国分寺市遺跡調査会（会長　坂詰秀一）が行った。なお本調査にかかる協定は平成25年6月29日付で東京都教育庁都立学校教育部・国分寺市教育委員会・国分寺市遺跡調査会の3者間で締結した。

3．発掘調査及び出土品整理作業の期間は，次のとおりである。

発掘調査　　平成25年7月12日～同年8月9日

出土品整理・報告書作成　平成25年8月26日～同年10月2日

4．発掘調査は，仮設校舎建築で埋蔵文化財に影響が及ぶ可能性のあったエレベーターシャフト部分及び給排水管の埋設部分について6箇所（A～Fトレンチ），計326.1㎡を対象に実施した。なお，調査次数は武蔵国分寺跡第698次とした。

5．出土遺物・写真・図面等へは遺跡略称のMKを冠し，「MK Ⅳ-698-以下台帳番号，登録番号」のように注記してあり，全て国分寺市教育委員会で保管している。なお，出土遺物はコンテナ1箱である。

6．発掘調査は，上敷領久・藤崎努・田中哲史（株式会社ダイサン）が担当し，依田亮一・中道誠がこれを助けた。

7．本書の執筆は，上敷領久が担当し，依田・中道がこれを助けた。遺物の実測作業および挿図の作成は武山寿子（株式会社ダイサン）が担当した。

8．図面中の方位は注記がある場合を除き，僧寺中軸線を基準とした新局地座標北を表示している。

9．遺構断面図の水糸高は全て海抜78.400 mに統一した。

10．遺構平面図および断面図におけるスクリーントーンの指示は次のとおりである。

撹乱　　既存建物の基礎

11．縮尺は，基本土層図1/40　トレンチ配置図1/500　調査区平面図・断面図　1/150　遺構平面図・断面図1/40　遺物実測図・写真2/3　である。

12．遺構番号は下記のとおりとした。

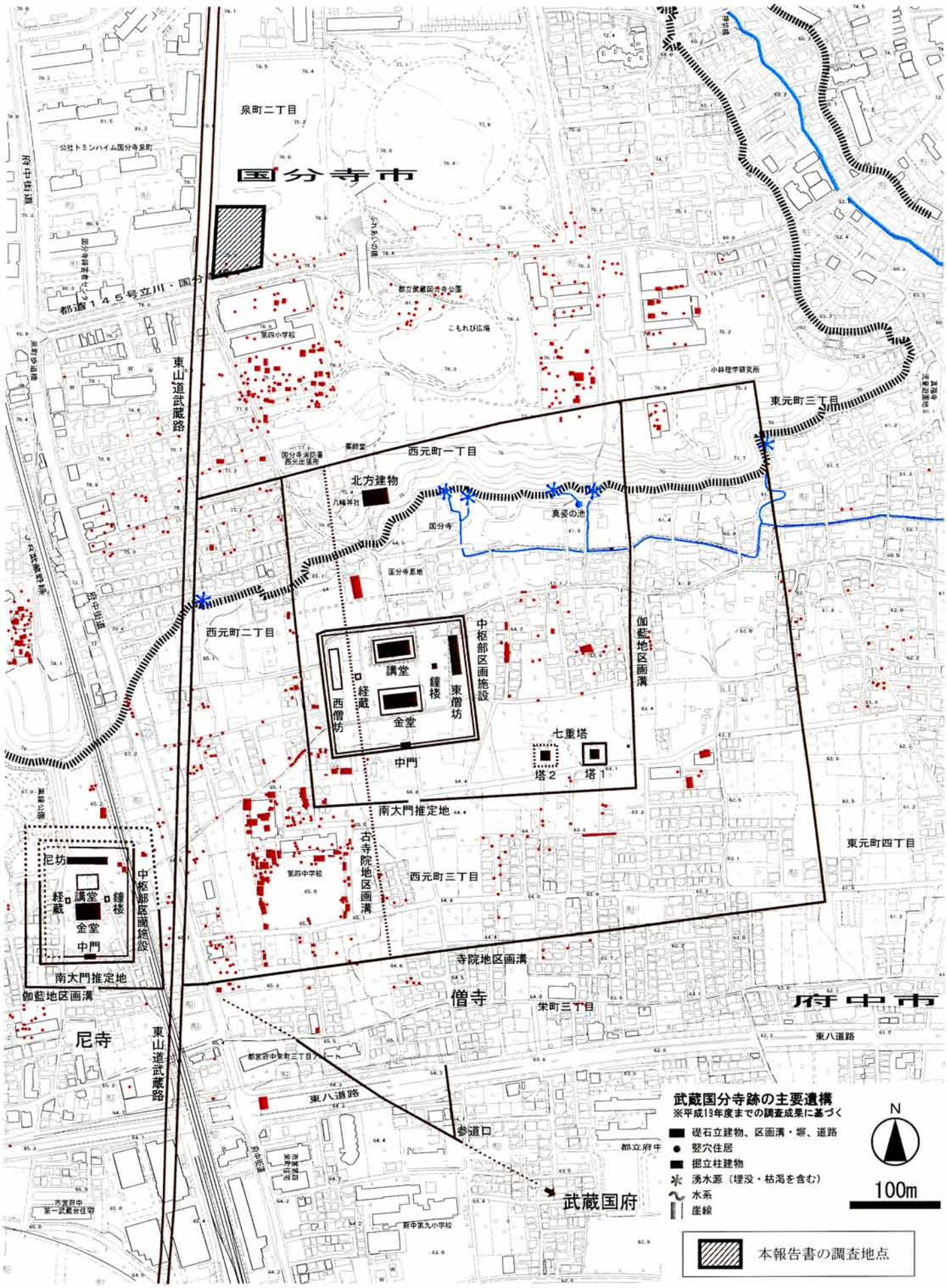
P 小穴

13．発掘調査・出土品整理参加者

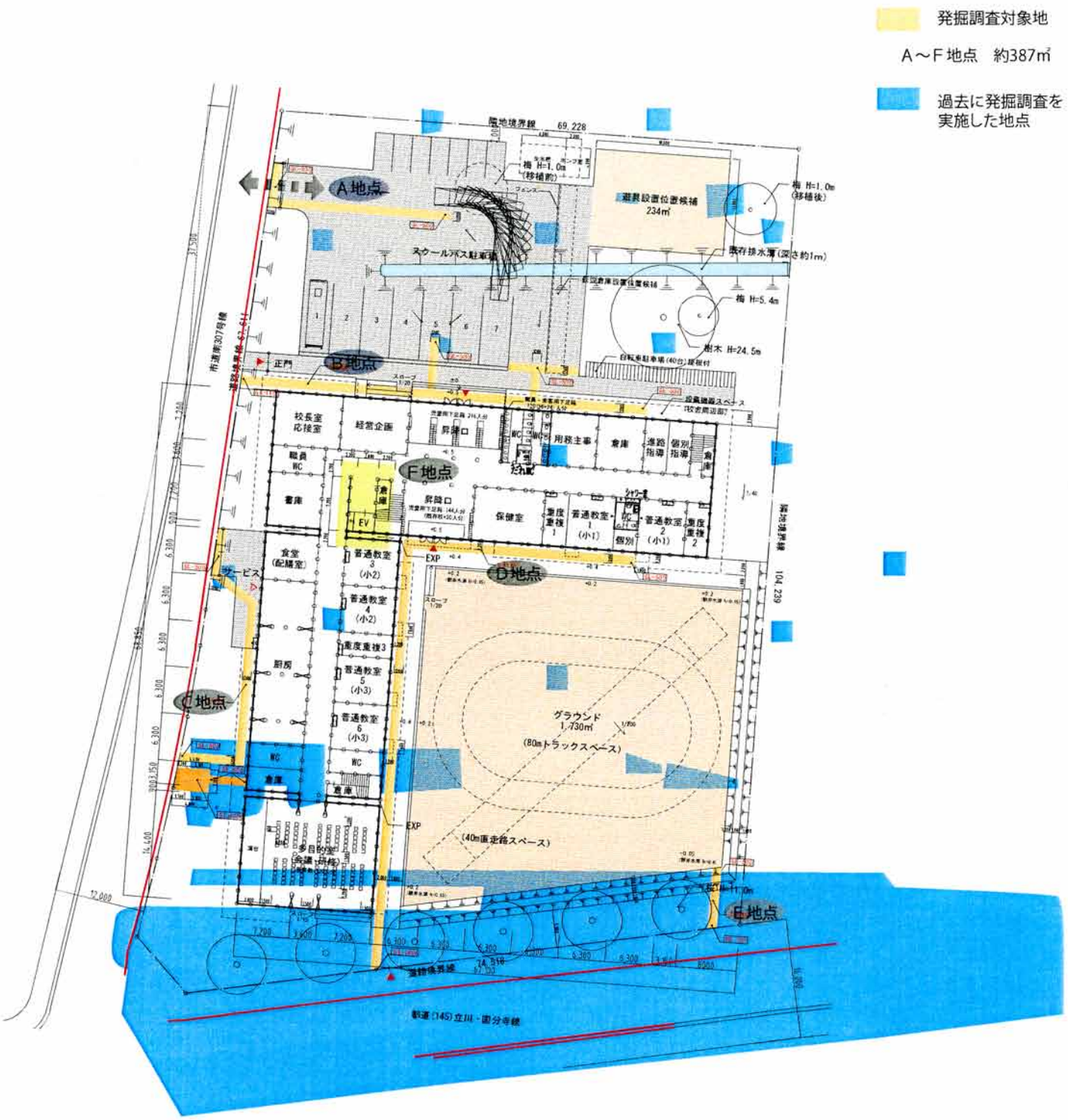
飛鳥千砂子・川久保正秋・菊地恭平・黒尾直太・小泉恵子・高橋哲也・伊達秀毅
塚田達也・平林　彩・福澤真吾・水村聖美

14．協力者

渋江芳浩

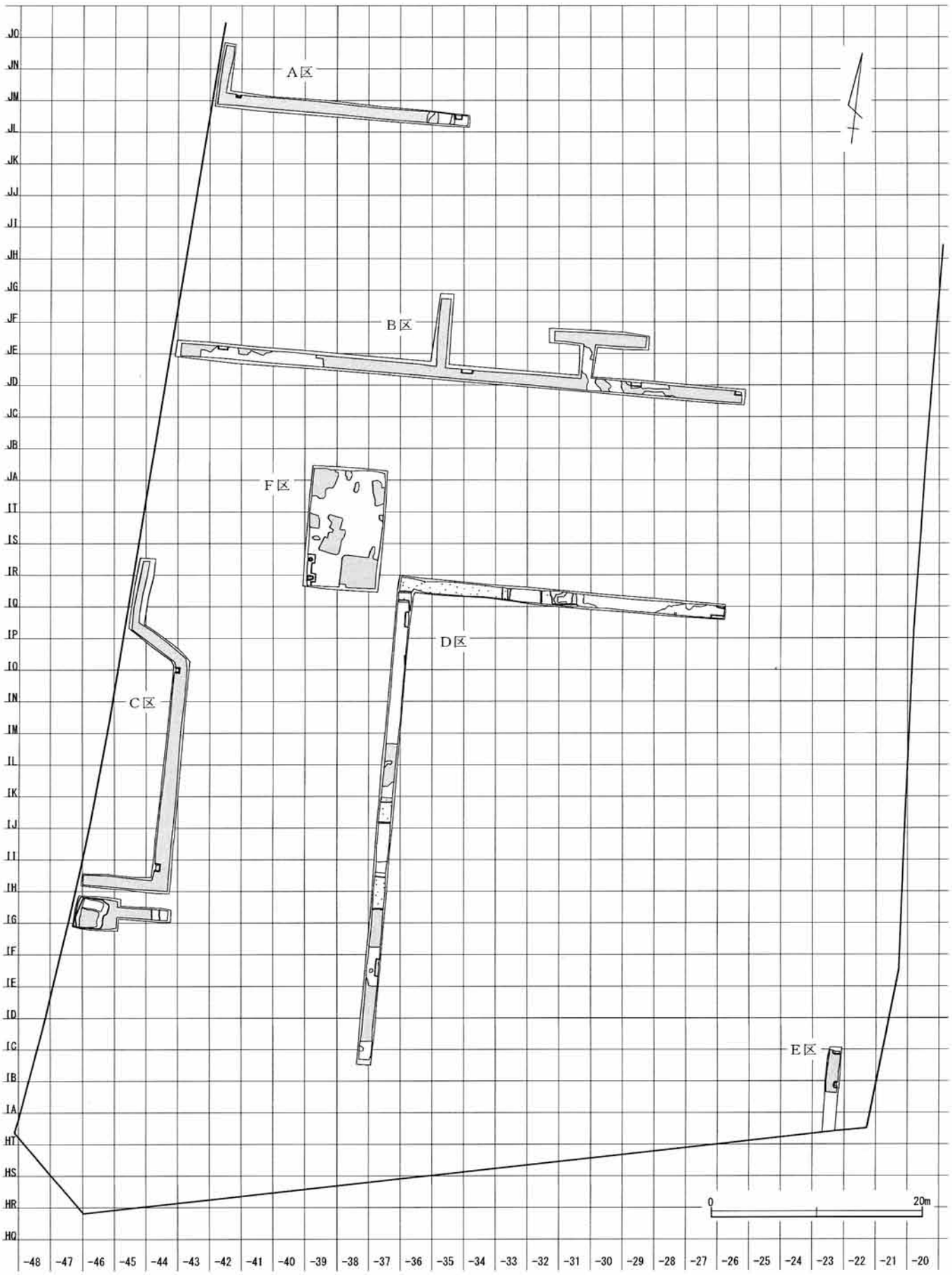

国分寺市
泉町二丁目
公社トミンハイム国分寺泉町
府中街道
都道145号立川・国分寺
東山道武蔵路
第四小学校
都立武蔵国分寺公園
こもれび広場
小林理学研究所
東元町三丁目
西元町一丁目
国分寺消防署西元出張所
薬師堂
北方建物
八幡神社
真姿の池
国分寺
国分寺原地
西元町二丁目
中枢部区画施設
講堂
鐘楼
東僧坊
経蔵
西僧坊
金堂
中門
七重塔
塔2
塔1
伽藍地区画溝
南大門推定地
古寺院地区画溝
第四中学校
西元町三丁目
東元町四丁目
尼坊
講堂
鐘楼
経蔵
金堂
中門
中枢部区画施設
南大門推定地
寺院地区画溝
伽藍地区画溝
僧寺
栄町三丁目
府中市
尼寺
東八道路
都営府中栄町三丁目アパート
東八道路
参道口
都立府中
武蔵国府
府中第九小学校
武蔵国分寺跡の主要遺構
※平成19年度までの調査成果に基づく
礎石立建物、区画溝・塀、道路
竪穴住居
掘立柱建物
湧水源（埋没・枯渇を含む）
水系
崖線
N
100m
本報告書の調査地点

第１図　調査地点位置図



第２図　平成 25 年度都立小金井特別支援学校埋蔵文化財調査　調査地点位置図

■トレンチ配置図



第３図　トレンチ配置図

1．調査の経緯と経過

今回の調査は，都立小金井特別支援学校仮校舎建設に先立つ埋蔵文化財調査である。

平成24年8月2日に東京都教育庁地域教育支援部管理課埋蔵文化財係より，国分寺市泉町二丁目102番9の都有地において，都立小金井特別支援学校の仮校舎建設計画が照会された。当該地は，西側に奈良時代の道路状遺構である東山道武蔵道が南北に走り，また昭和54年度の旧国鉄鉄道学園の調査において平安時代の住居跡が検出されている。さらに国分寺駅東口再開発事業に伴う事前調査においては縄文時代から旧石器時代にいたる遺物が出土している。そのため，仮設建物といえども建物構造によっては地下の埋蔵文化財に影響を与える可能性があるとし，周辺遺跡での遺構検出状況を精査することと，埋蔵文化財に影響を与えない工事について検討された。

その後，東京都教育庁都立学校教育部より平成25年4月10日付25教学特38号　国教教ふ収第69号　文化財保護法第93条第1項通知 が提出された。これに基づき協議した結果，発掘調査は工事掘削が現地表面下約0.8ｍを超え，0.75～1.8ｍにおよぶエレベーターシャフト部分および給排水管の埋設部分に対して発掘調査を実施することとした（第2図）。

発掘調査の実施については国分寺市遺跡調査会（会長　坂誥秀一）が行なうものとし，国分寺市教育委員会と東京都教育庁都立学校教育部および国分寺市遺跡調査会の三者で平成25年6月27日に「都立小金井特別支援学校埋蔵文化財発掘調査委託に関する協定書」を締結した。これに基づき，平成25年6月28日に東京都教育庁都立学校教育部と国分寺市遺跡調査会で都立小金井特別支援学校埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し，武蔵国分寺跡第698次調査発掘調査を実施することとなった。

作業員・重機・測量機材の提供は，支援業務委託として㈱ダイサンが受託した。

調査はエレベーターシャフト部分および給排水管の埋設部分について6箇所（A～F区）をトレンチ状に設定して行った。

調査方法は基本的に表土を重機により掘削し，遺構確認面は人力による精査を行った。写真撮影・図面作成により遺構および土層断面図を作成した。調査終了後調査区脇に仮置きした発生土を用いて埋め戻しを行った。

以下，日付を追って主な調査経過を記す。

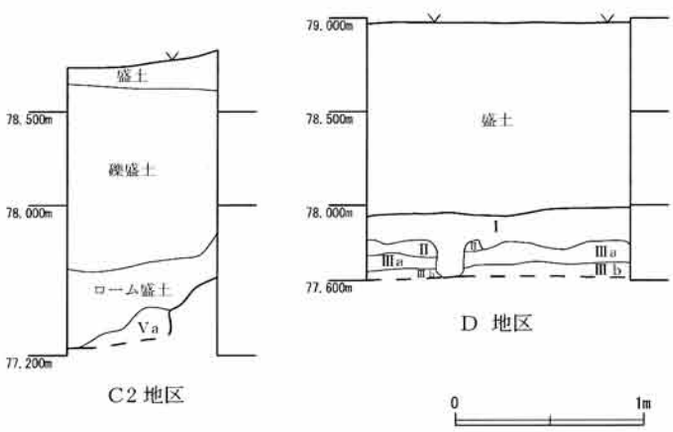
平成25年7月12日	（金）	資材搬入，芝刈機搬入，除草作業
7月12日	（金）	除草作業完了，重機搬入，芝刈機搬出
7月17日	（水）	B・C・F区位置だし作業
7月18日	（木）	C・F区表土掘削，D・E・B区位置だし作業
7月22日	（月）	A・D・E区表土掘削
7月23日	（火）	F区遺構確認および全景写真撮影，A・B区表土掘削
7月24日	（水）	B・D区表土掘削終了
7月25日	（木）	A・E区全景写真撮影
7月26日	（金）	B区遺構確認作業および全景写真撮影
7月30日	（火）	D区遺構確認作業
7月31日	（水）	D区全景写真撮影，A区平面実測
8月1日	（木）	B区平面実測，F区　P1・2完掘写真撮影

8月 2日（金）　F区平面実測，D・F区遺物取り上げ
8月 5日（月）　C区平面実測，8月7日まで国分寺市立第四小学校教諭福澤真吾先生発掘体験研修。
8月 6日（火）　B・C区平面実測，A区埋め戻し作業
8月 7日（水）　B・C・F区平面実測，C・F区埋め戻し作業
8月 8日（木）　A・B・C・E区埋め戻し作業，D・E区平面実測，A・B・C・F区完了
8月 8日（木）　D区平面実測，E・D区完了，現場撤収作業，道具類返却，現地調査終了
平成25年8月26日（月）　～同年10月2日まで株式会社ダイサンにて基礎整理作業

2．調査結果

調査は，エレベーターシャフト部分および給排水管の埋設部分に対してA～F地区を設定し，重機によって表土を掘削した。その結果盛土･表土がきわめて厚く堆積していた。また，既存建物の基礎が深く大きく攪乱していた（第3図）。発見された遺構は小穴2基。出土した遺物は縄文土器片2点，土師器片1点，須恵器片が1である。

堆積土は下記の通りである（第4図）。



第4図　基本土層

盛土
I層　旧表土・耕作土
II層　黒褐色度。粒子はやや粗い。粘性はなく転圧のせいであろうか，極めて硬質。歴史時代遺物の包含層。
IIIa層　暗褐色土。粒子はやや粗い。粘性はなく転圧のせいであろうか，きわめて硬質。II層・IIIb層との境は選移的。
IIIb層　暗褐色土。IIIa層より明度高い。本層の上面で歴史時代遺構が検出されやすくなる。縄文時代の遺物包含層。
V層　黄褐色ローム。ハードローム。

以下各地点の状況を記す。

A地区（第5図），埋設管が一律0.8mまで掘削されるため当該深度まで調査を行った。調査面まではほぼ全域に盛土が堆積しており，工事深度内では遺構確認面は検出されなかった。そのため一部を試掘したところ地表面下約0.8mまで盛土，約1.1mで旧表土，約1.2mでII層，約1.3mでIIIa層，約1.5mでIIIb層が確認された。調査面積は28.5㎡である。

B地区（第6.7図）は，埋設管が一律1.1mまで掘削されるため当該深度まで調査を行った。工事深度内の一部地表面下約1mでIIIa層が検出されたため当該部分について遺構確認を行ったが遺構・遺物は発見されなかった。さらに一部を試掘したところ地表面下約0.9mまで盛土，約1.2mまで旧表土，約1.3mでIIIa層，約1.5mでIIIb層が確認された。調査面積は

74.8 ㎡である。なお，表土中より土師器の坏片1点が出土した

C地区(第8図)は,C1区の埋設管が一律0.8 mまで掘削されるため当該深度まで調査を行った。調査面まではほぼ全域に盛土が堆積しており遺構確認面は検出されなかった。さらに一部を試掘したところ地表面下約0.8 mまで盛土,約1 mでⅢa層,約1.3 mでⅢb層が確認された。調査面積は42.7 ㎡である。

C2区は一律1.8mまでが掘削されるため当該深度まで調査を行った。盛土は地表面下約1.7mまでロームによるものと礫によるものが分厚く堆積しており歴史時代および縄文時代の遺構確認面は削平されていることが分かった。さらに地表面下約1.8mでⅤ層が検出されたため当該部分について旧石器時代遺構の確認を行ったが遺構・遺物は発見されなかった。調査面積は14.4 ㎡である。

D地区（第9･10図）は，埋設管が一律1.4 mまで掘削されるため当該深度まで調査を行った。調査面まではほぼ全域に盛土が堆積していたが，地表面下約1.2 mまで盛土，約1.3 mで旧地表面，約1.4 mでⅢb層が確認されたため歴史時代まで遺構確認を行ったが工事深度内では遺構確認面は検出されなかった。調査面積は89.1 ㎡である。なお，表土中より縄文土器の甕片1点が出土した

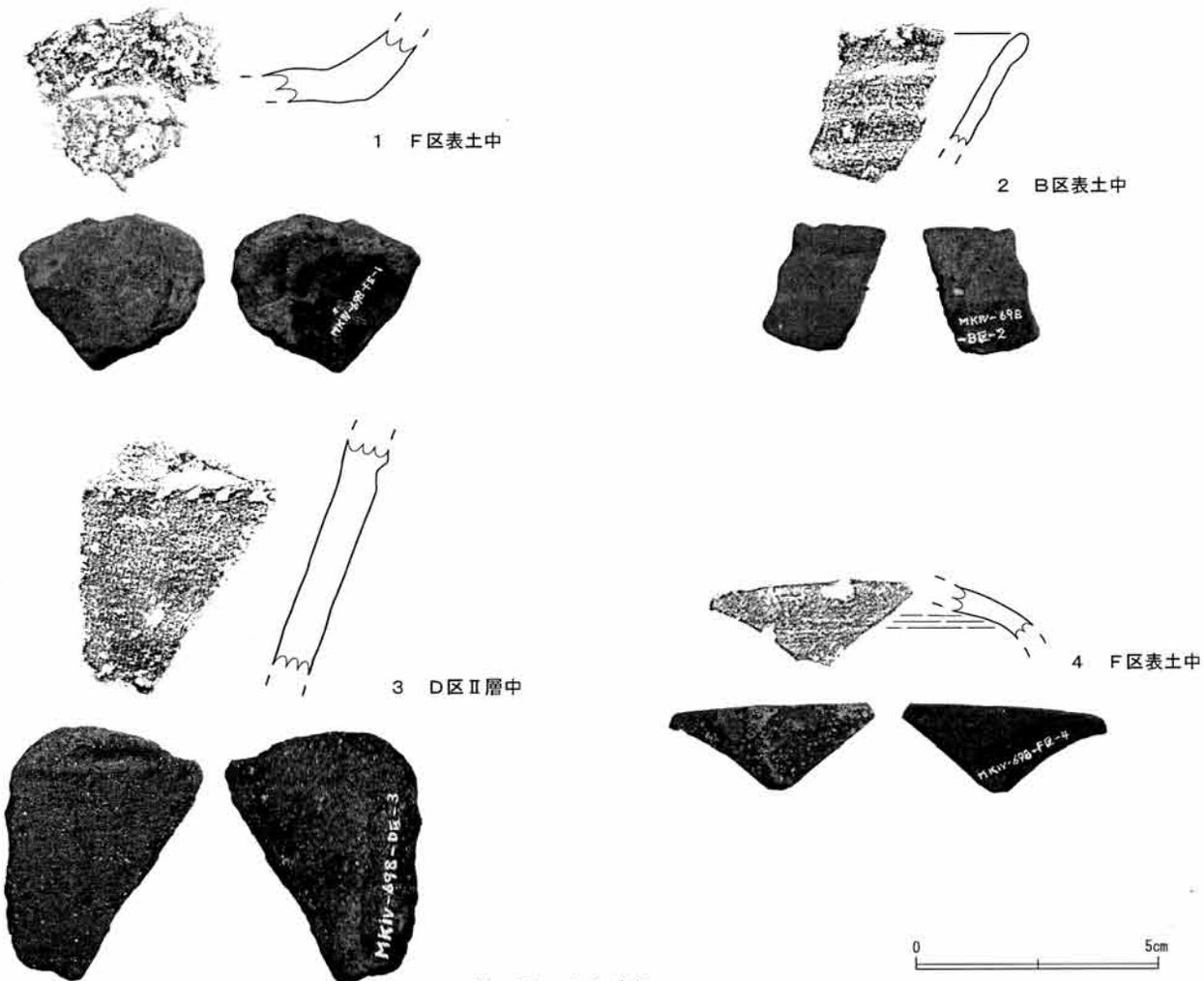
E地区（第11図）は，埋設管が一律75 cmまで掘削されるため当該深度まで調査を行った。調査面までは全域に盛土が堆積しており工事深度内では遺構確認面は検出されなかった。調査面積は4.0 ㎡である。

F地区（第12図）は，エレベーターシャフト部分が一律1mまで掘削されるため当該深度まで調査を行った。調査面まではほぼ全域に盛土が堆積しており工事深度内では遺構確認面は検出されなかった。そのため一部を試掘したところ地表面下約1mでⅡ層，約1.2mでⅢa層，約1.3mでⅢb層が確認された。この試掘部分においてⅢb層上面を精査したところ小穴(ピット）が2基検出された（第12図)。小穴1は長軸約0.6 m，短軸約0.5m，深さ約0.12mを測る。平面形は楕円形を呈し西側一部は調査区外に及ぶ。断面形は2基の小穴が連結したようにも見えるが平面では確認されなかった。機能等は不明である。小穴2は直径約0.4 m，深さ約0.12mを測る。平面形は円形を呈し，断面形はⅢ状である。機能等は不明である。

調査面積は72.6 ㎡である。なお表土中より縄文土器の甕片1点，須恵器の長形瓶片が1点出土した。

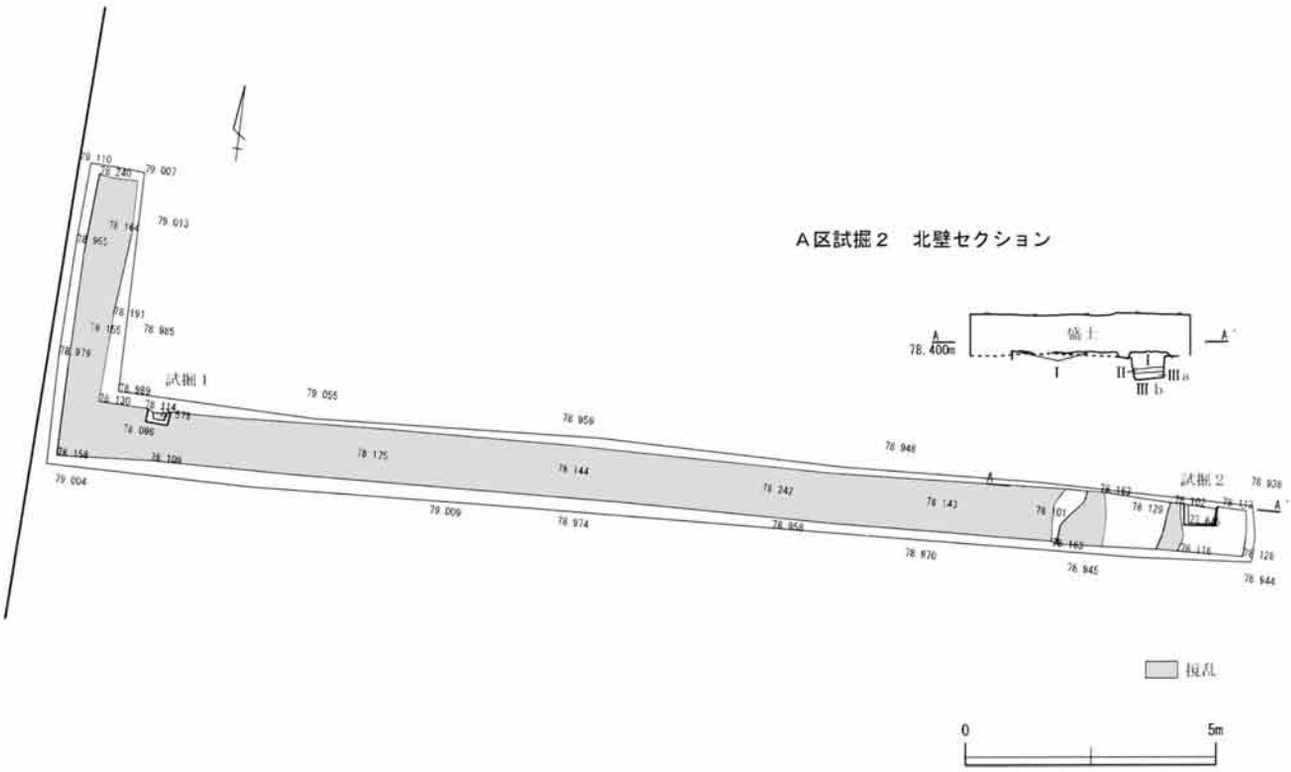
3．まとめ

今回の調査では，E地区より小穴2基が検出された。またB・F区表土中より縄文土器片，土師器片，須恵器片が1点ずつ。D区Ⅱ層中より縄文土器片1点が出土した（第13図)。調査面積に対して検出遺構と出土遺物が少ないようにも看取られるが，先述したように当該地区は概ね地表面下1mから1.3 mの分厚い盛土と旧地表に覆われており，工事掘削が遺構確認面にまで及ばないことから，調査を工事掘削深度に留めている。そのため，地表面下1.4 mから下の大部分の歴史時代・縄文時代・旧石器時代は未確認であることから。この数量が直接当該地区の遺跡の様相を表しているものではないことに注意されなければならない。



第５図　出土遺物

■A区



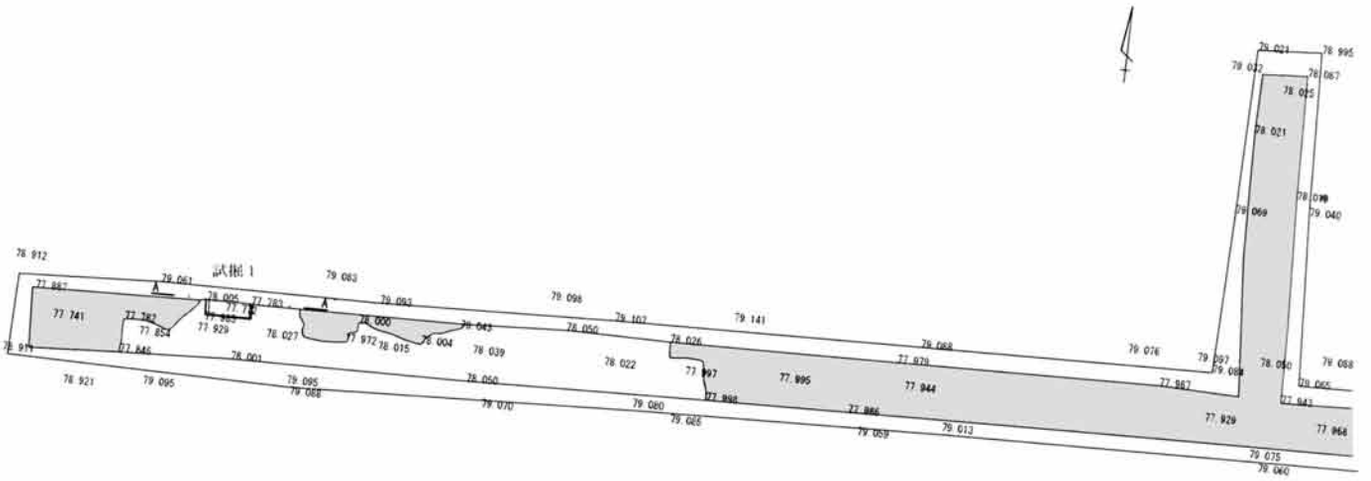
A区全景

A区試掘１　北壁セクション

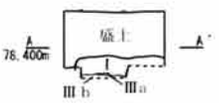
A区試掘２　北壁セクション

第６図　A区

■B区（1）



B区試掘１　北壁セクション

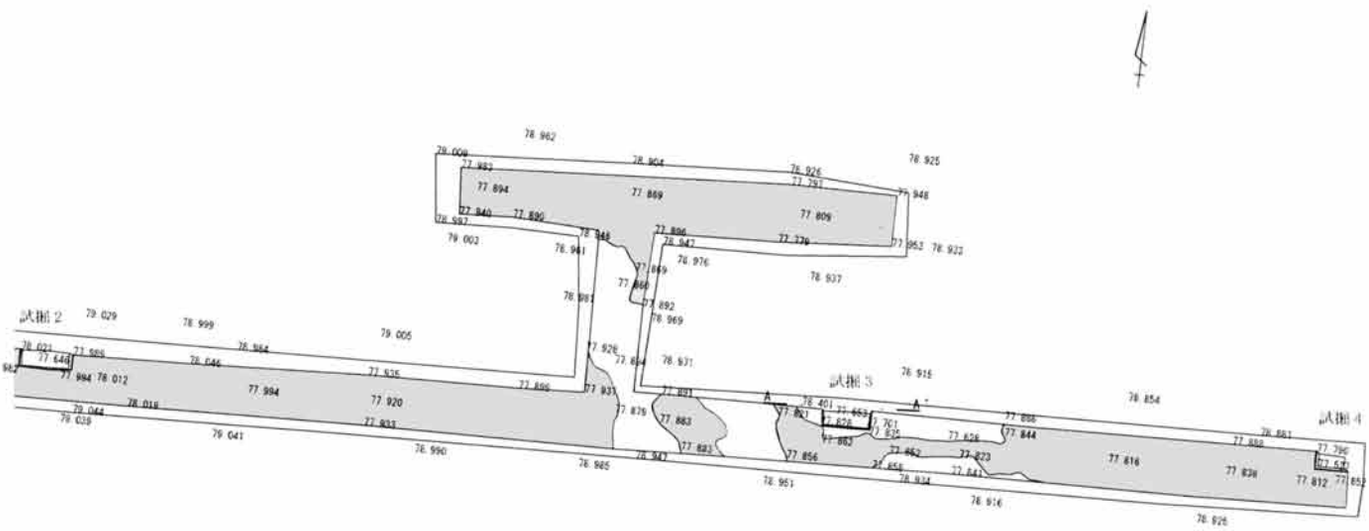


B区全景

B区試掘１　北壁セクション

第７図　B区（1）

■B区 (2)



B区試掘３　北壁セクション

B区試掘２　北壁セクション

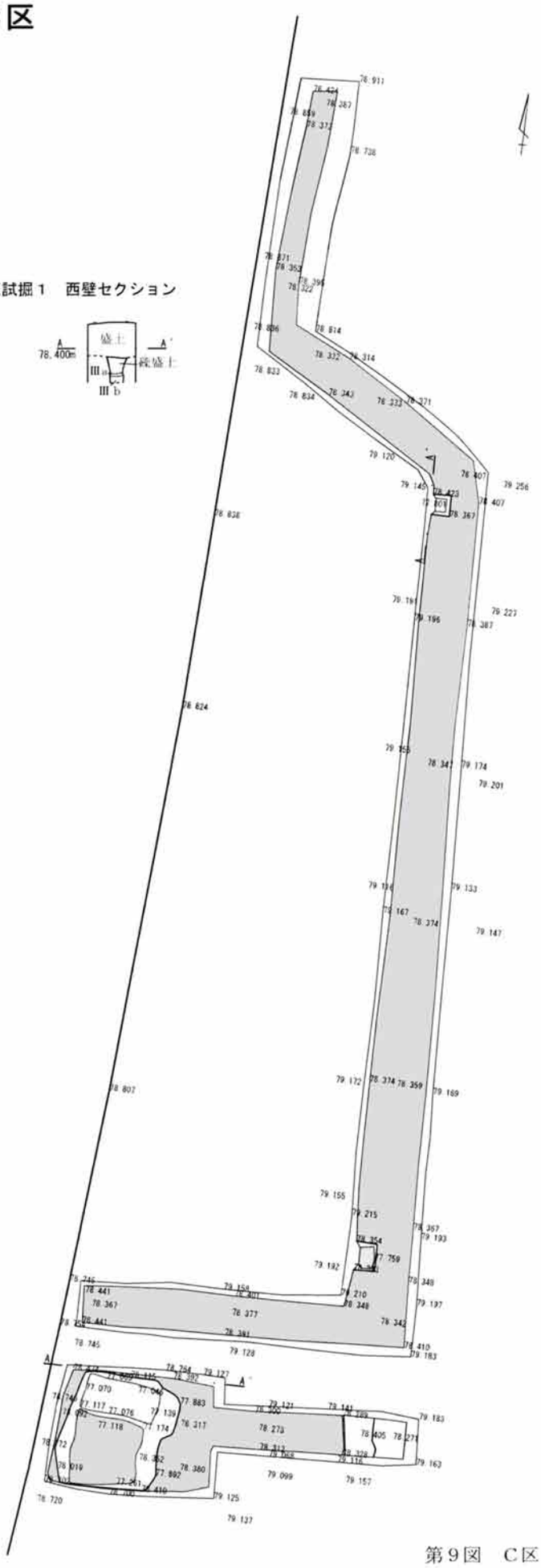
B区試掘３　北壁セクション

B区試掘４　北壁セクション

第８図　B区 (2)

■C区

C1 区試掘１　西壁セクション



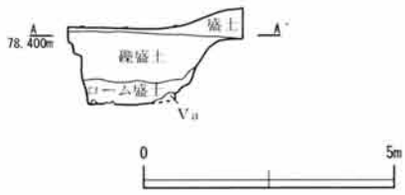
C1 区試掘１　西壁セクション

C1 区試掘２　西壁セクション

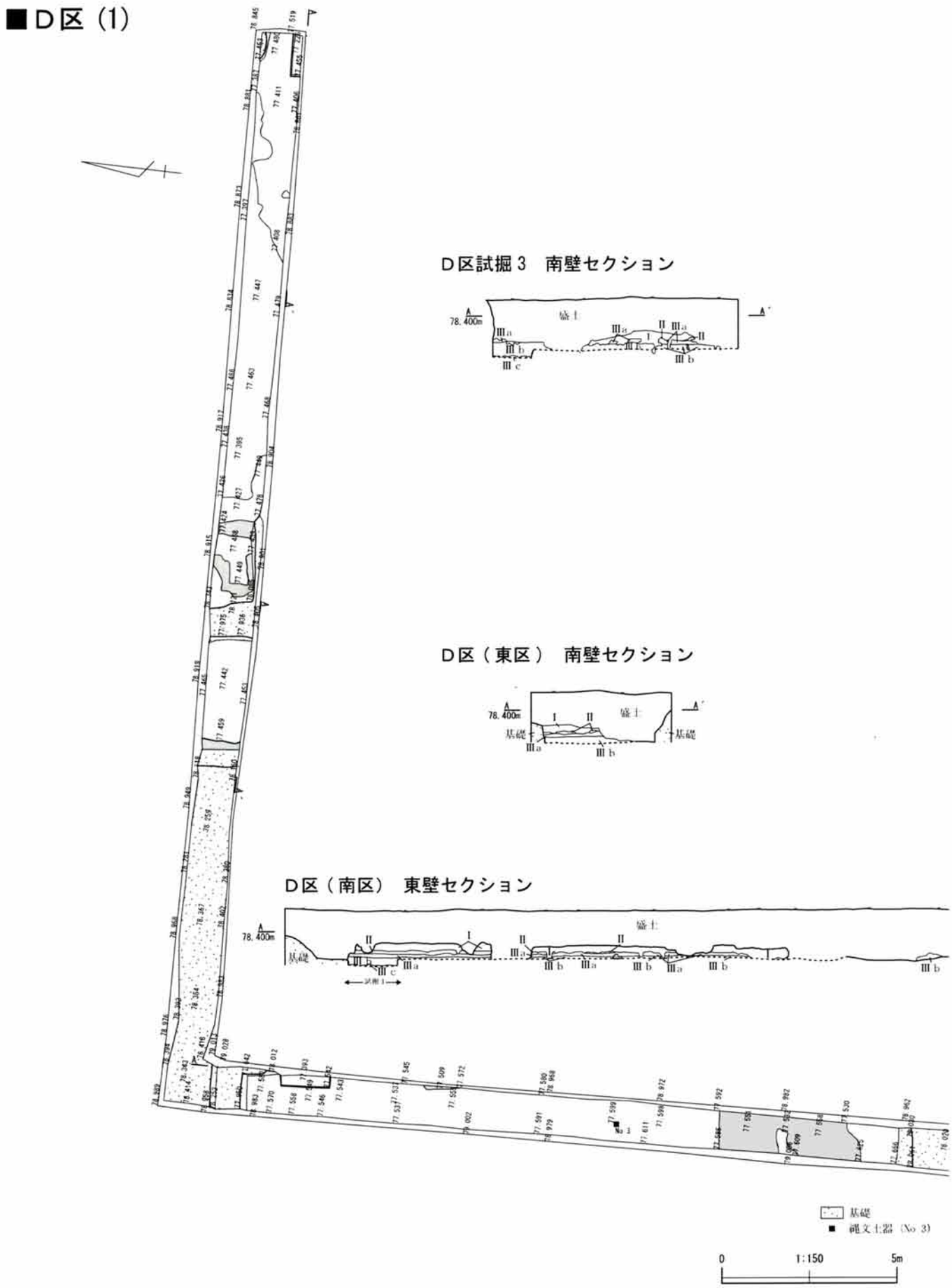
C２区全景

C２区試掘１　北壁セクション

C２区試掘１　北壁セクション



第９図　C区


■D区（1）
D区試掘3　南壁セクション
D区（東区）　南壁セクション
D区（南区）　東壁セクション
78.400m
盛土
基礎
縄文土器（No 3）
0
1:150
5m

第10図　D区（1）

■D区（2）

D区（東区）

D区試掘３　南壁セクション

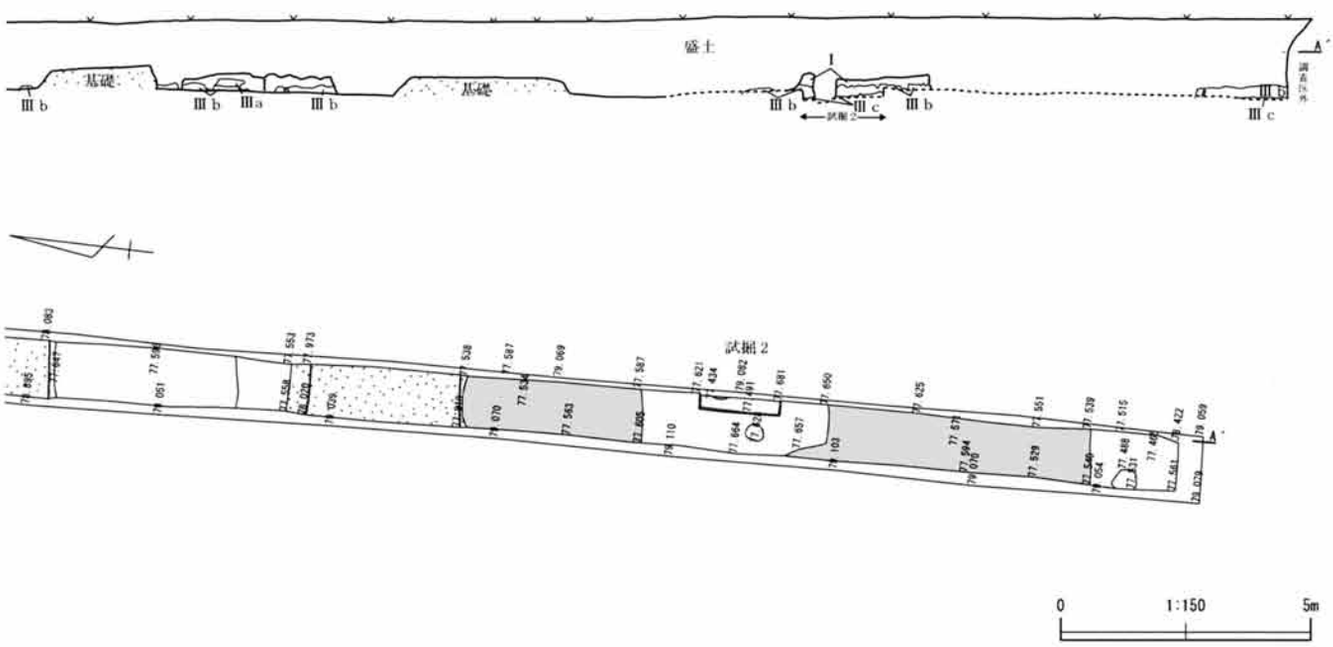
D区（東区）　南壁セクション

D区（南区）

D区（南区）　試掘１セクション

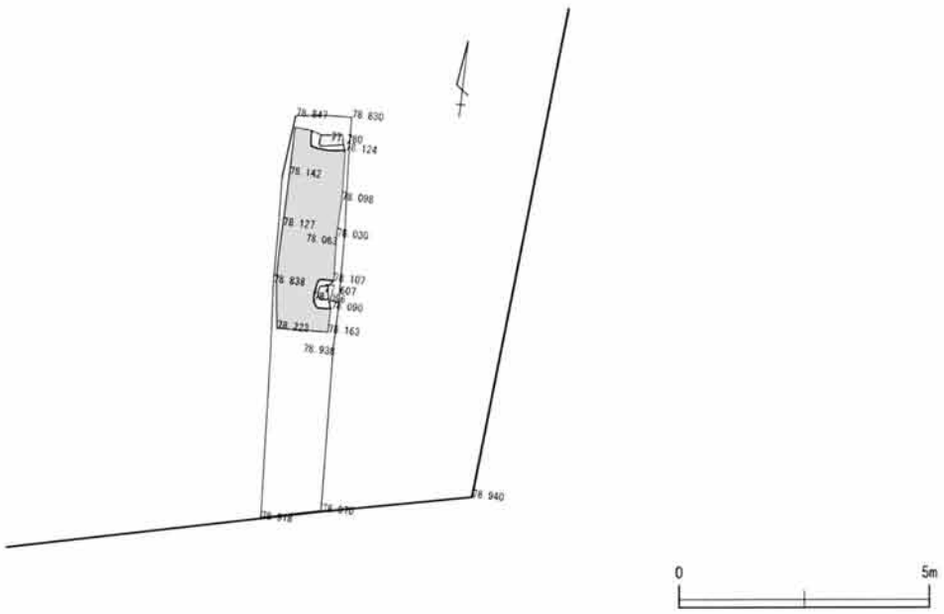
D区（南区）　試掘２セクション

D区　東壁セクション



第11図　D区（2）

■E区

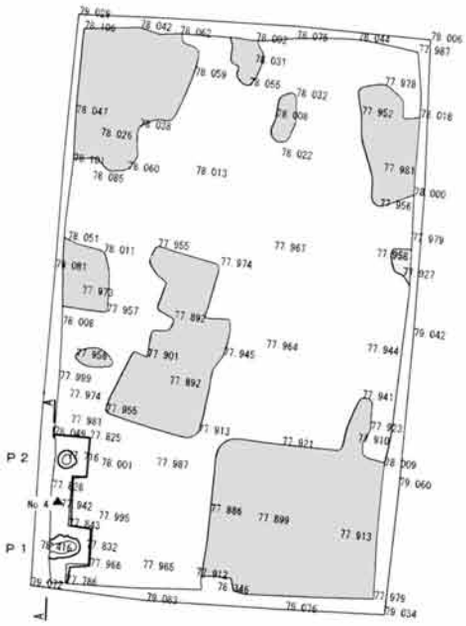


E区　全景

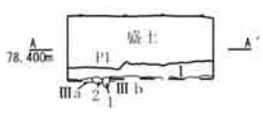
E区試掘2　東壁セクション

第12図　E区

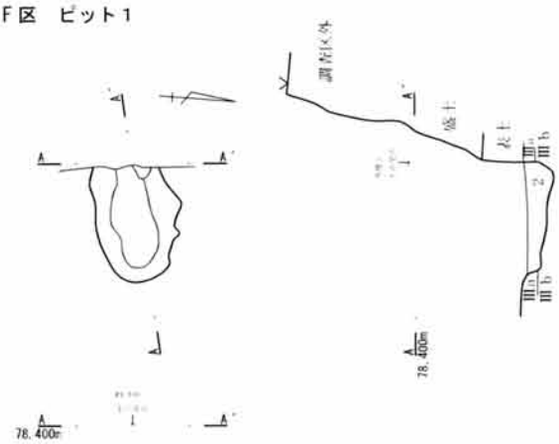
■ F 区



F区試掘１　西壁セクション



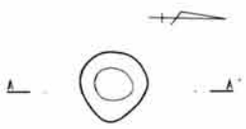
F区　ピット１

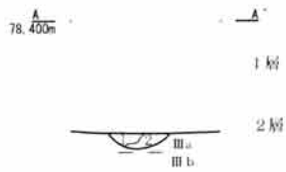


1層　黒色土　粘性なし、しまり良好（転圧のためか）。
ローム粒子を少量含む。

2層　暗茶褐色土　粘性無し、しまり良好（転圧のためか）。
黄色粘質土をブロック状に含む。

F区　ピット２





1層　黒色土　粘性なし、しまり良好（転圧のためか）。
ローム粒子を少量含む。

2層　暗茶褐色土　粘性なし、しまり良好（転圧のためか）。
黄色粘質土をしみ状に含む。

0　5m

0　1m

F区 全景

F区 ピット１セクション

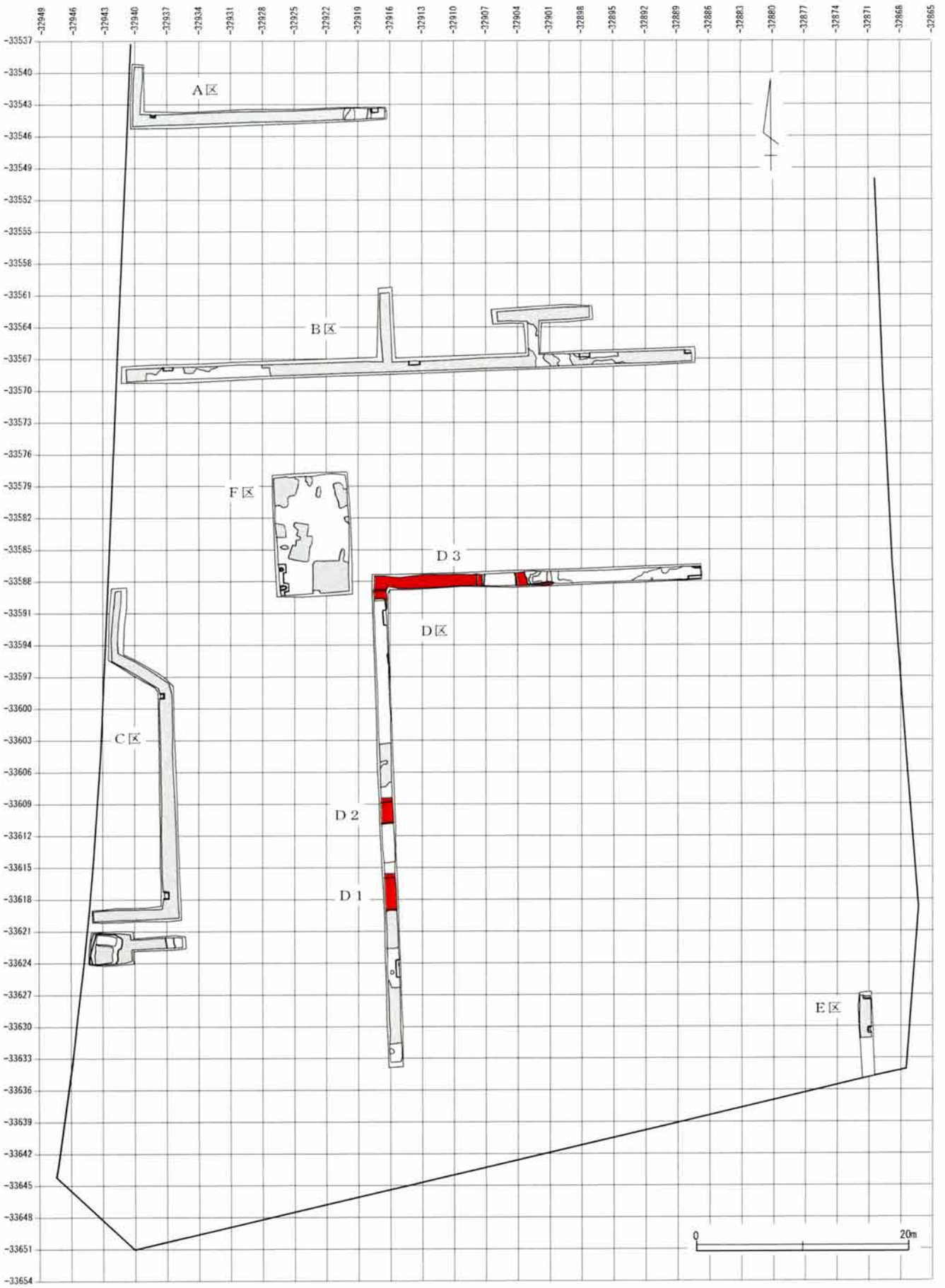
F区 ピット１完掘

F区試掘１　西壁セクション

F区 ピット２セクション

第 13 図　F 区

■既存建物基礎図



第 14 図　既存建物基礎図

D1区基礎（西から）

D2区基礎（西から）

D3区基礎（東から）

報告書抄録

ふ り が な	へいせい28ねんど　こくぶんじしまいぞうぶんかざいちょうさがいほう
書　　名	平成28年度　国分寺市埋蔵文化財調査概報
副　書　名	
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	増井有真　　依田亮一　　島田智博　　中野　純
編 集 機 関	国分寺市教育委員会・国分寺市遺跡調査会（会長：坂誥秀一）
所　在　地	〒185-0023　東京都国分寺西元町１-13-10　武蔵国分寺跡資料館内　TEL 042-300-0073
発行年月日	2018年３月31日
規格／部数	A4版横組１段　46文字×34行　160頁／350部
資料の保存 問い合わせ先	国分寺市教育委員会　教育部　ふるさと文化財課 〒185-0023　東京都国分寺西元町１-13-10　武蔵国分寺跡資料館内 TEL 042-300-0073　FAX 042-300-0091　E-mail bunkazai@city.kokubunji.tokyo.jp

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
武蔵国分寺跡 第716次調査 他５	東京都 国分寺市 西元町	13-214	10・19	35° 41′ 46.77″ 他	139° 28′ 15.44″ 他	20160607 ～ 20170228	合計 930.47	分譲住宅建設 集合住宅建設 公文書館改築
恋ヶ窪遺跡 第98次調査	東京都 国分寺市 西恋ヶ窪	13-214	2	35° 42′ 10.45″	139° 28′ 05.98″	20161114 ～ 20161202	40.91	土地造成
多摩蘭坂遺跡 第13次調査	東京都 国分寺市 内藤	13-214	7	35° 41′ 41.06″	139° 27′ 25.14″	20160829 ～ 20160908	8.95	個人住宅
本町（国分寺村石器時代） 遺跡 第14次調査	東京都 国分寺市 本町	13-214	28	35° 42′ 02.7″	139° 29′ 00.31″	20170213 ～ 20170217	5.54	集合住宅建設
№29遺跡 第４次調査	東京都 国分寺市 本町	13-214	29	35° 42′ 02.29″	139° 25′ 05.13″	20160509 ～ 20160520	15.27	集合住宅建設
№41遺跡 第１次調査	東京都 国分寺市 内藤	13-214	41	35° 41′ 45.17″	139° 27′ 31.65″	20161208 ～ 20161222	70.80	土地造成

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
武蔵国分寺跡	集落跡 寺院跡 道路跡	奈良・平安時代 中世 近世 縄文時代	掘立柱塀柱穴２基 溝５条 土坑１基 小穴２個 土坑３基 小穴５個	土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、白磁、近世陶磁器、瓦、塼 縄文土器、石器	武蔵国分尼寺を区画する掘立柱塀の柱穴を２基検出。中門を挟んで西側と東側で建替えの回数が異なることを確認。
恋ヶ窪遺跡	集落跡	旧石器時代 縄文時代 中世	性格不明遺構３基	黒曜石 近世陶磁器	近世の溜池と想定される遺構を検出。
多摩蘭坂遺跡	集落跡	旧石器時代 縄文時代 奈良時代	なし	なし	
本町（国分寺村石器時代）遺跡	集落跡	旧石器時代 縄文時代 奈良・平安時代	小穴４個	縄文土器	
№29 遺跡 第４次調査	散布地 （包蔵地）	旧石器時代 縄文時代 奈良・平安時代	なし	なし	
№41 遺跡 第１次調査	散布地 （包蔵地）	奈良・平安時代	なし	なし	

要　　約	平成 28 年度に国分寺市内で行われた分譲住宅建設、集合住宅建設、土地造成、公文書館改築、個人住宅建設に伴う確認調査、発掘調査のうち、国庫補助事業および公共事業にともなう原因者負担で調査を行った計６遺跡、10 地点についてまとめた報告書。そのほか付編として３件の立会調査記録と、平成 25 年度に調査した公共事業に伴う１件の調査概要を掲載。

平成 28 年度 国分寺市埋蔵文化財調査概報

発行日　平成 30 年（2018）３月 31 日
編　集　国分寺市教育委員会
　　国分寺市遺跡調査会
発　行　国分寺市教育委員会
　　〒 185-0023　東京都国分寺市西元町 1-13-10
　　（武蔵国分寺跡資料館内 ふるさと文化財課）
印　刷　株式会社アトミ

©Kokubunji City Board of Education 2018.Printed in Japan

表　紙　アートポスト　菊版　125kg
本　文　マットコート　A判　57.5kg

令和４年（2022）８月16日　デジタル版作成